

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第1分冊。

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第12集 —

図 表 編

1986

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	(財)群馬県埋蔵文化財	01-320
	調査事業団保管	32
No. 98-	平成10年5月13日	2(7)
No. 4962		

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第1分冊。

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第12集 —

図 表 編

1986

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

第4章・第1節 縄文時代

土坑一覽表

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	規模 長軸×短軸 (m)	残存深度 (m)	挿図番号 図版番号	備考
Z区第3号土坑	39・40-Z-20	円形	鍋底状	1.36	—	第214図 第62図版	第5号土坑と重複。 第Ⅷ期
〃第4号土坑	39-Z-19	〃	〃	1.30	0.68	〃	〃 第Ⅷ期
〃第5号土坑	40-Z-19・20	不整楕円形	〃	1.82 × 1.47	0.30	〃	第3・4号土坑と重複。 第Ⅶ期
〃第13号土坑	26-Z-19・20	不整円形	〃	1.17	0.35	〃	
〃第14号土坑	25・26-Z-20・21	円形	〃	1.28	0.41	〃	第Ⅷ期
〃第16号土坑	35-Z-23	楕円形	〃	1.04 × 0.82	0.28	〃	第Ⅷ期
〃第26号土坑	32-Z-26	円形	〃	0.93	0.21	〃	第27号土坑と重複。 第Ⅴ期
〃第27号土坑	30-Z-25	〃	〃	1.06	0.34	〃	第26号土坑と重複。 第Ⅷ期
〃第28号土坑	31-Z-28	〃	〃	0.90	0.40	第215図 第62図版	第Ⅷ期
〃第30号土坑	33・34-Z-32・33	不整円形	〃	0.94	0.24	第215図版	第Ⅷ期
〃第47号土坑	37-Z-36・37	円形	〃	1.25	0.40	〃	中央付近に小ピット1個。 第Ⅷ期
〃第48号土坑	37-Z-34・35	〃	〃	1.22	0.50	〃	
〃第52号土坑	34・35-Z-35・36	〃	〃	1.42	0.37	〃	第Ⅴ期
〃第62号土坑	37・38-Z-32・33	楕円形	〃	1.57 × 0.83	0.39	〃	
〃第63号土坑	39・40-Z-31	不整円形	〃	1.46	0.42	第215図 第63図版	第Ⅷ期
〃第65号土坑	37・38-Z-36	〃	〃	1.27	0.50	第215図	
〃第66号土坑	43・44-Z-29	〃	〃	0.90	0.32	〃	
〃第70号土坑	36-Z-36	〃	円筒状	0.76	0.56	第216図 第63図版	
〃第72号土坑	38・39-Z-34	〃	鍋底状	1.24	0.30	第216図	

第1節 縄文時代

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	規模 長軸×短軸 (m)	残存深度 (m)	挿図番号 図版番号	備考
Z区第81号土坑	36-Z-28・29	円形	鍋底状	0.93	0.50	第216図 第63図版	深鉢1個体出土。 第III期
〃第82号土坑	36・37-Z-27・28	楕円形	〃	1.40 × 1.14	0.30	第216図	第83・86・87・91号土坑と重複。
〃第83号土坑	37-Z-28	円形	〃	0.72	—	〃	第82・84号土坑と重複。
〃第84号土坑	37-Z-27・28	〃	〃	1.10	—	第216図 第63図版	第83・85号土坑と重複。
〃第85号土坑	〃	〃	〃	0.72	—	〃	第84号土坑と重複。
〃第86号土坑	36・37-Z-27	〃	〃	—	—	第216図	第82・87・88・91号土坑と重複。
〃第87号土坑	〃	〃	〃	0.47	0.35	〃	第82・86・91号土坑と重複。
〃第88号土坑	36・37-Z-26・27	楕円形	播鉢状	1.60 × 1.16	0.34	〃	第86・91号土坑と重複。 第VIII期
〃第91号土坑	36-Z-27	円形	鍋底状	1.03	—	〃	第82・86・87・88号土坑と重複、 第V期
〃第92号土坑	36・37-Z-24・25	〃	〃	0.63	0.40	〃	第93号土坑と重複。
〃第93号土坑	36・37-Z-25	不整円形	〃	1.14	0.23	〃	第92号土坑と重複。
〃第94号土坑	35・36-Z-33	〃	〃	1.75	0.42	第217図	
〃第98号土坑	36・37-Z-31・32	円形	〃	1.58	0.38	〃	第VII期
〃第99号土坑	34-Z-34・35	楕円形	〃	2.10 × 1.63	0.45	〃	第VII期
〃第100号土坑	36・37-Z-34・35	円形	〃	1.22	0.23	第217図 第63図版	深鉢1個体出土。 第V期
〃第116号土坑	40・41-Z-26・27	不整楕円形	〃	1.25 × 0.85	0.47	第217図	第VII期
〃第117号土坑	41・42-Z-25・26	円形	〃	1.70	0.30	〃	3個のピットを有する。 第VIII期
〃第123号土坑	36・37-Z-33・34	楕円形	皿状	1.00 × 0.80	0.08	第218図	
〃第124号土坑	43-Z-27	〃	鍋底状	1.00 × 0.82	0.38	第218図 第64図版	
〃第132号土坑	31-Z-34・35	円形	〃	0.84	0.24	第218図	第133号土坑と重複。

土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	規模 長軸×短軸 (m)	残存深度 (m)	挿図番号 図版番号	備考
Z区第133号土坑	30・31-Z-34・35	不整形円形	鍋底状	0.78	0.20	第218図	第132号土坑と重複。
〃 第137号土坑	32-Z-34	〃	〃	1.07	0.30	〃	
〃 第150号土坑	40・41-Z-36・37	不整形円形	〃	2.25 × 1.40	0.65	第218図 第64図版	3基の土坑の重複か。
〃 第153号土坑	42-Z-36	円形	U字状	0.85	0.75	第218図	
〃 第157号土坑	43-Z-35・36	楕円形	袋状	0.83 × 0.59	0.62	〃	
〃 第158号土坑	43・44-Z-36	円形	U字状	0.60	0.78	〃	
A区第24号土坑	1・2-A-19	長方形	円筒状	0.90 × 0.50	0.44	第219図 第64図版	礎多数出土。
〃 第25号土坑	33-A-27	円形	〃	0.97	0.64	第219図	
〃 第43号土坑	1・2-A-45	楕円形	鍋底状	1.08 × 0.89	0.20	〃	
〃 第44号土坑	0-A-48	〃	〃	1.74 × 1.05	0.16	〃	第VIII期
〃 第68号土坑	10・11-A-45	不整形円形	円筒状	1.51 × 1.36	0.80	第219図 第64図版	
〃 第95号土坑	15・16-A-46・47	円形	〃	1.03	1.15	第219図	
〃 第111号土坑	14・15-A-44・45	楕円形	鍋底状	1.05 × 0.89	0.47	〃	第112号土坑と重複。
〃 第112号土坑	14・15-A-44・45	〃	〃	1.57 × 0.99	0.35	第219図 第64図版	第111号土坑と重複。遺物1個体分が横位状態で出土。
〃 第116号土坑	13・14-A-30・31	楕円形	皿状	1.76 × 1.35	0.46	第220図	第II期
〃 第121号土坑	13・14-A-42	円形	鍋底状	1.10	0.26	第220図 第65図版	
〃 第134号土坑	13-A-30	不整形円形	〃	1.13 × 0.75	0.38	〃	
〃 第155号土坑	48-A-43	円形	〃	0.75	0.16	第220図	
〃 第185号土坑	49-A-39・40	〃	円筒状	1.01	0.60	第220図 第65図版	
〃 第188号土坑	47・48-A-39	不整形円形	鍋底状	1.77 × 1.34	0.51	〃	東壁際にビット1個。 第VI期

第1節 縄文時代

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	規模 長軸×短軸 (m)	残存深度 (m)	挿図番号 図版番号	備考
A区第210号土坑	44-A-34	円形	鍋底状	0.66	0.74	第220図 第65図版	深鉢1個体出土。 第Ⅺ期
〃 第239号土坑	33・34-A-37	楕円形	〃	1.65 × 1.22	0.70	第221図	第Ⅷ期
〃 第240号土坑	25・26-A-29・30	〃	播鉢状	1.74 × 1.23	0.44	第221図 第65図版	ピット2個。
〃 第243号土坑	37-A-34・35	円形	鍋底状	1.37	0.57	第221図 第66図版	
〃 第247号土坑	31-A-33・34	楕円形	〃	1.43 × 1.19	0.28	第221図	
〃 第248号土坑	24-A-30	円形	〃	0.56	0.20	第221図 第66図版	
〃 第274号土坑	38-A-32	楕円形	〃	1.01 × 0.88	0.37	第221図	第Ⅶ期
〃 第301号土坑	36・37-A-29・30	不整楕円形	〃	1.01 × 0.75	0.22	第221図 第66図版	
〃 第309号土坑	47-A-33・34	〃	〃	0.66 × 0.49	0.21	第222図 第66図版	底面より若干遊離した状態で有孔石製品出土。
〃 第313号土坑	47-A-41・42	円形	〃	1.35	0.31	〃	
〃 第320号土坑	46・47-A-44	〃	〃	1.00	0.21	〃	第Ⅷ期
〃 第321号土坑	35-A-48	〃	〃	1.04	0.44	第222図	
〃 第333号土坑	47・48-A-48	楕円形	〃	1.51 × 1.17	0.39	〃	第Ⅷ期
〃 第334号土坑	48・49-A-36	〃	—	1.55 × 0.75	0.23	〃	
B区第40号土坑	7-B-28	円形	円筒状	0.91	0.74	第222図 第66図版	
〃 第101号土坑	17・18-B-42・43	〃	鍋底状	1.36	0.37	第223図 第66図版	第Ⅳ期
〃 第102号土坑	19・20-B-31	不整円形	〃	1.16	0.22	第223図 第67図版	第Ⅹ期
〃 第109号土坑	13・14-B-41	不整楕円形	〃	1.32 × 1.10	0.12	第223図	底面中央部にピット1個。
〃 第122号土坑	15・16-B-40・41	円形	〃	1.61	0.23	第223図 第67図版	
〃 第127号土坑	19-B-48	〃	〃	0.88	0.21	第223図	

土坑一覧表・土製円盤観察表

遺構名称	位置	平面形態	断面形態	規模 長軸×短軸 (m)	残存深度 (m)	挿図番号 図版番号	備考
B区第130号土坑	1・2-B-46・47	円形	鍋底状	0.77	0.36	第223図	
〃 第144号土坑	0-B-38・39	不整形円形	〃	1.18	0.10	〃	
〃 第148号土坑	2・3-B-35・36	不整形円形	〃	—	0.75	第224図 第67図版	
〃 第149号土坑	〃	不整形円形	〃	2.35	0.86	〃	
〃 第155号土坑	0・1-B-49	円形	〃	1.00	0.51	〃	第Ⅷ期
〃 第168号土坑	24・25-B-50	〃	〃	0.86	0.26	第224図	
〃 第169号土坑	23・24-B-50	楕円形	〃	1.92 × 1.00	0.42	〃	
I区第156号土坑	5-I-89・90	円形	〃	1.18	0.54	第310図 第69図版	深鉢形土器2個体が入子の状態で出土。

土製円盤観察表

挿図番号 図版番号	遺構名	出土層位	使用部位	大 き さ (cm)			重 さ (g)	備 考
				長 径	短 径	厚 さ		
第43図 2 第127図版	A区31号住	覆土	胴部	4.9	4.7	1.8	46.7	縁辺は6面の研磨面を有する。
〃 3 〃	〃	〃	〃	3.2	3.2	1.3	16.5	縁辺は7面の研磨面を有する。加曾利E
〃 4 〃	〃	〃	〃	3.6	3.5	1.1	16.0	縁辺は9面の研磨面を有するが処理は荒い。加曾利E
〃 5 〃	〃	〃	〃	3.0	2.6	1.2	9.5	縁辺は7面の打ち欠きのみみられ研磨は無。加曾利E
〃 6 〃	〃	〃	〃	3.1	3.1	0.9	11.4	縁辺は7面の研磨面を有する。
第152図 1 第131図版	B区63号住	〃	〃	2.4	2.2	0.9	5.2	縁辺は6面の回転を伴う研磨面を有する。加曾利E
第235図15 第135図版	Z区117号土坑	〃	〃	3.7	3.5	1.2	15.6	縁辺は6面の研磨面を有する。加曾利E
第238図61 第136図版	A区25号土坑	〃	〃	2.6	2.4	1.5	9.1	縁辺は7面の研磨面を有する。加曾利E
	A区54号土坑	〃	〃	4.0	3.8	1.4	24.2	縁辺は7面の粗い研磨面を有する。加曾利E

第1節 縄文時代

挿図番号 図版番号	遺構名	出土層位	使用部位	大 き さ (cm)			重 さ (g)	備 考
				長 径	短 径	厚 さ		
第238図 3	A区76号土坑	〃	〃	3.3	3.2	1.2	13.5	縁辺は5面の研磨面を有する。
第238図 4	A区273号土坑	〃	底部	3.7	3.7	0.8	10.7	剥落した底部で、縁辺に6面の研磨面を有する。
第238図 5	A区1号埋壔周辺	〃	胴部	2.6	2.5	1.1	6.1	縁辺は6面の研磨面を有する。 加曾利E
第273図 6 第139図版	B区	表土	〃	3.2	3.2	1.3	16.4	縁辺は粗い7面の研磨面を有する。 加曾利E
〃 7 〃	A区161住	覆土	〃	3.7	3.6	1.0	13.8	縁辺は8面の打ち欠きで、未研磨。 加曾利E
〃 8 〃	B区	V層	〃	3.3	3.1	1.2	11.6	縁辺は6面の打ち欠き及び研磨両方を有する。 加曾利E
〃 9 〃	A区	〃	〃	4.1	3.8	1.3	23.4	縁辺は7面の研磨面を有し、円形でない。 加曾利E
〃 10 〃	〃	〃	〃	3.9	3.5	1.2	17.5	縁辺は8面の研磨面を有する。 加曾利E
〃 11 〃	〃	〃	〃	3.3	3.0	1.4	12.9	縁辺は5面の打ち欠きで研磨は無。 加曾利E
〃 12 〃	A区21号住	覆土	〃	3.9	3.8	1.1	17.5	縁辺は8面の打ち欠きで、わずかに研磨が認められる。 加曾利E
第273図 13 第139図版	A区	V層	胴部	2.8	2.7	1.2	9.9	縁辺は7面の打ち欠きで、わずかに研磨が認められる。 加曾利E
〃 14 〃	B区	〃	〃	3.6	3.3	1.5	18.5	縁辺は5面で、3面がていねいに研磨されている。 加曾利E
〃 15 〃	〃	〃	〃	3.7	3.4	1.1	15.0	縁辺は7面の粗い研磨が認められる。 加曾利E
〃 16 〃	A区	〃	〃	4.5	3.4	1.4	19.0	縁辺は7面で、1面だけ研磨がみられる。 加曾利E
〃 17 〃	A区16号住	掘り方	〃	4.9	4.4	1.9	43.4	縁辺は7面で、1面だけ打ち欠きのままである。 加曾利E
〃 18 〃	B区	V層	底部	4.5	4.2	1.2	18.3	縁辺は8面の回転を伴う研磨面を有する。
〃 19 〃	A区	〃	胴部	3.8	3.3	1.1	15.6	縁辺は6面の打ち欠きで、2面のみ研磨がみられる。
〃 20 〃	〃	〃	〃	4.3	4.1	1.4	30.3	縁辺は6面の粗い研磨がみられる。
〃 21 〃	B区	表土	〃	4.4	4.1	1.2	28.0	縁辺は8面の粗い研磨面を有する。 加曾利E

土製円盤・耳栓観察表

挿図番号 図版番号	遺構名	出土層位	使用部位	大 き さ (cm)			重 さ (g)	備 考
				長 径	短 径	厚 さ		
第273図22 第139図版	A区	V 層	〃	4.5	4.4	0.8	20.7	縁辺は8面の粗い研磨面を有する。
〃 23 〃	B区	II 層	〃	4.5	3.9	1.1	24.2	縁辺は6面の回転を伴うていねいな研磨面を有する。
〃 24 〃	〃	〃	〃	3.3	3.3	1.6	20.6	縁辺は7面の回転を伴う研磨面を有する。
〃 25 〃	Z区	V 層	〃	3.1	3.1	0.9	8.4	縁辺は7面の打ち欠きを有する。
〃 26 〃	A区	〃	〃	2.2	2.1	1.3	6.3	縁辺は6面の回転を伴う研磨面を有する。
〃 27 第140図版	A区	〃	〃	3.8	3.6	1.2	13.3	縁辺は6面の打ち欠きを有する。
〃 28 〃	A区	〃	〃	4.0	3.5	1.3	14.3	縁辺は5面の回転を伴う研磨面を有する。
〃 29 〃	B区	〃	〃	3.3	3.0	1.2	8.6	縁辺は6面の研磨面を有する。 加曾利E
〃 30 〃	A区161号住	覆 土	〃	3.7	3.7	1.0	16.4	縁辺は4面の回転を伴う粗い研磨面を有する。
〃 31 〃	B区	表 土	〃	3.4	3.1	1.3	8.3	縁辺は5面の粗い研磨面を有する。

耳栓観察表

挿図番号 図版番号	遺構名	出土層位	度 目				胎土・焼成・色調	文 様
			最大径	最小径	厚 さ	重 さ		
第35図 1 第126図版	A区30号住	覆 土	3.2	3.0	2.3	26.2	細粒砂・良好・鈍い褐色	両側共に細沈線の渦巻と、間に円形刺突を施す。
第273図 1 第140図版	A区	V 層	3.4	3.1	2.3	(22.4)	細粒砂・良好・鈍い赤褐色	両側共に円形刺突を施す。
〃 2 〃	A区	〃	3.4	2.6	2.2	(20.2)	細粒砂・良好・鈍い黄褐色	〃
〃 3 〃	B区163号住	覆 土	3.3	2.9	2.5	27.4	細粒砂・小礫・良好・鈍い橙色	〃
〃 4 〃	A区	V 層	2.3	2.1	2.5	12.0	粗粒砂・細粒砂 良好・鈍い黄褐色	両側共に細沈線の渦巻を施す。
〃 5 〃	B区163号住	覆 土	2.5	2.3	1.4	9.4	細粒砂・良好・明赤褐色	両側共に沈線の渦巻を施し、装着部は研磨されている。

∞ 遺構内出土土器一覧表

Z区 第2号址

図版番号 挿図番号	器種	出土遺存 状況	目 度 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第9図1 第140図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好		褐色	胴くびれ部から、わずかに内湾ぎみに 口縁が立ち上がる。	沈線で楕円区画し、R Lを充墳施文。	10-5 A
" "	"	"	"	"		鈍い褐色	"	隆帯で楕円区画及び渦巻を施し、区画内にL Rを縦施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	"
" "	"	"	"	"		鈍い黄褐色	"	隆帯で楕円区画後、縦方向の条線を充墳施文し、隆帯に沿って沈線を廻らす。	"
" "	"	"	"	"		鈍い赤褐色	口縁部内湾。	口縁部に沿って幅広の沈線を一本廻らし、その下に隆帯で楕円区画を施した後、区画内に綾形状の沈線施文。	10-5 B
" "	"	覆土 胴部	"	"		赤褐色		3本の平行沈線を垂下し、R Lを縦方向充墳施文。	10-7 A
" "	"	"	"	"		褐色		両側に沈線を有する隆帯を横方向に廻らし、R L横方向施文。	"
" "	"	"	"	"		明赤褐色		R L施文後、懸垂沈線及び波状沈線を垂下する。	"
" "	"	"	"	"		赤褐色		隆帯と沈線で楕円区画後、区画内に縦方向の沈線を施す。	10-5 B
" "	"	"	"	"		"		斜方向に平行沈線を施す。	14-1
" "	"	覆土 底部	底 10.4	"		明褐色			15-2

Z区 第14号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎焼	土成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第13図 第126図版	台形土器	P,東側で逆位 No.1 完形	上径12.5 下径14.0 高さ10.4	細粒砂含 良好		鈍い橙 色	台部は中央部に向かって浅い皿状の窪みがあり、磨れた状態を呈する。	4ヶ所に孔を有する。	
" 2 第140図版	両耳壺	覆土 把手	破片	"	"	鈍い黄 色	全面にていねいな磨き。	深い沈線で大小2つの臍手を施す。	
" 3	深鉢	No.2 口縁部	"	"	"	鈍い褐 色	波状口縁。	口縁突起から口縁に沿って1本の沈線を施し、下に隆帯と沈線で楕円区画及び小渦巻を施す。区画内は綫条体Lの横位施文。	10-2 A
" 4	"	覆土 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	"	鈍い黄 橙色	波状口縁で、内湾した口縁部が波頂部で外反する。	幅広の沈線で楕円区画及び渦巻を施し、区画内RLを充填施文。	10-6
" 5	"	"	"	"	"	鈍い黄 色	波状口縁。	口縁波頂部下に幅広の沈線による渦巻を施す。	"
" 6	"	"	"	細粒砂含 良好	"	鈍い黄 橙色		口縁部文様帯は、幅広の沈線で楕円区画及び渦巻を施す。	10-5 A
" 7	"	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	口唇部平坦。	両側に沈線を有する隆帯で楕円区画及び渦巻を施し、区画内は縦方向の条線施文。	10-3 B
" 8	"	"	"	"	"	鈍い橙 色	口縁部が若干内湾する。	口縁部下に幅広の沈線を廻らし、同沈線で楕円区画する。区画内はRLを横方向に充填施文。	10-5 A
" 9	"	"	"	"	"	鈍い褐 色	口縁部がごくわずかに内湾する。	口縁部下に1本の沈線を施し、無文帯を区画する。胸部は縦方向の条線施文。	赤色顔料 塗布
" 10	"	覆土 胸部	"	"	"	橙 色		沈線で楕円区画し、胸部は2本の平行沈線を垂下させ、縄文はRLの縦方向充填施文。	11-8
" 11	"	"	"	"	"	鈍い黄 橙色		2本の平行沈線を垂下し、間を磨き、縄文はRL縦方向充填施文。	10-7
" 12	"	"	"	"	"	鈍い褐 色		"	"
" 13	"	"	"	"	"	鈍い橙 色		縄文複節RL。	"

図版番号 挿図番号	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色	器形・整形の特徴	文様	備考
第13図14 第140図版							2本の平行沈線を垂下し、間を磨き、縄文はR Lの縦方向充墳施文。	10-7
" 15 "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色	比較的強い、胴くびれ部を有する。	"	"
" 16 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、間を研磨し、縄文はR Lの縦方向充墳施文後、1本の波状沈線を垂下。	"
" 17 "	"	"	"	細粒砂含 良好	明黄褐 褐色		3本単位の平行沈線を垂下し、間を磨き、縄文はR Lの縦方向充墳施文。	10-7 A
" 18 "	"	"	"	"	鈍い褐 褐色		縄文はR L横方向施文で、平行沈線及び波状沈線を垂下。	"
" 19 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	明黄褐 褐色	比較的薄手で胴の張りが強い。	2本単位の平行沈線間を磨き、縄文はR Lの斜方向充墳施文で、沈線を曲線的に施文。	10-8
" 20 "	"	"	"	細粒砂含	鈍い黄 褐色		縄文R Lの充墳施文で、蔵手状の沈線を施す。	"

Z区 第16号址

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状	位置 状況	度目 (cm)	胎 焼	土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第16図1 第140図版	深鉢	覆土 胴部		破片	細粒砂含 良好		褐色		隆帯で口縁部文様帯を区画し、隆帯上に1本の沈線を施す。	10-2 A
" 2 "	"	覆土 胴部		"	"		"		沈線で「U」字状に区画し、区画内は縄文R Lの充墳施文。無文部は磨き後、蔵手状の沈線を施す。	10-8
" 3 "	"	"		"	"		明褐色		平行沈線を垂下し、縄文はR Lの充墳施文。	10-7
" 4 "	"	"		"	"		褐色		平行沈線を垂下。	"
" 5 "	"	"		"	"		明赤褐 褐色		縄文R L。	"

第16図 6 第140図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色		縄文R.L。	10-7
" 7 "	"	"	"	"	明赤褐色		原体は絡糸体L。	
" 8 "	浅鉢	"	"	"	鈍い赤褐色	外面はていねいな磨き。		

Z区 第19号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 土 成 焼	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第19図 第126図版	深鉢	炉体土器 胴下半を欠く		口 25.5 高 18.9	細粒砂含 良好	鈍い橙 褐色	円筒状の胴部と、内湾する口縁部を有する。	口縁部は隆帯と沈線の楕円・三角形区画で、胴部は複節LR施文後、平行沈線を垂下し、沈線間を粗く磨消す。	41点の接合 10-5 A
第20図 1 第140図版	"	覆土 口縁部		破片	"	鈍い赤 褐色		幅広の平行沈線で「 Ω 」字状の無文部とする。縄文はR.Lの充填施文。	10-5 A
" 2 "	"	"		"	"	"	口唇部平坦。	縄文はR.Lで口縁に沿って2本の平行沈線を廻らし、沈線を垂下。	11-1
" 3 "	"	"		"	"	鈍い明 赤褐色	口縁部外側に、つまみ上げ状の断面三角形の隆帯を有する。	縄文はR.Lで、口縁部無文帯を細い1本の沈線で区画。	
" 4 "	"	"		"	"	鈍い橙 褐色	波状口縁。	幅広の沈線で楕円区画し、縄文はR.Lの充填施文。	
" 5 "	"	"		"	"	褐灰色	口唇部平坦で内面肥厚。	縄文はR.Lの斜方向施文。	
" 6 "	"	"		"	"	鈍い橙 褐色	口縁部内面肥厚。	口唇直下に1本の沈線を廻らし、縦方向の平行沈線を施文。	
" 7 "	"	"		"	"	鈍い褐色	口縁部内湾。	5本単位の青海波状の条線施文。	11-8
" 8 "	"	覆土 胴部		"	"	褐灰色		隆帯と沈線で文様区画し、縄文はR.Lの充填施文。	

第1節 縄文時代

第20図9 第140図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色			14?
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤褐色	隆帯と沈線で文様区画。	〃	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	明赤褐色	胴くびれ部が比較的はっきりしている。	くびれ部に1本の隆帯を廻らし、沈線で文様区画し、区画内は縦方向の平行沈線施文。	14?
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い褐色	強い胴くびれ部を有する。	条線施文後、沈線で文様表出。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤褐色	〃	〃	13?
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐色	器面全体に磨き。	2本の平行沈線を垂下し無文部と縄文部を区画、縄文はR.Lの縦方向充填施文。	10-7 B
〃 〃	〃	〃	〃	〃	赤褐色	〃	〃	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐色	〃	原体は紹糸体Lで、両側に沈線を有する1本の隆帯を垂下。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	赤褐色	〃	縄文はR.Lの縦方向施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤褐色	〃	隆帯を1本垂下し、一方に斜方向の平行沈線施文、他方に波状の隆帯を垂下。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い橙褐色	〃	縁杉状に沈線を施す。	14
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 〃	〃	炉南側床直 底部	高 4.2	〃	鈍い褐色	〃	「冂」字状の沈線を連続させ縄文部を区画し、区画内は縄文R.Lの縦方向充填施文。	10-8
〃 〃	〃	覆土 底部	高 9.0	〃	〃	〃	2本の平行沈線を垂下し、縄文はR.Lの縦方向充填施文。	10-7

図版番号 挿図番号	深鉢	覆土 底部	高	7.0	細粒砂含 良好	暗赤褐 色	器形・整形の特徴	文様	備考
第20図 23 第140図版								底部付近無文。	15-2
" 24 "	浅鉢	覆土 口縁部	破片		"	鈍い褐 色	口唇部に沈線状の窪みを有する。 内外面共に横方向の磨き。	無文。	
" 25 "	"	"	"		"	鈍い赤 褐色	口唇部断面三角形で内面若干肥厚す る。 内外面共に磨き。	"	
" 26 "	"	"	"		"	暗赤褐 色	内面突起状に肥厚する。 内外面共に磨き。	"	

Z区 第22号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	度目 (cm)	胎 成	土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第23図 1 第140図版	深鉢	P 8内 口縁部	破片	細粒砂含 良好		鈍い赤 褐色		口縁部に2本の沈線を廻らす。	10
" 2 "	"	P 7内 口縁部	"	"		鈍い褐 色	内外面共に磨き。	口縁部に隆帯及び幅広い沈線を廻らす。	"
" 3 "	"	P 8内 口縁部	"	"		鈍い橙 色		口縁部に隆帯を波状に貼付し、内側に沈線を引き楕円区画し、胴部は隆 帯波頂部から平行沈線を垂下する。縄文はR L。	10-3 A
" 4 "	"	"	"	"		鈍い褐 色	口縁部内湾。	縄文はR Lで、口縁部に沿って2本の沈線を廻らす。	"
" 5 "	"	P 8内 胴部	"	"		明赤褐 色		縄文はR Lで、沈線で文様表出。	10
" 6 "	"	P 5内 胴部	"	"		暗赤褐 色		原体は絡状体Lで、縦・斜方向施文。	"
" 7 "	"	P 8内 胴部	"	"		赤褐色		"	"
" 8 "	"	"	"	"		明赤褐 色		条線施文後、直線的及び波状の隆帯を垂下。	14-2

第23図 9 第140図版	深鉢	P 8 内 胴部	破片	細粒砂含 良好	明赤褐色		3本の隆帯を縦方向に貼付し、間に沈線を施す。胴部文様は斜方向の平行沈線。	14
" 10 "	"	P 8 内 底部	"	"	灰褐色		底部付近無文。	15-2

Z区 第23号址

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状況	目 度 (cm)	胎 焼 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第25図 1 第140図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	口縁部内湾。	幅広い沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	3点の接合 10-5 A
" 2 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	"	"	隆帯と沈線で文様区画及び小渦巻を施し、区画内は縦方向の沈線施文。	10-5
" 3 "	"	"	"	"	"	"	隆帯と沈線で楕円区画及び小渦巻を施し、区画内横方向の綾杉状沈線施文。	10-3 B
" 4 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"	口縁部やや内湾。	縄文RL施文後、口縁部に3本の沈線を廻らし、さらに3本単位の平行沈線垂下。	10-2
" 5 "	"	No.1 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	"	口縁部外反し、口唇部平坦で外傾。	条線施文後、隆帯で楕円区画し、胴部に浅い波状沈線垂下。	5点の接合 10-3
第26図 1 第140図版	"	胴部	"	粗粒砂・小礫 含、良好	浅黄橙 色		口縁部文様帯は隆帯と沈線で区画し、胴部は2本単位の平行沈線を垂下する。区画内及び沈線間は縄文RLの充填施文。	10-5 A
" 2 "	"	"	"	"	褐色		絡条体L施文後、2本単位の平行沈線及び波状の隆帯を垂下。	10-4 B
" 3 "	"	"	"	"	"	胴部に至みが激しい。	絡条体L施文後、波状の隆帯垂下。	"
" 4 "	"	覆土 胴部	"	"	橙 色		隆帯と沈線で楕円及び渦巻を施し、区画内は縦方向の沈線。	10-3 B
" 5 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		隆帯と沈線で文様区画。	"

第26図6 第140図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		幅広い沈線で文様区画及び擦手施文し、区画内は縄文R.L.の充填施文。	10-8
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		縄文R.L.施文後、3本単位の沈線垂下。	10-7 A
" "	"	"	"	"	"		縄文LR施文後、沈線垂下。	2点の接合 10-7 B
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に交互に縄文R.L.を充填施文。	10-7 B
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		"	"
" "	"	"	"	"	"		2本単位の平行沈線を曲線的に施文し、縄文R.L.充填施文。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	灰赤色		平行沈線で区画し、縄文R.L.を交互に充填施文、無文部に沈線の臍手を 施す。	10-8
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		縄文R.L.施文後沈線垂下。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	"		縄文R.L.	"
" "	"	"	"	"	"		条線施文後に隆帯垂下。	14
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	灰褐色		条線。	
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色		縁杉状沈線施文。	14
" "	"	覆土 底部	底 6.8 高 (6.0)	"	"	台付。		15-4
" "	"	"	底 5.6 高 (2.0)	"	"	わずかに突出する。		15-3

A区 第27号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状	位置 状況	度目 (cm)	胎 焼成	土 色	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第29図 第126図版	深鉢	炉体土器 口縁部・胴下半を欠く		高(16.0)	粗粒砂含 良好	明赤褐色	胴部ほぼ中央部にゆるいくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線による楕円区画し、胴部は2本単位の平行沈線を垂下する。縄文はRLの充填施文。	46点の接合 10-5 A

A区 第30号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状	位置 状況	度目 (cm)	胎 焼成	土 色	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第31図 第126図版	深鉢	炉体土器 胴下半を欠く		口 36.4 高(20.0)	粗粒砂・礫含 良好	明赤褐色	胴部中央にくびれを有し口縁部内湾。口唇部は内傾し平坦。	縄文LR縦方向施文後、口縁部及びくびれ部に3本の平行沈線を廻らし、沈線間を交互に削り波状とする。胴上半は3本単位2段の連弧文。	22点の接合 13-1
第33図 1 第140図版	浅鉢	炉周辺 下半部を欠く		口 40.0 高(10.0)	粗粒砂・細粒 砂含、良好	橙色	直線的に立ち上がり、口縁内面折り返し状を呈する。内外面共に磨き。	無文。	3点の接合
" 2 "	深鉢	炉周辺 口縁部突起		破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	橋状の突起で頂部に窪みを有する。	縄文はRLで、沈線で文様表出し、円形刺突を有する。	11-5
" 3 "	"	"		"	細粒砂含 良好	鈍い褐色	口縁部は内湾し、1ヶ所に橋状の把手を有する。	縄文はRLで、沈線で「Ω」字状の文様表出し、把手部に「Ω」字状の沈線施文。	"
" 4 "	"	"		"	"	"		外面は隆帯で渦巻文を施文し、内面は側縁に沿って隆帯を付す。	
" 5 "	"	炉周辺 口縁部		"	粗粒砂・細粒 砂含、良好	鈍い黄 褐色	口縁部は内湾し、口唇部内外共に肥厚する。	隆帯と幅広い沈線で楕円区画し、区画内は縄文RLの横方向充塞施文。	10-8
" 6 "	"	"		"	粗粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	口縁部はわずかに内湾し、鉢形の胴上半に幅広いの隆帯を廻らし口縁部を区画。	隆帯と沈線で楕円区画及び小渦巻を施し、区画内は斜方向の平行沈線。	10-5 A
" 7 "	"	覆土 口縁部		"	"	明黄褐色	鉢形で口唇部外面肥厚。	口縁部に沿って微隆帯を施し、口縁部無文帯を区画、縄文はLR。	2点の接合 12-2
" 8 "	"	炉周辺 口縁部		"	"	鈍い黄 橙色	"	口縁部に沿って微隆帯を施し口縁部無文帯を区画し、胴部は細い沈線を垂下する。縄文はLの充填施文。	"

第33図 9 第140図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	粗粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色		口縁部に沿って微隆帯を施し口縁部無文帯を区画し、胴部は縄文R.L。	2点の接合 12-2
" 10 "	"	"	"	粗粒砂・細粒 砂含、良好	褐色	口唇部平坦。	口縁部に沿って2本の沈線を施し、間に縦長の刺突施文、胴部は3本単位の平行沈線垂下。	14
" 11 "	"	"	"	粗粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	口縁部は内湾し、口唇部断面三角形形状。	絡糸体L施文後、口縁部に沿って3本の沈線を廻らし、その下に3本単位の連弧文を施す。	13-1
" 12 "	"	"	"	粗粒砂含 良好	橙色	口縁部外反。	条線施文後、口縁部に2本の沈線を廻らす。	"
" 13 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙色	口唇部は平坦で内傾。	条線を斜方向施文後、口縁部に二本の沈線を廻らし、間に円管刺突。	"
第34図 1 第140図版	"	炉周辺 胴部	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		1本の隆帯を廻らし口縁部を区画し、胴部は沈線を垂下。縄文はR.L。	"
" 2 "	"	"	"	粗粒砂・小礫 含、良好	"		隆帯と沈線で楕円区画し、区画内は縦方向の沈線施文、隆帯上に1本の沈線を施す。	10-2
" 3 "	"	"	"	粗粒砂・細粒 砂含、良好	橙色		沈線を垂下し、縄文部・無文部区画。縄文はLR充填施文。	10-7
" 4 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	褐色		条線施文後、横方向及び縦方向に沈線を施す。	14
" 5 "	"	炉周辺 胴部	"	"	鈍い橙 色		沈線で文様区画し、区画内は縦形状の沈線施文。	14-1
" 6 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	胴くびれ部から無文の口縁部外反。	くびれ部に2本の隆帯を廻らし、連結部に小渦巻を有する2本単位の隆帯を垂下し、胴部文様区画。区画内は縦形状の沈線施文。	"
" 7 "	"	"	"	細粒砂含 良好	灰黄褐 色		縄文R.L施文後、縦形状の沈線施文。	14
" 8 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	黒褐色		条線施文後、沈線で文様表出	"
" 9 "	"	"	"	細粒砂・微粒 砂含、良好	鈍い赤 褐色		平行沈線を垂下し、沈線間に縦方向条線施文。	3点接合 10-7

第34図10 第140図版	深鉢	覆土 底部	底 12.0	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	縄文R.L。	15-1
" 11 "	"	炉周辺 台部	破片	"	黄褐色	凹孔を有する。	15-5
" 12 "	"	"	"	"	明褐色	"	"
" 13 "	浅鉢	炉周辺 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	"	無文。	

A区 第31号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	度目 (cm)	胎 焼	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第37図1 第126図版	深鉢	P12南側 胴下半を欠く	No.1	口 44.6 高(18.8)	細粒砂含 良好	褐色	口縁平縁で、内湾きみに直立する口縁 部下に、くびれを有するキャリハム形。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画及び小渦巻を施し、縄文R.L.を横方 向充満施文。胴部は同縄文施文後3本の沈線を廻らし頸部無文帯を区画。	28点の接合 10-2 A
" 2 "	"	炉南側 胴下半を欠く	No.2	口 14.8 高(8.0)	"	灰黄褐 色	口縁平縁で口縁部下にくびれを有し、 胴部に膨らみを有する。	口縁部は隆帯の横長の楕円区画。胴部は縄文R.L.施文後、2本単位の沈線 を垂下。	3点の接合 10-2
" 3 "	"	P12内 口縁部・胴下半を欠 く	No.3	高(17.2)	粗粒砂含 良好	黄褐色	胴中央部にくびれを有する。	器面全面、縄文R.L.縦方向施文。	9点の接合 10-4 A
" 4 "	"	北側壁溝内 口縁部を欠く	No.4	高(17.6) 底 8.0	"	鈍い橙 色	胴くびれ部から「く」字状に屈曲する。	縄文R.L.施文後、くびれ部に2本の沈線を廻らし、下半に2本単位の沈 線で連弧文施文。	34点の接合 13-1
" 5 "	"	P15西側 胴上半を欠く	No.5	高(14.4) 底 7.2	"	明褐色	胴部にわずかにくびれを有する。	縄文R.L.施文後、胴くびれ部や上に横位に沈線を廻らし、3本単位の 沈線及び1本の波状沈線を交互に垂下。	19点の接合 10-4 A
" 6 "	"	P12東側 胴上半を欠く	No.6	高(15.6) 底 9.0	"	明赤褐 色	"	縄文R.L.施文後、2本単位の沈線及び1本の波状沈線を交互に垂下。	32点の接合 10-4 A
" 7 "	"	覆土 胴上半を欠く	No.7	高(8.8) 底 7.5	細粒砂含 良好	橙 色	"	縄文R.L.施文後、3本単位の沈線及び1本の波状沈線を交互に垂下。	4点の接合 10-4 A
" 8 "	浅鉢	炉掘り方内 口縁部を欠く	No.7	高(18.4) 底 9.0	"	灰黄褐 色	底部から外反し「く」字状に内傾する ソロバン玉状。内外面共に磨き。	肩部文様帯は沈線で文様区画し、縄文R.L.を充満施文。屈曲部に2個単 位の円管刺突を施す。	14点の接合

第38図 1 第127図版	有孔罅 付	炉北側 No.8 胴下半を欠く	口 24.4 高(11.2)	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部は直立し、罅部は上反し胴部に 膨らみを有する。内外面共に磨き。	罅部有孔。	8点の接合
" 2 "	"	南側壁溝内 No.9 口縁部	口 27.4 高(6.8)	粗粒砂含 良好	灰黄褐 色	口縁部は外反し、口唇部平坦で内側に 突出。内外面共に磨き	口縁部有孔。	
第38図 3 第140図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	口唇部内傾し内側に突出。 波状口縁。	細文RL施文後、沈線で口縁波頂部に小渦巻を施し、その下は横方向の 沈線施文 口唇平坦部は沈線で楕円区画文。	5点の接合 10-2 A ?
" 4 "	"	"	"	細粒砂・粗粒 砂含、良好	橙 色	口縁部内湾	口唇部下に沈線を廻らし、その下に隆帯と沈線で楕円区画及び渦巻を施 し、区画内は細文RLの充填施文。渦巻は突出する。	10-2 B
" 5 "	"	"	"	"	"	"	突出した渦巻を付す。	10-2 A
" 6 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	波状口縁。	口縁部に沿って沈線を施し、波頂部に横向の小渦巻を付す。	"
" 7 "	"	"	"	"	橙 色	口縁部内湾。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で、細文はRL。	10-2 B
" 8 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	口縁部直立。	口縁部に1本の隆帯を廻らし、波状の隆帯を垂下。	"
" 9 "	"	"	"	"	橙 色	口縁部内湾し、口唇部内面若干肥厚。	細文RLR施文後、2本の幅広の沈線を廻らし、口縁部無文帯を区画。	10-2 A
" 10 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	くびれ部から口縁部直立。	両側にナデを施した隆帯で楕円及び渦巻を施す。	10-2 B
" 11 "	"	"	"	"	橙 色	鉢形で口縁部が直立し、口唇部内面肥 厚。	口縁部は隆帯で楕円区画し、細文はRLで隆帯貼付後施文。	12-2
" 12 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	口縁部直立。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内細文RL充填施文。	10-2 A
" 13 "	"	"	"	"	褐 色	"	隆帯及び沈線で楕円区画及び渦巻を施し、区画内縦方向条線施文。	10-2 B
" 14 "	"	"	"	"	橙 色	口唇部平坦でわずかに内傾。	口唇直下に細沈線を施し、隆帯及び沈線で文様区画。区画内は細文RL 充填施文。	"

第1節 縄文時代

第38図15 第140図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	粗・細粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	口縁部内湾。	口縁部は隆帯を貼付し、沈線で小渦巻等施文。	10-2 A
" "	"	"	"	"	"	口縁部わずかに内湾。	縄文RL施文後、口縁部に沿って3本の沈線を廻らし磨きを施す。	"
" "	"	"	"	粗粒砂・細粒 砂含、良好	"	口縁部直立。	縄文RL施文後、沈線で文様区画。	"
" "	"	"	"	"	"	口縁部わずかに内湾し、上端で外反。	縄文RL施文後、口縁部に沿って1本の沈線を廻らし、沈線を垂下。	"
" "	"	"	"	"	橙色	波状口縁。胸部内湾し、口縁部「く」 字状に外反。	くびれ部に沈線を施し、口縁部無文帯を区画し、胸部は縄文RL施文後 沈線で渦巻を施す。	2点の接合 10-2 A
" "	"	"	"	"	暗赤褐 色	やや外反きみに立ち上がり口縁上端で 内傾。口唇部平坦で、波状口縁。	縄文RL施文後、3本単位の沈線を連弧状に施す。	10-2 A
" "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	口縁部断面三角形形状。	縄文RL施文後、2本単位の沈線を波状に施す。	"
" "	"	"	"	"	"	口縁部内湾。	縄文RL施文後、口縁部に沿って2本の沈線を廻らし、沈線下は3本単 位の沈線を連弧状に施す。	13-1
第39図1 第140図版	"	"	"	"	明赤褐 色	口縁部内湾し、上端部直立。	縄文RL施文後、口縁部に沿って2本の沈線を廻らす。	2点の接合 11-8 ?
" "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	口縁部内湾。	総糸体L施文後、口縁部に沿って2本の沈線を廻らす。	"
" "	"	"	"	"	橙色	口縁部肥厚し、直立。	口縁部に微隆帯を廻らし、口縁部を無文帯とし、胸部は2本単位の平行 沈線で文様表出。縄文はLRで充填施文。	11-5
" "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色	口縁部内湾。	口縁部に沿って1本の隆帯を廻らし、隆帯を垂下させ区画を施し、区画 内に沈線を施す。縄文はRLで、区画内充填施文し、隆帯上にも施文。	10-2
" "	"	覆土 胸部	"	"	鈍い赤 褐色	"	隆帯と沈線で文様表出。縄文はRL充填施文。	"
" "	"	覆土 口縁部	"	"	鈍い褐 色	波状口縁突起部で、内外面共に磨き。 口縁内側に突起を有する。	口縁突起内側に幅広い沈線で渦巻と楕円区画を施し、区画内に交互刺突 を施す。	10-6

第39図 7 第140図版	深鉢	覆土 胴部	破片	粗粒砂・細粒 砂含、良好	明赤褐 色		結糸体L施文後、横方向に3本の沈線施文。	10-4 A
// //	//	//	//	//	鈍い赤 褐色	強い胴くびれ部を有する。	くびれ部に2本の沈線を廻らす。	//
// //	//	//	//	粗粒砂・小礫 含、良好	//	//	細文RL施文後、くびれ部に3本の沈線を廻らす。	//
// //	//	//	//	粗粒砂・細粒 砂含、良好	//		胴くびれ部に2本の隆帯を廻らし、上部は無文で、下部は細文RL施文。	10-4 B
// //	//	//	//	粗粒砂・小礫 含、良好	明赤褐 色		細文RL施文後、2本単位の沈線で文様区画。	10-4 A
// //	//	//	//	粗粒砂含 良好	鈍い褐 色		細文RL施文後、数本単位の沈線を横方向に施文。	//
// //	//	//	//	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	明赤褐 色		細文Lを縦方向施文後、1本の細沈線を横方向施文。	//
// //	//	//	//	//	鈍い橙 色		結糸体L施文後、3本単位の沈線で文様表出。	//
// //	//	//	//	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い褐 色		隆帯と沈線で文様区画し、細文はRLで充填施文。	//
// //	//	//	//	//	//		細文RL施文後、2本単位の沈線で文様表出。	//
// //	//	//	//	//	//	胴くびれ部から外反。	細文RL施文後、2本及び3本単位の沈線で文様表出。	2点の接合 10-4 A
// //	//	//	//	//	鈍い赤 褐色		細文RL施文後、胴くびれ部に沈線を廻らし、3本単位の沈線を垂下。	10-4 A
// 第141図版	//	//	//	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色		細文RL施文後、2本及び3本単位の沈線で文様表出。	//
// //	//	//	//	細粒砂・粗粒 砂含、良好	//		細文RL施文後、沈線で文様表出。	//

第1節 縄文時代

図版番号	深鉢	覆土胸部	破片	土質	色	形状・状態	備考	図版番号
第39図21 第141図版					鈍い橙 色	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	縄文RL施文後、隆帯を波状に垂下し、両側にナデを施す。	10-4 B
" 22 "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色	細粒砂・粗粒 砂含、良好	縄文RLR施文後、2本単位の沈線で文様表出。	10-4 A
" 23 "	"	"	"	"	橙 色	"	2本単位の隆帯を垂下し、縦区画する。区画内は縄文LR・RLの2種を縦方向に縁彩状施文。	10-4 B
" 24 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	"	縄文RL施文後、3本単位の平行沈線及び2本単位の波状沈線を垂下。	10-4 A
" 25 "	"	"	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	縄文RL施文後、4本単位の平行沈線を垂下。	"
" 26 "	"	"	"	"	橙 色	"	縄文RL縦方向施文後、沈線垂下。	"
" 27 "	"	"	"	"	褐 色	細粒砂・粗粒 砂含、良好	縄文RL施文後、3本単位の平行沈線垂下。	"
" 28 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	"	"	"
" 29 "	"	"	"	"	"	"	縄文RL施文後、波状沈線垂下。	"
" 30 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	"	縄文RLR施文後、2本単位の平行沈線垂下。	"
" 31 "	"	"	"	"	"	"	"	"
第40図 1 第141図版	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	"	絡条体L施文後、沈線垂下。	"
" 2 "	"	"	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	条線斜方向施文後、2本単位の平行沈線垂下。	"
" 3 "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色	細粒砂・粗粒 砂含、良好	縄文RL施文後、波状沈線垂下。	"

第40図4 第141図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い橙 色		細文R L 施文後、波状沈線垂下。	10-4 A
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	橙色		2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に交互に細文R L 充填施文。	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い赤 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に細文R L を交互に充填施文後、 波状沈線を垂下。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	橙色	胴部に比較的強いくびれを有する。	〃	3点の接合 10-7
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	〃	〃	2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に細文R L を交互に充填施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	粗粒砂含 良好	鈍い橙 色	胴部にくびれを有する。	絡糸体L 施文後、沈線施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	〃	〃	2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に綾杉状条線を交互施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	〃	〃	沈線で区画後、細文L を充填施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐 色	胴中央部に強いくびれを有し、口縁部 は内湾する。	沈線で「U」字状に区画し、区画内細文R L の充填施文。	11-4 A
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	〃	絡糸体L 施文。	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	〃	胴部やや内湾。	微盛帯で「U」「 Ω 」字状に区画し、区画内細文L R の充填施文。	12-1

第1節 縄文時代

第40図18 第141図版	深鉢	覆土 胸部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	胸部内湾。	細文R L。	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い黄 橙色		〃 で施文方向を変えている。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	明赤褐 色		絡糸体L。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い橙 色		細文R L。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	明赤褐 色		絡糸体L。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	胸部内湾。	〃	〃
〃 〃	〃	覆土 口縁部	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	橙 色	口縁部は、緩い「く」字状に内傾。	縦方向に糸線施文後、口縁部に2本の沈線を廻らし、その下に2本単位の の沈線で連弧文を施す。	13-1
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い橙 色	口縁部直立。	〃	〃
〃 〃	〃	覆土 胸部	〃	粗粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	胸部に緩いくびれを有する。	縦方向に糸線施文後、胴くびれ部に沈線を廻らし、その下に3本単位の 沈線で連弧文を施す。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐 色		縦方向に糸線施文後、3本単位の沈線で連弧文を施す。	〃
〃 〃	〃	覆土 口縁部	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	褐 色	波状口縁で内湾。	波頂部は外側に渦巻を有し、下部は隆帯と沈線で区画し、区画内は綾杉 状に沈線を施す。	14-1
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色		隆帯で橋状の把手及び区画を施し、区画内は斜方向に沈線を施す。	〃
第41図1 第141図版	〃	覆土 胸部	〃	〃	鈍い橙 色	胸部に膨らみを有する。	細文R L施文後、くびれ部に隆帯を波状に貼付し、下部は2本単位の隆 帯及び沈線を垂下。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	〃		沈線及び小渦巻を有する隆帯を垂下し、隆帯間は綾杉状沈線で充填。	〃

第41図 3 第141図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い、褐 色		綾杉状の沈線施文。	14-1
" "	"	覆土 底部	高(6.8) 底 8.6	"	鈍い、橙 色		細文RL施文後、2本単位の平行沈線施文。	15-1
" "	"	"	高(4.8) 底 7.0	細粒砂・粗粒 砂含、良好	"	底部が若干突出。	細文RL。	2点の接合 15-1
" "	"	"	高(5.6) 底 7.0	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	橙 色	器面の剥落が激しい。		6点の接合 15-1
" "	"	"	高(8.0) 底 7.0	"	"	若干外反して立上がる。	細文RL施文後、沈線垂下。	15-1
" "	"	"	高(6.8) 底 7.4	細粒砂・粗粒 砂含、良好		細文RL。	"	
" "	"	"	高(4.0) 底 7.8	"	"		細文RL	15-2
" "	"	"	高(5.2) 底 7.6	細粒砂含 良好	"	底部が若干突出。	沈線垂下。	"
" "	"	"	高(5.2) 底 8.4	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い、黄 橙色		無文。	"
" "	"	覆土 高台部	高(7.2) 底 7.4	"	鈍い、橙 色	底部から外反きみに台部がつき、台部 下端で内側に屈曲する。	台部に2重の沈線で「Π」字状の文様表出。2単位。	15-4
" "	有孔罅 付	覆土 罅部	破片	"	鈍い、赤 褐色	罅部有孔で器面全面磨き。		
" "	浅鉢	覆土 口縁部	"	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い、橙 色	口縁部若干内湾し、外面肥厚。口唇部 平坦で内外面共に磨き。	内外面朱塗り。	
" "	"	"	"	"	鈍い、赤 褐色	"		2点の接合
" "	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い、橙 色	口縁部内湾し、内外面肥厚。口唇部平 坦で内外面共に磨き。		

第1節 縄文時代

第41図17 第141図版	浅鉢	覆土 口縁部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い、褐色	口縁部外反し、外面肥厚。口唇部平坦で内外面共に磨き。	外面未塗り。	
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い赤褐色	口縁部全体に肥厚し、口唇部平坦。内外面共に磨き。	〃	
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒砂含、良好	鈍い褐色	口縁部内傾し外面肥厚。口唇部平坦で内外面共に磨き。	口縁外面に1本の沈線を廻らす。内外面共未塗り。	
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・小礫含、良好	鈍い橙褐色	口縁部「く」字状に屈曲し、外面肥厚。内外面共に磨き。		2点の接合
〃 〃	〃	〃	〃	〃	暗赤褐色	口縁部内面肥厚し、内外面共に磨き。	内外面共未塗り。	
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒砂含、良好	鈍い、褐色	口縁部外反し、上端が内側に屈曲突出する。内外面共に磨き。		
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・小礫含、良好	鈍い黄褐色	〃		
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒砂含、良好	鈍い橙褐色	口縁部強く内湾し、内外面共に磨き。	ボタン状の粘土粒を貼付。	
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い、褐色	口縁部「く」字状に屈曲内傾し、内外面共に磨き。		
〃 〃	〃	覆土 胴部	〃	細・粗粒砂・小礫含、良好	鈍い赤褐色	ソロバン玉状の器形で、胴下半は外反ぎみに底部に至る。	沈線で文様区面し、縄文はRL施文。	
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	26と同一個体か
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒砂含、良好	〃	〃	沈線で文様表出。	
〃 〃	〃	覆土 底部	高(4.8) 底 7.4	〃	〃	外反ぎみに立上がる。		3点の接合
第43図1 第141図版	ミニチュア	覆土 口縁部を欠く	高(5.4)	細・粗粒砂・小礫含、良好	〃	粘土塊から手ねねで製作したものが、外面に指頭痕を多数残す。尖底		

A区 第32号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位 置状況	目 度 (cm)	胎 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第48図 第127図版	深鉢	1号炉体土器 底部を欠く	口 18.5 高(15.8)	細粒砂・粗粒 砂含、良好	赤褐色	胴中位に強いくびれを有し、くびれ部 下半に膨らみを有する。	口縁部は約3cmの幅で肥厚し、上に沈線を引いた隆帯を連弧状に貼付し 区画し、胴部は連弧状の連絡部から隆帯を垂下。縄文RLR。	10-3 A
" "	"	2号炉体土器 胴部の一部を欠く	口 21.5 底 7.0 高 27.0	粗粒砂含 良好	"	胴中位にわずかなくびれを有し、口縁 部内湾し、口唇部は平坦。	条線施文後、口縁部及び胴くびれ部に2本の沈線を廻らし、間に交互刺 突上下半共に3本単位の沈線で連弧文施文。下半は連弧から波状沈線垂 下。	13-1
第49図1 第141図版	"	覆土 口縁部突起	破片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	波状口縁。	口縁突起頂部に沈線で渦巻施文し、下部は沈線の断手。	10-2 A
" "	"	覆土 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		隆帯と沈線で文様区画。	10-3
" "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	波状口縁。	口縁部に沿って2本の沈線を廻らし、間に刺突。下部は沈線で文様表出。	
" "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	褐灰色		3本の沈線を廻らし、そこから2本単位の平行沈線垂下。縄文不明。	10-4 A
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色		縦方向に条線施文後、数本の沈線を廻らす。	"
" "	"	"	"	"	黒褐色		沈線で文様表出。	"
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		沈線で文様区画し、縄文RL充填施文。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		絡糸体L施文後、3～4本単位の平行沈線垂下。	"
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		縄文LR縦方向充填施文後、沈線垂下。	"
" "	"	"	"	"	浅黄橙 色		2本の隆帯を垂下。縄文はRL。	10-7

第49図11 第141図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色		2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に縄文R.L.を交互に充填施文。	10-7
// //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	//		縄文R.L.	//
// //	//	//	//	//	灰色		平行沈線施文。	14-1
// //	//	//	//	細粒砂含 良好	鈍い褐 色		綾杉状沈線施文。	//

A区 第34号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	目 度 (cm)	胎 土 成	色 調	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	文 様	備 考
第52図 第127図版	深鉢	炉体土器 胴部下半を欠く	口 17.6 高(14.4)	細粒砂含 良好	鈍い褐 色	胴中位にくびれを有し、口縁部内湾。 胴部最大径は上位にある。	口縁部及び胴くびれ部に2本単位の沈線を廻らし、上半に2本単位の沈線を波状に施し間を磨く。縄文はR.L.	5点の接合 13-2
第53図1 第127図版	//	P1東側 No.1 胴部下半を欠く	口 50.8 高(21.2)	粗粒砂 良好	明褐色	5単位の突起を有し、胴部中位にくびれを有する。	突起部には大小の渦巻を施し、隆帯と沈線で楕円区画及び内部に渦巻を施し、胴部は沈線で縦区画し、区画内は縄文R.L.R.充填施文。	14点の接合 10-5 A
// //	//	P2西側 No.3 胴部下半を欠く	口 39.4 高(24.4)	//	赤褐色	胴部が外反し、口縁部が直立する。	口縁部文縁帯は隆帯と沈線の楕円区画及び小渦巻。区画内縄文R.L.横方向充填施文。胴部は2本単位の平行沈線垂下後、間と同縄文交互に施文。	34点の接合 10-5 A
第53図3 第128図版	//	住居跡中央やや南 No.5口縁部	口 38.0	//	鈍い黄 橙色	鉢形で、口唇部断面三角形状。	口縁部に微隆帯を施し、上部の口縁部無文帯を区画。胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.横方向充填施文。	4点の接合 12-2
第54図1 第141図版	//	覆土 口縁部	破片	//	灰褐色	口縁部内湾。	微隆帯で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。口縁部無文帯には2列の円形刺突を施す。	11-6
// //	//	No.5 口縁部	//	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色	//	口縁部に1本の沈線を廻らし、口縁部無文帯を区画。胴部は沈線で「Π」字状に区画し、区画内は縄文R.L.の充填施文。	11-2 B
// //	//	//	//	//	鈍い黄 橙色	口縁部直立。	口縁部に微隆帯を廻らし、無文帯を区画。胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間は交互に縄文R.L.を充填施文。	11-7
// //	//	No.5 胴部	//	//	灰褐色			第54図1と 同一個体

第54図5 第141図版	深鉢	No.5 胸部	破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色	内湾。	隆帯と沈線で楕円区画し、区画内給条体L施文。 沈線垂下。縄文RL。 2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間は交互に縄文RL充填施文。 微隆帯を2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間は交互に縄文RL充填施文後、微隆帯の両側に沈線を施す。 2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間は交互に縄文RL充填施文。 縄文施文後、波状沈線を垂下。 3本単位の平行沈線を垂下し、間に縄文RL充填施文後、波状沈線垂下。	10-7 5点の接合 10-7 B 2点の接合 10-7 B 10-7 B 3点の接合 10-7 B 10-7 B 10-7 B 10-7 A 10-7 10-7
" 6 "	"	No.3 胸部	"	"	"			10-7
" 7 "	"	No.5 胸部	"	"	鈍い橙 色			5点の接合 10-7 B
" 8 "	"	No.3 胸部	"	"	"		"	2点の接合 10-7 B
" 9 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		"	10-7 B
" 10 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		"	"
" 11 "	"	覆土 胸部	"	"	鈍い褐色		"	3点の接合 10-7 B
" 12 "	"	No.2 胸部	"	"	灰褐色		"	10-7 B
" 13 "	"	覆土 胸部	"	"	鈍い橙 色		微隆帯を2本単位の平行沈線を垂下し、微隆帯間は交互に縄文RL充填施文後、微隆帯の両側に沈線を施す。	"
" 14 "	"	No.2 胸部	"	"	鈍い褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間は交互に縄文RL充填施文。	10-7
" 15 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		縄文施文後、波状沈線を垂下。	"
" 16 "	"	"	"	"	"		3本単位の平行沈線を垂下し、間に縄文RL充填施文後、波状沈線垂下。	10-7 A
" 17 "	"	No.5 胸部	"	"	鈍い褐色	胸部中に比較的強いくびれを有する。	縄文はRLで沈線で文様表出。	10-7
" 18 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		"	"

第1節 縄文時代

第54図19 第141図版	深鉢	No.5 胸部	破片	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		縄文はR.L. 沈線で文様表出。	10-7
" "	"	"	"	"	"	胸部に強いくびれを有する。	沈線で上下に「U」「O」字状に施し、縄文充填。	11-3
" "	"	No.4 胸部	"	"	鈍い褐 色		縄文R.L.を方向を変えて施文。	10-7
" "	"	No.5 胸部	"	"	鈍い黄 橙色		縄文R.L.	3点の接合 10-7
" "	"	覆土 胸部	"	"	"		"	10-7
" "	"	"	"	"	"		"	
" "	"	"	"	"	灰褐色		"	
" "	"	No.3 胸部	"	"	鈍い橙 色		"	
" "	"	覆土 底部	"	"	"		"	15-2

A区 第35号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存	位置 状況	目 度 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第58図1 第141図版	深鉢	覆土 口縁部		破片	細粒砂含 良好	浅黄橙 色	口縁部内湾し、胸部中位にわずかなかく びれを有する。	口縁部文様帯は隆帯及び幅広い沈線で精円区画及び渦巻を施し、区画内 縄文R.L.充填施文。胸部は2本単位の平行沈線を垂下し同縄文充填施文。	3点の接合 10-5 A
" "	"	"		"	"	鈍い黄 橙色	口縁部わずかに内湾。	口縁部文様帯は隆帯と沈線の精円区画。胸部は2本単位の平行沈線垂下 し、区画内及び沈線間は縄文R.L.の充填施文。	10-5 A
" "	"	"		"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	"	隆帯と沈線で文様区画し、区画内は縄文R.L.の充填施文。	"

第58図 4 第141図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	浅黄色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内は縄文R.L.の充填施文。	3点の接合 10-5 A
" 5 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	10-5 A
" 6 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙色		口縁部に沿って1本の沈線を廻らし、隆帯と沈線で文様区画し、区画内 縄文R.L.充填施文。	"
" 7 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い褐 色	口縁部内湾し、上端外反。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	"
" 8 "	"	"	"	"	橙 色	口縁部内湾し、口唇部平坦で内傾。	口縁部に沈線と押し引きを施し、沈線で楕円区画し、区画内絡糸体L施文。	"
" 9 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色	口縁部内湾。	縄文R.L.を方向を変えて施文。	
" 10 "	"	覆土 橋状把手	"	細粒砂含 良好	"		橋状部縄文R.L.施文。	
" 11 "	"	覆土 口縁部	"	"	鈍い黄 褐色	口縁部内傾。	沈線で「U」か「A」字状に区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	11-2 C
" 12 "	"	"	"	"	黄灰色		口縁部に微隆帯を廻らし、無文帯を区画。胴部は縄文R.L.	12-2
" 13 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		隆帯と沈線で楕円区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	10-5 A
" 14 "	"	"	"	細粒砂含 良好	灰褐色	口縁部内湾。	隆帯と幅広い沈線で楕円区画及び渦巻を施し、区画内縄文R.L.充填施文。 隆帯上に2つの円形刺突。	"
" 15 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	10-7 B
" 16 "	"	"	"	"	灰褐色		"	"
" 17 "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色		"	"

第1節 縄文時代

第58図18 第141図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	橙 色			10-8
" 19 "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色		縄文R.L。	10-7
" 20 "	"	"	"	"	"	胴部に比較的強いくびれを有する。	隆帯を垂下し、隆帯間に縄文R.L.充填施文後、隆帯両側に沈線施文。	2点の接合 10-7
" 21 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	"	縄文R.L.施文後、2本単位の隆帯を垂下し、隆帯両側に沈線施文。	4点の接合 10-7 A
" 22 "	"	"	"	"	"		2本単位の隆帯垂下。隆帯間に縄文R.L.を充填施文し、隆帯両側に沈線施文。	10-7 A
" 23 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い褐 色		沈線を垂下し、沈線間に縄文R.L.縦方向充填施文。	10-7
" 24 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	明黄褐 色	胴部にくびれを有する。	平行沈線を垂下し、沈線間に縄文R.L.充填施文後、波状沈線施文。	"
第59図1 第141図版	"	"	"	"	橙 色	"	"	10-8
" 2 "	"	"	"	"	明黄褐 色		"	"
" 3 "	"	"	"	細粒砂含 良好	暗赤灰 色		沈線で「+」字状に文様区画し、区画内に縄文R.L.充填施文。	10-7
" 4 "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色	胴部湾曲。	沈線で渦巻状の文様施文し、縄文R.L.充填施文。	11-6
" 5 "	"	"	"	"	"		隆帯で渦巻状文様施文し、凹管刺突を施す。	
" 6 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙色		2本の隆帯で文様区画し、区画内に凹管刺突を施す。	
" 7 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に交互に縦方向条線施文。	10-7

第59図8 第141図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	黄橙色	口縁部内湾し内面肥厚。口唇部平坦。	絡条体L施工後、口縁部に2本の沈線を廻らし、下部に3本単位の沈線で連弧文を施す。	13-1
" "	"	覆土 胴部	"	"	"	胴部湾曲。	縄文RL施工後、3本単位の沈線で連弧文を施す。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内は縦方向の平行沈線施文、胴部は隆帯部から2本単位の平行沈線を垂下し、間に斜方向の平行沈線施文。	14
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		綾衫状に沈線施文。	"
" "	"	"	"	"	"		垂下する沈線間に横方向の平行沈線施文。	"
" "	"	覆土 底部	"	"	鈍い赤 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に交互に縄文RLを充填施文。	10-7
" "	"	"	底 高 4.6 (3.6)	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	底部突出。	縄文RL。	15-3
" "	"	"	底 高 8.0 (6.4)	細粒砂含 良好	"			"
" "	"	"	底 高 9.4 (2.8)	"	"			15-2
" "	浅鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	褐灰色	口縁部内湾し、上端外反。内外面共に磨き。		
" "	"	"	"	"	赤褐色	口縁部わずかに内湾し、内外面共に磨き。	口縁部に1本の沈線を廻らす。	

A区 第43号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位 置状況	度目 (cm)	胎成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第63図 第128図版	深鉢	炉体土器 底部	底 高 8.0 (9.0)	粗粒砂含 良好	橙色		2本単位の隆帯を7単位垂下。	4点の接合 14

第1部 縄文時代

第64図1 第128図版	深鉢	No.1 胴下半を欠く	口20.0 高(15.6)	粗粒砂含 良好	暗赤褐色	強い胴くびれ部を有し、口縁部内湾。	絡糸体L施文後、口縁部文様帯は隆帯の楕円区画。胴部はくびれ部に2本の沈線を廻らし無文帯を区画。下半は3本単位の平行沈線垂下。	3点の接合 10-2 B
第64図2 第141図版	"	覆土 口縁部突起	破片	"	橙色	突起頂部に平坦面を有する。	両側に円孔を施し、下に沈線及び刻みを施す。	10-2 B
" 3 "	"	覆土 口縁部	"	"	鈍い黄 橙色	波状口縁。	隆帯を口縁部及び下半に貼付。	"
" 4 "	"	"	"	"	褐色	口縁部内湾。胴くびれ部より若干上に隆帯を廻らし、口縁部文様帯と無文帯を区画。	口縁部に1本の沈線を廻らし、口縁部文様帯は、隆帯及び沈線の楕円区画及び小渦巻。区画内に縄文RL充填施文。小渦巻は斜上方向。	"
" 5 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	口縁部内湾。	口縁部に1本の沈線を廻らし、口縁部文様帯は、隆帯及び沈線の楕円区画及び小渦巻。区画内に絡糸体L施文。小渦巻は斜上方向。	"
" 6 "	"	No.2 "	"	"	鈍い黄 橙色	口縁部内湾。	口縁部文様帯は隆帯で文様区画し、区画内は中央に1本の沈線を引き、上下2段に円管の交互刺突。隆帯上には沈線の小渦巻及び刻みを施す。	2点の接合 10-2 B
" 7 "	"	"	"	"	"		口縁部文様帯は隆帯区画で、螺旋状の突起と両側は円管の交互刺突を2段に施す。	"
" 8 "	"	No.3 "	"	"	鈍い橙 色	口縁部に小突起を有する。	沈線で文様区画。	2点の接合 10-2 B
" 9 "	"	"	"	"	"	波状口縁。突起部やや外反。	縄文RL施文後、突起部下に「Π」字状に2本の沈線施文。突起部には幅広い沈線で「S」字施文。	11-1
" 10 "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色	口縁部内湾。	縄文RL施文後、沈線で文様表出。	"
" 11 "	"	No.3 口縁部	"	"	鈍い赤 褐色	"	口縁部に沿って隆帯を廻らし、さらに隆帯で文様区画、区画内は縦方向の糸線施文。	
" 12 "	"	覆土 口縁部	"	"	橙色	口縁部外反し、口唇部平坦で外傾。	口縁部に5本の平行沈線を廻らす。	
" 13 "	"	"	"	"	褐色	口縁部外反。	口縁部に6本の平行沈線を廻らし、内1本に交互刺突を施す。	
" 14 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	口縁部内湾。	口縁部に沿って1本の沈線を廻らし、下部に隆帯で区画し、区画内は縦方向の沈線施文後、隆帯に沿って沈線を廻らす。	10-2 B

第64図 15 第141図版	深鉢	No.4 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色	「く」字状に屈曲し、口唇部平坦。	屈曲部上半細文RL。	
〃 〃	〃	覆土 口縁部	〃	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	口縁部内湾。	口縁部に沿って隆帯を廻らし、絡条体L施文。	
〃 〃	〃	覆土 胴部	〃	〃	明赤褐 色		2本単位の隆帯で楕円区画し、区画内細文RL充填施文。	10-2
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		隆帯で楕円区画し、連結部に横向往粘土紐を貼付、隆帯上に刻みを施す。 区画内は絡条体L施文。	2点の接合 10-2 A
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色	内湾。	絡条体L施文後、隆帯で渦巻施文。	〃
〃 〃	〃	No.4 胴部	〃	〃	橙 色		沈線で楕円区画し、区画内絡条体L施文。	〃
〃 〃	〃	覆土 胴部	〃	〃	〃	胴部にくびれを有する。	細文RL施文後、沈線で縦区画し、区画内に「U」「口」字状に上下に沈 線施文。	3点の接合 10-4 A
〃 〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐 色		沈線垂下し、細文RL施文。	2点の接合 10-4 A
〃 〃	〃	〃	〃	〃	橙 色		細文RL縦方向施文後、3本単位の平行沈線垂下。	10-4 A
〃 〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐 色		〃	〃
〃 〃	〃	No.3 胴部	〃	〃	〃		細文RL横方向施文後、3本単位の平行沈線及び波状沈線垂下。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		細文L.R施文後、3本単位の平行沈線垂下。	〃
〃 〃	〃	覆土 胴部	〃	〃	〃		細文RL。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐 色		絡条体L施文後、3本の沈線で渦巻文施文。	〃

第1節 縄文時代

第64図 29 第141図版	深鉢	覆土 胴部	No.5	破片	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	胴中位に強いくびれを有する。	くびれ部に2本の沈線を通らし、無文帯を区画。胴部は絡糸体L施文後、 3本単位の平行沈線垂下。	2点の接合 10-2 B
" 30 "	"	覆土 胴部		"	"	"		絡糸体L施文後、沈線で文様区画。	10-4 A
第65図 1 第141図版	"	No.6 胴部		"	"	橙色		絡糸体L。	2点の接合 10-4 A
" 2 "	"	覆土 胴部		"	"	鈍い橙 色		"	10-4 A
" 3 "	"	"		"	"	鈍い赤 褐色		"	"
" 4 "	"	覆土 底部		底 8.4 高 (6.8)	"	明赤褐 色		"	15-1
" 5 "	"	"		破片	"	橙色		細文RL施文後、沈線垂下。	15-2
" 6 "	"	"		底 11.6 高 (6.0)	"	"		"	"
" 7 "	"	No.7 底部		底 9.4 高 (9.2)	"	"		" 底部に原体の圧痕あり。	5点の接合
" 8 "	"	No.8 底部		底 8.4 高 (9.2)	細粒砂・小礫 含、良好	明赤褐 色		無文。	
" 9 "	浅鉢	覆土 口縁部		破片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	口縁部外反。	"	

A区 第209号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第70図 1 第128図版	深鉢	No.1 胴下半を欠く		口 48.0 高 (15.2)	粗粒砂含 良好		褐色	口縁部若干内湾。胴部にくびれを有す る。	口縁部上端に無文帯を有し、口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画及び 渦巻施文。区画内は細文RL充填施文。	15点の接合 10-2 A

第70図 2 第141図版	深 鉢	覆 土 口縁部	破 片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い褐色	口縁部内湾し、小突起を有する。	隆帯と沈線で精円区画及び渦巻施文。区画内は縄文R.L.充填施文。	5点の接合 10-2 A
" "	"	"	"	"	褐色	口縁部直立。	隆帯を環状に貼付した間を、1本の隆帯で連結し区画する。区画内は縄文R.L.充填施文。胴部は縄文R.L.施文後、環状貼付部から沈線垂下。	10-3 A
" "	"	"	"	"	鈍い褐色	口縁部内湾し上端で外反。	口縁部に1本沈線を廻らし、縄文施文後沈線で文様表出。	"
" "	"	"	"	"	"	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画。	"
" "	"	"	"	"	灰褐色	"	隆帯と沈線で精円区画及び小渦巻を施し、区画内縄文R.L.充填施文。	"
" "	"	"	"	"	鈍い褐色	"	隆帯と沈線で文様区画。渦巻は突出し横向。区画内は絡条体L施文。	10-2 A
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色	口縁部直立し、口唇部平坦。	口縁に沿って2本の沈線を廻らし、沈線で精円区画。区画内は絡条体L施文。	2点の接合 10-2
第71図 1 第141図版	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部若干内湾し、内面肥厚。	胴部に1本隆帯を廻らし、口縁部文様区画。区画内は上下に沈線を廻らし、中に斜方向の沈線及び小渦巻施文。	6点の接合 10-2 B
" "	"	"	"	粗粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	口縁部直立。	隆帯及び幅広い沈線で文様区画し、区画内は斜方向沈線施文。	10-2
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	"	"	隆帯及び沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.施文。	"
" "	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部外面肥厚し、口唇部平坦で外傾。	口縁に沿って沈線を施し、交互刺突。	"
" "	"	"	"	"	"	口縁部内湾。	口縁部に無文部をもち、上位は縄文L.R.施文。	"
" "	"	"	"	"	灰褐色	口縁部外反。	縦方向の平行沈線施文。	"
" "	"	"	"	"	鈍い褐色	口縁部直立し、口唇部平坦で外傾。	口縁に沿って2本の沈線を廻らし、2本単位の沈線を垂下。沈線間に列点を施す。	"

第1節 縄文時代

第71図 8 第141図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	粗粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	口縁部内湾。	青海波状条線施文。	
9 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い黄 褐色	くびれ部を有する。	絡糸体L施文後、沈線で渦巻を施し、同沈線で左右連結及び下方に3本 単位で垂下。	2点の接合 10-4 A
10 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		細文RL施文後、沈線で文様表出。	10-4 A
11 "	"	"	"	"	橙色		"	"
12 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		絡糸体L施文後、重弧状及び懸垂沈線施文。	"
13 "	"	"	"	"	明赤褐 色		細文RL施文後、沈線を廻らす。	"
14 "	"	炉 胴部	"	細粒砂・粗粒 砂含	鈍い赤 褐色		絡糸体L施文後、3本単位の平行沈線垂下。	"
15 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	"		細文RL施文後、2本単位の平行沈線垂下。	"
16 "	"	"	"	"	鈍い褐 色		細文RL施文後、沈線垂下。	"
17 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙色		隆帯を垂下し、細文RL施文後、隆帯に沿って沈線を施す。	10-7
18 "	"	"	"	細粒砂・粗粒 砂含	"		細文RL縦方向施文後、沈線及び波状沈線垂下。	"
19 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		細文RL施文後、波状沈線垂下。	"
20 "	"	"	"	"	灰褐色		沈線を垂下し、沈線間に細文RL充填施文。	2点の接合 10-7
21 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	胴部湾曲	"	10-7 B

第71図 22 第141図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に細文RLを交互に充填施文後、 波状沈線垂下。	10-7 B
// //	//	//	//	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		絡糸体L。	10-7
// //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		縦方向糸線。	//
// //	//	//	//	//	鈍い橙 色		斜格子状糸線施文。	2点の接合 10-7
第71図 26 第142図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	灰褐色	胴中に強いくびれを有し、口縁部内 湾。	細文RL縦方向施文後、口縁部に沿って2本、くびれ部に3本の沈線を 廻らし、沈線間に3本単位の連弧文施文。	2点の接合 13-1
// //	//	//	//	//	鈍い赤 褐色	口縁部内面肥厚。	絡糸体L施文後、口縁に沿って2本の沈線を廻らし、沈線間に円形刺突 を施す。下部は3本単位の沈線で連弧文施文。	//
// //	//	//	//	//	橙 色		細文RL施文後、口縁に沿って3本の沈線を廻らし、下部に沈線で連弧 文施文。	//
第72図 1 第142図版	深鉢	覆土 胴部	破片	//	灰褐色		隆帯と沈線で区画及び渦巻施文。区画内は縦方向沈線で、隆帯上に沈線 施文。	10-8
// //	//	//	//	細粒砂含 良好	褐 色	胴部にくびれを有する。	隆帯を廻らし口縁部を区画し、下部は沈線で文様表出。	
// //	//	//	//	//	鈍い橙 色		細文RL施文後、2本単位の隆帯で文様区画。	10-4 B
// //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		隆帯を垂下し、隆帯間に綾杉状沈線施文。	14
// //	//	//	//	//	鈍い赤 褐色		2本単位の隆帯垂下。細文RL。	14-2
// //	//	覆土 底部	底 13.6 高 (6.0)	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色		細文RL施文後、3本単位の平行沈線垂下。	15-2
// //	//	炉内 底部	底 12.0 高 (5.2)	微・粗粒砂・ 小礫含、良好	//			//

第1節 縄文時代

第72図 8 第142図版	深鉢	覆鉢 底部	底高 8.4 (2.4)	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色				〃
〃 〃	〃	〃	底高 7.5 (3.6)	〃	〃				〃
〃 〃	〃	〃	破片	細粒砂・粗粒 砂含、良好	〃	台付。	2重沈線施文。	2点の接合 15-4	
〃 〃	浅鉢	覆鉢 胴部	〃	細粒砂含 良好	鈍い褐 色	「く」字状に屈曲する。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内に縄文RL充填施文。隆帯上に刻みを 施す。		
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	灰褐色	内外面共に磨き。			
〃 〃	〃	覆鉢 口縁部	〃	微・粗粒砂・ 礫含、良好	鈍い橙 色	口縁部外面肥厚。口唇部平坦で外傾し、 内外面共に磨き。			
〃 〃	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部肥厚し、口唇部に1本の沈線施 文。内外面共に磨き。			

A区 第211号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位 置状況	出土器 遺存状況	度目 (cm)	胎成	色調	器形・整形の 特徴	文様	備考
第78図 第128図版	深鉢		炉体土器 口縁部・底部を欠く	高(12.8)	細粒砂含 良好	明赤褐 色	胴中位に強いくびれを有する。	縄文RL施文後、2本単位の沈線で横方向に平行沈線段波状に施文し、 沈線間を磨消す。	12点の接合 13-2
第80図 第128図版	〃		1号埋壺 口縁部・底部を欠く	高(14.9)	粗粒砂含 良好	〃	鉢形。	絡糸体L。	10-7
〃 〃	〃		2号埋壺 大型破片	高(23.2)	細粒砂含 良好	橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RLを交互に充填施文。	12点の接合 10-7
〃 〃	〃		3号埋壺 胴下半を欠く	口40.0 高(22.5)	粗粒砂含 良好	黄褐色	胴中位にゆるいくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画し、区画内縄文RL充填施文。 胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL交互に縦方向充填施文。	106点の接合 10-5 A

A区 第214号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第82図 第128図版	深鉢	炉体土器 口縁部・胴下半を欠く	高(14.7)	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い褐色	胴中位にくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で文様区画し、胴部はくびれ部下に縄文R.L 施文後、同部分に2～3本の沈線を廻らし、上部に無文部区画。	08点の接合 10-2 A
第83図 1 第142図版	"	覆土 胴部	破片	粗粒砂・小礫 含、良好	暗褐色	「く」字状の屈曲部を有する。	くびれ部に4本の沈線を廻らし、沈線間に交互刺突。胴部は沈線で文様区 画及び縦手施文し、区画内縁杉状沈線施文。	11点の接合 14-1
" 2 "	"	"	"	粗粒砂含 良好	黒褐色	胴中位にくびれを有する。	縄文R.L。	9点の接合
" 3 "	"	No.1 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		口縁部文様帯は隆帯と幅広沈線で楕円区画及び小渦巻を施し、区画内縁 方向沈線。胴部は絡糸体L。	3点の接合 10-3 B
" 4 "	"	覆土 口縁部	"	細粒砂含 良好	鈍い褐色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縁方向沈線施文。	10-2
" 5 "	"	"	"	"	橙 色	口縁部内面肥厚。	口縁に沿って沈線を廻らし無文部区画。下部は格子状沈線。	"
" 6 "	"	"	"	"	褐灰色	口縁部内湾。	口縁に沿って2本の沈線を廻らし、沈線内に連続刺突。縄文R.L。	"
" 7 "	"	"	"	細粒砂・粗粒 砂含、良好	橙 色	口縁部内湾し、口唇部平坦。	絡糸体L施文後、口縁に沿って2本の沈線を廻らす。	"
" 8 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	暗褐色	波状口縁。	波頂部間に隆帯で楕円区画し、区画内は縦方向の沈線施文。	"
" 9 "	"	覆土 胴部	"	細・粗粒砂・小礫 含、良好	明赤褐 色		上に1本の沈線を施した幅広の隆帯を、横方向に廻らす。縄文R.L。	"
" 10 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	"		外縁に2本の沈線を施した幅広の隆帯で文様区画。縄文R.L。	10-4 A
" 11 "	"	"	"	"	鈍い褐色		縄文R.L施文後、2本単位の沈線で文様表出。	"
" 12 "	"	"	"	細・粗粒砂・小礫 含、良好	橙 色		絡糸体L施文後、沈線で文様表出。	"

第1節 縄文時代

第83図13 第142図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い黄 褐色		縦方向条線施文後、沈線で渦巻施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	暗褐色		縦文R L。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い赤 褐色		縦条体L。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い黄 褐色		縦方向条線施文後、横方向隆帯貼付。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	赤褐色		条線施文後、隆帯及び沈線で文様表出。	13-1
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色		〃	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	〃		条線施文後、3本単位の平行沈線垂下。	10-7 A
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色		縦・斜方向条線施文。	10-4 A
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色		〃	14-1
〃 〃	〃	覆土 口縁部	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色		条線施文後、重弧文施文。口唇部平坦面に刻みを施す。	
〃 〃	浅鉢	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		口縁部内湾し、内面に突起状に肥厚。 口唇部平坦。 口縁部外面若干肥厚し、内外面共に磨 き。	

A区 第216号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 土 成 焼	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第86図 第129図版	深鉢	炉体土器 胴下半を欠く		口 21.0 高(12.3)	細粒砂・小礫 含、良好	赤褐色	口縁部内湾し、胴中位にくびれを有す る。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で樽円区画と渦巻を施し、区画内縦文R L充 填施文。胴部は「〇」字状で沈線で区画し、区画内に縦文R L充填施文。	17点の接合 10-5 A

第86図1 第129図版	深鉢	倒置甕 底部を欠く	口 28.8 高(30.5)	細粒砂含 良好	黄褐色	胴中に若干くびれを有する鉢形。口 縁部直立し、口唇部平坦。	縄文R.L.施工後、3本単位の平行沈線及び波状沈線を交互施工。	38点の接合
" "	"	1号埋甕 口縁部・底部を欠く	高(30.6)	粗粒砂含 良好	"	胴中に若干くびれを有する。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.を交互に充填施工。	47点の接合 10-7
第87図1 第142図版	"	炉周辺 口縁部	口 25.6	細粒砂含 良好	褐色	口縁部内湾。	2本単位の沈線を波状に廻らし、縄文R.L.充填施工。	6点の接合 13-2
" "	"	"	破片	"	鈍い赤 褐色	口縁部に突起を有する。	隆帯と沈線で楕円区画し、区画内縦方向沈線施工。隆帯及び突起上に小 渦巻を施す。	10-2 B
" "	"	"	"	"	明赤褐 色	口縁部わずかに内面肥厚。	沈線で文様区画し、区画内は縄文R.L.充填施工。	2点の接合 10-2
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	口縁部内湾。	幅広い沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施工。	10-2
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施工。	10-5
" "	"	炉周辺 胴部	"	"	明褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.交互に充填施工。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縦方向沈線施工。区画下無文部。	10-2
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	赤褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.交互に充填施工。	10-7
" "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色		2本単位の沈線で渦巻状に文様区画し、区画内に縄文R.L.充填施工。	11-6
" "	"	"	"	"	橙 色		沈線を垂下し沈線間に縄文R.L.充填施工後、波状沈線垂下。	10
" "	"	"	"	"	赤褐色	胴中にくびれを有する。	3本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施工。	4点の接合 10-7 A
" "	"	"	"	"	明黄褐 色	"	"	10-7 A

第87図13 第142図版	深鉢	炉周辺 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色	胴中にゆるいくびれを有する。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充墳施文。	//
// 14 //	//	//	//	//	鈍い赤褐色		3本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充墳施文。	2点の接合 10-7A
// 15 //	//	//	//	//	褐灰色		絡糸体L。	
// 16 //	//	//	//	//	褐色		縦方向糸線施文し、沈線垂下。	10-7
// 17 //	//	//	//	//	鈍い黄 橙色	胴中にゆるいくびれを有する。	縦方向糸線施文後、くびれ部に2本の平行沈線を廻らす。	
// 18 //	//	炉周辺 口縁部	//	//	明赤褐色	口縁部内湾。	縦方向糸線施文後、口縁に沿って2本の沈線を廻らし、沈線間に円形刺突。下部に2本沈線で連弧文を施す。	13-1
// 19 //	//	炉周辺 胴部	//	//	鈍い褐色		縦方向糸線施文後、3本単位の沈線で連弧文を施す。	//
// 20 //	//	炉周辺 底部	底 9.9 高 (3.9)	//	褐色		縄文RL。	15-1
// 21 //	浅鉢	//	底 7.5 高 (1.5)	//	橙色	底部若干突出。	無文。	15-3

A区 第217号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第90図 第129図版	深鉢	炉体土器 口縁部、胴下半を欠く	高(10.4)	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	胴中にゆるいくびれを有し、上部は外反し、 下部は球胴。	縦方向糸線施文後、くびれ部に3本の沈線を廻らし、下部に3本単位の 沈線で連弧文施文。	27点の接合 13-1
第91図1 第142図版	//	覆土 胴部	破片	//	灰黄褐色		沈線で文様表出。	
// 2 //	//	//	//	//	鈍い赤 褐色	胴部にゆるいくびれを有する。	2本の隆帯を横位に施し、縦方向の糸線施文。	

A区 第218号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	置 度 目 (cm)	胎 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第95図1 第129図版	深鉢	覆土 胴下半を欠く	□ 14.0 高 (9.0)	微粒砂含 良好	浅黄橙 色	胴中位にくびれを有し、上半に比して 下半が極端に小さい。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画し、区画内縄文R.L.充填施文。胴 部は2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.を交互に充填施文。	3点の接合 10-5 A
" 2 "	浅鉢	覆土 胴下半を欠く	□ 33.6 高 (10.4)	細粒砂含 良好	赤褐色	口縁部が外反し、頸部が「く」字状を 呈する。	頸部に隆帯を廻らし口縁部と区画、肩部を隆帯で区画し、区画内に円形 刺突を施す。	12点の接合
第96図1 第129図版	深鉢	覆土 胴上半と底部を欠く	高 (19.6)	"	鈍い橙 色	胴中位にくびれを有する。	縄文R.L.施文後くびれ部に2本の沈線を廻らし中に円形刺突を施し下部 に3本単位の連弧文を施す。また、弧状部から2本の沈線を垂下。	31点の接合 13-1
" 2 "	"	覆土 底部	底 10.8 高 (16.4)	粗粒砂含 良好	赤褐色	わずかに外反ぎみに立ち上がる。	絡条体し施文後、1本及び2本の隆帯を交互に垂下。	14-2
第96図3 第142図版	"	覆土 突起部	破 片	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	外面磨き。	沈線で文様区画し、区画内に列点を施す。	
" 4 "	"	覆土 口縁部	"	"	明黄褐 色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で渦巻を施し隆帯上に刻み。	10-5 A
" 5 "	"	"	"	"	褐灰色	"	隆帯と沈線で楕円区画し、区画内は縦方向の沈線施文。楕円区画連結部 に上向突起状渦巻を施す。	10-1 B
" 6 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"	"	口縁に沿って微粒帯及び沈線を施し、下部は縄文R.L.	10-5
" 7 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	口縁部若干外面肥厚し、口唇部平坦。	口縁に沿って2本の沈線を廻らす。	"
" 8 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	口縁部直立し、口唇部平坦。	口縁に沿って微粒帯を廻らす。	12-2
" 9 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	暗灰黄 色	"	隆帯で文様区画し、周面内斜方向沈線施文。	2点の接合 10-5
" 10 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色	胴部にわずかにくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で文様区画し、胴部は沈線垂下後、縄文R.L. 充填施文。	3点の接合 10-5

第1節 縄文時代

第96図 11 第142図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	明赤褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充墳施文。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	胴部湾曲。	"	"
" "	"	"	"	"	"	胴部にくびれを有する。	"	"
" "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色		微粒帯を垂下し、縄文R.L.充墳施文。	12-2
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色		沈線で垂下し、波状条線施文。	10-7
" "	"	"	"	"	鈍い褐色		縄文R.L.	2点の接合 10-7
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	暗灰黄 色		絡条体L.	10-7
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	橙 色	胴部屈曲。	2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間に綾形状沈線施文。	14?
" "	浅鉢	覆土 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	内外面共に磨き		2点の接合
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	黒褐色	口縁部外面肥厚、内外面共に磨き。	内外面共に朱塗。	

A区 第219号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土遺存 状況	置位 状況	目度 (cm)	胎焼 成	色調	器形・整形の 特徴	文様	備考
第99図 第129図版	深鉢	炉体土器 底部を欠く		口 21.0 高(19.2)	粗粒砂・小礫 含、良好	橙 色	鉢形。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部に隆帯を波状に貼付。区画内は斜方向沈線施文。胴部は縄文R.L.施文後、隆帯、「Π」状沈線・波状沈線施文。	45点の接合 10-3 B
第100図 1 第129図版	"	覆土 胴部大型破片		破片	細粒砂含 良好	褐色	胴中位にくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画し、区画内絡条体L。胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、絡条体Lを交互に充墳施文。	10-5 A

第100図2	深鉢	覆土 胸部大型破片	破片	粗粒砂・小礫 含、良好	橙色	胴中に若干くびれを有する。 輪稜痕が比較的良くとらえられる。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.を交互に縦方向充填施文後、波状沈線垂下。	10-7 A
第100図3 第142図版	"	覆土 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	波状口縁で、口縁部内湾。	隆帯と沈線で楕円区画し、区画内縄文R.L.充填施文。波頂部には沈線で小渦巻を施す。胴部は縄文R.L.	10-3 A
" 4	"	"	"	"	明黄褐 色	口縁部内湾。	口縁に沿って幅広い沈線を廻らし、下部に沈線で楕円区画し、区画内は縄文R.L.	10-2
" 5	"	"	"	"	明赤褐 色	波状口縁。	縄文R.L.施文後、口縁に沿って2本の沈線を廻らす。	"
" 6	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	口唇部平坦。	口縁に沿って幅広い沈線を廻らし、下部は隆帯と沈線で文様区画。	"
" 7	"	"	"	"	明黄褐 色	口縁部内湾。	沈線で文様区画。	2点の接合 10-2
" 8	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙色	"	隆帯と沈線で楕円区画し、区画内縦方向沈線施文。	10-2
" 9	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	"	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画し、区画内横方向縦杉状沈線施文。胴部は3本単位の沈線を垂下し、条線施文。	"
" 10	"	"	"	細粒砂含 良好	"	"	口縁に沿って隆帯を廻らし、隆帯と口唇部間に縦方向の沈線施文後、隆帯に沿って沈線を施す。	"
" 11	"	覆土 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	暗赤褐 色	"	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	10-8
" 12	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	"	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縦方向条線。	10-2
" 13	"	"	"	"	赤褐色	"	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縦方向沈線。	"
" 14	"	"	"	"	灰褐色	"	絡条体L施文後、沈線で文様表出。	10-4 A
" 15	"	"	"	"	橙 色	"	縄文R.L.施文後、沈線で文様表出。	"

第1節 縄文時代

第100図16 第142図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	明赤褐色		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	橙色		"	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		"	"
" "	"	"	"	"	明赤褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文LRを交互に縦方向充填施文。	"
" "	"	"	"	"	明黄褐色		縄文RL。	"
" "	"	"	"	"	暗赤褐色		隆帯を1本垂下し条線施文後、6本単位の沈線を弧状に施文。	14-2
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		隆帯で文様区画し斜方向沈線施文後、隆帯に沿って沈線施文。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		3本単位の平行沈線を垂下し、斜方向沈線施文。	14?
" "	"	"	"	"	"		"	"
" "	"	"	"	"	明黄褐色		綾衫状沈線施文。	"
" "	浅鉢	覆土 口縁部	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	口縁部内湾し、内外面共に磨き。	無文。	
" "	"	覆土 胴部	"	"	"	「く」字状に屈曲。	屈曲部に隆帯を廻らして肩部文様帯区画し、円形の窪みに沿って刻みを施す。	
" "	深鉢	覆土 底部	底 10.0 高 (4.2)	"	鈍い褐色			
" "	"	"	底 6.9 高 (1.5)	"	橙色			

A区 第220号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第103図 第129図版	深鉢	炉体土器 底部を欠く	口 20.2 高(17.6)	細粒砂・礫含 良好	黄褐色	口縁部下に若干屈曲部を有する鉢形。 口縁部下に若干屈曲部を有する鉢形。	口縁部文様帯は隆帯と幅広い沈線で精円区画及び渦巻を施し、区画内縄文R L充填施文。胴部は2本単位の平行沈線垂下後、縄文R Lを交互に充填。 R L充填施文。胴部は2本単位の平行沈線垂下後、縄文R Lを交互に充填施文。	21点の接合 10-5 A
第104図1 第129図版	"	1号埋壘 口縁部を欠く	底 5.8 高(21.0)	細粒砂含 良好	明赤褐色	底部から直線的に立ち上がる。	胴部は2本単位の平行沈線垂下後、縄文R Lを交互に充填施文。 口縁部文様帯区画は隆帯。	36点の接合 10-5 A
" 2 "	"	2号埋壘 底部を欠く	口 29.6 高(25.0)	粗粒砂含 良好	赤褐色	口縁部から胴部にかけて内湾。	口縁部下及び胴下半部に縦方向条線を2段施文。	22点の接合
第105図1 第142図版	"	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	波状口縁。	隆帯で文様区画し、区画内は縄文L R充填施文。波頂部外面に隆帯で渦巻貼付。	10-5 A
" 2 "	"	覆土 胴部	"	"	鈍い橙 色	"	隆帯と沈線で渦巻施文。縄文はR L。	10-6
" 3 "	"	"	"	"	灰赤色	"	隆帯と沈線で精円区画し、区画内円形刺突。	10-5 A
" 4 "	"	"	"	"	褐灰色	"	沈線で文様区画し、区画内縄文R L充填施文。	10-5
" 5 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	"	沈線を垂下し、縄文R L充填施文。	10-7
" 6 "	"	"	"	"	"	"	数本の沈線垂下。	3点の接合 10-7
" 7 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	"	沈線を垂下し、縄文R Lを充填施文後、波状沈線垂下。	10-7
" 8 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	胴中位にくびれを有する。	胴くびれ部に隆帯を廻らし、縦方向条線施文後、隆帯両側に沈線施文。	14
" 9 "	"	覆土 底部	底 10.0 高 2.4	細粒砂・小礫 含、良好	"	"	"	15-2

A区 第221号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	置 置況	度目 (cm)	胎 焼成	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第108図 第130図版	深鉢	炉体土器 胴部下半を欠く		口 19.6 高(12.7)	細粒砂含 良好		褐色	胴中に比較的強いくびれを有する。 胴中に比較強的なくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画及び小渦巻を施し、区画内縄文R L横方向充填。胴部は2本単位の沈線垂下後、同縄文交互に充填施文。	45点の接合 10-5 A
第109図 〃	〃	埋壘 胴部下半を欠く		口 24.3 高(21.5)	粗粒砂含 良好		黄褐色	〃	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画及び小渦巻を施し、区画内縄文R L充填。胴部は2本単位の平行沈線垂下後、縄文RLを交互に充填施文。	37点の接合 10-5 A

A区 第222号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	置 置況	度目 (cm)	胎 焼成	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第111図1 第130図版	深鉢	1号炉体土器 胴上半を欠く		底 9.2 高(18.1)	細粒砂含 良好		赤褐色	文様施文は器面の乾燥が進んだ段階で 行っている。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RLを交互に充填施文。	25点の接合 10-7
〃 〃	〃	2号炉体土器 口縁部・ 胴下半を欠く		高(11.7)	〃		鈍い黄 褐色	胴中にわずかなくびれを有する。	〃	17点の接合 10-7
第112図1 第142図版	〃	覆土 大型破片		破片	粗粒砂含 良好		明赤褐 色	口縁部内湾。	口縁部文様帯は隆帯と幅広い沈線で楕円区画及び渦巻を施し、区画内は縄 文RL充填。胴部は2本単位の沈線垂下し、縄文RLを交互に充填施文。	26点の接合 10-5 A

A区 第223号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	置 置況	度目 (cm)	胎 焼成	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第114図 第130図版	深鉢	炉体土器 胴下半を欠く	口縁部・ 胴下半を欠く	高(15.9)	粗粒砂含 良好		赤褐色	胴中にわずかなくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯区画。胴部は2本単位の平行沈線垂下後、縄文RL を交互に充填施文。	17点の接合 10-5 B
第115図 〃	〃	埋壘 胴下半を欠く		口 30.0 高(17.6)	〃		褐色	口縁部内湾し、胴中にくびれを有す る。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画し、区画内は縄文RL充填。胴部 は2本単位の平行沈線と藤状沈線施文。縄文はRLで交互に充填施文。	67点の接合 10-8
第116図1 第142図版	〃	覆土 口縁部		破片	微・細・粗粒 砂含、良好		鈍い褐 色	口縁部若干内面肥厚。	「□」字状及び蕨手状の沈線施文し、区画内縄文RL充填施文。	11-1

第116図2 第142図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い赤 褐色		隆帯と幅広い沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	10-5
〃 〃	〃	〃	〃	〃	暗赤褐 色		口縁に沿って3本の沈線を廻らす。	〃
〃 〃	〃	覆土 胴部	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い赤 褐色		隆帯で渦巻を施し、沈線で文様表出。	8点の接合 10-5
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RLを交互に充填施文。	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RLを充填施文後波状沈線を施す。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色		隆帯を横位に貼付し縄文RL施文後、隆帯両側にナ字状の沈線施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い橙 色		隆帯を波状に垂下し、隆帯間に弧状の沈線施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		縦方向条線施文。	〃
〃 〃	〃	覆土 口縁部	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い赤 褐色		口縁部斜方向条線施文。突起状部に沈線施文。	
〃 〃	浅鉢	〃	〃	〃	暗赤褐 色		口縁部若干内湾し、内外面共に磨き。	

A区 第226号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状	位置 状況	度目 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第120図 第130図版	深鉢	炉体土器 胴下半を欠く	口縁部・ 口縁部	高(15.0)	粗粒砂含 良好		鈍い褐 色	胴中に強いくびれを有する。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RLを交互に縦方向充填施文。	28点の接合 10-5 A
第121図1	〃	No.1 口縁部		破片	細粒砂含 良好		灰黄褐 色	波状口縁で、口唇部に沈線を有する。	隆帯と幅広い沈線で区画及び渦巻施文し、区画内は縄文RL充填施文。波頂部に円孔を有する。	10-5

第121図2	深鉢	覆土 口縁部			細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	波状口縁で内湾。	口縁に沿って沈線を廻らし、口縁間に刺突を施す。胴部は沈線で曲線的 文様区画をし、区画内縄文R L充填施文。	11-2 B
" 3	"	No.2 口縁部			細粒砂含 良好	灰褐色	胴中にわずかなくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と幅広沈線で楕円区画及び渦巻施文し、区画内は縄 文R L充填施文。胴部は縄文R L。	10-3 A
" 4	"	No.3 胴部			"	鈍い褐 色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R L充填施文。	
" 5	"	覆土 胴部			"	鈍い橙 色	器厚比較的薄く内湾。	沈線で渦巻状区画し、区画内縄文R L充填施文。	11-6
" 6	"	"			"	鈍い褐 色		縄文R L。	10-7
" 7	"	覆土 底部	底 高(8.1)		細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		無文。	2点の接合 15-2

A区 第227号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	度目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第124図 第130図版	深鉢	炉体土器 胴下半を欠く		高(18.5)	粗粒砂含 良好	褐色	胴部にほとんどくびれを有しない鉢形 で口縁部内湾。	口縁部は隆帯と沈線で楕円区画を施し、区画内縦方向沈線。胴部は「 \cap 」 字状の沈線を施し、沈線間に縄文R L施文。	71点の接合 10-5 B
第125図1 第130図版	"	1号埋壺 胴下半を欠く		口 22.0 高(22.8)	"	黄橙色	4単位の波状口縁で胴中位にくびれを 有し、口縁部内湾。	口縁部文様は幅広の沈線で、楕円及び波頂部に渦巻を施し、区画内縄文 R L充填。胴部は沈線を垂下し縄文R L交互に充填後、蕨手状沈線施文。	65点の接合 10-6
" 2 "	"	2号埋壺 底部		底 9.0 高(12.2)	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文L R充填施文。	27点の接合 10-7
第126図 第130図版	"	3号埋壺 口縁部・ 胴下半を欠く		高(13.2)	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	胴部にくびれを有する。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R Lを交互に充填施文後、上端が蕨 手状を呈する波状沈線施文。	7点の接合 10-7

A区 第228号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	量目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
--------------	----	------------	----------	------------	------------------	--------	----------	--------	--------

第129図 第131図版	深鉢	炉体土器 底部を欠く	口 20.8 高 20.7	粗粒砂含 良好	橙 色	4単位の波状口縁で胴中に強いくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯で区画し、沈線で文様表出。胴部は「U」「 Ω 」の沈線を上下に施文し、細文RL縦方向充填施文。	51点の接合 10-3 B
-----------------	----	---------------	------------------	------------	-----	------------------------	---	------------------

A区 第229号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目 度 (cm)	胎 焼 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第133図 第131図版	深鉢	炉体土器 胴下半を欠く	高(18.0)	粗粒砂含 良好	赤 色	頸部に「く」字状のくびれ及び肩部に張りをも有する。	3本単位の沈線で「U」「 Ω 」字状に上下に施文し、間に重弧文を施す。	26点の接合 14-1
第132図 第131図版	〃	埋甕 口縁部・胴下半を欠く	高(14.8)	〃	赤褐色	胴中に強いくびれをも有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で文様区画し、胴部は2本単位の隆帯を垂下。隆帯間は細文RL施文。	38点の接合 10-8
第134図1 第142図版	〃	覆土 口縁部		細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	口縁部内湾し、わずかに内面肥厚。	細文RL。	11-1
〃 2 〃	〃	炉掘り方内 胴部		〃	鈍い橙 色		隆帯と幅広い沈線の沈線で文様区画し、区画内細文RL充填施文。	10-5 B
〃 3 〃	〃	〃		〃	鈍い褐 色		〃	10-8
〃 4 〃	〃	〃		〃	鈍い赤 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、細文RL充填施文。	2点の接合 10-7
〃 5 〃	〃	〃		細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 橙色		絡条体L施文後、沈線で文様表出	〃
〃 6 〃	〃	〃		細粒砂含 良好	鈍い橙 色		細文RL施文後、沈線で文様表出	13-2
〃 7 〃	浅鉢	No.1 口縁部		〃	灰赤色	口縁部肥厚し、内外面共に磨き。		
〃 8 〃	〃	炉掘り方内 口縁部		〃	鈍い橙 色	口縁部内湾し、内外面共に磨き。		
〃 9 〃	深鉢	炉掘り方内 胴部		〃	〃		縦方向糸線施文。	2点の接合 10-7

図版番号 挿入番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第134図10 第142図版	深鉢	覆土 底部	底 8.0 高 (2.7)	細粒砂含 良好	橙色		2本単位の平行沈線を垂下。	2点の接合 15-2
A区 第1号土器溜り								
第138図1 第131図版	深鉢	No 1 底部を欠く	口 31.0 高 (32.4)	粗粒砂含 良好	褐色	胴中に強いくびれと、胴下半にわずかな膨らみを有する。	口縁部文様帯は隆帯で区画し、耳状突起を付す。区画内は絡糸体L施文。胴部はくびれ部に3本沈線を廻らし、絡糸体L施文後、半截竹管で渦巻。	26点の接合 10-1 A?
" 2 第142図版	"	No 2 口縁部・底部を欠く	高 (17.2)	"	明赤褐色	胴中にくびれを有する。	くびれ部に隆帯を廻らし無文帯区画。下半は縦方向糸線施文。	8点の接合 10-2 B
" 3 "	"	No 3 胴部破片	破片	"	明褐色	円筒状胴部。	絡糸体L施文後、隆帯で縦横に区画し、隆帯上に刻みを施す。	2点の接合 10-1
第138図4 第131図版	"	No 4 口縁部・胴下 半を欠く	高 (18.4)	"	明赤褐色	胴中にくびれを有する。	絡糸体L。	15点の接合 10-1
第138図5 第142図版	"	覆土 把手	破片	細粒砂・小礫 含、良好	橙色	橋状の把手は口縁部より上部に突出。	把手部に縄文LR施文。	11-5
" 6 "	"	覆土 口縁部	"	"	鈍い褐色	口縁部直立。	口縁に沿って5本の沈線を廻らし、沈線間に2段交互刺突を施す。	2点の接合 10-2 A
" 7 "	"	No 5 口縁部	"	微粒砂・細粒 砂含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部内湾し、口唇部平坦で若干内傾。	口縁部文様帯は沈線と隆帯で文様区画し、円形は隆帯の貼付。	"
" 8 "	"	No 6 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色	口縁部内湾し上端外反。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部に隆帯と沈線で渦巻施文。	"
" 9 "	"	覆土 口縁部	"	"	鈍い赤 褐色	"	隆帯と幅広い沈線で文様区画。	10-5
" 10 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"	口縁部内湾し、波状口縁。	隆帯と沈線で文様区画。	10-2
" 11 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	口縁部内湾。	縄文RL施文後、口縁に沿って1列の円形刺突を施す。	11-1

第138図12 第142図版	浅鉢	覆土 口縁部		破片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	波状口縁で若干内湾し、内面肥厚。	外面は沈線で楕円区画し、区画内縄文RL施文。 内面肥厚部に沈線で楕円区画。	
// 13 //	深鉢	//		//	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙色	縦方向糸線施文後、口縁に沿って沈線を廻らす。		
// 14 //	//	//		//	//	鈍い黄 褐色	幅広の沈線で文様区画し、区画内縄文RL施文。		2点の接合 10-5
第139図1 第142図版	//	No.7 胴部		//	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	//	微隆帯を垂下し、間に交互に縄文LR充墳施文。		6点の接合 12-2
// 2 //	//	覆土 胴部		//	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	微隆帯で「U」字状文様区画をし、区画内縄文RL充墳施文。		2点の接合 12-1
// 3 //	//	//		//	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	隆帯と沈線で文様区画。		
// 4 //	//	//		//	//	灰黄褐 色	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充墳施文。		
// 5 //	//	//		//	//	鈍い橙 色	沈線を垂下し、縄文RL充墳施文。		12-2
// 6 //	//	//		//	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充墳施文。		10-5
// 7 //	//	//		//	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	//		//
// 8 //	//	//		//	微粒砂・細粒 砂含、良好	明赤褐 色	隆帯垂下。		2点の接合 10-7
// 9 //	//	//		//	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙色	縄文RL施文後、沈線垂下。		10-7
// 10 //	//	//		//	//	鈍い赤 褐色	沈線を垂下し、縄文RL充墳施文後、波状沈線垂下。		//
// 11 //	//	//		//	//	明赤褐 色	隆帯を垂下し、縄文はRL。		12-2

第1節 縄文時代

第139図12 第142図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	純い、橙 色		沈線で文様区画。	10-7
// 13 //	//	//	//	細粒砂・粗粒 砂含、良好	明黄褐 色		沈線を垂下し縄文RL充填施文。	//
// 14 //	//	//		細粒砂含 良好	純い黄 橙色		縄文RL。縄文帯と無文帯を区画するのはナデ状沈線。	12-1
// 15 //	//	//	//	//	純い、褐 色		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7
// 16 //	//	//	//	//	純い黄 橙色		絡糸体L施文後、隆帯を「J」字状に貼付し、胴部は3本の沈線を廻ら す。	5点の接合 10-4 B
// 17 //	//	//	//	//	純い黄 褐色		絡糸体L施文後隆帯を廻らし、隆帯上に刻みを施す。	
// 18 //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	純い黄 橙色		沈線を垂下し、青海波状の糸線施文。	
// 19 //	//	//	//	細粒砂含 良好	純い橙 色		絡糸体L施文後、3本の隆帯で文様区画し、両側の隆帯外側に沈線を、 中央の隆帯に交互刺突を施す。	2点の接合 10-4 B
// 20 //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	明赤褐 色	胴中にくくびれを有する。	絡糸体L施文後、2本の沈線を開くびれ部に廻らす。	
// 21 //	//	//	//	細粒砂含 良好	純い橙 色		絡糸体L施文後、微隆帯垂下。	10-4 A
// 22 //	//	//	//	//	純い赤 褐色	胴部に「く」字状屈曲を有する。	絡糸体L施文後、2本単位の沈線で文様区画。	//
// 23 //	//	//	//	//	橙 色		絡糸体L、微隆帯と沈線で文様区画。	//
// 24 //	//	//	//	//	純い、褐 色	胴部内湾。	絡糸体L施文後、2本単位の沈線で文様区画。	//
// 25 //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	//		2本単位の平行沈線を垂下し、絡糸体L充填施文。	10-7

A区(2号土器溜り)

第139図26 第142図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色		絡糸体L。隆帯を横位に廻らし、下側に沈線施文。	10-4 A
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		絡糸体L。	"
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色		"	"
" "	"	"	"	"	褐色		"	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色		"	"
" "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		"	"
第140図1 第142図版	"	"	"	細粒砂・粗粒 砂含、良好	鈍い褐 色		絡糸体L施文後、4本単位の沈線施文。	3点の接合 10-4 A
" "	"	"	"	"	橙 色		"	10-4 A
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		縦方向の平行沈線施文。	"
" "	"	覆土 底部	底13.5 高(3.6)	"	鈍い褐 色			15-2

A区 第2号土器溜り

図版番号 挿図番号	器種	出土位 置状況	度目 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第143図1 第131図版	深鉢	No.1 復原完形	口7.2 底6.8 高30.8	細粒砂含 良好	褐色	胴上半にくびれを有し、胴部下半に若干膨らみをもつ長円筒形。	口縁部は2単位隆帯貼付し、間に絡糸体L横施文。隆帯中央から頸部無文帯に燃り合わせた隆帯垂下。胴部は絡糸体施文後、沈線区画。	38点の接合 9
" "	"	覆土 底部	底15.0 高(11.2)	細粒砂含 良好	赤褐色		絡糸体L。	4点の接合 10-4 A

第1節 縄文時代

第143図3 第142図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	波状口縁。	口縁に沿って沈線を廻らし、胴部沈線で文様区画後、縄文R.L.充填施文。	11-2
" "	"	"	"	"	灰褐色		隆帯と沈線で文様区画。	10-5
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色	波状口縁。	幅広い沈線で文様区画。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	"	"		11-6
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い褐 色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で精円区画し、区画内斜方向沈線。	10-2
" "	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色		縄文R.L.	
" "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	明黄褐 色		隆帯と沈線で区画及び渦巻施文し、区画内縄文R.L.充填施文。	10-2
" "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		"	"
" "	"	"	"	"	灰褐色		隆帯と沈線で文様区画、区画内縄文R.L.充填施文。	
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色		"	
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色		隆帯施文。	
" "	"	"	"	"	鈍い褐 色		沈線を垂下し縄文R.L.充填施文後、波状沈線垂下。	10-7
" "	"	"	"	"	浅黄色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.交互に充填施文。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	灰褐色		"	"

図版番号 挿図番号	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第143図17 第142図版					鈍い黄 橙色		沈線で文様区画。縄文R L。	10-4 A
// //	//	//	//	//	鈍い褐 色		//	//
// //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		縄文R L。	//
// //	//	//	//	細粒砂含 良好	//		絡糸体L。	2点の接合 10-4 A
// //	//	//	//	//	//		//	10-4 A
// //	//	//	//	//	鈍い赤 褐色		//	//
// //	//	//	//	//	鈍い橙 色		縦方向糸線施文。	

B区 第48号址

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	破片 度目 (cm)	胎成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第147図1 第143図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	口縁部内湾。	口縁に沿って微隆帯を廻らし、下部に沈線を垂下し、縄文L充填施文。	12-2
// //	//	//	//	//	鈍い黄 褐色		口縁に沿って沈線を廻らし、下部縄文L R。	10-5
// //	//	覆土 胴部	//	//	灰黄褐 色	胴部に強いくびれを有する。	隆帯下に押圧。	
// //	//	//	//	//	明赤褐 色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R L充填施文。	10-5
// //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		沈線で文様区画し、絡糸体L充填施文。	

第1節 縄文時代

第147図6 第143図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色	胴中に強いくびれを有する。	胴くびれ部に3本の沈線を廻らし、下部に縄文R.L.施文。	10-2
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	橙 色		沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	"		2本単位の隆帯を垂下し、縄文R.L.充填施文。	10-4
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙 色		沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		縄文R.L.	
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		条線施文後、沈線垂下。	3点の接合
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色		条線施文後、液状沈線垂下。	
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		2本単位の隆帯を垂下し、区画内交互に斜方向沈線充填施文。	14

B区 第63号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位 置状況	目 度 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第149図 第131図版	深鉢	炉体土器 口縁部・胴下半を欠く	高(15.3)	細粒砂含 良好	黄褐色	胴中に若干くびれを有する。	胴くびれ部に3本の沈線を廻らし、一部に無文帯区画。下半は縄文R.L.施文後、3本単位の沈線で文様区画。	18点の接合 10-2 A
第150図1 第143図版	"	覆土 口縁部	破片	"	鈍い黄 褐色		口縁に沿って隆帯を廻らし、下部は隆帯で文様区画後、縄文R.L.充填施文。	10-2 A
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で、上向突起状の渦巻施文。	10-1
" "	"	No.1 口縁部	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	" 内面肥厚。	口縁に沿って4本の沈線を廻らし、沈線間1ヶ所に交互刺突。縄文R.L.	10-2 A

第150図4 第143図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	口縁部内湾。内面肥厚。	口縁に沿って4本の沈線を廻らし、沈線間1ヶ所に交互刺突。縄文R.L。 10-2 A	3と同一 10-2 A
// //	//	//	//	//	//	//	//	//
// //	//	//	//	//	鈍い、褐 色	口縁部内湾し、口唇部平坦。	隆帯と沈線で区画及び渦巻を施し、区画内縄文R.L.充填施文。	10-2 A
// //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	オリ ブ黒色	口縁部外反。	隆帯と沈線で文様区画。	10-2
// //	//	//	//	細粒砂含 良好	灰黄褐 色	口縁部外面若干肥厚し、口唇部平坦。	沈線で文様区画。	//
// //	//	//	//	//	鈍い、褐 色		隆帯と幅広の沈線で楕円区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	10-3 A
// //	//	//	//	//	鈍い黄 褐色	口縁部内湾。	口縁に沿って2本の沈線を廻らし、沈線間に交互刺突。下部は2本沈線 で「V」字状文様区画し、区画外に縄文L.R.充填施文。	10-2
// //	//	//	//	//	鈍い黄 橙色	口縁部外反。	口縁に沿って2本の沈線を廻らし、沈線間に縦方向の沈線を施す。下部 は円形刺突。	//
// //	//	//	//	//	灰黄褐 色		口縁に沿って隆帯を廻らし、沈線で文様区画。区画内縦方向の沈線施文。	//
// //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	//	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内横位の綾杉状沈線施文。	//
// //	//	//	//	細粒砂含 良好	鈍い、橙 色	口唇部平坦。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内に縦方向沈線施文。	//
// //	//	//	//	//	灰褐色		口縁に沿って沈線を廻らし、下部に横位の綾杉状沈線施文。	//
// //	//	No.2 胴部	//	//	鈍い橙 色		沈線で文様区画し、区画内縄文R.L。	//
// //	//	覆土 胴部	//	細粒砂・小礫 含、良好	//		2本の隆帯で弧状に貼付し、口縁部文様帯区画。	8点の接合 10-2

第1節 縄文時代

第150図18 第143図版	深鉢	No.3 胸部	破片	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		沈線で文様区画し、区画内縄文R.L。 隆帯と沈線で文様区画し、区画内縦方向の沈線施文。 隆帯で文様区画。 胸くびれ部に3本の沈線を廻らし、下部に縄文R.L.施文後、沈線で文様区画。 胸部に横位に隆帯を廻らし、下部に沈線を数本施文し、沈線間1ヶ所に交互刺突を施す。 沈線で文様区画し、区画内線杉状沈線。 縦方向糸線施文後、横位に沈線を廻らす。 沈線で文様区画し、区画内縄文R.L。 縄文R.L.施文後、沈線横位施文。 縄文R.L.施文後、沈線で文様区画。	8点の接合 10-2
" 19 "	"	覆土 胸部	"	"	"			10-2
" 20 "	"	"	"	"	"			"
" 21 "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色	胸中位に若干くびれを有する。		10-2 A
" 22 "	"	"	"	"	暗灰黄 色			"
" 23 "	"	"	"	"	鈍い褐 色			10-2
" 24 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色			"
" 25 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色			10-4 A
" 26 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色			"
" 27 "	"	"	"	"	"			"
" 28 "	"	No.5 胸部	"	"	鈍い赤 褐色			2点の接合 10-4 A
" 29 "	"	覆土 胸部	"	"	鈍い黄 褐色			"
" 30 "	"	"	"	"	鈍い橙 色			"
" 31 "	"	"	"	"	灰黄褐 色			"

第151図1 第143図版	深鉢	覆土 胸部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		細文RL施文後、沈線で文様区画。	2点の接合 10-2
" 2 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		細文RL施文後、2本の隆帯垂下。	10-4 B
" 3 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	"		2種の細文RLで羽状に施文後、隆帯垂下。	"
" 4 "	"	"	"	細粒砂含 良好	褐灰色		"	"
" 5 "	"	"	"	"	鈍い褐 色		細文RL施文後、隆帯で文様区画。	"
" 6 "	"	"	"	"	灰赤色		結節を有する細文LR施文。	10-4 A
" 7 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		細文RL。	"
" 8 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い褐 色		細文L、Rを交互に施文。	"
" 9 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙色		縦方向条線施文後、幅広沈線を廻らす。	
" 10 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		縦方向条線施文後、沈線で文様区画。	13-1
" 11 "	"	"	"	"	橙 色		縦方向条線施文後、波状沈線垂下。	
" 12 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		2本の隆帯で小渦巻を有する文様区画し、区画内に条線施文後、隆帯に沿って沈線を施す。	10-4 B
" 13 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		隆帯で文様区画し隆帯上に円形刺突を施す。区画内は条線施文後、隆帯に沿って沈線施文。	"
" 14 "	"	"	"	"	褐 色		縦方向条線施文後、2本単位の隆帯を垂下。	"

第1節 縄文時代

第151図15 第143図版	"	覆土 胸部	破片	細粒砂含 良好	橙 色		縦方向糸線施文後、3本単位の沈線で連弧状に施文し、波状沈線を垂下。 13—1	5点の接合 13—1
" 16 "	"	"	"	"	鈍い黄 橙 色		縦方向糸線を粗く施文。	
" 17 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐 色		斜方向糸線施文後、波状沈線を横位に施文。	
" 18 "	"	"	"	細粒砂含 良好	明赤褐 色		波状沈線横位施文。	14
" 19 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		糸線施文後、波状沈線横位に施文。	"
" 20 "	"	覆土 底部	"	"	鈍い褐 色		縄文RL施文後、3本単位の平行沈線垂下。	"
" 21 "	"	"	"	"	灰褐色		絛条体L施文。	10—4 A
" 22 "	浅鉢	覆土 口縁部	"	"	鈍い黄 橙 色	口縁部内湾。外面に隆帯を貼付し、口 唇部平坦。	口唇平坦部に沈線で楕円区画し、区画内沈線。	"
" 23 "	"	"	"	"	"	口唇部平坦。	口縁に沿って幅広の沈線を廻らす。	

B区 第66号址

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	目 度 (cm)	胎 土 成	色 調	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	文 様	備 考
第156図1 第143図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	波状口縁で、口縁部内湾し、口縁突起 部外反。	隆帯と幅広の沈線で楕円区画し、区画内縄文RL充填施文。胸部は縄文 RL。	2点の接合 10—6
" 2 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い褐 色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	10—5 A
" 3 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	波状口縁。	口縁に沿って沈線を廻らし、縄文RL施文後、沈線で文様表出。	"

第156図4 第143図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	波状口縁。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部縄文RL。	10-5
" "	"	"	"	"	橙 色	波状口縁で、口縁部内湾し、突起部外 反。	隆帯と幅広いの沈線で楕円区画及び突起部に渦巻施文。又突起部内面に幅 広沈線で横位の蕨手。区画内は縄文RL充填施文。	10-6
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色	口縁部わずかに内湾し、口唇部平坦で 内傾。	口縁部に2本の隆帯を廻らし、下部縄文RL施文後、隆帯下側に沈線を 廻らす。	10-5
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色	口縁部わずかに内湾。	縄文RLで口縁に沿って浅い沈線を廻らす。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色	"	縄文LR施文後、口縁に沿って沈線を廻らす。	"
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	"	縄文RL口縁部まで施文後、「U」字状に沈線を連続施文。	11-1
" "	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い褐 色	口縁部わずかに内湾。	口縁に沿って微隆帯を廻らし、下部は「U」「A」字状に沈線を連続させ 文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	11-2 C
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	"	沈線を垂下し縄文RL充填施文後、波状沈線垂下。	10-7
" "	"	"	"	"	"	"	"	"
" "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	"	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文LR交互に充填施文。	8点の接合 10-7 B
" "	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	"	3本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	"	"	2本の沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	11-3
" "	"	"	"	"	"	"	沈線で「U」字状文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	4点の接合 11-3
" "	"	"	"	"	"	波状口縁で内湾。	口縁に沿って2本の沈線を廻らし、沈線間縄文RL充填施文。下部は沈 線で「U」字状文様区画及び蕨手状沈線施文。	10-8

第156図18 第143図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	橙色	胸中位にくびれを有する。	沈線を垂下し文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	内湾点の接 合10-8
" 19 "	"	"	"	"	灰褐色	"	「U」「 Ω 」字状に沈線で文様区画し、無文部に蹠手状沈線施文。区画内は縄文R.L.充填施文。	11-3
" 20 "	"	"	"	"	橙色	"	「U」「 Ω 」字状に沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.施文。	2点の接合 11-3
" 21 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	"	縄文R.L.施文後沈線で文様表出。	10-8
" 22 "	"	"	"	"	"	"	懸垂沈線及び「U」字状に沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	11-3
" 23 "	"	"	"	"	"	"	沈線横位施文後、斜方向条線施文。	
" 24 "	"	"	"	"	赤褐色	"	斜方向平行沈線施文。	
" 25 "	"	覆土 底部	底 7.0 高(10.2)	"	鈍い橙 色	底部付近縦方向の磨き。	平行沈線垂下。	2点の接合 15-3
" 26 "	"	"	底 8.4 高(5.4)	"	"	"	"	15-1

B区 第69号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	置 位 状 況	度 目 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第159図 第131図版	深鉢	埋蔵 胴下半を欠く		口 30.8 高(21.5)	細粒砂含 良好	暗褐色	胸中位にくびれを有し、下部に膨らみを有する。内面荒れが激しい。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で精円区画し、区画内縦方向沈線。胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.を交互に充填施文。	32点の接合 10-5 B

B区 第70号址

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	置 位 状 況	度 目 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考

第160図1	浅鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	暗灰色	口縁部内湾し、内外面共に磨き。 口縁下に補修孔有。	無文。	
--------	----	-----------	----	------------	-----	------------------------------	-----	--

B区 第71号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	目 度 (cm)	胎 焼 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第162図 第131図版	深鉢	炉体土器 底部	高 (7.9)	粗粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	比較的胸部の張る器形。	細文LR施文後、3本単位の平行沈線垂下。	24点の接合 10-4 A
第163図1 第143図版	"	覆土 口縁部	破片	"	鈍い赤 褐色	波状口縁。	口縁波頂部から隆帯を弧状に貼付し楕円区画し、区画内縦方向沈線施文 後、隆帯に沿って沈線を施す。	10-3 B
" 2 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	暗褐色	口唇部平坦。	隆帯と沈線で楕円区画及び渦巻を施し、区画内縦方向沈線施文。胴部は 絡糸体L。	2点の接合 10-3 B
" 3 "	"	覆土 胴部	"	"	鈍い赤 褐色		絡糸体L。	3点の接合 14-1
" 4 "	"	"	"	"	"		"	10-4 A
" 5 "	"	覆土 口縁部	"	細粒砂含 良好	橙 色	口縁部内面突起状に肥厚し、口唇部平 坦で内傾。	外面は放射状沈線。口唇部は内側に1本沈線を廻らし、外側に斜方向沈 線施文。	"

B区 第154号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	目 度 (cm)	胎 焼 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第167図1 第143図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い黄 色	胴部にくびれを有する。	細文RL施文後、横位に平行沈線を施し、沈線間に円形刺突を施す。	4-1
" 2 "	"	"	"	細粒砂・礫含 良好	黄灰色		細文RL施文後、横位の平行沈線施文。	4-2
" 3 "	"	覆土 突起部	"	細粒砂含 良好	橙 色	大突起を4単位施す。	各面に平行沈線施文。	5-3

第167図4 第143図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色		横位平行沈線施文。	2点の接合 5-3
" 5 "	"	覆土 口縁部	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		"	5-3
" 6 "	"	覆土 胴部	"	"	赤褐色		"	"

B区 第156号址

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	置 度 目 (cm)	胎 土 成 焼	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第173図1 第131図版	深鉢	No 1 胴部下半を欠く	口 17.6 高(17.6)	粗粒砂含 良好	橙色	胴部上半に最大径。中位にくびれを有し口縁部内湾。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部は「U」「 \cap 」字状に沈線で区画し、区内細文RL充填施文。	34点の接合 11-2 B
第173図2 第132図版	"	No 2 底部	底 4.8 高(13.2)	細粒砂含 良好	黄褐色	底部が小径で胴下半部膨み強い。	2本単位の平行沈線を垂下し、細文RL充填施文。	15点の接合 10-7 B
第173図3 第143図版	"	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	橙色	口縁部内湾し上端内傾。	隆帯と沈線で文様区画及び小渦巻施文し、区内は細文RL充填施文。	10-5 A
" 4 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		隆帯と沈線で楕円区画し、区内縦方向沈線施文。	10-5
第172図5 第132図版	"	"	"	"	灰褐色	波状口縁。	波頂部から口縁に沿って沈線を廻らし、下部は細文RL施文後、沈線で文様区画。	11-2 A
第173図6 第143図版	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	波状口縁で内面肥厚。	細文LR。	11-2
" 7 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	"		口縁に沿って幅広の沈線を廻らし、下部は細文LR横方向施文。	10-5
" 8 "	"	"	"	"	"	口縁部内湾。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部は細文RL。	11-2
" 9 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		"	"

第172図10 第143図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	純い黄 褐色	波状口縁で内面若干肥厚。	口縁に沿って微隆帯を廻らし、下部縄文RL充填施文。縄文は微隆帯上にも施文。	11-2 C
" 11 "	"	"	"	"	明褐色		口縁に沿って微隆帯を廻らし、下部は「A」字状に沈線区画し、区画内縄文RL充填施文。	"
" 12 "	"	"	"	細粒砂含 良好	純い黄 橙色		"	"
" 13 "	"	"	"	"	褐灰色	波状口縁で内面若干肥厚。	口縁に沿って微隆帯を廻らし、隆帯上に円形刺突を施す。	11-2 B
" 14 "	"	"	"	"	純い黄 橙色	"	口縁部無文部に2段に円形刺突を施し、下部は縄文RL。	"
" 15 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		隆帯と沈線で文様区画、下部は2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-5
" 16 "	"	"	"	"	明赤褐 色		縄文RL縦方向施文後、3本単位の平行沈線を垂下。	10-4 A
" 17 "	"	"	"	"	純い橙 色		縄文LR縦方向施文後、2重に「U」字状に沈線施文。	10-8
" 18 "	"	"	"	"	純い褐 色		3本単位の平行沈線垂下後、縄文RL充填施文。	3点の接合 10-7 A
" 19 "	"	"	"	細粒砂含 良好	純い褐 色		"	10-7 A
" 20 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	"
" 21 "	"	"	"	細粒砂含 良好	灰褐色		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7
" 22 "	"	"	"	細粒砂・粗粒 砂含、良好	純い橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	"
" 23 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		"	10-8

第1節 縄文時代

第172図24 第143図版	深鉢	覆土 胸部	破片	細粒砂・粗粒 砂含、良好	黒色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.縦方向充填施文。	10-7
" "	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色		沈線で「U」字状に文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	"
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	灰褐色		"	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	胴中位に強いくびれを有する。	沈線で「U」「 \cap 」字状に文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	11-3
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		沈線で渦巻施文し、区画内縄文R.L.充填施文。	"
" "	"	"	"	"	橙色		横位に沈線施文。	14
" "	"	"	"	"	"		縦方向糸線施文。	
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色		格子状糸線施文。	
" "	"	覆土 底部	底 5.7 高 (5.7)	細粒砂・粗粒 砂含、良好	"		3本単位の平行沈線垂下。	15-3

B区 第164号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目 度 (cm)	胎 焼 成	色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第182図 第132図版	深鉢	炉体土器 胴下半を欠く	高(19.2)	粗粒砂含 良好	黄褐色	胴中位にわずかにくびれを有し、口縁部外反。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画及び渦巻を施し、区画内斜方向沈線施文。胴部縄文R.L.	10-3 B
第183図 第132図版	"	埋甕 胴下半を欠く	口 31.1 高(18.8)	粗粒砂・小礫 含、良好	暗赤褐 色	4単位の波状口縁で胴中位にわずかにくびれを有し、口縁部外反。	口縁部文様帯は、隆帯と沈線で楕円区画及び渦巻施文。胴部無文。	71点の接合 10-3
第184図1 第143図版	"	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	波状口縁で内湾し、波頂部外反。	波頂部から口縁に沿って沈線を廻らし、下部縄文R.L.充填施文。	11-2

第184図2 第143図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		口縁に沿って沈線を廻らし、2本単位の平行沈線を垂下し縄文L R充填 施文。	2点の接合 11-7
" 3 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"	口縁部内湾し、外面肥厚。	口縁に沿って幅広い沈線を廻らし、下部縄文R L充填施文。	10-5
" 4 "	"	"	"	"	灰褐色		口縁に沿って2本の沈線を廻らし、沈線間に半截竹管の押し引きを施す。	"
" 5 "	"	覆土 胴部	"	"	鈍い橙 色		2本の隆帯を横位に貼付し、縄文R L施文後、隆帯に沿って充填施文。	"
" 6 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		横位に隆帯を貼付し、縄文R L施文後、隆帯に沿って沈線施文。	"
" 7 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R L充填施文。隆帯上に円形刺突 を施す。	10-8
" 8 "	"	"	"	"	鈍い褐 色		縄文R L施文後、沈線垂下。	10-7
" 9 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		沈線垂下し、縄文R L充填施文。	"
" 10 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	胴中位にくびれを有する。	"	"
" 11 "	"	"	"	細粒砂・粗粒 砂含、良好	"	"	沈線を垂下し縄文R L充填施文。無文部に沈線で蔽手施文。	10-8
" 12 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		絡条体L。	
" 13 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	胴中位に若干くびれを有する。	縄文R L。	3点の接合
" 14 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		縄文R L施文後、沈線垂下。	10-7
" 15 "	"	"	"	"	鈍い褐 色		絡条体L施文後、沈線垂下。	"

第1節 縄文時代

第184図16 第143図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		沈線を垂下し、縦方向糸線充填施文。	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		2本単位の平行沈線を垂下し、縦方向糸線充填施文。	2点の接合 10-7
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	〃	灰黄褐 色		縦方向糸線施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色		縦方向糸線施文後、3本単位の沈線で連弧文施文。	13-1

B区 第165号住居跡

図版番号 挿図番号	器種	出土位 置 遺存状	目 度 (cm)	胎 成	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第187図1 第132図版	深鉢	炉体土器 口縁部・胴下半を欠く	高(10.4)	粗粒砂・小礫 含、良好	明褐色		胴中位にくびれを有する。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	16点の接合 10-7
〃 〃	〃	埋壘 底部	底 8.0 高(17.7)	細粒砂・礫含 良好	黄褐色		数本の沈線を垂下し、間は綾杉状沈線施文後、波状沈線垂下。上半部には縄文RL施文。		27点の接合 14-1

Z区 第4号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎焼	土成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第225図1 第143図版	深鉢	No.1 口縁部	破片	粗粒砂含 良好		鈍い赤 褐色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充満施文。	10-5 A
〃 2 〃	〃	No.2 覆土	〃	〃		鈍い褐 色	胴中位におわずかにくびれを有する。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL縦方向充満施文。	10-7 A

Z区 第5号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎焼	土成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第225図1 第135図版	深鉢	底面直上 胴下半を欠く	破片	粗粒砂・小礫 含、良好		鈍い橙 色	胴上位にくびれを有し、口縁部外反。	口縁部は縄文RL施文後、隆帯で楕円区画及び渦巻施文。胴部は2本単位の平行沈線垂下。	10-5 A
〃 2 第143図版	〃	覆土 口縁部	〃	細粒砂・小礫 含、良好		〃	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充満施文。	〃
〃 3 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好		鈍い赤 褐色	〃	隆帯と沈線で楕円区画し、区画内縄文RL充満施文。	〃
〃 4 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好		鈍い黄 褐色		隆帯と沈線で文様区画。	〃
〃 5 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好		鈍い橙 色		隆帯及び幅広い沈線で文様区画。	〃
〃 6 〃	〃	〃	〃	粗粒砂含 良好		明赤褐 色	口縁部内湾し、波状口縁。	縄文RL横方向施文後、幅広い沈線を口縁に沿って廻らす。	〃
〃 7 〃	〃	覆土 胴部	〃	細粒砂含 良好		褐色		縄文LR施文後、2本単位の平行沈線を垂下。	10-4

図版番号 挿図番号	深鉢	覆土 胸部	破片	細粒砂含 良好	鈍い、褐 色	文様	備考
第225図8 第143図版						縄文L R。	
9	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い、黄 橙色	縦方向糸線施文。	
10	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い、褐 色	沈線を垂下し、斜方向沈線充填施文。	
11	〃	〃	〃	〃	橙 色	隆帯で文様区画。	10-5 A

Z区 第14号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第226図1 第143図版	深鉢	覆土 口縁部		破片	細粒砂含 良好	灰褐色	突起を有する。	突起に沿って平行沈線を施文し、口縁部上端に刺突を連続施文。下部は 棒状貼付文・ボタン状貼付文を施す。	5-2
2	〃	覆土 胸部		〃	〃	鈍い橙 色		隆帯と沈線で文様区画。下部は2本単位の平行沈線を垂下し、区画内縄 文R L充填施文。	10-8
3	〃	〃		〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		縄文R L。	12-2

Z区 第16号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第226図1 第143図版	深鉢	No.1 口縁部		破片	細粒砂含 良好	褐灰色	耳状の突起を有する。	隆帯と沈線で棒状区画し、区画内縄文R L充填施文。突起部上端は刺突 状。	10-1
2	〃	No.2 口縁部		〃	〃	鈍い黄 橙色	口縁部内湾。	口縁部曲部は横方向、下部は縦方向に縄文R L施文後、刺突状沈線施文。	11-1
3	〃	No.3 口縁部		〃	細・粗粒砂含 良好	灰黄褐 色	〃	隆帯と沈線で文様区画。	10-5 A

第226図4 第143図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	明褐色 色	口縁部外面肥厚。	沈線で文様区画し、区画内縄文RL施工。口唇部に幅広沈線を廻らす。	10-5 A
" 5 "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色	口縁部内湾。	縄文RL横方向施工。	11-1
" 6 "	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い黄 褐色	"	口縁に沿って幅広沈線を廻らし、縄文RL充填施工。	"
" 7 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	黄褐色	"	口縁に沿って微隆帯を廻らし、下部に縄文RL施工。	11-7
" 8 "	"	"	"	細粒砂含 良好	明赤褐 色	口縁部内面肥厚。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部は沈線で文様区画。	10-8
" 9 "	"	"	"	"	灰黄褐 色	"	縄文RL施工後、蕨手状沈線施工。	11-1
" 10 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色	"	沈線で文様区画し、縦方向糸線施工。	10-8
" 11 "	"	覆土 口縁部	"	"	明赤褐 色	内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、縄文RL充填施工。	"
" 12 "	"	No.4 胴部	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い黄 褐色	胴部にわずかにくびれを有する。	上部は隆帯で文様区画し、下部は上端が蕨手状の沈線を垂下し、縄文RL充填施工。	"
" 13 "	"	No.5 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	胴中位にくびれを有する。	2本単位の平行沈線及び「U」字状・蕨手状沈線を施し、区画内縄文RL充填施工。	"
" 14 "	"	No.6 胴部	"	細粒砂含 良好	"	"	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施工。	10-7 A
" 15 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	"	"	沈線で文様区画し、縄文RL充填施工。	10-8
" 16 "	"	"	"	粗粒砂含 良好	明赤褐 色	"	縄文RL。	10-7 A
" 17 "	"	No.7 胴部	"	粗粒砂・小礫 含、良好	赤褐色	"	3本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施工。	"

図版番号	器種	出土位置	破片	胎土	色	器形・整形の特徴	文様	備考
第226図18 第143図版	鉢	覆土胸部		細粒砂・小礫含、良好	橙		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-8
第227図19 第143図版	〃	No.6 胸部	〃	粗粒砂・小礫含、良好	〃		「U」字状・蹠手状沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	〃
〃 20 〃	〃	覆土胸部	〃	細粒砂・小礫含、良好	〃		2本の沈線を「U」字状に施し、区画内縄文RL充填施文。	10-7A
〃 21 〃	〃	No.8 胸部	〃	細・粗粒砂含良好	明赤褐色		3本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	〃
〃 22 〃	〃	覆土胸部	〃	細・粗粒砂・小礫含、良好	鈍い褐色		沈線を垂下し、縄文LR充填施文。	〃
〃 23 〃	〃	No.9 胸部	〃	粗粒砂良好	明赤褐色		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	11-4
〃 24 〃	〃	No.10 胸部	〃	細粒砂・小礫含、良好	鈍い赤褐色	内湾	沈線を横位に廻らし、縦方向に糸線施文。	

Z区 第26号土坑

図版番号	器種	出土位置	破片	胎土	色	器形・整形の特徴	文様	備考
第227図1 第143図版	深鉢	覆土胸部	破片	細粒砂含良好	鈍い橙褐色		隆帯で文様区画し、沈線施文。	10-2A

Z区 第27号土坑

図版番号	器種	出土位置	破片	胎土	色	器形・整形の特徴	文様	備考
第227図1 第143図版	深鉢	覆土胸部	破片	細粒砂含良好	鈍い橙褐色	胸中位にくびれを有する。	平行沈線を垂下し、縄文RL縦方向充填施文。	10-7A
〃 2 〃	〃	No.2 胸部	〃	〃	〃	胸部にわずかにくびれを有する。	胸部に縄文LR施文後、くびれ部に半截竹管で横位沈線を廻らせる。	

第227図3 第143図版	深鉢 No.3 胴・底部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		無文。	15-3
------------------	--------------------	----	----------------	----------	--	-----	------

Z区 第28号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎焼	土成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第228図1 第143図版	深鉢	No.1 胴部	破片	細粒砂含 良好		鈍い橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文後、波状沈線施文。	10-7 A
" 2 "	"	覆土 胴部	"	"		灰褐色		縄文R.L.施文後、3本の沈線を垂下。	"
" 3 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好		淡黄色		沈線で文様区画し、区画内縄文R.L。	10-8
" 4 "	"	"	"	細粒砂含 良好		明褐色		縄文R.L.施文後、沈線垂下。	10-7
" 5 "	"	"	"	"		鈍い赤 褐色		沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	"
" 6 "	"	"	"	"		鈍い橙 色		縄文R.L。	
" 7 "	"	"	"	"		明赤褐 色		縦方向条線施文。	10-7
" 8 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好		橙 色		"	

Z区 第30号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎焼	土成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第228図1 第143図版	深鉢	No.1 胴部	破片	細粒砂含 良好		橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文後、波状沈線施文。	10-7 A

第228図2 第143図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	浅黄橙 色		2本単位の平行沈線垂下。	〃
〃 3 〃	〃	覆土 口縁部	〃	〃	橙色	口縁部内湾。	口縁に沿って沈線を通らす。	10-2A

Z区 第52号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	目 度 (cm)	胎 焼成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第228図1 第143図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	橙色		隆帯で文様区画し、隆帯上に沈線施文。	
〃 2 〃	〃	〃	〃	〃	灰白色		隆帯で文様区画し、隆帯上に刻みを入れ、区画内は綾杉状沈線施文。	
〃 3 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	浅黄橙 色		隆帯で文様区画。	
〃 4 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	胴部に強いくびれを有する。	絡条体L縦施文。	

Z区 第53号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	目 度 (cm)	胎 焼成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第228図1 第144図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		縄文R.L。	10-7
〃 2 〃	〃	〃	〃	粗粒砂・小礫 含、良好	橙色		〃	〃
〃 3 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		〃	〃
〃 4 〃	〃	〃	〃	〃	明赤褐 色		〃	〃

図版番号 挿図番号	深鉢	覆土 胸部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐色	器形・整形の特徴	文様	備考
第228図5 第144図版							縄文R.L.	10-7
" 6 "	"	No.1 胸部	"	粗粒砂・小礫 含、良好	橙色		"	"
第229図7 第144図版	"	覆土 胸部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		"	"
" 8 "	"	No.2 胸部	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	明赤褐色		"	"
" 9 "	"	覆土 底部	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		無文。	15-2

Z区 第70号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	破片 度目 (cm)	胎 焼 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第229図1 第144図版	深鉢	No.1 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 褐色	口縁部内湾。	口縁部文様帯は、隆帯と沈線で楕円区画及び渦巻施文。胴部は沈線で「口」 字状及び破手施文。区画内は縄文R.L.横方向施文。	10-6
" 2 "	"	覆土 口縁部突起	"	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	波状口縁、内外面共に磨き有り。	内面幅広い沈線で破手施文。	10-5
" 3 "	"	覆土 口縁部	"	"	暗褐色	波状口縁	縄文R.L.。口縁に沿ってナデを施す。	
" 4 "	"	"	"	"	明褐色		口縁に沿って隆帯と沈線を廻らし、下部縄文R.L.。	
" 5 "	両耳壺	覆土 胸部	"	"	橙 色	頸部が「く」字状に屈曲し、外反する 口縁部を有する。	隆帯と幅広い沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。把手部に幅 広の沈線で破手施文。	
" 6 "	深鉢	No.2 胸部	"	"	灰褐色		隆帯で文様区画。	
" 7 "	"	No.3 胸部	"	"	明赤褐色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	10-5

第229図8 第144図版	両耳壺	No.4 胴部				細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	隆帯と幅広い沈線の沈線で、文様区画及び獸手施文。区画内縄文R.L.充填施文。	10-8
" 9 "	深鉢	No.5 胴部			"	"	鈍い黄 橙 色	平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文後無文部磨き。	10-7 B
" 10 "	"	No.6 胴部			"	"	黒褐色	縄文R.L。	10-5

Z区 第81号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存	位置 状況	破 片	目 度 (cm)	胎 土 成 焼	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第230図1 第135図版	深鉢	底面直上		破片		粗粒砂含 良好	褐色	頸部が「く」字状となり、口縁部外反し内面肥厚。非常にもろい。	口縁部無文で、胴部は隆帯で文様区画し、隆帯上に刻みを施す。	8-1

Z区 第84号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存	位置 状況	破 片	目 度 (cm)	胎 土 成 焼	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第230図1 第144図版	深鉢	覆土 口縁部突起		破片		粗粒砂含 良好	褐灰色	山形の突起を有する。	隆帯上押圧。沈線で渦巻・三叉文を施文。	8-1
" 2 "	"	覆土 口縁部		"		"	鈍い赤 褐色	口縁部内湾し、胴部にくびれを有する。	口縁部とくびれ部に隆帯を廻らし、間に隆帯で渦巻施文。	10-2
" 3 "	"	"		"		"	鈍い橙 色	口縁部内湾し、外面肥厚。	隆帯と幅広い沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	10-5 A
" 4 "	"	覆土 胴部		"		"	"		沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文後、沈線施文。	10-7 A
" 5 "	"	"		"		細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		縄文R.L。	10-7
" 6 "	"	"		"		細粒砂含 良好	暗赤灰 色		平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文後、獸手状沈線施文。	10-8

第230図7 第144図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色		隆帯で突起状渦巻貼付。下部縄文R.L。	
" "	"	覆土 胴部	"	"	鈍い黄 橙色		隆帯で文様区画し、縄文R.L。	10-5
" "	"	覆土 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部内湾。	口縁直下に輪積み痕を残す。	10と同一個 体
" "	"	"	"	"	赤褐色			9と同一個 体
" "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		縄文R.L。	
" "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色		"	
" "	"	"	"	"	明赤褐 色		縄文R.L.施文後、平行沈線垂下。	
" "	"	"	"	粗粒砂・小礫 含、良好	灰黄色		2本単位の平行沈線垂下。縄文不明。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		無文。	
第231図16 第144図版	"	"	"	細粒砂含 良好	明赤褐 色		隆帯で文様区画し、区画内平行沈線及び渦巻。隆帯上に斜めの刻みを施し、下部は縦方向条線施文。	9
" "	"	"	"	"	"		絡条体L。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙色		"	"
" "	"	覆土 胴・底部	底 8.9 高(10.7)	細粒砂含 良好	"		縄文R.L。	15-1
" "	"	覆土 口縁部	破片	"	暗赤褐 色	口縁部突起状。内面肥厚。	隆帯と沈線で文様区画。	10-2A

Z区 第85号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状	位置 状況	目 度 (cm)	胎 焼 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第231図1 第144図版	深鉢	覆土 口縁部		破片	細粒砂・小礫 含、良好	黒褐色	内外面横方向磨き。	隆帯で文様区画し、区画内に縦位糸線施文。隆帯上に刻みを施す。	
" 2 "	"	"		"	"	明赤褐色		沈線で文様区画。	
" 3 "	"	"		"	"	鈍い赤褐色	口縁部若干内湾。		
" 4 "	"	覆土 胴部		"	細粒砂含 良好	鈍い褐色		隆帯を貼付し、平行沈線施文。	
" 5 "	"	"		"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤褐色		絡糸体L。	
" 6 "	"	"		"	"	橙色		絡糸体L施文後、2本の隆帯貼付。	
" 7 "	"	"		"	"	鈍い赤褐色		絡糸体L。	
" 8 "	"	"		"	"	"	胴部にくびれを有する。	縄文RL。	

Z区 第88号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状	位置 状況	目 度 (cm)	胎 焼 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第231図1 第144図版	深鉢	覆土 口縁部		破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	口縁部内湾し、肥厚する。	隆帯と幅広い沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	10-5A
" 2 "	"	"		"	"	橙色		隆帯で文様区画。	"

第231図3 第144図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	口縁部外面肥厚。	隆帯と幅広の沈線で文様区画。	10-5 A
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	口縁部内湾し、外面肥厚。	隆帯と幅広の沈線で文様表出。	10-5
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙 色	口縁部内湾し、内面肥厚。	口縁に沿って沈線を廻らし、間に指先による刺突を施し、下部は縄文R L施文。	11-2 A
〃 〃	〃	〃	〃	〃	褐灰色	口縁部わずかに外反。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部に縄文RL施文。	10-5
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	器厚薄く、口縁部内湾。	沈線で「U」字状に文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	11-1
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	口縁に沿って円形刺突を施す。	11-2
〃 〃	〃	覆土 胴部	〃	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	〃	隆帯貼付。	10-5
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	〃	〃	隆帯と幅広の沈線で文様区画。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	隆帯で文様区画。	12-3
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い黄 褐色	〃	隆帯と幅広の沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	10-5
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	〃	〃	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	12-3
〃 〃	〃	〃	〃	〃	褐灰色	〃	平行沈線を垂下し、縄文RL縦方向充填施文。	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	〃	灰黄褐 色	〃	沈線を垂下し、縄文RL充填施文後、蔵手状沈線施文。	10-8
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	〃	隆帯と幅広の沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	〃

第1期 縄文時代

図版番号	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	色	説明	図版番号
第231図17 第144図版						隆帯で文様区画し、縄文RL充填施文後、隆帯の両側に幅広沈線施文。	12-3
18 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文後、沈線垂下。	10-7
第232図19 第144図版					"	隆帯と幅広の沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	
20 "	"	"	"	"	鈍い黄 色	"	11-1
21 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	縄文RL。	10-7
22 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	褐灰色	"	"
23 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い褐 色	隆帯貼付後、縄文RL施文。若干隆帯上にも施文。	"
24 "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色	縄文RL。	"
25 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7 B
26 "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色	結節の縄文RL施文。	10-7
27 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	"
28 "	"	"	"	"	橙 色	"	10-7 B
29 "	"	"	"	"	"	沈線を垂下し、区画内に綾杉状沈線施文。	"
30 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	絡糸体L施文後、半截竹管による平行沈線施文。	10-7 A

図版番号 挿図番号	深鉢 器種	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第232図31 第144図版	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
32	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
33	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
34	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
35	深鉢	覆土 底部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考

Z区 第95号土坑

図版番号 挿図番号	深鉢 器種	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第232図1 第144図版	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調 <td>器形・整形の特徴</td> <td>文様</td> <td>備考</td>	器形・整形の特徴	文様	備考
2	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
3	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
4	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考

Z区 第98号土坑

図版番号 挿図番号	深鉢 器種	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第232図1 第144図版	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1	深鉢	覆土 胴部	破片	胎土 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考

第1節 縄文時代

第232図2 第144図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.横方向施文。	10-2
" "	"	"	"	"	橙色	口縁部内面肥厚。		
" "	"	覆土 胸部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		隆帯と沈線で文様区画。	
" "	"	覆土 口縁・頸部	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	胸部にくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯区画及び渦巻。胸部は縄文R.L.	10-2 A
" "	"	覆土 胸部	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙色		沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	10-7 B
" "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		絡糸体L施文後、沈線で文様区画。	10-7
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色		縄文R.L.施文後、平行沈線垂下。	10-4 A
" "	"	"	"	"	明赤褐 色		絡糸体L施文後、沈線で文様区画。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	赤褐色		平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	"
" "	"	"	"	"	褐色		絡糸体L施文後、隆帯貼付。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		絡糸体L。	"
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色		縄文R.L.施文後、3本の沈線で文様区画。	13-1
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	明赤褐 色		絡糸体L施文後、隆帯貼付。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	黒褐色		絡糸体L施文後、沈線で文様区画。	

図版番号	器種	出土位置	破片	胎土	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第232図16 第144図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		無文。	
〃 17 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い橙 色		絡糸体L施文後、2本の隆帯貼付。	
〃 18 〃	〃	覆土 底部	〃	〃	鈍い褐 色			15-2

Z区 第99号土坑

図版番号	器種	出土位置	破片	胎土	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第233図1 第144図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い黄 橙色	口縁部内湾。	細文RL施文後、隆帯と沈線で文様区画。	10-2 A
〃 2 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い橙 色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文。	10-5
〃 3 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色	口縁部内湾。	絡糸体L施文後、隆帯と沈線で文様区画。	〃
〃 4 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い黄 褐色		隆帯で文様区画。	〃
〃 5 〃	〃	〃	〃	〃	灰褐色	口唇部平坦で、外面若干肥厚。	細文RL。	
〃 6 〃	〃	〃	〃	〃	赤灰色	口縁部に突起を有し、内湾。	絡糸体L施文後、隆帯で文様区画。	10-5
〃 7 〃	〃	〃	〃	〃			絡糸体L施文後、口縁に沿って隆帯貼付。	〃
〃 8 〃	浅鉢	〃	〃	〃	灰褐色	口縁部肥厚し、内外面磨き。	無文。	10-3 A
〃 9 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	赤黒色	〃	〃	〃

第1節 縄文時代

第233図10 第144図版									隆帯で文様区画。	10-7 A
" "	"	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	純い褐色	"	"	細粒砂含 良好	口縁部文様帯は隆帯で区画及び渦巻施文し、胴部は沈線垂下。区画内縄文LR充填施文。	10-8
" "	"	覆土 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	"	"	"	"	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	12-2
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	純い褐色	"	"	"	隆帯で文様区画し、区画内縄文RL充填施文後沈線施文。	10-7
" "	"	"	"	"	純い褐色	"	"	"	微隆帯で文様区画し、区画内縄文RL充填施文後、隆帯高割にナデを施す。	"
" "	"	"	"	"	明褐色	"	"	"	縄文RL。	10-7 A
" "	"	"	"	"	純い褐色	"	"	"	縄文RL施文後、3本の平行沈線垂下。	"
" "	"	"	"	"	純い黄褐色	"	"	"	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文LR充填施文。	10-7
" "	"	"	"	"	純い褐色	"	"	"	沈線を垂下し、縄文LR充填施文。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	褐色	"	"	"	縄文RL。	13-1
" "	"	"	"	"	純い赤褐色	"	"	"	縄文RL施文後、連弧状沈線施文。	10-7
" "	"	"	"	"	褐色	"	"	"	縄文RL施文後、沈線垂下。	"
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	"	"	"	"	"	10-8
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	純い赤褐色	"	"	"	沈線で文様区画し、縄文RL施文。	10-7

図版番号 挿図番号	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	外縁 内朱	外面磨き。	沈線で文様区画し、区画内細文RL充満施文。	10-7
" 25 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		絡糸体L。	
" 26 "	"	"	"	"	"		細文RL施文後、横位及び縦位の平行沈線施文。	
" 27 "	浅鉢	覆土 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部に「く」字状に屈曲。	口縁に沿って2本の沈線を施し、沈線間に刻みを施す。	

Z区 第100号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 位置 状況	度目 (cm)	胎 焼 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第234図1 第135図版	深鉢	底面 復元完形	口44.8 底(10.8) 高(66.8)	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	口縁部に4単位の突起及び胴部にくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線の楕円区画及び「S」字状を施し、無文帯との区画は鎖状浮線文的な隆帯を廻らす。胴部文様帯は2種の細文LRで2段に施し、2本単位の隆帯で横に連結する渦巻を施し、渦巻から波状及び平行の隆帯を垂下。	10-1 B

Z区 第116号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 位置 状況	度目 (cm)	胎 焼 成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第235図1 第144図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	黒褐色	口縁部わずかに内湾。	隆帯で文様区画し、区画内斜方向の平行沈線施文。	10-2 B
" 2 "	"	"	"	"	橙 色	口縁部内湾し、内面肥厚。	口縁に沿って細文Rを横方向施文し、下部に細文RL施文。	
" 3 "	"	覆土 胴部	"	"	鈍い褐 色	胴部にくびれを有する。	平行沈線を垂下し、細文RL充満施文後、波状沈線垂下。	10-7 A
" 4 "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色		"	"

第1節 縄文時代

第235図5 第144図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	橙 色	沈線で文様区画し、縄文RL施文。	
" "	"	"	"	"	鈍い黄 橙 色	平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7 B
" "	"	"	"	"	橙 色	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	
" "	"	"	"	"	明褐色	沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7
" "	"	"	"	"	鈍い、褐 色	縄文RL。	"
" "	"	"	"	"	橙 色	沈線で文様区画し、縄文RL施文。	"
" "	"	"	"	"	鈍い黄 橙 色	沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	褐 色	絡糸体L。	"
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	隆帯と沈線で文様区画し、縄文RL充填施文。	"
" "	浅鉢	覆土 口縁部	"	"	鈍い黄 橙 色	無文。	

Z区 第117号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状況	目 度 (cm)	胎 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第235図1 第144図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	褐色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL。	10-2
" "	"	"	"	"	鈍い黄 橙 色		隆帯と沈線で文様区画。	"

第235図3 第144図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い褐色		隆帯と沈線で文様区画及び渦巻施文。	10-2 A
" "	"	覆土 胴部	"	"	鈍い黄 橙色		3本単位の沈線を垂下し、細文RL充填施文。	10-7 B
" "	"	"	"	"	"		沈線を垂下し、細文RL充填施文。	"
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色		細文RL施文後、隆帯貼付。	10-7
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		沈線を垂下し、細文RL充填施文。	10-7 B
" "	"	"	"	"	"		"	10-7
" "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色		"	"
" "	"	"	"	"	橙 色		"	10-7 B
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		細文RL施文後、沈線垂下。	10-7
" "	"	"	"	"	鈍い橙 色		細文RL施文後、半截竹管で波状沈線施文。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		隆帯と沈線で文様区画し、隆帯上に刻みを施す。	
" "	"	覆土 底部	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		2本単位の隆帯を垂下し、細文LR施文。	15-2
" "	土製円 盤			"	灰褐色			

Z区 第124号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第236図1 第135図版	深鉢	覆土 胴下半を欠く		口(32.0) 高(28.0)	細粒砂含 良好		暗赤褐 色	口縁部は内湾し、突起を持つ。胴部に くびれを有する。	口縁部は幅広い沈線の楕円区画及び渦巻施文。区画内縄文R.L。胴部は2 本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文後縦手状沈線施文。	10-6

Z区 第150号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第236図1 第135図版	深鉢	底面直上 胴下半を欠く。			細粒砂含 良好		褐色	4単位の突起を持ち、胴部はくびれ、 口縁部「く」字状に内傾し、突起部外 反。	口縁部は幅広い沈線の楕円区画及び渦巻施文。区画内縄文R.L.充填。胴部 は2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	10-6

A区 第25号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第236図1 第144図版	深鉢	覆土 胴部			細粒砂・小礫 含、良好		鈍い黄 褐色		沈線で「U」字状の文様区画をし、区画内縄文R.L.充填施文。	11-1?
第237図2 "	"	覆土 口縁部			細粒砂含 良好		鈍い橙 色	波状口縁。	口縁に沿って隆帯を廻らし、下部に隆帯で渦巻施文。区画内縄文L.R.充 填施文。	10と接合 12-3
" 3 "	深鉢	No.1 口縁部			"		"		隆帯で楕円区画し、区画内斜方向沈線施文。	10-2
" 4 "	覆土 口縁部	"			"		"	口縁部外面肥厚。	隆帯と沈線で楕円区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	11-1
" 5 "	"	"			"		"	口縁部内湾。	口縁部文様帯は隆帯で渦巻。下部は絡条体L施文。	10-3 A
" 6 "	"	No.2 口縁部			"		鈍い黄 褐色	内外面共に磨き。	沈線で楕円区画後、ナデを施す。	
" 7 "	"	覆土 口縁部			"		黄灰色	波状口縁で外面肥厚。	口唇部内側に沈線を廻らし、外面は縄文R.L.施文。	

第237図8 第144図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	口縁部外反し、口唇部平坦。	無文。	
9	〃	〃	〃	〃	灰黄褐色	口縁部内湾し、若干外面肥厚。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部縄文R L 施文。	
10	〃	〃	〃	〃	鈍い橙 色	口唇部平坦で外面肥厚。	無文。	2と接合
11	〃	No.3 口縁部	〃	〃	鈍い褐色	口縁部外反で縁方向磨き。	無文。	
12	〃	No.4 口縁部	〃	〃	橙 色	口縁部内外面肥厚。	隆帯で文様区画。	
13	〃	No.5 口縁部	〃	〃	鈍い褐色	波状口縁で内湾。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部縦方向条線施文。	11-8
14	〃	覆土 口縁部	〃	〃	橙 色	口縁部内湾。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部波状条線施文。	〃
15	〃	覆土 胴部	〃	〃	〃		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R L 充填施文。	10-8
16	〃	No.6 胴部	〃	〃	鈍い褐色		2本単位の沈線で文様区画し、区画内縄文R L 充填施文。	11-6
17	〃	覆土 胴部	〃	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		2本単位の微隆帯で文様区画し、区画内縄文R L 充填施文。	12-3
18	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	胴中位にくびれを有する。	沈線で「U」字状に区画し、区画内縄文L R 充填施文。	10-8
19	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R L 充填施文。	
20	〃	No.7 胴部	〃	細粒砂含 良好	鈍い褐色		沈線を垂下し、縄文R L 充填施文。	10-7
21	〃	覆土 胴部	〃	〃	鈍い黄 橙色		2本単位の隆帯で文様区画し、区画内縄文R L 充填施文。	〃

第1節 縄文時代

第237図22 第144図版	深鉢	No.8 胸部	破片	細粒砂含 良好	橙 色		沈線を垂下。	10-7
" 23 "	"	No.9 胸部	"	"	鈍い橙 色		隆帯で文様区画。	10-8
" 24 "	"	覆土 胸部	"	"	"		2本単位の沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	11-6
" 25 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色	胴中位にくびれを有する。	沈線で「U」「 Ω 」字状文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	11-3
" 26 "	"	No.10 胸部	"	"	橙 色		微隆帯で文様区画し、区画内縄文LR充填施文。	12-3
" 27 "	"	覆土 胸部	"	"	鈍い赤 褐色		隆帯で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	10-7
" 28 "	"	"	"	"	明赤褐 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RLR充填施文。	"
" 29 "	"	"	"	"	鈍い褐 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	"
" 30 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		"	"
" 31 "	"	No.11 胸部	"	"	鈍い黄 橙色		"	"
" 32 "	"	覆土 胸部	"	"	鈍い黄 褐色		縄文RL。	"
" 33 "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	"
" 34 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		沈線で「U」字状に文様区画し、区画内縄文LR充填施文。	11-3
" 35 "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	

第237図36 第144図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		縄文R.L.	
" 37 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	褐灰色		"	
" 38 "	"	"	"	細粒砂含 良好	灰褐色		沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	
" 39 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	10-7
" 40 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色		縄文R.L.	"
第238図41 第144図版	"	No.12 底部	底 9.0 高 (9.0)	細粒砂含 良好	明赤褐 色	外反ぎみに立ち上がる。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.を交互に縦方向充填施文。	10-7 B
" 42 "	"	覆土 胴部	破片	"	鈍い黄 褐色		縄文R.L.施文後、2本の沈線で文様表出。	
" 43 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		結条体L.	
" 44 "	"	No.13 胴部	"	"	橙 色		沈線を垂下し、縄文R.充填施文。	
" 45 "	"	覆土 胴部	"	"	鈍い黄 褐色	胴部にくびれを有する。	隆帯で「U」字状に文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	
" 46 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色	"	縦方向条線施文。	
" 47 "	"	No.12 胴部	"	"	鈍い黄 褐色		"	
" 48 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	橙 色		縦方向条線施文後、沈線で文様表出。	
" 49 "	"	"	"	"	鈍い褐 色	胴部にくびれを有する。	縦方向条線施文。	

第1節 縄文時代

第238図50 第144図版	深鉢	No14 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	胴部にくびれを有する。	縦方向条線施文。	
" "	"	覆土 胴部	"	"	"		"	
" "	"	No15 胴部	"	"	明赤褐 色		総糸体L。	
" "	"	No5 胴部	"	"	鈍い黄 褐色		斜方向条線施文。	
" "	"	No16 胴部	"	"	橙色		"	
" "	"	No17 胴部	"	"	鈍い橙 色		沈線垂下。	10-7 B
" "	"	覆土 胴部	"	"	鈍い赤 褐色		沈線で渦巻を施文し、沈線間に刻みを施す。	
" "	"	No18 胴部	"	"	明黄褐 色		沈線垂下。	
" "	"	No12 底部	底 5.8 高(3.7)	"	明赤褐 色	若干突出、外面磨き。		15-2
" "	"	覆土 底部	破片	"	鈍い黄 橙色	台付。外面縦方向磨き。		15-4
" "	"	No19 口縁部	"	"	"	口縁部若干内湾。	口縁部条線不定方向・下部斜方向施文。	
" "	両耳壺	覆土 胴部	"	"	鈍い褐 色	橋状把手部剥落。	隆帯で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	
" "	土製円 盤			"	赤褐色			

A区 第43号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	置 位	目 度 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第238図1 第135図版	高耳壺	No.1 底部を欠く		口 22.4 高 (22.0)	微・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	口縁部内湾し、胸中に外反。胸部に2単位の橋状把手を有する。	口縁部無文。頸部に隆帯を廻らせる。胸部は縄文LR。	

A区 第44号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	置 位	目 度 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第238図1 第136図版	深鉢	覆土? 胸下半を欠く		口 22.3 高 (15.8)	細粒砂含 良好	灰褐色	口縁部内湾し、胸中にくびれを有する。最大径は胸上半部。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部は「U」字状及び蔽手状沈線を交互に配し文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	II-2 A
" 2 "	"	口縁部		口 36.0 高 (10.0)	細粒砂・小礫 含、良好	"	口縁部内湾。	隆帯と沈線で精円区画及び小渦巻施文。区画内は縄文RL充填施文。	10-5 B
第239図3 第144図版	"	覆土 口縁部		破片	"	鈍い橙 色	"	幅広の沈線で「U」字状及び蔽手状に施文し、区画内及び口縁部に縄文LR充填施文。	II-1
" 4 "	"	"		"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い赤 褐色	"	口縁部文様帯は幅広の沈線で精円区画し、区画内縄文RL充填施文。胴部は縄文RL。	10-5 B
" 5 "	"	"		"	細粒砂含 良好	灰褐色	口縁部内湾し、内面肥厚。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部は「U」字状に沈線で区画し、区画内縄文RL充填施文。	II-2 A
" 6 "	"	"		"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	口縁部若干内湾。	口縁に沿って幅広の沈線を廻らし、上部に列点、下部は縄文RL施文。	"
" 7 "	"	覆土 胸部		"	"	"	"	縄文LR施文後、蔽手状沈線垂下。	"
" 8 "	"	"		"	細粒砂含 良好	灰褐色	胸中にくびれを有する。	3本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-8
" 9 "	"	"		"	"	鈍い橙 色	"	「U」「U」字状に沈線で文様区画し、区画内縄文LR充填施文。	"
" 10 "	"	"		"	"	灰褐色	"	隆帯で文様区画し、区画内縄文LR充填施文後、隆帯両側に沈線施文。	"

第239図11 第144図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R L縦方向充填施文。	
" 12 "	"	"	"	細粒砂含 良好	灰赤色	2本単位の平行沈線を垂下し、縦方向条線充填施文。	

A区 第112号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土遺存 状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第239図1 第136図版	深鉢	床 面 完 形		口 38.0 底 8.4 高 56.4	細粒砂含 良好		黄褐色	胴中位にくびれを有し、口縁部に最大径を有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画し、区画内縄文R L充填施文。胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R Lを交互に縦方向充填施文。	10-5 A

A区 第188号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土遺存 状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第240図1 第136図版	深鉢	No.2 底部を欠く大型破片		破片	細粒砂・小礫 含、良好		鈍い橙 色	口縁部内湾し、胴中位にくびれを有する。	口縁に沿って2本、くびれ部に3本の沈線を廻らし、間に刺突。縄文R L施文後、上半部に沈線で連弧状等施文。	13-1
" 2 "	"	No.2 胴下半を欠く		口 44.8 高 (43.2)	粗粒砂含 良好		褐色	口縁部若干内湾し、胴中位にくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で楕円区画及び渦巻施文。区画内及び胴部上半部条線L。下半は条線で沈線垂下。	10-3 A

A区 第210号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土遺存 状況	位置 状況	目 度 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第241図1 第137図版	両耳壺	土坑覆土中位 底部を欠く		口 22.4 胴 34.8 高 (42.4)	粗粒砂含 良好		明赤褐 色	胴中位に最大径を有し、口縁部内傾、橋状の把手は2単位。	胴上半及び把手部に縄文L Rを施し、肩部に円形刺突を有するボタン状貼付文を施す。	16-1 ?
" 2 "	深鉢	覆土 口縁部		破片	細粒砂含 良好		鈍い黄 橙色	口縁部内面肥厚。	沈線でスペースド状区画文を施し、区画内縄文L R充填施文。	16-1
" 3 "	"	"		"	細粒砂・小礫 含、良好		鈍い赤 褐色	突起を有する。	突起部外面に隆帯を付し、上面に沈線で腕手状施文。下部は沈線区画。	

第241図4 第137図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙色	波状口縁。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	16-1
" 5 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		鎖状浮線文状隆帯を垂下し、沈線で文様区画。区画内縄文L.R充填施文。	"
" 6 "	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	"		隆帯区画後、縄文RLを施文し、隆帯に沿って沈線施文。	"
" 7 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い褐 色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	10-5
" 8 "	"	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い赤 褐色		沈線を垂下し、縄文LR充填施文。	"
" 9 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		沈線で文様区画し、区画内縄文L.R充填施文。	16-1

A区 第239号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位 置遺存状	破片 度目 (cm)	胎 成	色調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第242図1 第145図版	深鉢	No.1 胴下半を欠く	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	突起を有する。	口縁部は隆帯と沈線で精円区画及び渦巻施文。胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、区画内及び沈線間縄文RL充填施文。	10-5 A
" 2 "	"	No.2 胴部大型破片	"	"	"	"	沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7 B
" 3 "	"	覆土 口縁部	"	微・粗粒砂・ 小礫含、良好	"		隆帯と沈線で精円区画及び渦巻施文し、区画内縄文RL.R.R充填施文。	10-5
" 4 "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	鈍い褐 色		隆帯と沈線で文様区画し、下部に縄文RL.R.R施文。縄文は隆帯上に達する。	10-7 B
" 5 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		隆帯で文様区画。	10-7 A
" 6 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7 B

第1節 縄文時代

第242図7 第145図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	純い橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。 両側にナデを施す隆帯垂下。	10-5
〃 8 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	橙 色			〃
〃 9 〃	〃	〃	〃	微・粗粒砂含 良好	純い赤 褐色		2本単位の平行沈線垂下し、縄文L充填施文。	10-7
〃 10 〃	〃	〃	〃	微・粗粒砂・ 小礫含、良好	純い褐 色		沈線を垂下し、縄文RLR充填施文。	〃
〃 11 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	純い橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文L充填施文。	〃
〃 12 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	〃		沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	11-6
〃 13 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	純い黄 橙色		縄文RL。	10-7
〃 14 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小 礫・ 黒褐色粒子含 良好	〃		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	〃
〃 15 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	純い赤 褐色		縄文RL。	〃
〃 16 〃	〃	〃	〃	〃	純い褐 色		〃	〃
〃 17 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	純い橙 色		縄文L。	〃
〃 18 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	〃		縄文RL。	〃
〃 19 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	外純い 赤褐 内黒褐		絡糸体L。	〃
〃 20 〃	〃	〃	〃	微・粗粒砂含 良好	外純い 赤褐 内灰褐		2本単位の平行沈線垂下。	〃

A区 第240号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	度目 (cm)	胎 焼	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第242図1 第136図版	深鉢	覆土 胴部	高(12.0)	微・細・粗粒 砂含、良好	鈍い赤 褐色	台付で胴中位に膨らみを有する。	底部付近に隆帯を廻らし、交互刻みを施す。隆帯で縦区画し、区画内縄文RL施文後、沈線で文様表出。	10-1?

A区 第248号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	度目 (cm)	胎 焼	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第243図1 第145図版	深鉢	覆土 口縁部大型破片	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	胴中位にくびれを有し、口縁部内湾。	口縁部絡条体施文後、2本単位の隆帯で文様区画。	10-2 A
〃 2 〃	〃	覆土 口縁部	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	胴中位にわずかにくびれを有する。	口縁部文様帯は隆帯と沈線区画で突起状となる。	〃
〃 3 〃	〃	覆土 胴部	〃	粗粒砂・小礫 含、良好	橙 色	胴中位にくびれを有する。	縄文RL施文後、くびれ部に半截竹管で沈線を廻らし、上部に無文部を区画。	5と接合 10-3
〃 4 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐 色		縄文RL施文後、3本単位の平行沈線垂下。	10-3
〃 5 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	明赤褐 色		縄文RL。	3と接合 10-3
〃 6 〃	浅鉢	覆土 口縁部	〃	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	口縁部内湾し、外面肥厚。内外面共に磨き。	無文。	

A区 第274号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	度目 (cm)	胎 焼	色 調	器形・整形の 特徴	文 様	備 考
第243図1 第145図版	深鉢	覆土 胴部	高(6.8)	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	胴中位にわずかにくびれを有する。	口縁部は隆帯区画で、胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、縄文LRを交互に縦方向充填施文。	10-5 A

第1節 縄文時代

第243図2 第145図版	深鉢	覆土 口縁・胴部	口 18.8 高(10.0)	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色	口縁部内湾。	細文R L R	
" 3 "	"	覆土 胴・底部	底 7.8 高(9.2)	"	明赤褐 色	口唇部平坦。	"	15-1
第244図4 第145図版	"	覆土 口縁部	"	"	鈍い赤 褐色		隆帯で区画し、区画内斜方向沈線。	
" 5 "	"	"	"	"	鈍い褐 色		口縁に沿って隆帯を廻らし、下部細文L R。	
" 6 "	"	"	"	"	褐灰色		沈線で文様区画し、区画内細文R L。	10-5
" 7 "	"	"	"	"	鈍い橙 色	口縁部内外面肥厚、上端で「く」字状 に外反。	無文。	
" 8 "	浅鉢	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	灰黄褐 色	口縁部内湾し、内外面共に磨き。	"	
" 9 "	深鉢	覆土 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙 色		細文R L	10-7
" 10 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い褐 色		2本単位の隆帯を垂下し、細文R L施文。	"
" 11 "	"	"	"	"	橙 色		細文R L。	"
" 12 "	"	"	"	"	灰褐色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内細文R L充實施文。	"
" 13 "	"	覆土 底部	底 8.1 高(1.2)	細粒砂・小礫 含、良好	褐 色			15-2

A区 第301号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目 度 (cm)	胎 土 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
--------------	----	--------------	----------------	-------------	--------	----------	--------	--------

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	破片 度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第244図1 第145図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細・粗粒砂含 良好	暗褐～ 鈍い橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縦方向条線充填施文後、波状沈線垂下。	10-7 A
" 2 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、細文RL充填施文。	10-7
" 3 "	"	"	"	細粒砂含 良好	"		"	"
" 4 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、沈線間斜方向条線充填施文。	"
" 5 "	"	"	"	"	鈍い褐 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縦方向条線充填施文。	"
" 6 "	"	"	"	"	灰褐色		"	"
" 7 "	"	"	"	細粒砂・赤褐 色粒子含良好	鈍い橙 色		格子状に条線施文。	14-1

A区 第320号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	破片 度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第244図1 第145図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色	口縁部内湾。	隆帯と沈線で文様区画し、区画内縦方向沈線施文。	10-2 B
" 2 "	"	覆土 胴部	"	"	"	胴中に若干くびれを有する。	2本単位の平行沈線を垂下し、細文RL縦方向充填施文。	10-7 B
" 3 "	"	"	"	"	"		"	"
" 4 "	"	"	"	"	"		"	"
" 5 "	"	"	"	"	"		"	"

第1節 縄文時代

第244図6 第145図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		隆帯と沈線で文様区画。	
" "	"	"	"	"	"		縄文R L施文後、沈線施文。	12-2 A
" "	"	"	"	"	"		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R L充填施文。	10-7 B
" "	"	"	"	"	"		"	"
第245図10 第145図版	"	No.1 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		沈線垂下後、縄文R L充填施文。	"
" "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	褐灰色		沈線垂下後、縄文R L充填施文。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		"	"
" "	"	No.2 胴部	"	細粒砂・褐色 粒子含、良好	鈍い橙 色		沈線垂下。	"
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	灰黄褐 色		沈線で文様区画。	"

A区 第333号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状	位置 状況	度目 (cm)	胎 焼	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第245図1 第145図版	深鉢	覆土 口縁部		破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	口縁部外面肥厚。	口縁に沿って沈線を廻らし、下部縄文R L施文。	10-5 B
" "	"	"		"	細粒砂・小礫 含、良好	赤褐色	口縁部わずかに内湾。	沈線で精凹区画し、区画内縄文R L充填施文。	10-5 B
" "	"	"		"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 ～鈍い 褐色	口縁部内外面肥厚。	口縁に沿って幅広い沈線を廻らし、下部は沈線で文様区画し、区画内縄文R L充填施文。	10-5

第245図4 第145図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	微・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙 色	口縁部わずかに内湾。	口縁に沿って沈線を廻らす。	10-5
" "	浅鉢	"	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い赤 褐色	口縁部外面突起状に肥厚し、口縁部平坦で内傾。	口縁に沿って2本沈線を廻らし、下部沈線で文様表出。	"
" "	深鉢	覆土 胴部	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙色		隆帯で渦巻施文。	
" "	"	"	"	"	"		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	10-7
" "	"	"	"	細・粗粒砂含 良好	鈍い橙 色	胴部湾曲。	2本の沈線で渦巻状文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	
" "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	橙色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填施文。	11-6
" "	"	"	"	微・粗粒砂・ 小礫含、良好	外鈍い 赤褐色 内鈍い褐色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内条線充填施文。	
" "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色		隆帯で文様区画し、下部は平行沈線を垂下し、条線充填施文。	

B区 第101号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存状況	目 度 (cm)	胎 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第246図1 第137図版	深鉢	土坑覆土中位 口縁部を欠く	破片	細粒砂含 良好	明赤褐色	胴上半にくびれを有し、下半に最大径を持つ。底部は若干突出。	口縁部文様帯は隆帯と沈線で文様区画し、胴部は縄文L R縦方向施文後、3本単位の沈線で槽円及び渦巻施文。	9~10-1
" "	"	覆土 口縁部	"	細粒砂・小礫 含、良好	"	口縁部外面肥厚。	無文。	
" "	"	"	"	"	橙色	口縁部外反し、横方向磨き。	"	
" "	"	覆土 胴部	"	細粒砂含 良好	明赤褐色		沈線で文様区画し、区画内縄文RL。	10-8?

第1節 縄文時代

第246図5 第145図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い赤 褐色		沈線を垂下し、縄文RLR充填施文。	10-7
" 6 "	"	"	"	細粒砂含 良好	橙色		縄文RL施文後、沈線垂下。	"
" 7 "	"	"	"	"	鈍い褐 色		縄文RL。	"
" 8 "	"	"	"	"	明赤褐 色		結条体L。	"
" 9 "	"	"	"	"	橙色		沈線を垂下し、縄文Lを充填施文後、ナ字状の沈線施文。	"
" 10 "	"	"	"	"	暗赤褐 色		結条体L。	"
" 11 "	"	"	"	"	鈍い赤 褐色		横位の平行沈線施文。	"
" 12 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	明褐色	器面は凹凸があり、磨きも丁寧でない。	沈線垂下。	10-7
" 13 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い褐 色	器面丁寧な磨き。	沈線で文様区画し、区画内に細い縄文LR充填施文。外面未塗。	
第247図14 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	明褐色		隆帯で楕円区画。渦巻を施し、区画内縄文RL充填施文後、隆帯に沿って半截竹管で沈線施文。	9~10-1
" 15 "	"	"	"	"	橙色	器面が荒れている。	沈線垂下。	10-7
" 16 "	"	覆土 底部	底 8.4 高 (6.2)	"	鈍い橙 色		縄文RL。	15-1

B区 第102号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
--------------	----	--------------	------------	----------	----	----------	----	----

第248図1 第145図版	深鉢	覆土 口縁部を欠く	破片	細・粗粒砂含 良好	橙	胸部上位に膨らみを有し、底部突出。	胸部は下半まで縄文R.L.で、底部付近は無文。	16-1?
------------------	----	--------------	----	--------------	---	-------------------	-------------------------	-------

B区 第130号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第249図1 第145図版	深鉢	覆土 胸部	破片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R.L.充填施文。	10-7
〃 2 〃	〃	〃	〃	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙褐色		幅広い沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填。下部は縦方向条線施文。	
〃 3 〃	〃	底部	底 8.4 高 (5.1)	細粒砂含 良好	橙 色		無文。	15-3

B区 第144号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位 遺存状	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第249図1 第137図版	深鉢	覆土 胸下半を欠く	口 26.6	粗粒砂含 良好	赤褐色	胸中位にくびれを有する。	縄文R.L.施文後、隆帯で楕円及び渦巻施文。下部は波状及び渦巻を付す 2本の隆帯垂下。	10-3 A
〃 2 〃	〃	覆土 大型破片	破片	〃	褐色	頸部が「く」字状に屈曲し、口縁部内 面肥厚。	口縁部無文。頸部に凹形刺突を有する沈線と波状隆帯を廻らし、胸部は 縦方向沈線施文後、隆帯貼付。	14-1
第250図3 第145図版	浅鉢	覆土 口縁部	〃	細粒砂含 良好	鈍い橙 色	口縁部内湾し、外面肥厚。内外面共に 磨き。	内外面未塗。	
〃 4 〃	深鉢	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縦位の沈線施文。	10-2
〃 5 〃	〃	覆土 胸部	〃	〃	〃		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文R.L.充填施文。	
〃 6 〃	〃	覆土 口縁部	〃	〃		口縁部内湾。	縦方向条線施文後、口縁に沿って2本の沈線を廻らす。	

第1節 縄文時代

第250図7 第145図版	深鉢	覆土 口縁部	破片	細粒砂含 良好	鈍い橙 色			11-8
// 8 //	浅鉢	//	//	//	//	口唇部平坦で、内外面共に磨き。		斜方向糸線施文後、口縁に沿って2本の沈線を廻らす。 口唇部に沈線を廻らす。
// 9 //	深鉢	覆土 胴部	//	//	鈍い橙 色			隆帯で文様区画し、区画内縄文RL充填施文後、隆帯に沿って沈線施文。
// 10 //	//	//	//	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄 橙色			縄文RL。 10-4
// 11 //	//	//	//	細・粗粒砂含 良好	鈍い黄 褐色			//
// 12 //	//	//	//	細粒砂含 良好	//			//
// 13 //	//	//	//	//	鈍い褐 色			//
// 14 //	//	//	//	//	鈍い赤 褐色			縄文RL施文後、3本の沈線施文。 //
// 15 //	//	//	//	//	//	胴部にくびれを有する。		縄文RL。 //
// 16 //	//	//	//	//	鈍い橙 色			2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。 10-7
// 17 //	//	//	//	//	鈍い褐 色			縄文RL施文後、沈線施文。 //
// 18 //	//	//	//	//	鈍い黄 橙色			2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。 10-7
// 19 //	//	//	//	//	鈍い赤 褐色			縄文RL施文後、横位に沈線を廻らし、沈線で文様表出。 10-4
// 20 //	//	//	//	//	//			縄文LR施文後、隆帯貼付。 10-7

第250図21 第145図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		隆帯で文様区画し、区画内押し引き文2本施文。	
" 22 "	"	"	"	"	鈍い黄 褐色		縄文R.L.	10-7
" 23 "	"	"	"	"	"		"	"
" 24 "	"	"	"	"	"		絡糸体L.	"
" 25 "	"	"	"	"	鈍い黄 橙色		縄文R.L.	"
" 26 "	"	覆土 胴部	"	"	鈍い赤 褐色		2本単位の隆帯と波状沈線垂下後、7本の沈線を横位施文し、上下に縦 方向糸線施文。	14-2
" 27 "	"	"	"	"	鈍い褐 色		隆帯で文様区画し、斜方向糸線施文後、隆帯に沿って沈線施文。	
" 28 "	"	"	"	"	赤褐色		縦方向糸線施文後、2本単位の沈線の沈線で文様区画。	
" 29 "	"	"	"	"	鈍い橙 色		縦方向糸線施文。	
" 30 "	"	"	"	"	鈍い褐 色	胴部にくびれを有する。	"	
" 31 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	明赤褐 色		"	10-7
" 32 "	"	覆土 底部	底 9.6 高 (7.2)	細・粗粒砂含 良好	鈍い橙 色		3本単位の平行沈線垂下。	15-2
" 33 "	"	"	底 5.2 高 (2.9)	細粒砂含 良好	鈍い褐 色		縄文R.L.	"
" 34 "	"	"	底 5.1 高 (5.0)	"	鈍い赤 褐色		器面縦位糸線施文。	"

B区 第148号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎焼	土成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第251図1 第145図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い褐色	口縁部内湾し、内面肥厚。	口縁部文様帯は幅広い沈線区画で、区画内縄文L R充填施文。胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、縄文L R充填後、波状沈線施文。	10-5 A
" 2 "	"	"	"	"	"	"	沈線で文様区画。胴部は平行沈線を垂下し、波状条線施文。	"	"
" 3 "	"	口縁部	"	微・細・粗粒砂・ 小礫含、良好	微・細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い褐色	口縁部に沿って凹形刺突を施し、沈線で文様区画。縄文R L施文。	"	11-1
" 4 "	深鉢	No.1 胴部	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い橙褐色	縄文R L施文後、平行沈線及び波状沈線垂下。	"	10-7
" 5 "	"	覆土 胴部	"	"	"	鈍い赤褐色	平行沈線垂下後、縄文R L充填施文。	"	"
" 6 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い黄褐色	沈線垂下後、縄文R L充填施文。	"	"
" 7 "	"	"	"	"	"	鈍い橙褐色	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文R L充填施文。	"	"
" 8 "	"	"	"	"	"	橙褐色	"	"	"
" 9 "	浅鉢	No.2 口縁部	"	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	鈍い赤褐色	口縁部内傾し、肥厚する。口唇部平坦で内傾。	隆帯と沈線で渦巻と文様区画をする。	"

B区 第149号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土位置 遺存状況	目度 (cm)	胎焼	土成	色調	器形・整形の特徴	文様	備考
第251図1 第145図版	深鉢	No.1 胴下半を欠く	□ 26.8 高(19.6)	細粒砂含 良好	細粒砂含 良好	褐灰色	胴中位に強いくびれを有する。	口縁部に沿って幅広い沈線及び列点を廻らし、隆帯と沈線で文様区画。胴部は「凵」字状に沈線区画と腕手状沈線施文。縄文R L。	10-8

第251図2 第145図版	深鉢	No.2 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色		平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文後、波状沈線施文。	10-7
------------------	----	------------	----	------------	-----------	--	----------------------------	------

B区 第155号土坑

図版番号 挿図番号	器種	出土 遺存 状況	度目 (cm)	胎 焼 成	色 調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
第252図1 第137図版	深鉢	No.1 復元完形	底 8.0 高(28.0)	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色	胴中位にくびれを有し、二次焼成で、歪みが激しい。	2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文後、波状沈線垂下。	10-6
" 2 第145図版	"	覆土 胴部	破片	細粒砂・小礫 含、良好	褐色		隆帯で渦巻等文様区画し、区画内縄文RL充填施文後、隆帯に沿って沈線施文。	
第253図3 第145図版	"	覆土 口縁部	"	細粒砂含 良好	鈍い黄 褐色		口縁部文様帯は隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL充填。胴部は2本単位の平行沈線を垂下し、斜方向沈線施文。	10-5 A
" 4 "	"	"	"	"	暗灰黄 色	波状口縁。口縁部内湾し、波頂部外反。	隆帯と幅広沈線で楕円区画し、区画内縄文RL充填施文。波頂部内側に幅広沈線で蘇手施文。	"
" 5 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	明黄褐 色	口縁部内湾。	隆帯で文様区画し、渦巻施文。区画内縄文RL充填施文。	
" 6 "	"	No.2 胴部	"	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		隆帯と沈線で文様区画し、区画内縄文RL。	10-5
" 7 "	"	覆土 胴部	"	"	橙 色		沈線を垂下し、縄文RL充填施文後、波状沈線施文。	10-7
" 8 "	"	"	"	細粒砂・小礫 含、良好	鈍い橙 色		平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	"
" 9 "	"	"	"	"	橙 色		沈線を垂下し、縄文RL充填施文。	"
" 10 "	"	"	"	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、縄文RL充填施文後、波状沈線施文。	"
" 11 "	"	"	"	"	橙 色		沈線を垂下し、縄文RL充填施文後、波状沈線施文。	"

第1節 縄文時代

第253図12 第145図版	深鉢	覆土 胴部	破片	細粒砂含 良好	鈍い赤 褐色		細文R L施文後、波状沈線施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐 色		沈線を垂下し、細文R L充填施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色		〃	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い黄 橙色		細文R L R施文後、波状沈線施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃		2本の沈線で渦巻状区画、区画内細文R L充填施文。	11-6
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い橙 色		細文L施文後、沈線垂下。	10-7
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い褐 色		沈線を垂下し、細文R L充填施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	〃	鈍い赤 褐色		2本単位の平行沈線を垂下し、細文R L充填施文。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細・粗粒砂・ 小礫含、良好	灰褐色		隆帯で渦巻及び文様区画し、区画内横位の綾杉状沈線。	〃
〃 〃	〃	〃	〃	細粒砂含 良好	鈍い橙 色		沈線を垂下し、綾杉状沈線を充填施文。	〃
〃 〃	〃	覆土 底部	底 8.8 高(17.6)	〃	橙 色		2本単位の平行沈線を垂下し、細文R L充填施文。	14
〃 〃	〃	No.3 胴部	破片	〃	〃		隆帯を垂下。	15-2

遺構内出土石器観察表

Z区第14号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第14図1 第146図版	擦石	No.3	輝石安山岩 (細粒)	15.3	6.9	4.1	716.9	側面が面取りされている。
// 2 //	敲石	覆土	雲母石英片 岩	(9.2)	4.4	2.5	157.3	両端に剝離面を有する。
// 3 //	剝片石器	//	黒色頁岩	6.0	5.2	1.7	41.9	背部に自然面を残し、刃部片面調整。
// 4 //	石棒	No.4	緑泥片岩	(38.0)	(10.2)	8.4	1,258.0	破損が激しく全体形不明。

Z区第19号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第21図1 第146図版	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	15.3	13.0	5.9	1,060.0	孔は少なく、敲打痕を有する。
// 2 //	剝片石器	//	黒色頁岩	8.6	4.9	1.1	48.0	背部に自然面を残し刃部片面調整。
// 3 第146図版	剝片石器	//	//	7.6	6.3	2.6	110.3	片面に自然面を残す。

A区第30号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第35図2 第146図版	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	12.8	5.4	2.7	188.4	基部端に自然面を残す。
// 3 //	打製石斧 C	//	//	(7.7)	5.5	1.8	89.1	片面に自然面を残し基部欠損。
// 4 //	打製石斧 A	//	//	(7.8)	3.5	2.0	61.6	刃部欠損。
// 5 //	剝片石器	//	//	(9.6)	4.7	1.2	44.9	背部に自然面を残し刃部片面調整。

A区第31号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第44図1 第146図版	打製石斧 B	覆土	安山岩	15.9	5.4	2.2	224.1	片面に自然面を残す

第1節 縄文時代

第44図2 第146図版	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	10.7	4.6	1.0	52.6	片面に自然面を残す。
第44図3 〃	打製石斧 A	〃	〃	10.4	3.9	1.2	64.0	〃
〃 4 〃	打製石斧 B	〃	輝石安山岩	14.0	5.7	2.6	228.1	〃
〃 5 〃	〃	〃	黒色頁岩	11.1	4.2	2.6	116.0	〃
〃 6 〃	〃	〃	〃	10.1	4.7	1.3	68.0	〃 基部の一部欠損。
〃 7 〃	〃	〃	安山岩	(9.3)	5.0	2.2	141.2	片面に自然面を残す。 刃部欠損。
〃 8 〃	打製石斧 A	〃	輝緑岩	12.5	3.9	1.6	97.7	刃部磨減。
〃 9 〃	〃	〃	灰色安山岩	(8.0)	4.0	2.0	93.9	片面に自然面を残す。 基部欠損。
第45図1 第146図版	打製石斧 B	〃	黒色頁岩	(7.0)	4.6	1.7	73.8	片面に自然面を残す。 刃部欠損。
〃 2 〃	打製石斧 A	〃	安山岩	(7.4)	4.6	2.4	105.7	〃
〃 3 〃	打製石斧 A	〃	変質安山岩	(6.4)	3.7	1.9	54.7	刃部欠損。
〃 4 〃	打製石斧 B	〃	流紋岩?	(8.4)	5.5	1.8	87.5	片面に自然面を残す。 刃部欠損。
〃 5 〃	〃	〃	変質安山岩	(6.8)	4.2	2.0	65.1	〃
〃 6 〃	敲石	〃	輝石安山岩 (粗粒)	11.8	4.9	5.2	472.1	一端に截断面を有する。
〃 7 〃	〃	〃	黒色片岩	10.8	3.8	2.8	141.8	両端に剝離面を有する。
〃 8 〃	〃	〃	〃	(11.6)	3.2	2.2	109.0	一端に剝離面を有する。
〃 9 〃	〃	〃	〃	(8.2)	4.8	2.1	101.4	両端に剝離面を有する。
〃 10 〃	〃	〃	雲母石英片 岩	(7.6)	(3.0)	1.0	32.4	一端に剝離面を有する。
〃 11 〃	〃	〃	変質安山岩	3.8	3.5	2.8	47.0	
第46図1 第146図版	多孔石	〃	輝石安山岩 (粗粒)	22.3	13.4	13.2	3,280.0	

A区(32・34・35号住居跡)

第46図2 第146図版	多孔石	No10	輝石安山岩 (粗粒)	17.7	12.4	9.5	1,510.0	一孔を有する。
〃 3 〃	〃	No11	〃	(14.2)	(8.2)	(12.4)	1,620.0	〃
〃 4 〃	剥片石器	覆土	黒色頁岩	10.1	5.1	1.3	71.6	背部に自然面を残す。
〃 5 〃	〃	〃	〃	6.4	4.4	1.1	33.1	〃
〃 6 〃	不定形石器	〃	〃	4.6	3.6	1.2	18.8	
〃 7 〃	剥片石器	〃	珪質頁岩	4.7	4.9	0.7	15.3	

A区第32号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第50図1 第146図版	打製石斧 A	覆土	黒色頁岩	(4.5)	4.7	1.5	42.6	片面に自然面を残す。 基部欠損。

A区第34号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第55図1 第146図版	多孔石	No6	輝石安山岩 (粗粒)	30.9	21.1	19.3	1,267.0	
〃 2 〃	〃	覆土	〃	21.0	14.2	13.7	4,270.0	
第56図3 〃	石 鏃	No5	黒曜石	(1.7)	(1.6)	0.4	0.6	腸扶部のみ残存。

A区第35号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第60図1 第146図版	打製石斧 A	覆土	緑色片岩	15.0	4.7	2.1	201.4	両端部が磨滅し、刃部再調整剥離。
〃 2 〃	打製石斧 B	〃	黒色頁岩	10.5	4.9	1.5	90.3	端部に自然面を残す。 刃部磨滅。
〃 3 〃	〃	〃	〃	11.4	4.7	2.2	118.8	刃部一部欠損か。
〃 4 〃	打製石斧 A	〃	珪質頁岩	(8.5)	5.3	2.4	145.3	片面に自然面を残す。 基部欠損。

第1節 縄文時代

第60図5 第146図版	打製石斧 A	覆土	安山岩	(5.3)	4.0	1.7	44.8	基部欠損。
〃 6 〃	打製石斧 D	〃	〃	(14.7)	9.9 5.6	3.3	498.3	片面に自然面を残し、刃部磨滅、一端欠損。
第61図1	敲石	〃	輝緑岩	(8.6)	6.4	2.4	210.0	一端に剝離面を有する。
〃 2 〃	擦石		緑色片岩	(10.0)	7.0	1.3	134.5	片面及び側面に磨痕。

A区第43号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第66図1 第147図版	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	13.5	5.2	2.2	175.4	基部端に自然面を残し、刃部は磨滅し、再調整剝離。
〃 2 〃	打製石斧 A	〃	〃	11.6	4.2	1.7	112.3	基部に自然面を残し、中央から基部にかけて磨滅。
〃 3 〃	〃	〃	安山岩	(10.5)	4.9	1.6	104.1	
〃 4 〃	〃	〃	黒色頁岩	(7.5)	4.0	2.2	78.4	基部欠損。
〃 5 〃	〃	〃	〃	(7.7)	5.0	2.2	111.9	片面に自然面を残す。 基部欠損。
〃 6 〃	〃	〃	〃	(7.8)	3.8	1.5	61.4	両端部欠損
〃 7 〃	〃	〃	〃	(5.8)	3.3	1.9	45.6	基部欠損
〃 8 〃	〃	〃	安山岩	(6.4)	4.4	1.4	43.0	片面に自然面を残す 両端部欠損
第67図1 〃	擦石	No.9	緑色片岩	(17.2)	9.5	2.5	517.6	
〃 2 〃	〃	No.10	輝石安山岩 (細粒)	9.7	(4.1)	6.3	312.7	円礫を截断したものか、両面に磨痕を有する。
〃 3 〃	剝片石器	覆土	黒色頁岩	(8.2)	4.8	1.9	66.1	片面に自然面を残す。 刃部片面調整。
〃 4 〃	不定形石器	〃	〃	(3.6)	3.3	1.7	18.8	1/2欠損。
〃 5 〃	P.S	〃	〃	4.5	2.9	1.2	20.4	両面に自然面を残す。 両極打法か。

A区第209号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
--------------	-----	------	----	------------	-----------	------------	-----------	----

第73図1 第147図版	打製石斧 B	覆土	輝石安山岩	17.1	6.1	2.7	297.2	基部に自然面を残す。
〃 2 〃	〃	〃	黒色頁岩	11.8	5.2	1.2	93.5	刃部の磨滅が激しい。
〃 3 〃	〃	〃	〃	12.3	4.6	1.8	132.3	片面に自然面を残す。
〃 4 〃	打製石斧 A	〃	〃	10.1	4.5	1.9	87.6	〃
〃 5 〃	〃	〃	〃	(8.0)	4.0	1.9	69.2	刃部欠損。
〃 6 〃	〃	〃	〃	(4.6)	5.1	1.2	26.4	刃部のみ残存。 刃部磨滅。
第74図1 〃	打製石斧 B	〃	〃	12.4	6.1	2.3	191.4	刃部から基部にかけて磨滅し、片 面が特に激しい。
〃 2 〃	〃	〃	黒色頁岩	14.0	7.2	4.6	422.0	両面に自然面を残す。
〃 3 〃	〃	〃	輝緑岩	9.6	5.5	1.7	92.2	片面に自然面を残す。
〃 4 〃	〃	〃	輝石安山岩 (細粒)	(6.6)	5.5	2.3	92.7	〃 基部欠損。
〃 5 〃	打製石斧 A	〃	黒色頁岩	(8.6)	5.1	2.0	113.4	基部欠損。
〃 6 〃	打製石斧 D	〃	ホルンフェ ルス	13.6	8.4 5.8	1.7	205.2	
〃 7 〃	敲石	〃	緑色片岩	8.0	2.3	1.7	40.0	
〃 8 〃	〃	〃	雲母石英片 岩	(6.9)	2.3	1.5	29.3	両端部に剝離面を有する。
〃 9 〃	〃	〃	雲母石英片 岩	(7.5)	3.1	1.5	42.6	一端に剝離面を有する。
〃 10 〃	〃	〃	輝石安山岩 (細粒)	9.3	7.7	4.7	417.6	両面に凹有り、側面に敲打痕を有 する。
〃 11 〃	〃	〃	変質安山岩	12.6	7.0	3.6	433.4	側面敲打痕を有する。
〃 12 〃	〃	〃	輝石安山岩 (細粒)	12.8	7.2	3.6	482.4	〃
第75図1 第147図版	敲石	〃	溶結凝灰岩	13.7	5.5	3.7	424.1	両端部に敲打痕を有する。
〃 2 〃	多孔石	〃	輝石安山岩 (粗粒)	9.9	8.0	6.3	690.0	

第1節 縄文時代

第75図3 第147図版	多孔石	No.2	輝石安山岩 (粗粒)	25.8	22.5	12.5	6,550.0	
〃 4 〃	〃	覆土	〃	17.9	15.7	10.6	2,360.0	
第76図1 〃	剥片石器	〃	黒色頁岩	9.2	5.4	2.6	127.5	背部に自然面を残す。 刃部両面調整。
〃 2 〃	〃	〃	〃	9.8	4.7	1.7	91.1	片面に自然面を残す。 縁辺片面調整。
〃 3 〃	〃	〃	〃	(6.6)	5.6	1.8	80.6	〃
〃 4 〃	〃	〃	〃	8.0	4.1	1.3	37.8	背部に自然面を残す。
〃 5 〃	〃	〃	黒色安山岩	5.6	5.0	1.2	33.1	〃

A区第214号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第84図1 第147図版	打製石斧 A	覆土	輝石安山岩 (細粒)	(8.6)	4.9	2.8	163.3	片面に自然面を残し、基部は欠損し、刃部磨滅。
第84図2 〃	敲石	〃	〃	(8.5)	(7.6)	(6.1)	353.0	側面に敲打痕を有する。
〃 3 〃	〃	〃	〃	(11.8)	(11.2)	6.3	1,011.5	〃
〃 4 〃	石核	〃	黒色頁岩	7.0	5.3	5.2	261.1	3面に自然面を有する

A区第216号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第88図1 第147図版	打製石斧 B	覆土	雲母石英片 岩	(9.4)	4.7 3.9	2.1	102.0	
〃 2 〃	〃	〃	黒色頁岩	10.8	4.7	1.3	73.6	刃部磨滅。

A区第217号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第92図1 第147図版	多孔石	炉脇	輝石安山岩 (粗粒)	37.0	21.2	22.4	1,925.0	

A区第218号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第97図1 第147図版	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	11.2	5.0	1.6	99.5	片面に自然面を残す。
〃 2 〃	打製石斧 A	〃	〃	9.6	4.7	1.8	84.2	〃 刃部欠損。
〃 3 〃	打製石斧 B	〃	〃	(8.7)	4.6	1.8	83.4	〃
〃 4 〃	打製石斧 A	〃	〃	(6.8)	4.9	2.2	96.5	〃
〃 5 〃	打製石斧 B	〃	安山岩	(6.8)	4.1	1.0	27.9	片面に自然面を残す。 基部欠損。
〃 6 〃	擦石	〃	雲母石英片 岩	(7.6)	4.7	2.0	103.9	両端に截断面を有する。
〃 7 〃	磨石・敲石	〃	グラノファ イヤー	(10.1)	7.4	4.5	510.0	両面に磨痕激しい。
〃 8 〃	台石	〃	石英閃緑岩	(14.7)	(10.5)	11.8	2,670.0	片面にわずかな凹みを有する。
第97図9 〃	石皿 (多孔石)	〃	輝石安山岩 (粗粒)	(18.2)	(17.4)	6.1	2,270.0	欠損する前に孔を穿ったものと考えられる。
〃 10	多孔石	〃	〃	20.2	15.4	6.9	2,000.0	

A区第219号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第101図1 第148図版	擦石	覆土	雲母石英片 岩	14.5	8.5	1.4	274.3	縁辺に剝離面を残す。
〃 2 〃	〃	〃	黒色片岩	(8.4)	(6.8)	1.4	115.2	縁辺磨痕、一端は剝離。
〃 3 〃	多孔石	〃	輝石安山岩 (粗粒)	24.4	22.4	14.6	13,750.0	
〃 4 〃	多孔石	〃	輝石安山岩 (粗粒)	12.4	17.5	4.8	900.0	
〃 5 〃	〃	〃	〃	29.7	17.0	12.5	6,020.0	

第1節 縄文時代

A区第220号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第106図1 第148図版	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	17.3	14.5	10.3	3,100.0	両面に磨痕を有し、後に剝離。

A区第223号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第117図1 第148図版	擦石	覆土	輝石安山岩 (細粒)	(11.0)	(19.0)	6.8	930.0	両面に磨痕を有し、後に剝離。

A区第226号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第122図1 第148図版	剥片石器	覆土	黒色頁岩	7.0	5.8	0.8	33.5	片面に自然面を残す。 刃部片面調整。

A区第227号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第127図1 第148図版	打製石斧 A	覆土	灰色安山岩	(6.0)	4.3	2.5	90.4	片面に自然面を残す 基部欠損

A区第229号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第135図1 第148図版	敲石	覆土	輝石安山岩 (細粒)	14.3	(9.6)	6.2	987.0	片面に敲打痕激しい。 一部欠損。
〃 2 〃	〃	〃	玢岩	(7.1)	(7.2)	7.3	592.3	
〃 3 〃	〃	〃	輝石安山岩 (細粒)	12.1	6.9	4.9	618.1	両側に磨痕を有し、両端部敲打痕 を有する。

A区第1号土器溜り

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第141図1	打製石斧 A	覆土	緑色片岩	10.0	3.9	2.4	104.6	刃部欠損。
〃 2	打製石斧 B	〃	安山岩	(9.3)	5.8	1.8	117.7	片面に自然面を残す。 基部欠損し、刃部と中央部が磨滅。

A区(220・223・226・227・229号住居跡、1・2号土器溜り) B区(63号住居跡)

第141図3	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	(4.4)	4.6	1.2	35.4	両端欠損。
〃 4	敲石	〃	輝石安山岩 (細粒)	10.7	7.8	5.3	667.3	側面に敲打痕激しい。
〃 5	〃	〃	〃	10.6	8.9	3.2	456.9	〃
〃 6	〃	〃	〃	14.1	9.8	4.9	980.0	〃

A区第2号土器溜り

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第144図1	打製石斧 B	覆土	輝石安山岩	11.5	4.7	1.7	99.5	片面に自然面を残し、刃部と中央部が磨滅。
〃 2	打製石斧 A	〃	安山岩	(6.1)	3.5	1.3	37.2	片面に自然面を残す。 基部欠損。
〃 3	擦石	〃	雲母石英片 岩	11.5	10.1	1.6	291.7	全面に磨痕を有する。
〃 4	敲石・擦石	〃	輝石安山岩 (粗粒)	14.6	13.4	10.1	2,960.0	円礫で側面に磨痕を有する。
第144図5	台石	〃	〃	26.8	(19.6)	12.9	6.9	
〃 6	〃	〃	〃	(17.3)	(19.9)	6.7	3,300.0	片面に磨痕を有する。
第145図1	〃	〃	〃	(18.7)	(17.2)	10.6	4,430.0	両面に敲打痕激しい。
〃 2	〃	〃	〃	(13.5)	(14.1)	12.3	2,960.0	
〃 3	多孔石	〃	〃	15.4	9.8	9.3	1,390.0	
〃 4	〃	〃	〃	23.8	18.3	9.9	3,850.0	

B区第63号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第152図2 第148図版	打製石斧 B	覆土	変質安山岩	5.8	3.4	1.6	42.0	
〃 3 〃	〃	〃	安山岩	(4.9)	4.9	1.0	34.3	片面に自然面を残す。 基部欠損。

第1節 縄文時代

〃 4 〃	〃	〃	黒色頁岩	16.2	4.9	1.6	124.4	刃部及び中央部磨滅。
第153図1 〃	打製石斧 A	〃	〃	(8.6)	4.6	1.5	67.8	基部欠損し、片面の磨滅激しい。
〃 2 〃	打製石斧 B	〃	〃	(6.3)	4.6	2.4	88.0	片面に自然面を残す。 基部欠損。
〃 3 〃	〃	〃	珪質頁岩	(7.8)	5.0	1.6	68.3	片面に自然面を残す。 刃部欠損、基部磨滅
〃 4 〃	〃	〃	安山岩	(6.4)	5.0	1.5	39.1	片面に自然面を残す。 刃部欠損。
〃 5 〃	打製石斧 A	〃	〃	(5.1)	4.6	2.0	57.5	両端欠損。
〃 6 〃	敲石	〃	輝石安山岩 (細粒)	12.7	9.4	5.5	920.0	
〃 7 〃	凹石	〃	〃	10.5	7.0	5.1	515.8	両面に磨痕を有する。
〃 8 〃	石皿 (多孔石)	〃	〃	(18.9)	12.3	5.3	1,400.0	裏面に孔多い。
〃 9 〃	剥片石器	〃	黒色頁岩	6.2	3.8	0.7	14.0	刃部片面調整。
〃 10 〃	〃	〃	〃	5.5	4.4	3.4	54.0	〃
〃 11 〃	〃	〃	〃	5.4	6.7	1.0	28.0	〃
〃 12 〃	〃	〃	〃	6.6	5.4	2.4	83.0	片面に自然面を残す。 刃部片面調整。
第154図1 〃	〃	〃	変質玄武岩	11.4	6.6	1.5	103.0	〃
〃 2 〃	〃	〃	黒色頁岩	5.5	5.0	1.6	44.0	〃

B区第66号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第157図1 第148図版	打製石斧 A	覆土	灰色安山岩	4.5	3.1	1.1	19.0	基部のみ残存し、磨滅が激しい。

B区第70号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
--------------	-----	------	----	------------	-----------	------------	-----------	----

B区 (66・70・71・154・156号住居跡)

第160図2 第148図版	打製石斧 A	覆土	黒色頁岩	(6.3)	4.1	0.9	31.5	刃部欠損。
〃 3 〃	敲石	〃	雲母石英片 岩	(9.0)	3.4	1.7	85.2	〃
〃 4 〃	凹石	〃	輝石安山岩 (細粒)	11.6	7.6	3.4	300.0	片面に凹を有する。
〃 5 〃	剥片石器	〃	黒色頁岩	9.4	5.5	2.1	93.0	片面に自然面を残す。
〃 6 〃	多孔石	〃	輝石安山岩 (粗粒)	28.6	19.1	12.7	7,680.0	

B区第71号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第164図1 第148図版	擦石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	(6.9)	6.8	4.5	310.0	両面及び側面に磨痕を有する。
〃 2 〃	砥石	〃	砂岩	(7.8)	6.1	1.4	75.0	〃

B区第154号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第168図1 第148図版	石皿 (多孔石)	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	17.9	(13.4)	6.9	1,780.0	
〃 2 〃	多孔石	〃	〃	21.9	19.0	17.1	5,700.0	
〃 3 〃	剥片石器	〃	黒色頁岩	8.3	4.1	1.0	35.0	刃部両面調整。
〃 4 〃	〃	〃	〃	5.9	4.8	0.9	25.8	〃

B区第156号址

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第174図1 第149図版	打製石斧 A	覆土	黒色頁岩	9.4	4.2	1.8	64.0	片面に自然面を残し、基部は欠損し、刃部磨滅。
〃 2 〃	多孔石	No 3	輝石安山岩 (粗粒)	18.9	14.0	14.8	2,250.0	
〃 3 〃	〃	No 7	〃	25.4	21.1	16.0	6,050.0	

第1節 縄文時代

” 4 ”	”	No 9	”	20.7	16.9	8.6	2,930.0	
第175図1 ”	”	No 6	”	32.0	21.0	17.0	10,350.0	
” 2 ”	”	覆土	”	20.1	10.5	4.1	1,060.0	
” 3 ”	”	No 5	”	23.7	21.3	17.6	8,000.0	
第176図1 ”	”	No 4	”	16.3	16.0	9.9	2,950.0	
” 2 ”	”	覆土	”	15.3	15.6	13.0	2,070.0	
” 3 ”	”	No10	”	28.2	21.3	13.0	7,330.0	
第177図1 ”	”	覆土	”	21.7	14.9	10.9	3,780.0	
” 2 ”	”	”	”	21.8	13.4	11.4	2,400.0	
” 3 ”	”	No 8	”	23.6	17.7	12.0	3,380.0	
第178図1 ”	多孔石	覆土	”	20.5	16.6	9.9	3,070.0	
” 2 ”	”	No11	”	21.3	14.0	11.8	3,790.0	
” 3 ”	”	覆土	”	(10.3)	17.4	6.6	1,470.0	
” 4 ”	”	”	”	11.3	9.1	7.3	790.0	
第179図1 ”	剥片石器	”	黒色頁岩	7.9	6.0	1.0	44.0	片面に自然面を残す。 刃部片面調整。
第179図2 ”	剥片石器	覆土	黒色頁岩	7.0	6.1	2.3	83.0	両端に自然面を残す。
” 3 ”	”	”	”	6.2	3.6	0.8	17.0	刃部片面調整。
” 4 ”	”	”	”	5.2	3.5	1.4	24.0	
” 5 ”	”	”	”	6.4	3.4	0.8	13.0	

B区第164号住居跡

B区(164・165号住居跡、6・7号屋外埋甕、2号炉)

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第185図1 第149図版	打製石斧 A	覆土	点紋頁岩	10.1	3.7	1.3	50.0	
〃 2 〃	打製石斧 B	〃	黒色頁岩	(6.7)	4.8	1.6	52.3	片面に自然面を残す。 基部欠損。
〃 3 〃	剥片石器 〃	〃	〃	6.6	4.5	1.8	62.0	
〃 4 〃	〃 〃	〃	赤色珪質岩	4.7	4.3	2.0	31.0	背部に自然面を残す。

B区第165号住居跡

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第165図1 第149図版	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	17.0	13.0	12.9	1,500.0	

A区第6号屋外埋甕

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第199図1	磨製石斧	掘り方内	変輝緑岩	8.3	3.9	1.6	87.4	刃部に再調整剥離を有する。

A区第17号屋外埋甕

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第207図1	磨製石斧	掘り方覆土	変輝緑岩	(5.7)	(2.5)	2.1	29.5	一部に剥離面を有する。
〃 2	敲石	掘り方底面	輝石安山岩 (粗粒)	(6.7)	9.0	4.2	303.2	1/2残存。
第208図1	多孔石	掘り方底面	輝石安山岩 (粗粒)	21.9	12.7	13.5	2,930.0	
〃 2	〃	〃	〃	18.1	15.1	10.3	2,880.0	

A区第2号炉

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第212図1	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	18.5	17.5	12.0	4,150.0	

第1節 縄文時代

// 2	//	//	//	14.2	16.4	10.2	1,600.0	
// 3	//	//	//	28.8	20.8	14.6	7,000.0	

Z区第4号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第225図3 第149図版	板状石製品	覆土	輝石安山岩 (細粒)	6.4	4.6	1.4	55.3	片面中央に孔を有する。 全面に磨痕を有する。

Z区第13号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第226図1 第149図版	磨製石斧	No1	輝石安山岩	12.1	5.1	3.2	304.1	刃部に再調整剥離を有する。

Z区第16号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第227図25	打製石斧 B	No10	黒色頁岩	11.0	4.5	2.1	97.0	片面に自然面を残す。 刃部磨滅。
// 26	剥片石器	覆土	黒色頁岩	5.9	5.2	1.2	22.2	背部に自然面を残す。

Z区第27号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第227図4	擦石	覆土	流紋岩	14.1	6.5	4.1	583.7	両面の磨痕激しい。
// 5	敲石	No12	輝石安山岩 (細粒)	6.4	3.8	2.7	102.0	

Z区第30号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第228図4	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	28.0	24.0	203.0	12,500.0	

Z区第99号土坑

Z区(4・13・16・27・30・99・117号土坑) A区(24・25・121・210・239号土坑)

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第233図28	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	25.5	22.5	16.8	7,380.0	

Z区第117号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第235図16	石核	覆土	閃緑岩	(6.0)	6.7	4.5	198.3	一面に自然面を残す。 全面磨滅。

A区第24号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第236図1	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	(15.8)	(10.3)	8.5	1,100.0	

A区第25号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第238図63	剥片石器	覆土	黒色頁岩	4.0	4.8	1.2	23.5	片面に自然面を残す。 刃部両面調整。

A区第121号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第240図1	多孔石	No 5	輝石安山岩 (粗粒)	(22.7)	(17.2)	7.5	2,500.0	

A区第210号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第241図10	多孔石	No12	輝石安山岩 (粗粒)	21.8	19.4	18.5	8,600.0	

A区第239号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第242図21	打製石斧 B	覆土	安山岩	(6.0)	4.8	1.0	38.5	片面に自然面を残す。 基部欠損。

第1節 縄文時代

A区第243号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第243図1 第149図版	凹石	No.1	緑色片岩	15.5	6.8	2.9	438.9	縁辺に剝離を有する。

A区第274号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第244図14	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	9.9	5.0	1.6	73.0	片面に自然面を残す。 刃部磨滅。
// 15	剝片石器	//	//	7.3	4.2	1.1	25.8	片面に自然面を残す。

A区第334号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第245図1	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	11.9	5.5	2.0	133.7	片面に自然面を残す。 刃部磨滅。
第245図2	多孔石	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	29.3	17.7	14.5	5,640.0	
// 3	//	//	//	23.9	23.2	19.2	11,350.0	

B区第101号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第227図5	打製石斧 C	覆土	黒色頁岩	9.3	5.9	1.7	76.0	端部に自然面を残す。
// 18	敲石	//	雲母石英片 岩	7.2	3.8	2.8	87.7	1/2残存。

B区第109号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第248図1	多孔石	覆土	輝石安山岩	28.9	24.4	12.9	8,450.0	片面に磨痕を有する。

B区第144号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第250図35	打製石斧 B	覆土	黒色頁岩	(5.7)	4.8	1.9	65.4	両端欠損。

B区第148号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第251図10 第149図版	石皿	覆土	輝石安山岩 (粗粒)	15.0	11.5	4.2	1,160.0	完形。 裏面に1孔を有する。

B区第155号土坑

挿図番号 図版番号	形状名	出土位置	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第253図24	打製石斧 B	No.3	黒色頁岩	(10.0)	5.0	1.3	85.6	片面に自然面を残す。 刃部、中央部に磨痕を有する。
// 25	剥片石器	覆土	//	3.6	3.5	0.9	8.5	

第2節 弥生時代

J区第12号住居跡

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	目度 (cm)	胎焼	土成	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
338-1 151	甕	ピット周辺 完形	口 16.0 頸 13.2 胴 20.5 底 8.0	粗粒砂を多量 に混入 良	好	褐	底部から外傾しながら立ち上がり胴部で最大径を計る。 肩部は比較的直線的に頸部に向かい立ち上がる。 口縁部は受け口状口縁を呈する。 器面の風化が著しい。	口・6本一単位の波状文。 頸・6本一単位の簾状文、左回り。 肩・6本一単位の波状文が6段に施されている。	高 26.7

J区第13号住居跡

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	目度 (cm)	胎焼	土成	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
340-1	壺	床直層 口縁部 破片		細 良	砂 好	淡 黄	口縁直下が若干肥厚している。 内面は刷毛目。	頸・簾状文、右回り。	
340-2	壺	床直層 口縁部 破片		細 良	砂 好	灰黄褐	外傾し立ち上がった口縁が口唇直下で垂直に立ち上がり受け口状口縁を呈する。内面は横撫で。	口・波状文。	
340-3	甕	床直層 口縁部 破片		細 良	砂 好	暗灰黄	外反する口縁が垂直に立ち上がり受け口状口縁を呈する。	口唇・刷毛状乃至細文原体の押捺。	
340-4	壺 ?	床直層 口縁部 破片		微粒砂を含む 良	好	淡 黄	口縁部はやや内湾している。		
340-5	壺 ?	床直層 口縁部 破片		細 良	砂 好	鈍黄橙	口縁部は内湾している。 一部に丹塗が残存する。		
340-6	壺 ?	床直層 口縁部 破片		細 良	砂 好	黒 褐	口縁部は外傾しながら立ち上がる。 内面が複合口縁に成っている。		内面は暗 褐色
340-7	甕	床直層 口縁部 破片		細 良	砂 好	浅黄橙	小単位の波状口縁。器外面口唇直下は斜位に刷毛目。		
340-8	壺	床直層 口縁部 破片		細 良	砂 好	暗 褐	口縁全体が肥厚している。	口・5本一単位の波状文。 頸・簾状文。	

340-9	壺	床直層 頸・肩部 破片			内外面とも研磨。	頸・簾状文 (9本以上) 右回り。	
340-10	壺	床直層 頸部 破片	微 良	粒 好	浅 黄	外面は刷毛状工具による横撫で後研磨。内面は研磨。	頸・5本一単位の簾状文を2段右回り。
340-11	甕	床直層 頸部 破片	細 良	粒 好	鈍 橙		頸・5本一単位の簾状文を2段右回り。 8と同一 個体
340-12	壺	床直層 頸部 破片	細 良	粒 好	鈍 黄橙	外面全体は横撫で。内面は研磨。	頸・簾状文、右回り。
340-13	甕	床直層 肩部 破片	細 良	粒 好	黒 褐		頸・6本一単位の簾状文、右回り。 肩・波状文。
340-14	甕	床直層 肩部 破片	細 良	粒 好	鈍 黄橙		肩・簾状文、細文 (R無節) 施文後平行沈線を 施し区画している。
340-15	甕	床直層 頸部 破片	細 良	粒砂を混入 好	鈍 黄橙	内面は刷毛状工具による横撫で後研磨を施す。 外面は刷毛状工具による横撫で後研磨を施す。	頸・沈線。(簾状文)
340-16	甕	貯蔵穴 肩部 破片	細 良	粒砂を混入 好	鈍 黄橙		肩・2段の波状文。
340-17	甕	床直層 肩部 破片	細 良	粒 好	鈍 黄橙		肩・簾状文及び波状文を施す。
340-18	甕	床直層 口縁部 破片	細 良	粒砂を混入 好	橙	外面は刷毛撫で。	
340-19	壺	床直層 ? 破片	細 良	粒砂を混入 好	橙		肩・斜行沈線文下に簾状文を施す。
340-20	壺	床直層 胴部 破片	細 小 良	粒砂を混入 礫 含有 好	橙		胴・5本一単位の渦巻文を施す。
340-21	壺	床直層 肩部 破片	細 良	粒砂を混入 好	灰 黄褐	外面は刷毛撫で。	

第2節 弥生時代

340-22	壺	床直層 胸部 破片			細粒砂を混入 良 好	暗 褐		胴・斜行沈線文。
340-23	壺 ?	床直層 胸部 破片			細粒砂を混入 良 好	鈍黄橙		胴・波状文。
340-24	高 坏	床直層 口縁部 破片			細粒砂を混入 良 好	浅黄橙	外面は撫で。鶏冠状を呈する波状口縁。	
340-25	壺 ?	床直層 底部 破片	底	9.9	細粒砂を混入 良 好	鈍黄橙		
340-26	甕 ?	床直層 底部 破片	底	10.0	細粒砂を混入 良 好	橙		
340-27	甕 ?	貯蔵穴 底部	底	9.1	細 粒 砂 良 好	黄 褐		
340-28	壺 ?	床直層 底部 破片	底	6.8	細 粒 砂 良 好	黒及び 鈍 褐	乾燥時にヒビ割れをおこしている。	
340-29	壺 ?	床直層 底部 破片	底	10.4	細粒砂に礫混 入 良 好	浅黄橙	外面は成形直後撫での後若干時間経過後、部分的に再度撫でを行なっているが、研磨とは異なる底面は粘土紐によりなる。	
340-30	壺 ?	床直層 底部 破片	底	5.3	細 粒 砂 良 好	灰	内外面共に刷毛状工具による撫でを施している。	
340-31	甕 ?	床直層 底部 破片	底	6.8	細 粒 砂 良 好	暗 褐		
340-32	壺 ?	床直層 底部 破片	底	9.1	細粒砂に微礫 混入 良 好	鈍黄橙		
340-33	壺 ?	床直層 底部 破片	底	7.2	細粒砂に小礫 混入 良 好	鈍黄橙	内面は挖撫でを施している。	
340-34	壺 ?	床直層 底部 破片	底	9.0	細 粒 砂 良 好	鈍 橙	外面は挖撫で、内面は刷毛目による撫でを施している。	
340-35 151	壺 ?	口縁・頸部 破片	口 頸	19.5 10.6	細粒砂を混入 良 好	浅黄橙	口縁は受け口状を呈する。 内面は刷毛状工具による撫でを施している。	頸・沈線を施している。 8点の接 合

J区第18号住居跡

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	目 度 (cm)	胎 焼 成	色 調	器形・成形・整形の特徴	文 様	備 考
342-1	甕	床直 口縁部 細片		細粒砂を混入 良 好	褐 灰	口縁部は「く」の字状に外反している。 口唇部にRL原体押捺。		
342-2	甕	床直 口縁部 細片		細粒砂を混入 良 好	鈍 橙	外反する口縁中位程が肥厚している。		
342-3	壺 ?	床直 口縁部 破片		微粒砂を混入 良 好	鈍 橙	口縁は内湾する。	口唇・刻目。	
342-4	壺 ?	覆土内 口縁部 破片		微粒砂を混入 良 好	赤褐と 鈍 橙		口・鋸歯文の内区に斜行沈線。	
342-5	甕	覆土内 頸・肩部 破片		粗粒砂を混入 良 好	橙	外面の波状文については風化が著しい為本数は不分明。	頸・4本一単位の髷状文、右回り。波状文。 肩・羽状直線文。	2点の接 合
342-6	甕	床直・覆土内下層 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐 と 橙	内面は研磨。	頸・8本一単位の髷状文、右回り。 肩・7本一単位の波状文を2段に施す。	2点の接 合
342-7	甕	床直 頸部 破片		細粒砂を混入 良 好	橙	内面は刷毛状工具の撫で後横撫で(指撫で)。	頸・7本一単位の髷状文、右回り。	
342-8	甕	床直 頸部 破片		細粒砂を混入 良 好	橙		頸・7本一単位の髷状文、左回り。 肩・鋸歯文?	
342-9	甕	床直 頸部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐		頸・5本一単位の波状文。 肩・波状文。	
342-10	甕	覆土内 肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	褐 灰		肩・波状文。条痕(「コ」の字重文?)。	2点の接 合
342-11	甕	覆土内 肩部 破片		粗粒砂を混入 良 好	褐 灰		肩・波状文。	2点の接 合
342-12	甕	床直 肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐		肩・5本一単位の波状文を2段に施す。羽状直 線文。	

第2節 弥生時代

342-13	壺	床直 頸部・肩部 破片		微粒砂を混入 良 好	鈍 褐		頸・7本一単位の簾状文、左回り。鋸歯文内に 斜行沈線文。
342-14	壺	覆土内 肩部 破片		微粒砂を混入 良 好	赤 褐	外面は研磨。内面は風化が著しい。	胴・鋸歯文の一部（斜行沈線により充填）。
342-15	壺	覆土下層 肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐		肩・鋸歯文の沈線区画内に刺突文。
342-16	壺	床直 頸部 破片		粗粒砂を混入 良 好	灰 白		頸・平行沈線。
342-17	甕	床直 胴部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐		胴・波状文。羽状直線文。
342-18	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良 好	橙		胴・羽状直線文。
342-19	甕	覆土下層 胴部		細粒砂を混入 良 好	褐 灰		胴・羽状直線文。
342-20	甕	床直 胴部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐	外面は刷毛目。	
342-21	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂に小礫 を含有する 良 好	浅黄橙	凹凸の著しい工具による撫で。	胴・刷毛状工具による撫で。
342-22	甕	床直 胴部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 赤褐	外面は器面が荒れている。内面は研磨。	2点の接 合
342-23	甕	覆土内 底部 破片	底 5.1	細粒砂を混入 良 好	鈍 褐	外面は鏡撫で後研磨。内面は研磨。	
342-24	壺	床直 口縁部 破片		粗粒砂を混入 良 好	橙	受け口状口縁。	口・5本一単位の波状文。
342-25	壺	覆土下層 口縁部 破片		粗粒砂を混入 良 好	橙	器面の風化が著しい。	口・7本一単位の波状文。

342-26	壺	床直 口縁部 破片		細粒砂を混入 良 好	浅黄橙	口唇部には棒状工具乃至縄文原体による押捺。			
342-27	壺	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良 好	橙	口縁部は刷毛状工具による構撫で。			口唇部を 欠損
342-28	小型壺	床直 破片 口縁・頸・肩部 %	口 10.3 頸 9.2	細粒砂を混入 良 好	鈍 褐	口唇部には棒状工具による押捺により波状口縁。			

J区第20号住居跡

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土成 焼	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
344-1	壺	覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍		頸・糜状文、左回り。 肩・波状文。	
344-2	壺	覆土内 肩部 破片		細粒砂を含む 良 好	黒		肩・波状文。	内面は橙 色
344-3	壺	覆土内 胸部 破片		細粒砂を含む 良 好	淡 黄		胴・単節LRの縄文・刷毛目。	
344-4	壺	覆土内 胸部 破片		細粒砂を混入 良 好	橙	刷毛目の撫で後鏡撫で。		
344-5	壺	覆土内 肩部 破片		細粒砂を含む 良 好	淡黄橙		肩・横線下に鋸歯文、鋸歯文内に平行沈線文。	3点の接 合
344-6	壺	覆土内 肩部 破片		細粒砂を含む 良 好	赤		肩・鋸歯文内に沈線文。	内面は灰 白色
344-7	壺	覆土内 底部 破片	底 7.4	細粒砂 良 好	鈍 褐	器面の風化が著しい。		6点の接 合
344-8	壺	覆土内 底部 破片	底 9.5	細粒砂 良 好	淡 橙	内面は刷毛目。		2点の接 合
344-9	壺	床直層 胴・底部 破片	底 10.0	細粒砂を含む 良 好	鈍	底部は刷毛目。		

344-10	高 环	覆土内 口縁部・体部 欠	口 20.0	細粒砂を含む 良 好	明黄褐	内面は赤色塗彩。器面の風化が著しい。			2点の接 合
J 区第45号住居跡									
挿図 番号	器 種	出土位置 遺存状態	度 目 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・成形・整形の特徴	文 様	備 考
347-1	甕	覆土内 口縁部 破片		細 良	砂 好	暗 褐	口縁部は外反している。内外面とも横撫で。		
347-2	壺	覆土内 頸・肩部 破片		細 良	砂 好	鈍黄褐		頸・7本一単位の簾状文、右回り。 肩・波状文。	
347-3	壺	覆土内 頸・肩部 破片		細 良	砂 好	橙	外面は刷毛目。	頸・6本一単位の簾状文、右回り。	2点の接 合
347-4	壺	覆土内 頸部 破片		細 良	砂 好	浅黄橙		頸・簾状文、右回りを2段に施す。右回り。	
347-5	壺	覆土内 頸・肩部 破片		細 良	砂 好	暗 褐		頸・5本一単位の波状文を2段に施す。 肩・羽状直線文。	
347-6	壺	覆土内 胸部 破片		微 良	砂 好	灰 褐	外面は刷毛目。	胴・6本一単位の簾状文。	
347-7	壺	覆土内 肩部 破片		細 良	砂 好	鈍黄褐		肩・波状文。	
347-8	甕	覆土内 胸部 破片		細 良	砂 好	灰 白	外面は研磨を部分的に認められるが、全体に風化が著しい。		7点の接 合
347-9	甕	覆土内 底部 破片	底 6.0	細 良	砂 好	鈍黄橙			
348-1 151	壺	覆土内 底部以外の欠	口 15.1 頸 9.6 胴 29.5 器高31.2	細 良	砂 好	鈍 橙	底部から曲線を描きながら立ち上がり、胸中位程で最大径(29.5cm)を計り、頸部に向かい窄んでいる。頸部直下には刷毛状工具による撫でを施している。口縁部は外反し斜位に刷毛状工具による撫でを施している。口唇直下では横位に刷毛状工具による撫でを施している。内面は頸部下で撫でを施し、口縁部では刷毛状工具による撫でを横位乃至斜位に施している。	頸・簾状文。	

348-2 151	壺	覆土内 口縁部 破片	口 17.9	細 良	砂 好	橙	口唇直下は刷毛目による横撫で、それより下位は斜位の刷毛目による撫でを施し、頸部は沈線による横線を施している。風化が著しい。	頸・横位の沈線	3点の接 合
348-3	壺	覆土内 胴部 破片		粗粒砂を混入 良	好	浅黄橙	刷毛目。		2点の接 合
348-4	壺	覆土内 胴部 破片		粗粒砂を混入 良	好	浅黄橙	刷毛無で。風化が著しい。		2点の接 合
348-5	壺	覆土内 胴部 破片		細 良	砂 好	鈍黄褐	刷毛目。		
348-6	壺	覆土内 肩・胴部 破片	胴 34.2	細 良	砂 好	鈍黄橙	直線的に外傾しながら立った胴が内湾気味に肩を張り「く」の字を呈する様に立ち上がる。		2点の接 合
348-7	壺	覆土内 胴部 破片	胴 31.0	細粒砂を混入 良	好	鈍	全体的に風化が著しく整形痕の遺存が悪い。部分的に刷毛目による撫でを遺存する。(胴最大部を遺存する。)		
348-8	壺	覆土内 胴部 破片		微粒砂を混入 良	好	鈍	刷毛目を部分的に遺存するが、全体的に風化が著しい。		
348-9	壺	覆土内 胴部 破片		粗粒砂を混入 良	好	浅黄橙	刷毛目を部分的に遺存するが、風化が著しい。		
348-10	高坏	覆土内 底部 破片		細 良	砂 好	赤	外面は風化が著しく整形等の見分けはできない。		2点の接 合

I区第74号住居跡

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎 焼	土 成	色 調	器形・成形・整形の特徴	文 様	備 考
350-1	甕	覆土内 口縁・頸部	口 13.0 頸 10.3	細 良	砂 好	鈍	口縁部は外傾し、外面は刷毛状工具による撫で施す。器内外面共風化が著しい。	頸・5本一単位の簾状文、右回り。	3点の接 合
350-2 151	甕	覆土内 %残存	口 13.4 頸 11.0 胴 16.2 底 7.7 器高19.5	細 良	砂 好	鈍	内外面とも風化が著しく整形の痕跡を認める事ができない。	口唇・L Rの縄文痕。 頸・7本一単位の簾状文、右回り。 肩・6本一単位の波状文を2段に施す。	15点の接 合

第2節 弥生時代

350-3	甕	甕土内 口縁・頸・肩部 %残存	口 16.9 頸 14.1	細粒砂に粗粒 砂混入 良 好	黒 褐	口縁部は外反し、刷毛状工具による撫でを施す。	口・刻目文。 頸・6本一単位の波状文と5本一単位の簾状文、左回りを施している。 肩・6本一単位の波状文を3段施している。	4点の接 合
350-4	甕	甕土内 口縁・頸・肩部 破片	口 12.6 頸 11.8	細粒砂に粗粒 砂混入 良 好	褐 灰	口縁部は外傾する。	頸・6本一単位の簾状文、左回り。 肩・6本一単位の波状文を3段に施す。	2点の接 合
350-5	甕	甕土内 口縁・頸・肩部 %残存		細 粒 砂 良 好	橙	口縁部は外傾する。	口・6本一単位の波状文。 頸・6本一単位の簾状文。器面の風化が著しい為、筋の部分が不分明。 肩・6本一単位の波状文。	3点の接 合
350-6 151	甕	甕土内 口縁・頸・肩部 破片	口 13.4 頸 12.0 胸 18.6	微粒砂に小礫 混入 良 好	暗 褐	最大径を胸部に有する。頸部に向かい内湾し、口縁部はやや外傾しながら立ち上がる。口唇部内面は複合口縁を呈し、指頭圧痕が認められる。器面全体に刷毛状工具による撫でを施している。	口唇・縄文痕。 頸・5本一単位の簾状文、右回り。 肩・R L縄文原体の横軋。	
350-7	甕	甕土内 口縁部 破片		細 粒 砂 良 好	褐 灰		頸・6本一単位の波状文。 口唇・棒状工具により刻み目を施す。	
350-8	甕	甕土内 口縁部 破片		細粒砂に粗粒 砂混入 良 好	灰黄褐	外面は刷毛状工具による撫で。	口唇・棒状工具により刻み目を施す。	
350-9	甕	甕土内 口縁部 破片		細 粒 砂 良 好	赤 褐	外面は刷毛目。	器外面に赤色顔料の塗彩。	
350-10	甕	甕土内 口縁部 破片		細 粒 砂 良 好	褐 灰	外面は刷毛撫で。 内面は横撫で。	頸・簾状文、左回り。	
350-11	甕	甕土 口縁部 破片		粗 粒 砂 良 好	灰 褐	内外面とも風化が著しい。受け口状を呈する？	胸・7本以上一単位とする波状文。	
350-12	甕	甕土内 口縁部 破片		小礫を含有する 粗粒砂良好	橙	内面は刷毛目。受け口状を呈する。	胸・8本一単位の波状文。	
350-13	甕	甕土内 頸部 破片		小礫を含有する 粗粒砂良好	鈍 橙	器外面は刷毛撫で後簾状文を施す。	頸・5本一単位の簾状文、右回り。羽状直線文。	

350-14	甕	覆土 頸部 破片		粗 良	粒 砂 好	橙 鈍	内面は横撫で。 外面は風化が著しい。	頸・簾状文、右回り。	
350-15	甕	覆土内 肩部 破片		粗 良	粒 砂 好	橙 鈍		肩・6本一単位の簾状文、右回り。	
350-16	甕	覆土内 頸部 破片		粗 良	粒 砂 好	灰黄褐		頸・簾状文。 肩・6本一単位の波状文。	
350-17	甕	覆土内 頸部 破片		粗粒砂に小礫 混入 良	鈍 好	褐		頸・簾状文。 肩・7本一単位の波状文。	
350-18	甕	覆土内 頸部 破片		粗 良	粒 砂 好	鈍黄橙		頸・簾状文。 肩・波状文。	
350-19	甕	覆土内 頸部 破片		細粒に粗粒砂 混入 良	鈍黄橙	横位の刷毛撫で。 内面は横撫で。		頸・簾状文。 肩・6本一単位の波状文。 胴・羽状直線文。	
350-20	甕	覆土内 頸部 破片		細 良	粒 砂 好	褐 灰	内面は刷毛目。	頸・簾状文。 肩・6本一単位の波状文。	
350-21	甕	覆土内 胴部 破片		粗 良	粒 砂 好	褐 灰	外面は刷毛目。 内面は横撫で。	肩・横線文内に6本一単位の波状文。	
350-22	甕	覆土内 胴部 破片		細 良	粒 砂 好	橙 鈍	外面は刷毛目。 内面は風化が著しい。	胴・6本一単位の波状文。	
350-23	甕	覆土内 胴部 破片		粗 良	粒 砂 好	黒 褐		胴・7本一単位の波状文。	
350-24	甕	覆土内 肩・胴部 破片		細粒砂を混入 良	橙 好	橙	内面は横撫で。 外面は風化が著しい。	肩・波状文。	3点の接 合
350-25	甕	覆土内 頸部 破片		細粒砂に粗粒 砂を混入 良	鈍 好	橙		胴・横線下に無節L縄文原体の横転。	
350-26	甕	覆土内 頸部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良	褐 好	灰	内面は横撫で。	胴・無節R縄文原体の横転。	

第2期 弥生時代

350-27	壺	覆土内 頸部 破片		細 粒 良	砂 好	鈍 橙		胴・無節R縄文原体の横転。		
350-28	壺	覆土内 頸部 破片		細粒砂に粗粒砂を混入良好		鈍 褐	内面は横撫で。	胴・三角形の波状文。		
350-29	壺	覆土内 胴部 破片		粗粒砂 良	砂 好	浅黄橙		胴・斜位に沈線を施す。		2点の接 合
350-30	壺	覆土内 胴部 破片		粗粒砂 良	砂 好	鈍黄橙		胴・三角形の沈線。		
350-31	壺	覆地内 胴部 破片		細粒砂 良	砂 好	褐		胴・羽状直線文。		
350-32	壺	覆土内 胴部 破片		粗粒砂 良	砂 好	鈍 橙		胴・横線。		
350-33	壺	覆土内 胴部 破片		細粒砂 良	砂 好	鈍 褐	内面は横方向に刷毛目調整。	胴・羽状直線文。		2点の接 合
350-34	壺	覆土内 肩・胴部 破片		粗粒砂に小礫を混入良好	好	橙	外面は横方向に刷毛目調整。 内面は摩擦が激しい。	頸・4本一単位以上の波状文・無節R縄文原体の横転(波状文に先行する)後横線を施す。		5点の接 合内面は 赤橙色
351-1	壺	覆土内 頸・肩・胴部 破片	頸 9.3 胴 12.5	細粒砂 良	砂 好	鈍黄橙	内面は斜方向に刷毛目調整。	頸・糜状文、右回り。 肩・波状文。		3点の接 合
351-2	小形壺	覆土内 頸・肩・胴部 破片	頸 9.9 胴 10.9	粗粒砂 良	砂 好	鈍黄橙	外面は風化が著しい。 内面は横撫で。	頸・糜状文。 胴・波状文。		
351-3	台付壺	覆土内 口縁・頸・肩・胴部 破片	頸 10.0	小礫を含有する細粒砂 良	好	鈍赤褐	曲線的胴部から頸部が「く」の字状に外傾する。 器面は風化が著しい。	頸・4本一単位の糜状文。		
351-4	台付壺	覆土内 底部 破片	底 9.6	粗粒砂を混入 良	好	橙	曲線的胴部から頸部が「く」の字状に外傾する。外器面に一部縦位の刷毛撫でを認める。			底の一部 褐灰色
351-5	壺	覆土内 底部 破片	底 7.8	微粒砂を混入 良	好	明褐灰	外面は縦、斜位方向の刷毛目。			

351-6	壺	床直層 底部 破片	底	8.0	細粒砂を混入 良 好	純 褐	外面は縦方向の寛撫で。 内面は横撫で。	
351-7	壺	覆土内 底部 破片	底	8.0	細粒砂を混入 良 好	純 褐	外面は無で。	
351-8	壺	床直層 底部 破片	底	7.7	粗粒砂を混入 良 好	橙 と 純 橙	外面は斜位方向の刷毛目。	底の一部 を欠損
351-9	壺	床直層 底部 破片	底	6.7	細粒砂を混入 良 好	暗 褐	外面は縦方向に寛撫さ。 内面は横撫で。	
351-10	壺	覆土内 底部 破片	底	7.0	細粒砂を混入 良 好	純 褐		
351-11	壺	床直層 底部 破片	底	6.0	粗粒砂を混入 良 好	純 橙		
351-12	壺	覆土内 底部 破片	底	5.5	粗粒砂を混入 良 好	橙	内外面とも風化が著しい。	底部を欠 損
351-13	壺	覆土内 底部 破片	底	6.9	細粒砂を混入 良 好	純 褐	内外面とも風化が著しい。	内面は黒 褐色
351-14	壺	覆土内 底部 破片	底	6.3	粗粒砂を混入 良 好	純 橙	外面は刷毛目調整後寛撫で。内面は研磨。 底・沈線。	2点の接 合
351-15	壺	覆土内 底部 破片	底	7.4	細粒砂に小礫 を含有 良 好	橙	外面は縦の寛撫で。 内面は無で。	2点の接 合 内面 の一部黒 褐色
351-16	壺	覆土内 口縁部 破片	口	19.8	細粒砂に粗粒 砂を混入 良 好	橙	口縁部は受け口状に呈する。 内外面とも風化しているが、外面は刷毛目、内面は横撫で。	3点の接 合 口唇 部に欠損 有り
351-17	壺	覆土内 口縁部 破片			粗 粒 砂 良 好	明赤褐	内外面とも風化が著しく二塗り。	

351-18	壺	覆土内 口縁部 破片	度目 (cm)	胎 土 成	色 調	粗 粒 砂 好	純 橙	口唇部は棒状工具による押捺。	口・波状文。(風化が著しい。)	3点の接 合
351-19 151	壺	覆土内 胴部 破片		粗粒を含有する 細粒砂良好	明赤褐		内面は風化が著しい。	胴・鋸歯文の細い沈線。		5点の接 合
351-20	壺	覆土内 胴部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良好	明赤褐		外面は斜位の刷毛調整指撫で。 内面は風化が著しい、為肉薄である。	胴・羽状文。		2点の接 合
351-21	壺	覆土内 頸部下半 破片		細 粒 砂 好	純 赤		外面は研磨。			
351-23	高 坏	覆土内 底部 破片	底 7.3	細 粒 砂 好	灰 白		外面は縦方向の刷毛目。			2点の接 合

I 区第120号住居跡

挿 図 番 号 図 版 番 号	器 種	出 土 位 置 遺 存 状 態	度 目 (cm)	胎 土 成	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 整 形 の 特 徴	文 様	備 考
353-1 151	甕	床直 底部のみ欠損	口 21.4 頸 18.1 胴 22.1	細 粒 砂 好	純 橙	肩部は丸味を帯び、頸部は「く」の字状を呈し、口縁部は外傾している。 外面は縦位の研磨で内面は横位の研磨を施している。	頸・7本一単位の簾状文、左回り。 頸・肩にかけて7本一単位の波状文。 口唇・棒状工具による押捺。	31点の接 合
353-2 151	甕	覆土・床直 口縁・頸・肩・胴部 1/2	口 19.0 頸 15.6 胴 19.2	細 粒 砂 好	純黄橙	肩部は曲線的に立ち上がり、頸部でくびれ口縁部は内湾しながら立ち上がる。口唇部は平坦である。 外面は横位の研磨(風化により分明に認められない)。 外面は肩部から胴部にかけて横位の研磨を施している。	口・7本一単位の波状文。 頸・7本一単位の簾状文、右回り。 肩・7本一単位の波状文を2段に施している。	7点の接 合
353-3	甕	覆土 頸・肩・胴部 1/4	頸 16.0 胴 20.3	細 粒 砂 好	明黄褐	内面は横位の研磨(風化により分明に認められない)。 外面は横位の研磨を施している。	頸・5本一単位の簾状文、右回り。 肩・6本一単位の波状文を2段に施している。	2点の接 合
353-4 151	甕	覆土・床直 口縁・頸・肩・胴部 1/4	口 14.9 頸 11.5 胴 13.4	細 粒 砂 好	褐 灰	内湾しながら立ち上った胴部が肩部で内傾し、頸部でくびれ口縁部は外傾している。口唇部は平坦である。 外面は横位の研磨を施している。 外面は横位の研磨を施している。	口唇・棒状工具による押捺。 頸・7本一単位の簾状文、右回り。 肩・7本一単位の波状文を2段に施している。 胴・羽状直線文。	9点の接 合
353-5	甕	炉址内 口縁部 破片		細 粒 砂 好	浅黄橙	口縁部は内湾し、口唇部は平坦である。 外面は斜位の刷毛撫で。内面は研磨。	口唇・棒状工具による押捺。 口・7本一単位の波状文。	
353-6	甕	覆土内 口縁部 破片		細 粒 砂 好	純黄橙	口縁部は外傾している。 内面は横撫で。	口唇・単節LR原体縄文の押捺。 口・単節LR原体縄文の横転。	

353-7	壺	覆土内 口縁部 破片		細 良	砂 好	浅黄橙	口縁部は外湾し口唇直下で垂直に立ち上がる。口唇部は丸い。 内面は研磨。	口唇・棒状工具による押捺。 口・7本一単位の波状文。	
353-8	壺	覆土内 口縁部 破片		細 良	砂 好	浅黄橙	口縁部は外湾し口唇直下で垂直に立ち上がる。口唇部は丸い。 外面は斜位の刷毛撫で。内面は研磨。	口唇・棒状工具による押捺。 口・5本一単位の波状文。	
353-9	甕	床直 口縁部 破片		細 良	粗粒砂を混入良好	鈍黄橙	口縁部は内湾し受け口状を呈する。 外面は横位の刷毛撫で。内面は研磨。	口唇・棒状工具による押捺。 口・7本一単位の波状文。	
353-10	甕	覆土内 頸部 破片		細 良	砂 好	灰 白	内面は研磨。内外面とも風化が著しい。	頸・8本一単位の簾状文、右回り。	
353-11	甕	覆土内 頸・肩部 破片		細 良	砂 好	黄 灰	内面は刷毛撫で後横撫で。	頸・7本一単位の簾状文、右回り。 肩・7本一単位の波状文を2段に施している。	
353-12	甕	床直 頸・肩部 破片		細 良	砂 好	浅黄橙	内外面とも横撫で。	頸・簾状文、右回り。 肩・7本一単位の波状文を2段に施している。	
353-13	甕	覆土内 肩部 破片		細 良	砂 好	灰	内面は横撫で。	肩・6本一単位の波状文を2段に施している。	2点の接 合
353-14	甕	覆土内 頸・肩部 破片		細 良	砂 好	浅黄橙	内面は研磨。	頸・7本一単位の簾状文、右回り。 肩・7本一単位の波状文を2段に施している。	2点の接 合
353-15	甕	覆土内 頸・肩部 破片		細 良	砂 好	浅黄橙	内面は横位の鬃撫で。	頸・6本一単位の簾状文、右回り。 肩・6本一単位の波状文を2段に施している。	
353-16	甕	覆土 頸・肩部 破片		粗粒砂に小礫 を混入、良好	砂 好	浅黄橙	内面は横撫で。	頸・6本一単位の簾状文、右回り。 肩・6本一単位の波状文を2段に施している。	
353-17	甕	覆土内 頸部 破片		細 良	砂 好	灰 白	内面は研磨。	頸・7本一単位の簾状文、右回り。	
353-18	甕	覆土内 頸・肩部 破片		細 良	砂 好	浅黄橙	外面は横撫で。 内面に粘土の継ぎ目痕有り。	頸・7本一単位の簾状文、右回り。 肩・7本一単位の波状文。	
353-19	甕	床直 脚部 破片		細 良	砂 好	灰 褐	外面は刷毛撫で後横撫での痕跡が見られるが、全体的に器面は荒 れている。内面は鬃撫で。	胴・波状文。	
353-20	甕	覆土内 肩・胴部 破片		細 良	砂 好	鈍黄橙	外面は刷毛撫で。 内面は研磨。	肩・波状文。	

第2節 弥生時代

353-21	甕	覆土内 肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	灰	外面は刷毛撫で。 内面は研磨。	肩・波状文。	
353-22	甕	覆土内 肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	淡 橙	外面は刷毛撫で。 内面は撫で。	肩・波状文。	
353-23	甕	覆土内 肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	淡 橙	内面は撫で。	肩・波状文。	
353-24	甕	覆土内 肩・胴部 破片		粗粒砂に細粒 砂を混入良 好	鈍 橙	外面は横位の刷毛撫で。	肩・波状文。羽状直線文。	
353-25	甕	覆土内 肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	灰 白	内面は研磨。	肩・単筋RL多条細文の横転。	
353-26	甕	床直 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	灰 白	内面は横撫で。	頸・糜状文、右回り。 肩・単筋RL多条細文の横転。	2点の接 合
353-27	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良 好	浅 黄		胴・7本一単位の羽状直線文。	
353-28	甕	覆土内 肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	浅黄橙	器面の風化が著しい。	肩・波状文。	
353-29	甕	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良 好	灰 白	外面刷毛撫で後横撫で。		
353-30	壺	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良 好	灰 白	内外面とも斜位の刷毛目調整。		2点の接 合
353-31	甕	床直・覆土内 胴部 破片	胴 13.6	細粒砂を混入 良 好	鈍黄橙	外面は筥削り後斜位方向への研磨。 内面は斜上方向への研磨。		4点の接 合
354-1	甕	炉底面直上 胴部 破片		細粒砂を混入 良 好	浅黄橙	外面は斜方向の筥状工具の撫で後研磨。 内面は横撫で。		
354-2	甕	覆土・炉底面直上 胴部 破片		細粒砂を混入 良 好	浅黄橙	外面は斜位に筥状工具による撫で後研磨。 内面は横撫で。		2点の接 合
354-3	壺	覆土内 口縁部 破片		粗粒砂を混入 良 好	浅 黄	内面に粘土の継ぎ目痕が見られる。	口・山形沈線文。	

354-4	甕	覆土内 底部 破片	底 12.0	細粒砂を混入 良 好	鈍 と黒褐	外面は縦位の刷毛撫で。 内面は横位の刷毛撫で。		
354-5	壺	覆土内 底部 破片	底 8.0	細粒砂に小礫 を混入 良好	浅黄橙	外面は縦位の刷毛撫で。 内面は鈍撫で後研磨。		
354-6	甕 ?	床直 底部 破片	底 10.5	粗粒砂を混入 良 好	浅黄橙	外面は撫で。 内面は底面に鈍撫で、上位は撫で。		
354-7	壺	覆土内 底部 破片	底 8.0	細粒砂に小礫 含有 良好	浅黄橙	外面は鈍撫で。 内面は撫で。		
354-8	壺	覆土内 底部 破片	底 7.8	粗粒砂を混入 良 好	鈍黄橙	外面は撫で。 内面は刷毛目調整。	2点の接 合	
354-9	壺	覆土内 底部 破片	底 8.4	粗粒砂を混入 良 好	淡 橙	外面は鈍削り。 内面は撫で。	外面は橙 色	
354-10 151	鉢	床直 口縁部 破片	口 17.2	細粒砂を混入 良 好	鈍黄橙	口縁部は外傾し、口唇部は丸味を帯びる。 外面は横位の強い鈍撫で。内面に刷毛目痕が見られるが、後行す る撫でにより大半が消去されている。	口・7本一単位の簾状文、右回り。	4点の接 合
354-11	高環 ?	覆土内 脚部		粗粒砂を混入 良 好	橙	内外面とも鈍削り。風化が著しい。		

I 区第146号住居跡

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
355-1	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍黄橙	口縁部は外傾し口唇部は丸い。 内外面とも刷毛撫で。		
355-2	甕	覆土 口縁部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 橙	口縁部は外傾し口唇部は丸い。 外面は刷毛撫で。		
355-3	甕	覆土内 口縁部 破片		微粒砂に小礫 混入 良好	淡赤橙	口縁部は外傾し口唇部が肥厚している。 内外面とも横撫で。		
355-4	甕	覆土内 口縁部 破片		粗粒砂 良 好	黒 褐	口縁部は外傾している。 外面は風化が著しい。	頭・簾状文、左回り。	

第2節 弥生時代

355-5	壺	覆土内 口縁部 破片		粗 粒 砂 良 好	鈍 橙	口縁部は外傾している。	頸・簾状文、右回り。
355-6	壺	覆土内 頸部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良好	浅黄橙	内外面とも横位の寛撫で。	頸・簾状文、右回り。
355-7	壺	覆土内 頸部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良好	浅黄橙	外面は風化している為文様がはっきりしない。	頸・6本一単位の簾状文、左回り。 肩・6本一単位の波状文。
355-8	壺	覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	黒	内面は横撫で。	頸・6本一単位?の簾状文。 右回り。肩・6本一単位?の波状文。
355-9	壺	覆土内 頸部 破片		粗粒砂を混入 良 好	浅黄橙	内外面とも風化が著しい。	頸・5本一単位の簾状文を2段に施す。
355-10	壺	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良 好	灰黄橙		頸・簾状文、右回り。鉤状貼付文。
355-11	壺	覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	暗赤褐		肩・単節R.L.多糸縄文の横転。6本一単位の山 形状の波状文。
355-12	壺	覆土 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐	内面は横撫で。	頸・5本一単位の簾状文、右回り。羽状直線文。
355-13	壺	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐	内面は刷毛撫で後横撫で。	頸・5本一単位の波状文。
355-14	壺	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良 好	黒 褐	内面は横撫で。	頸・5本一単位の波状文。
355-15	壺	覆土 肩部 破片		微粒砂を混入 良 好	赤 褐	内面は風化が著しい。	肩・5本一単位の波状文。 2点の接 合
355-16	壺	覆土 肩部 破片		微粒砂を混入 良 好	赤 褐	内面は風化が著しい。	肩・5本一単位の波状文の下端に横線文。
355-17	壺	覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	褐 灰	外面は風化が著しい。 内面は横撫で。	頸・簾状文、右回り。 肩・羽状直線文?
355-18	壺	覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良好	鈍 橙	内面は風化が著しい。	頸・7本一単位の波状文。 肩・単節R.L.多糸縄文の横転。

355-19	甕 ?	甕土内 肩部 破片			細粒砂に小礫 を混入 良好	純黄橙		肩・単筋R L 多条縄文の横転。	
355-20	甕	甕土内 頸・肩部 破片			細粒砂を混入 良好	灰黄褐		肩・単筋L R 多条縄文の横転。	
355-21	甕	甕土内 胴部 破片			粗粒砂を混入 良好	純 褐		胴・4本1条の櫛目文。	
355-22	壺	甕土内 底部 破片	底	10.9	細粒砂を混入 良好	暗 褐	外面は縦位乃至斜位の刷毛目。 内面は無で。		
355-23	壺	甕土内 底部 破片	底	9.9	細粒砂を混入 良好	灰黄褐	外面は斜位の刷毛撫で。 内面は篋撫で。		
355-24	甕	甕土内 底部 破片	底	7.5	粗粒砂を混入 良好	褐 灰	内面は篋撫で。		
355-25	壺 ?	甕土内 底部 破片	底	7.8	細粒砂を混入 良好	純 褐	器面の風化が著しい。		
355-26	甕	甕土内 底部 破片	底	6.3	細粒砂を混入 良好	浅黄橙			
355-27	壺	甕土内 底部 破片	底	12.5	細粒砂に小礫 を混入 良好	灰黄褐			
355-28	壺	甕土内 底部 破片	底	7.0	細粒砂を混入 良好	暗 褐	外面は篋削り後撫で。		
355-29	壺	甕土内 底部 破片	底	5.2	微粒砂を混入 良好	灰黄褐	器面に風化が著しい。		
355-30 152	高 坏	甕土内 脚・坏部			細粒砂を混入 良好	浅黄橙	内外面とも刷毛目調整。		5点の接 合

I 区第172号住居跡

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	口径 (cm)	胎成	色調	器形・成形・整形の特徴	文様	備考
358-1	甕	覆土内 口縁・頸部 1/2	口 14.6 頸 11.6	細粒砂に小礫を含有良好	鈍	口縁部は外傾し、口唇直下で肥厚している。外面は風化が著しい。	頸・4本一単位の簾状文、右回り。 肩・単節L・R細文原体の横転。	8点の接合
358-2	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	鈍	外面は刷毛撫で後横撫で。内面は横撫で。	口唇・単節R・L多条細文原体の押捺。 頸・簾状文、右回り。	
358-3	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	鈍	口縁部は外傾し、口唇部は平坦。外面は横位の寛撫で。	口唇・単節L・R多条細文原体の押捺。	
358-4	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	黒	口縁部は外反している。内面は櫛目調整後撫で。	口唇・単節R・L多条細文原体の押捺。 口・単節R・L多条細文原体の横転。 頸・簾状文、右回り。	
358-5	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	鈍	口縁部は外反している。内外面とも無で。	口・4本一単位の波状文。 頸・簾状文、左回り。	
358-6	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	鈍	口縁部は外反する。内外面とも横撫で。	口唇・細文原体の押捺？ 口・6本一単位の波状文。	
358-7	高坏	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	灰白	口縁部は外傾する。内外面とも横撫で。	内面に赤色顔料の塗彩。	2点の接合
358-8	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	鈍	口縁部は外反している。外面は横撫で。		
358-9	甕	覆土内 口縁・頸・肩部 1/4	口 12.6 頸 11.7	細粒砂を混入良好	明褐灰	受け口状口縁。内外面とも寛撫で。		
358-10	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	鈍	受け口状口縁。内外面とも横撫で。	口・波状文(4本一単位?)。 頸・簾状文、右回り。	口唇部欠損有り
358-11	甕	覆土 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	橙	受け口状口縁。内外面とも横撫で。	口唇・単節R・L細文原体の押捺。 頸・簾状文、右回り。	
358-12	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入良好	褐	口縁部は外反し、口唇部は平坦。外面は横撫で調整後櫛目。内面は横撫で。		

358-13	甃	覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良	好	浅黄橙	内外面とも磨無で。	頸・簾状文 (6本一単位以上)。右回り。	
358-14	甃	覆土 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良	好	浅黄橙	外面は刷毛無で。 内面は刷毛無で後磨無で。	頸・5本一単位の簾状文、右回り。	
358-15	甃	覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良	好	浅黄橙	外面は刷毛無で。 内面は横位の磨無で。	頸・6本一単位の簾状文、左回り。	
358-16	甃	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	浅黄橙	内外面とも無で。 外面は風化が著しい。	頸・簾状文 (6本一単位以上)、左回り。	
358-17	甃	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	淡黄	内外面とも風化が著しい。	頸・4本一単位の簾状文、右回り。	
358-18	甃	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	浅黄橙	内面に粘土紐の縷目が見られる。横無で。	頸・6本一単位の簾状文、右回り。鋭い斜位の 沈線文。	2点の接 合
358-19	甃	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	浅黄橙		頸・6本一単位の簾状文、右回り。楕円沈線。	18と同一 個体
358-20	甃	覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良	好	浅黄橙	内外面とも全体的に器面が荒れている。 内面は無で。	頸・簾状文、左回り。 肩・複節LR縄文原体の横転。	
358-21	甃	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	橙	内面は横無で。	頸・7本一単位の簾状文、左回り。 肩・7本一単位の波状文。単節LR多糸縄文原 体の横転。	
358-22	甃	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	橙	内外面とも磨無で。	肩・波状文。単節LR多糸縄文原体の横転。	
358-23	甃	覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良	好	浅黄橙	内面は横無で。	頸・7本一単位の簾状文、右回り。 肩・7本一単位の波状文。	
358-24	甃	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	灰白	外面は無で。 内面は研磨。	頸・6本一単位の波状文を2段に施す。	
358-25	甃	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	灰黄褐	外面は横位の刷毛無で。	頸・2本1条の横線文 (半截竹管?)	3点の接 合

358-26	壺 ?	覆土内 頸部 破片		粗粒砂を混入 良 好	浅黄橙	内外面とも器面が荒れている。	頸・単節RL多糸縄文原体の横・斜転。横線文。	
358-27	壺	覆土内 肩・胸部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍	外面は横位の刷毛撫で。 内面は横撫で。	肩・単節LR縄文原体の横転。	2点の接 合
358-28	壺	覆土内 肩・胸部 破片		細粒砂を混入 良 好	浅黄橙		肩・単節RL多糸縄文原体の横転。	
358-29	壺	覆土内 肩部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐	外面は横位の刷毛撫で。	肩・7本一単位の波状文。	
358-30	壺	覆土内 胸部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍	内面は横位の刷毛撫で。	胴・鋭い斜位の沈線文。	
358-31	壺	覆土内 胸部 破片		細粒砂を混入 良 好	淡 黄	内面は研磨。	胴・羽状直線文。	
358-32	壺	覆土内 胸部 破片		粗粒砂を混入 良 好	鈍 褐	器面の風化が著しい。	胴・縦位の沈線文。釘状貼付文。	2点の接 合
358-33	壺 ?	覆土内 胸部 破片		細粒砂を混入 良 好	淡 黄	内外面ともに刷毛撫で。		
358-34	壺 ?	覆土内 胸部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍	内外面ともに刷毛撫で。		
358-35	壺	覆土内 胸部 破片		細粒砂を混入 良 好	灰 黄	内面は横撫で。	胴・「コ」の字状重文?	内面は灰 色
358-36	壺	P-1 胸部 破片		粗粒砂を混入 良 好	浅黄橙	外面は横撫で。		3点の接 合
358-37	壺 ?	覆土内 底部 破片	底 9.2	細粒砂を混入 良 好	灰 白	外面は横撫で。 内面は刷毛撫で後撫で。		内面は褐 灰色
358-38	壺 ?	覆土内 底部 破片	底 8.1	細粒砂を混入 良 好	灰 白	外面は斜位の横撫で。		
358-39	壺 ?	覆土内 底部 破片	底 7.4	細粒砂を混入 良 好	鈍	内外面とも横撫で。		

358-40	甕 ?	覆土内 底部 破片	底	7.3	細粒砂を混入 良	純 橙	器面の風化が著しい。		
358-41	甕 ?	覆土内 底部 破片	底	8.5	細粒砂を混入 良	純 橙	外面は甃撫で？ 器面が荒れている。		
358-42	甕 ?	覆土内 底部 破片	底	7.3	細粒砂を混入 良	淡黄橙	外面甃撫で。 内面は荒れている。		
359-1	甕 ?	床直層 底部 破片	底	8.1	細粒砂を混入 良	浅黄橙	内外面ともに器面の風化が著しい。	2点の接 合	
359-2	甕 ?	覆土内 底部 破片	底	9.6	細粒砂を混入 良	純 橙			
359-3	甕 ?	覆土内 底部 破片	底	5.2	細粒砂を混入 良	純 橙			
359-4	甕	覆土内 底部 破片	底	6.0	細粒砂を混入 良	灰黄橙			
359-5	甕 ?	覆土内 底部 破片	底	8.1	細粒砂を混入 良	橙			
359-6	甕	覆土内 底部 破片	底	10.0	細粒砂を混入 良	黄 橙	外面は撫で調整。内面は刷毛目調整後撫で。 底部中央に円形の穴を穿つ。		
359-7	壺	覆土内 口縁部 破片			粗粒砂を混入 良	灰 白	口縁部は強く外反し、口唇部は丸い。 外面は上部は横撫で、下部は縦位の刷毛撫で。		
359-8	壺蓋 ?	覆土内 口縁部 破片			細粒砂を混入 良	淡 橙	口縁部は外傾し、口唇部は丸い。 外面は甃撫で。内面は横撫で。		
359-9	壺	覆土内 胴部・底部周辺 1/2	底	10.2	細粒砂を混入 良	浅黄橙	外面は縦位の刷毛撫で。底部周辺は甃撫で。内面は刷毛撫で。粘 土紐の継ぎ目痕。	2点の接 合	
359-10 152	甕	覆土内 胴・底部	底	10.0	細粒砂を混入 良	純 橙	外面は縦位の甃撫で後同方向の刷毛撫で。 内面は横撫で。	6点の接 合	

359-11 152	壺	床直層・覆土内 完形	口頸 胸底 器高	11.8 7.8 13.2 6.9 21.5	細 粒 良	砂 好	純 黄 橙	外面は胸部から体部にかけて笠撫で。 内面は笠撫で。	口唇・単節R L 多条細文原体の横転。 口・単節R L 結節細文 (多条) 原体の横転。 頸・6 本一単位の縲状文、右回り。 肩・単節R L 結節細文 (多条) 原体の横転。	23点の接 合
359-12 152	壺	覆土内 頸・肩・胸部 欠	覆土内 頸	13.1	細粒砂に小礫 を含有	良好	純 橙	外面は横撫で。内面は頸部に指圧痕。粘土紐の継ぎ目痕。 内外面とも器面が荒れている。	頸・4 本一単位の波状文。 肩・4 本一単位の波状文。	10点の接 合

I 区212号住居跡

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎 焼	色 調	器形・成形・整形の特徴	文 様	備 考	
361-1 152	甕	覆土内 口縁・頸・肩部	口 頸	12.7 10.2	細粒砂を混入 良好	純 黄 橙	口縁部は外傾して平坦。 内外面とも横撫で。	口唇・単節L R 多条細文原体の横転。 頸・7 本一単位の縲状文、左回り。 肩・単節L R 多条細文原体の横転。	19点の接 合
361-2	甕	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良好	赤 褐	口縁部は内湾して丸い。		外面は赤 色塗彩	
361-3	甕	覆土内 頸部 破片		微粒砂を混入 良好	純 黄 褐	器面はやや荒れている。	頸・4 本一単位の縲状文、右回り。		
361-4	甕	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良好	純 褐	器面はやや荒れている。	頸・7 本一単位の縲状文、左回り。		
361-5	甕	覆土内 胸部 破片		微粒砂を混入 良好	純 橙		頸・波状文。	2点の接 合	
361-6	甕	覆土内 胸部 破片		細 粒 砂 良好	浅 黄 橙		頸・L R の細文。鋸歯文。		
361-7	甕	床直層 頸・肩部 破片		微粒砂を混入 良好	灰 黄 褐	内面は斜位の笠撫で。	頸・縲状文、右回り。 肩・L R の細文。		
361-8	甕	床直層 胸部 破片		細粒砂を混入 良好	橙	外面は風化が著しい。	胸・L R の細文。		
361-9	甕	床直層 胸部 破片		細粒砂を混入 良好	黒 褐		胸・L R の細文。		

361-10	壺	床直層 頸部 破片			微粒砂を混入 良 好	浅黄橙	内面は横位の鋭い刷毛目。	頸・沈線。L Rの縄文。	
361-11	壺	床直層 頸部 破片			細粒砂を混入 良 好	黒 褐		頸・平行沈線。	2点の接 合
361-12	甕	床直層 胴・底部 破片	底	5.4	細粒砂に小礫 を混入 良好	灰黄褐	外面は風化が著しい。内面は横撫で。 乾燥時にひび割れをおこしている。		6点の接 合
361-13 152	台付甕	覆土内 脚部のみ欠損	口 頸 胴	17.6 12.6 15.9	粗粒砂を混入 良 好	鈍黄橙		口・7本一単位の波状文、右回り。 頸・6本一単位の縹状文、右回り。 胴・斜位の刷毛撫で。縹状文。	2点の接 合
361-14	甕 ?	床直層 底部 破片	底	8.7	細粒砂を混入 良 好	鈍黄橙	外面は縦撫で。		
361-15	壺 ?	床直層 底部 破片	底	7.7	細粒砂を混入 良 好	浅黄橙	外面は縦撫で。		
361-16	高 坏	覆土内 脚部? 破片	底	11.7	細粒砂を混入 良 好	鈍 橙	器面はやや荒れている。	赤色顔料塗彩。	

I 区第232号住居跡

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置 遺存状態	度 目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 整 形 の 特 徴	文 様	備 考
363-1	甕	覆土内 口縁・頸部 破片		粗粒砂に礫を 混入 良好	橙	口縁部は外反し、口唇部は丸い。 外面は横位の縦撫で。内面の器面は荒れている。	頸・縹状文、左回り。	
363-2	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂に礫を 混入 良好	鈍黄橙	口縁部は外反し、口唇部は丸い。 外面は風化が著しい。内面は横撫で。	口唇・単節L R多条縄文原体の押捺。 口・単節L R多条縄文原体の押捺。	
363-3	甕	覆土内 口縁・頸部 破片		細粒砂を混入 良 好	鈍 褐	口縁部は外反し、口唇部は平坦。 外面は風化が著しい。	頸・縹状文、左回り。	
363-4	甕	覆土内 口縁・頸部 破片		細粒砂に礫を 混入 良好	橙	受け口状口縁。 内外面とも横撫で。	頸・縹状文、右回り。	

第2期 弥生時代

363-5	甕	甕土内 口縁・頸部 破片	口 13.2 頸 12.0	細粒砂を混入 良	純黄褐	受け口状口縁。 内外面とも横無で。	2点の接 合
363-6	甕	甕土内 口縁・頸部 破片		細粒砂に礫を 混入 良好	浅黄橙	口唇部は欠損する。 口縁部は外反している。	頸・簾状文、右回り。
363-7	甕	甕土内 口縁・頸部 破片		細粒砂を混入 良	純 橙	口縁部は外反し、口唇部を欠損している。 外面は風化が著しい。内面は無で。	頸・簾状文、左回り。
363-8	甕	甕土内 頸・肩部 破片		細粒砂に礫を 混入 良好	純黄橙	外面は風化が著しい。 内面は横無で。	頸・簾状文、右回り。
363-9	甕	甕土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	純黄橙	内面は横無で。	頸・7本一単位の簾状文、左回り。 肩・波状文。
363-10	甕	甕土内 口縁・頸部 破片		細粒砂を混入 良	純 褐	口縁部は縦位の刷毛無で。	頸・簾状文、右回り。
363-11	甕	甕土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良	純黄橙	肩部外面は縦位の刷毛無で。	頸・簾状文、左回り。
363-12	甕	甕土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	灰 白	肩部外面は縦位の刷毛無で。 内面は横位の刷毛無で。	頸・9本一単位の簾状文、右回り。
363-13	甕	甕土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良	浅黄橙	外面は横位の縦無で。 内面は横位の指無で。	頸・簾状文、右回り。 肩・5本一単位の山形状の波状文。
363-14	甕	甕土内 頸・肩部 破片		細粒砂に小礫 を含有 良好	浅黄橙 と褐灰	外面は横位の縦無で。 内面は横位の指無で。	頸・簾状文、右回り。 肩・5本一単位の山形状の波状文。
363-15	甕	甕土内 頸部 破片		細粒砂に小礫 を含有 良好	橙	器面の風化が著しい。	頸・簾状文、左回り。 肩・単節LR多糸縄文。
363-16	甕	甕土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良	黒 褐	外面は縦位刷毛無で後横無で。 内面は無で。	頸・4本一単位の波状文を3段に施す。
363-17	甕	甕土内 肩部 破片		微粒砂に細粒 砂を混入良好	純黄橙	外面は縦位の刷毛無で。 内面は研磨。	肩・5本一単位の波状文を施す。
363-18	甕	甕土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	純黄橙	内面は横位の刷毛無で。	頸・2種類の波状文を施す。

363-19	壺	覆土内 胸部 破片			細粒砂を混入 良 好	鈍黄橙	内面は横位の刷毛撫で。	肩・単節 R L 多条縄文原体の横転。	
363-20	壺	覆土内 胸部 破片			細粒砂を混入 良 好	浅黄橙	外面は風化が著しい。	胴・単節 R L 多条縄文原体の横転。	2点の接 合
363-21	壺	覆土内下層 胸部 破片			細粒砂を混入 良 好	黒		胴・複節 L R 縄文原体 (多条縄文) の横転。	
363-22	壺	覆土内 胸部 破片			微粒砂に細礫 を混入 良好	黒	内面は横位の刷毛撫で。	胴・複節 L R 縄文原体 (多条縄文) の横転。	2点の接 合
363-23	壺	覆土内 頸部 破片			細粒砂を混入 良 好	鈍 褐	内面は研磨。	頸・縷状文、右回り。波状文 (最終部分)。	
363-24	壺	覆土内 胸部 破片			細粒砂を混入 良 好	黄 褐	内面は研磨。	胴・羽状直線文。	
363-25	壺	覆土内 胸部 破片			細粒砂を混入 良 好	鈍黄橙	内面は横位の刷毛撫で。		
363-26	壺	覆土内 底部 破片	底	7.2	粗 粒 砂 良 好	橙			
363-27	壺	覆土内 底部 破片	底	7.2	細粒砂に粗粒 砂を混入良好	橙	外面底部は縦位の刷毛撫で。		
363-28	壺	覆土内 底部 破片	底	8.4	粗粒砂を混入 良 好	鈍赤褐	底部中心に向かって肉薄になっている。 外面は縦位の磨撫で。		
363-29	壺	覆土内 底部 破片	底	7.2	細粒砂に粗粒 砂を混入良好	黒	外面は刷毛撫で後撫で。		
363-30	壺	覆土内 肩部 破片			細粒砂に礫を 混入 良 好	鈍	内外面とも横位の磨撫で。	胴・鋸歯文内に横位に沈線を施す。	
363-31	壺	覆土内 頸部 破片			細粒砂を混入 良 好	橙	内面は研磨。	頸・平行沈線文。	
363-32	壺	覆土内 胸部 破片			細粒砂を混入 良 好	黒 褐		胴・「コ」の字状重文。	

第2節 弥生時代

363-33	甕	覆土内 頸・肩部 破片		微粒砂に細粒 砂を混入 良 好	鈍	橙	肩・羽状直線文。	10点の接 合
363-34 152	甕	床直層・覆土内 頸・肩・胴部 1/3	頸 10.4	細粒砂を混入 良 好	鈍	橙	内面の頸部は斜位に、胴部は横位に刷毛撫でを施す。 頸・7本一単位の簾状文、左回り。	10点の接 合
364-1 152	壺	覆土内 胴部 1/4	頸 29.2	細粒砂を混入 良 好	橙	橙	外面は撫で後研磨。 内面は横位・斜位の刷毛撫で。	15点の接 合
364-2 152	壺	覆土内 胴・底部 1/4	胴 34.0 底 9.7	粗粒砂に小礫 を混入 良好	橙	橙	外面は撫で後研磨。 内面は横位の刷毛撫で。	12点の接 合
364-3 153	壺	床直層・覆土内 肩・胴部 1/4	肩 31.2	細粒砂を混入 良 好	鈍	褐	外面は横撫で。 内面は斜位の刷毛撫で後撫で。一部に刷毛撫でを施す。	23点の接 合
364-4 153	壺	床直層・覆土内 胴・底部 1/6	底 9.6	細粒砂を混入 良 好	鈍	橙	外面は撫で後研磨。 内面は斜位の刷毛撫で。 器厚はほぼ均一な厚みをもつ。	11点の接 合 底部に 欠損有り
365-1 153	壺	床直層・覆土内 胴部 1/4	胴 30.0	微粒砂を混入 良 好	橙	橙	外面は刷毛撫で後研磨。内面は刷毛撫で。 器厚はほぼ均一な厚みをもつ。	10点の接 合
365-2	壺	床直層・覆土内 肩・胴部 1/6	胴 33.7	細粒砂を混入 良 好	鈍	褐	外面は縦位の刷毛撫で後撫で。器厚はほぼ均一な厚みをもつ。 内面は横位の刷毛撫で。	13点の接 合
365-3	壺	床直層・覆土内 胴部 1/6		細粒砂 良 好	赤	褐	外面は風化が著しいが一部撫でと研磨の痕跡が見られる。 内面は横位の刷毛撫で。	12点の接 合
365-4	壺	覆土内 胴・底部 1/4	底 9.0	細粒砂 良 好	黒	褐	外面は縦位の刷毛撫で後研磨。 内面は寛撫で。	5点の接 合
365-5 153	甗	床直層・覆土内 完形	口 19.0 底 9.8 器高 6.8	粗粒砂 良 好	橙	橙	底部から外傾し立ち上がる体部と口縁で、口唇部には棒状工具による押捺が見られる。 口縁には2孔一対の孔を具備している。	
365-6	高 坏	覆土内 脚部 破片	総れ 4.2	粗粒砂を混入 良 好	橙	橙	外面は風化が著しい。 脚部の底部分が欠損している。	
365-7	高 坏	覆土内 脚部 破片	総れ 3.5	粗粒砂を混入 良 好	浅黄橙	浅黄橙	脚部外面は寛削り。 坏部内外面・脚部外面に塗彩。	2点の接 合

365-8	高坏	覆土内 口縁部 破片		微粒砂に細粒 砂を混入良好	赤 褐		口唇・球状突出文。	
365-9	鉢	覆土内 口縁部 破片	口 33.2	細粒砂を混入 良好	橙	体部上半を欠損後削れ口を平滑にし、鉢として転用している。 外面は刷毛撫で後研磨。		3点の接 合

J区第1号方形周溝墓

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	目 度 (cm)	胎 土 成 焼	色 調	器形・成形・整形の特徴	文 様	備 考
374-1	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	灰黄褐	外傾する口縁。		
374-2	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	鈍黄橙	口唇部に棒状工具による押捺。口縁部は内湾気味で内面は横撫で。		
374-3	壺	覆土内 頸部・肩部 破片		細粒砂を混入 良好	鈍黄橙	内面は刷毛状工具による撫で。	頸・5本一単位の波状文。	
374-4	甕	覆土内 肩部 破片		細粒砂を混入 良好	鈍黄橙	刷毛状工具による撫で。		
374-5	壺?	覆土内 肩部		細粒砂を混入 良好	浅黄橙			
374-6	壺	覆土内 肩部・体部 破片		細粒砂を混入 良好	橙			
374-7	甕	覆土内 底部 破片	底 12.0	細粒砂を混入 良好	浅黄	外面は上部で研磨。下部で寛削り。内面は研磨。		
374-8	甕	覆土内 底部 破片	底 6.0	細粒砂を混入 良好	鈍黄橙	外面は寛削り。内面は寛撫で。		
374-9	高坏	覆土内 接合部のみ遺存		微粒砂を混入 細礫含有良好	橙			
374-10 153	壺	覆土内 体部下半 %	底 3.0	粗粒砂を混入 良好	鈍黄橙			

H区第1号方形周溝墓

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎 焼	土 成	色調	器形・成形・整形の特徴	文 様	備考
374-11 153	壺	溝底直上 完形	口 15.6 頸 8.2 肩 30.9 底 7.8 器高44.0	細粒砂に礫を 混入 良	好	鈍 褐	平坦な底部から肩部に向い外傾し立ち上がり、肩部に最大径を有し、肩部から頸部に向い内傾し、頸部ですぼんでいる。口縁部は下位で外傾し上位では内湾している。 外面は無で後刷毛無でを施すが、刷毛は明瞭に認められない。 内面は無で、口縁部は横位の研磨。	口・口唇・複筋L R縄文原体(多条縄文)横転。 頸・7本一単位の縲状文、左回り。 肩・複筋L R縄文原体(多条縄文)の横転。 7本一単位の平行沈線文・7本一単位の波状文を2段に施す。	124点の 接合
374-12 153	壺	溝底直上 肩・胴・底部 3/4	肩 30.0 底 9.5	細粒砂を混入 良	好	鈍黄橙	平坦な底部から肩部に向い外湾気味に立ち上がる。 外面は胴部が縦位・肩部は横位に刷毛無で後指無でにより刷毛目を消している。内面も同様である。		40点の接 合

G区第121号址

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎 焼	土 成	色調	器形・成形・整形の特徴	文 様	備考
377-1	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良好	良好	黒 褐	口縁部は外傾する。 内面は横無で。	口唇直下に7本一単位の波状文。	
377-2	甕	覆土内 口縁・頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	灰黄褐	口縁部は外傾し口唇部は平坦。 内面は横無で。	口唇直下に8本一単位の波状文。 頸・縲状文、左回り。	
377-3	甕	覆土内 頸・肩部 破片		微粒砂を混入 良	好	鈍黄橙	外面の頸部直下に斜位の縦無で。 横位の刷毛目。	頸・10本一単位の縲状文、右回り。 肩・10本一単位の波状文。	

遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎 焼	土 成	色調	器形・成形・整形の特徴	文 様	備考
378-1	壺	表土 胴部 破片		細粒砂に礫を 含む 良好	良好	明黄橙	内面は縦無で。	胴・L R縄文。鋭く幅の広い沈線。	
378-2	壺	表土 胴部 破片		細粒砂に礫を 含む 良好	良好	明黄橙	内面は縦無で。	胴・L R縄文。鋭く幅の広い沈線。	

378-3	壺	覆土内・攪乱 胴部 破片		細粒砂に小礫 を含有 良好	橙	外面は器面が荒れているが、横撫での跡が見られる。 内面は瓦撫で。	胴・太い沈線により「工字状文」を施す。	
378-4	壺	表土 口縁部 破片	口 10.5	粗粒砂を混入 良好	鈍 橙	内面は横撫でを施す。	口唇部直下に、波状の隆帯文を施す。頸・幅の 広い条痕文を横位に施す。	
378-5	壺	表土 口縁部 破片		粗粒砂を混入 良好	橙	口唇部には施文工具を押捺。外反し立ち上がる口縁部には斜位の 刷毛目を施している。内面は横撫で。	口・L・R縄文。	
378-6	壺	覆土内 口縁部 破片		細粒砂に小礫 を含む 良好	鈍 橙	内面は無でを施す。 口唇部は刺突により波状を呈する。 口縁部は外反し立ち上がり、斜位の刷毛目を施している。	口・L・R縄文。	
378-7	壺	表土 肩部 破片		細粒砂に小礫 含有 良好	橙	内面は瓦削り後、研磨。	胴・条痕。	
378-8	壺	表土 胴部 破片		小礫を含有す る粗粒砂良好	橙		胴・条痕。	
378-9	壺	表土 胴部 破片		小礫を含有す る粗粒砂 良好	浅黄橙 鈍赤褐	内外面とも横撫で。 外面は浅黄橙と鈍い赤褐色で縞を作っている。 器肉はほぼ均一。		2点の接 合
378-10	?	覆土 口縁部 破片		細粒砂を混入 良好	明黄褐		口・刺突文。	11と同一 個体
378-11	?	表土 口縁部? 破片		細粒砂に礫を 混入 良好	鈍 橙		頸・肩・刺突文。	10と同一 個体
378-12	壺	表土 頸・肩部 破片		粗粒砂 良好	鈍 橙	外面に結節が見られる。	肩・L・Rの縄文押捺。釘状貼付文。	
378-13	手づく ね	III層 1/3 破片		細粒砂 良好	灰 白	外形は内湾し、内形は外傾する。 器面の風化が著しい。		2点の接 合
379-1	壺	カマド・覆土内 口縁・頸部 破片		微粒砂に細粒 砂を含む良好	明黄褐	口縁部は外反し口唇部は丸い。 外面は横位の刷毛撫で。内面は横位の刷毛撫で後研磨。	口唇・単節L・R多条縄文原体の押捺。 頸・腕状文、右回り。	
379-2	壺	覆土内 口縁部 破片		粗粒砂 良好	浅黄橙	口縁部は直立気味。	口唇・棒状工具による押捺。 口・7本一単位の波状文。	

第2節 弥生時代

379-3	甕	床直層 口縁部 破片		細粒砂を混入 良	鈍	褐	口縁部は外傾して丸い。 外面は寛撫で。内面は刷毛目調整後撫で。	口・3本一単位の波状文。	
379-4	甕	III層土内 口縁部 破片		微粒砂を混入 良	明赤褐	口唇部は平坦でZLRの押捺。外面は斜位の刷毛目。 口縁部は外傾しZLRの縄文。内面は横撫で。	頸・糜状文、左回り。		
379-5	甕	覆土 口縁部 破片		細粒砂を混入 良	鈍	橙	口縁部は外傾して平坦。外面の器面は荒れている。 内面は横位の刷毛目。	口唇・縄文の押捺。 口・RLの縄文。	
379-6	甕	床直 口縁部 破片		細粒砂を混入 良	黒	褐	外面は斜位、内面は横位の刷毛目。	口・RLの縄文。	
379-7	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を含む 良	鈍	褐	口縁部は受け口状を呈し、内外面とも風化が著しい。		
379-8	甕	覆土内 口縁部 破片		微粒砂を含む 良	鈍黄橙	口縁部は受け口状を呈する。内外面とも横位の刷毛目。		口・8本一単位の波状文。	
379-9	甕	覆土内 口縁・頸部 破片		細粒砂を混入 良	鈍	橙	口縁部は外傾して丸くやや肥厚している。 口唇部に工具による押捺。外面は寛削り。	口・内面に5本一単位の波状文。 頸・糜状文、左回り。	
379-10	甕	表土 口縁部 破片		粗粒砂に礫を 混入 良	橙	口縁部は外傾して丸い。 内外面とも器面が荒れている。		口・4本一単位の波状文。	
379-11	甕	覆土内 口縁・頸部 破片		粗粒砂に小礫 を混入 良	鈍	橙	内外面とも横撫で。	頸・沁線、刺突文。	
379-12	壺	覆土内 口縁部 破片		微粒砂を混入 良	浅黄橙			頸・頸歯文内に刷毛目。	内外面とも赤褐色
379-13	甕	覆土内 口縁部 破片		細粒砂を混入 良	灰	白	口縁部は直立し口唇部は丸い。 外面は横位で鋭い刷毛目。研磨。		
379-14	甕	覆土内 口縁部 破片	口 22.8	粗粒砂を混入 良	浅黄橙		内外面とも風化しているが、研磨の痕跡が見られる。		
379-15	壺	表土 口縁部 破片		微粒砂に小礫 を混入 良	褐	灰	口縁部は内湾して丸く肥厚している。 口唇部は工具による押捺を施し波状を呈する。 内外面とも横位の刷毛目。	器内外面に赤色顔料塗彩。	

379-16	壺	覆土内 頸部 破片			粗 良	砂 好	淡 橙	外面は頸部の糜状文を挟んで縦位の刷毛目。 内面の器面は荒れているが、横位の刷毛目の跡が見られる。	頸・5本一単位の糜状文を2段に施す。右回り。	
379-17	壺	表土 頸部 破片			粗 良	砂 好	灰 褐	外面は風化する。 内面は横撫で。	頸・5本一単位の糜状文、右回り。	
379-18	壺	表土 頸部 破片			粗 良	砂 好	純 橙	外面は斜位の刷毛目。	頸・7本一単位の糜状文、右回り。	
379-19	壺	覆土内 口縁・頸部 破片			細 良	細粒砂を混入 好	純 黄	口縁部は外反し立ち上がり刷毛目を施している。	頸・糜状文、右回り。	
379-20	壺	III層 頸部 破片			粗 良	砂 好	橙		頸・糜状文、右回り。	
379-21	壺	III層 頸部 破片			細 良	砂 好	純 橙	外面は縦位の刷毛目。 内面は横撫で。	頸・糜状文、右回り。	
379-22	甕	表土 頸部 破片			粗 良	砂 好	純 橙	内面は横撫で。	頸・糜状文、左回り。	
379-23	甕	覆土内 頸部 破片			微 良	微粒砂を混入 好	褐		頸・7本一単位の糜状文、右回り。	
379-24	甕	表土 頸部 破片			細 良	砂 好	明赤褐		頸・7本一単位の糜状文、右回り。	
379-25	甕	表土 頸部 破片			細 良	細粒砂を混入 好	純赤褐	内面は風化が著しい。	頸・6本一単位の糜状文、右回り。	2点の接 合
379-26	甕	覆土 頸部 破片			細 良	細粒砂を混入 好	純 橙	外面は風化が著しい。 内面は横撫で。	頸・3本一単位の糜状文、右回り。	
379-27	甕	土坑 頸部 破片			細 良	砂 好	純 橙		頸・糜状文、右回り。	
379-28	甕	土坑 頸・肩部 破片			微 良	微粒砂を混入 好	浅黄橙	内面の器面は荒れているが横撫での痕跡が見られる。	頸・糜状文、右回り。 肩・波状文。	2点の接 合
379-29	甕	土坑 頸・肩部 破片			細 良	砂 好	灰黄褐	外面は器面が荒れているが、横位の刷毛目の跡が見られる。 内面は横位の刷毛目調整後撫で。	頸・糜状文、右回り。 肩・5本一単位の波状文。	

第2節 弥生時代

379-30	甗	表土 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良好	黒 褐		頸・6本一単位の簾状文、右回り。 肩・波状文。
379-31	甗	覆土 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良好	橙	内面は横撫で。	頸・簾状文、右回り。 肩・5本一単位の波状文。
379-32	甗	表土 頸・肩部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良好	鈍 褐	外面は横位の竅撫でと縦位の刷毛目。	頸・簾状文、左回り。 肩・4本一単位の波状文。
379-33	壺	カマド 頸・肩部 破片		粗粒砂 良好	鈍 橙	内面は横位の刷毛目調整後撫で。	頸・簾状文、右回り。 肩・8本一単位の波状文。
379-34	甗	覆土 頸部 破片		微粒砂を混入 良好	鈍	内面は刷毛目調整後撫で及び研磨。	頸・5本一単位の簾状文、右回り。 肩・波状文。
379-35	甗	覆土 頸・肩部 破片		微粒砂を混入 良好	灰黄褐	内面は刷毛目調整後研磨。	頸・5本一単位の簾状文、右回り。 肩・波状文。
379-36	壺	覆土内 頸・肩部 破片		粗粒砂 良好	浅黄橙	内面は横位の刷毛目。	頸・5本一単位の簾状文、右回り。 肩・4本一単位の波状文。
379-37	壺	表土 肩部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良好	浅黄橙	内面は風化が著しい。	肩・4本一単位の簾状文、右回りを2段に施す。
379-38	壺	覆土 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良好	明 褐		頸・簾状文、右回り。 肩・羽状直線文。
379-39	壺	2溝 頸・肩部 破片	頸 11.5	細粒砂 良好	鈍黄橙	内面は研磨。	頸・4本一単位の簾状文、右回り。 肩・鋸齒文。
379-40	壺	表土 頸・肩部 破片		細粒砂 良好	橙		頸・3本一単位の簾状文、右回り。 肩・鋸齒文。
379-41	壺	表土 肩部 破片		細粒砂 良好	鈍 橙	外面は斜位の刷毛目。 内面は竅撫で。	肩・波状文。沈線。鋸齒文。
379-42	壺	覆土内 肩部 破片		細粒砂を含む 良好	橙	外面は斜位の刷毛目。	肩・鋸齒文内に平行直線文。
379-43	壺	表土 肩部 破片		細粒砂に小礫 を含有 良好	鈍 橙	外面は研磨。	頸・鋸齒文の中に刺突文。

379-44	壺	表土 頸・肩部 破片		粗粒砂 良	好	橙	内面は研磨。	頸・簾状文、右回り。 肩・平行直線文。	
379-45	壺	表土 肩部 破片		粗粒砂 良	好	鈍黄橙	外面は研磨。	頸・鋸齒文内に平行直線文。	
379-46	壺	土坑・覆土内 頸・肩部 破片		細粒砂を混入 良	好	灰白		頸・簾状文、右回り。 肩・沈線。刺突文。	
379-47	壺	表土 頸部 破片		粗粒砂 良	好	橙	内面は横撫で。	頸・簾状文、左回り。	
379-48	壺	表土 頸部 破片		微粒砂を混入 良	好	淡黄	外面は斜位の刷毛目調整後研磨。 内面は寛削り後研磨。器肉はほぼ均一。	頸・波状沈線文。	
379-49	壺	表土 頸部 破片		微粒砂を混入 良	好	淡黄	内面は寛削り後研磨。 器肉はほぼ均一。	頸・波状沈線文。	
379-50	壺	覆土内 頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	鈍橙		頸・平行沈線間に刻み。	
379-51	壺	表土 肩・頸部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良	好	浅黄橙	内面は風化が著しい。	頸・平行沈線内に斜方向(羽状)に沈線文。	
379-52	壺	覆土内 肩部 破片		細粒砂に粗粒 砂を混入 良	好	灰白	外面は縦位の刷毛目調整後研磨。 内面は横撫で後横位の刷毛目。 器肉はほぼ均一。	肩・波状文。 外面の一部 部黒色	
379-53	壺	6溝 肩部 破片		細粒砂を混入 良	好	鈍橙	外面は縦位の寛削り後研磨。 内面は撫で後横位の刷毛目。器肉はほぼ均一。	肩・波状文。	
379-54	甕	覆土内 肩部 破片		細粒砂を含む 良	好	浅黄橙	外面は縦位の刷毛目。 内面は横撫で後刷毛目調整。	肩・山形状の波状文。	
379-55	壺	覆土内 頸部 破片		粗粒砂 良	好	鈍橙		頸・波状文。	
379-56	壺	表土 肩・頸部 破片		細粒砂を混入 良	好	黄橙	内面は撫で 器肉はほぼ均一。	胸・波状文。	

第2節 弥生時代

379-57	壺	表土 頸部 破片		細粒砂に粗粒砂を混入良好	明赤褐	内面は横撫で。 器肉はほぼ均一。	頸・波状文。
379-58	壺	覆土内 頸部 破片		細粒砂を含む良好	鈍 橙		頸・波状文。
379-59	壺	覆土 頸部 破片		細粒砂を混入良好	鈍赤褐	内面は撫で後研磨。	頸・5本一単位の波状文。
379-60	壺	覆土 頸部 破片		細粒砂を混入良好	灰 白	内面は横撫で。	頸・5本一単位の波状文。
379-61	壺	表土 肩部 破片		粗粒砂良好	鈍黄褐	内面は横撫で。 器肉はほぼ均一。	肩・波状文。
379-62	壺	覆土 頸部 破片		細粒砂を混入良好	鈍 褐	外面は風化の為一部条痕がはつきりしない。 内面は横撫で。	頸・波状文。
379-63	壺	覆土 肩部 破片		細粒砂を混入良好	鈍 褐	外面は横位の刷毛目。 内面は横撫で後刷毛目調整。	肩・波状文。
379-64	壺	覆土 頸部 破片		細粒砂を混入良好	鈍 褐	外面は風化している為、文様の本数ははつきりしない。 内面は横撫で。	頸・波状文。
380-1	壺	攪乱 胸部 破片		細粒砂良好	鈍黄橙	外面は縦位の撫で。 内面は撫で。	胸・波状文。
380-2	壺	カマド 頸部 破片		細粒砂を混入良好	鈍 褐		頸・8本一単位の波状文。
380-3	壺	覆土内 頸部 破片		粗粒砂良好	褐 灰	内面は横撫で。 器肉はほぼ均一。	頸・6本一単位の波状文。
380-4	壺	表土 頸部 破片		微粒砂を混入良好	鈍 橙	外面は撫で。 内面は横撫で。 器肉はほぼ均一。	頸・4本一単位の波状文。
380-5	甕	覆土内 胸部 破片		粗粒砂良好	鈍 橙	外面は荒れている為文様の本数がはつきりしない。 内面は寛撫で。	胸・楕円波状文。羽状直線文。

380-6	甕	土坑 頸部 破片		微粒砂を混入 良	鈍黄橙	頸部外面は刷毛目調整。 内面は横無で。	頸・沈線及びL Rの縄文。	
380-7	甕	土坑 胴部 破片		微粒砂を混入 良	灰黄褐	外面は横位の刷毛目調整。 内面は撫で後、斜位の刷毛目調整。	胴・L Rの縄文及び沈線。	
380-8	甕	表土 胴部 破片		細粒砂を混入 良	黒 褐	内面は横無で。	胴・L Rの縄文。横線文。	
380-9	甕	覆土 胴部 破片		細 粒 砂 良	橙	内面は横位の刷毛目。	胴・縄文ころがし。	内面は黒 色
380-10	甕	覆土 胴部 破片		粗粒砂に細粒 砂を含有良好	鈍黄橙		胴・縄文。	
380-11	甕	表土 胴部 破片		粗粒砂を混入 良	鈍 褐	内面は指無で。器内はほぼ均一。	胴・格子目文。	2点の接 合
380-12	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良	鈍 褐	内面は撫で。	胴・条痕。	
380-13	甕	覆土内 胴部 破片		粗粒砂を混入 良	橙	外面は風化が著しい。 内面は横無で。	胴・条痕。	
380-14	甕	覆土 胴部 破片		細 粒 砂 良	灰 褐	内面は撫で。	胴・楕目。	
380-15	甕	表土 胴部 破片		粗 粒 砂 良	灰 褐	内面は横無で。	胴・楕目。	
380-16	甕	覆土内 胴部 破片		微粒砂を含む 良	鈍黄橙	内面は横位の刷毛目調整。	胴・楕目。	
380-17	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良	鈍	外面の器面は荒れている。 内面は斜位の横無で。	胴・楕目。	2点の接 合
380-18	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂に粗粒 砂を混入良好	黄 橙	内外面とも風化が著しい。		
380-19	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂に小礫 を混入 良好	橙	外面は鋭い斜位の刷毛目調整。 内面に縦位の刷毛目調整の痕跡が見られる。		

第2節 弥生時代

380-20	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良	橙	外面は横位の鋭い刷毛目調整。 内面は無で。			
380-21	甕	床直 胴部 破片		細粒砂を混入 良	残黄橙	外面は斜位の刷毛目調整。			
380-22	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良	灰黄褐	外面は刷毛目調整。 内面は無で。			
380-23	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂を混入 良	灰	外面は斜位及び縦位の刷毛目調整。 内面は横位の刷毛無での後、宛無で。			
380-24	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂に礫を 含む 良	橙	内面は風化している。	胴・刷毛目の渦巻き文。	25と同一 個体	
380-25	甕	覆土内 胴部 破片		細粒砂に礫を 含む 良	橙	内面は風化が激しい。	胴・刷毛目の渦巻き文。	2点の接 合24と同 一個体	
380-26	壺	覆土内 底部 破片	底 8.0	微粒砂を混入 良	残黄橙	外面は縦位及び斜位の刷毛目調整。 内面は横無で後、研磨。		4点の接 合	
380-27	壺	表土 底部 破片	底 9.2	細粒砂に小礫 を混入 良	鈍黄橙	外面は器面が荒れているが、縦位の刷毛目の跡が見られる。 内面は器面の荒れが激しい。		3点の接 合	
380-28	壺	表土 底部 破片	底 10.0	細粒砂を混入 良	鈍黄橙	外面底部には刷毛目調整。外面は宛無で。 内面は器面の荒れが激しい。			
380-29	壺	表土 底部 破片	底 10.0	細粒砂を含む 良	鈍黄橙	外面は縦位の刷毛目調整後、宛無で。			
380-30	壺	覆土内 底部	底 7.0	細粒砂に小礫 を混入 良	黒 褐	外面は縦位の刷毛目調整。		2点の接 合外面底 部は黒色	
380-31	壺	覆土内 底部	底 7.8	細粒砂を混入 良	鈍 褐	外面は縦位の刷毛目、内面は横位の刷毛目調整。			
380-32 154	壺	河川敷 口縁・頸・肩部		粗粒砂 良	灰 白	口縁部は外傾しているが口縁部を欠損する。 欠損は磨きにより平縁にしている。	頸・波状文。 肩・刷突文。鋸歯文。	4点の接 合	

380-33 154	壺	表土 頸・肩部	頸 9.5	細 良	粒 好	橙	頸・10本一単位の藤杖文。	
---------------	---	------------	-------	--------	--------	---	---------------	--

第3節 古墳時代（前期）

第3節 古墳時代（前期）

Z区第1号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
384-1	埴	覆土内 1/4	口20.6 頸15.6	細粒砂含 有・良好	褐	器外面は口唇部直下が横撫で後右斜上方向からの刷毛撫で。 器内面は口唇直下が横位の刷毛撫で後さらに全体に横撫で。	3点の 接合
384-2	埴	覆土内 破片	口16.0	細粒砂若 干・良好	明 褐	器外面は口唇部直下が横撫後口縁全体に縦位の研磨。 器内面は横位の刷毛撫で後縦位の研磨を施す。	
384-3	埴	覆土内 破片	口12.0	粗粒砂若 干・良好	赤 橙	器外面は口唇部直下が斜位の刷毛撫で後縦位の研磨。 器内面は横位の刷毛撫で後斜位気味の研磨を施す。	
384-4	埴	覆土内	—	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面は口唇部直下が撫で、頸部周辺は篋削りを施す。 器内面は研磨を施すが器面の風化により方向は不分明。	
384-5	甗?	覆土内	—	粗粒砂混 入・良好	浅黄橙	器外面口縁部は横撫でを施し、体部は縦位の粗い篋撫でを施 す。器内面口唇直下は横撫で、下位は斜位の篋撫でを施して いる。	
384-6 156	埴	覆土内	口14.0 最14.7	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面は口縁部周辺が横位の研磨、下位は斜位の研磨。器内 面は横位の研磨を基調とする。	
384-7 156	埴	覆土内	口14.8 最15.2	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面は口縁部横撫で後横位の研磨を施し、体部は方向性の 無い刷毛撫で。器内面は体部下半迄が斜位・上半より口縁部 は横位の研磨を施す。	2点の 接合
384-8	壺	覆土内	口15.8	粗粒砂含 有・良好	淡 黄	器外面口縁部は縦位の篋撫でを施し、頸部下は刷毛撫で後部 分的に研磨状の篋撫で乃至軽い指撫でを施している。器内面 口縁部は横位の刷毛撫でを施し、頸部下は横位の篋撫でを施 している。	
384-9	台付甕 S字状口 縁	覆土内	—	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	口縁下段部の下半部より篋削りを施し、さらに横撫でを施し ている。頸部以下は縦位の刷毛目を施す。器内面口縁部は横 撫でを施し、頸部周辺は横位の篋撫でを施す。	
384-10	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	—	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面は口縁下段部より縦位の刷毛撫でを施している。上段 及び器内面口縁部は横撫でを施し、頸部内面は横位の篋撫で を施している。	
384-11	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	—	粗粒砂含 有・良好	黄 橙	器面の風化が著しい。	
384-12	台付甕脚 基部	覆土内 破片	—	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面は脚上位が縦位の刷毛撫で、脚部は斜位の刷毛撫で後 縦位に刷毛撫で部分を残す様に指撫でを施している。器内面 底部は粗粒砂を多量に含む粘土を付加し指撫でを施してい る。脚部内面は底部と同質の粗粒砂を多量に含有する粘土を 付加し小刻みに横位に篋撫でを施している。	
384-13	台付甕	覆土内 破片	基 4.8	細粒角礫 多量・良好	黄 橙	器外面は縦位の粗い刷毛状の撫でを施している。脚部内面は 方向性の無い撫でを施す。	
384-14	壺?	覆土内 破片	底10.1	小角礫含 有・良好	橙	器外面底部は横位の篋削り、底面は方向性の無い篋削りを施 す。器内面は方向性の無い篋撫でを施す。	
384-15	壺	覆土内 破片	—	粗粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面には斜位気味の刷毛撫でを施し、後行し横位刷毛目を 施している。	

Z区第20号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
386-1	碗	覆土内 破片	口13.0	細粒砂含有	橙	器内・外面口唇部直下は横撫で、外面口縁部は横位の研磨、体部は縦位の研磨を施す。内面は全体的に縦位の研磨。	
386-2 156	碗乃至高 坏	覆土内 1/3	口20.0	粗粒砂含有・良好	鈍黄	器内・外面共に横位の研磨を基調とし、部分的に斜位の研磨が認められる。	4点の 接合
386-3	碗 (片口?)	覆土内 破片	口14.0	粗粒砂含有・良好	橙	器外面は斜位の刷毛撫でを施す。外面体部に凍による剥落により、粘土帯の単位が器面で認められる。器内面は口唇直下は指頭押圧痕が認められ、以下は指撫でが施されている。	
386-4	器台(器 受部)	覆土内 破片	口12.0	細粒砂含有・良好	鈍黄	胎土中黒色鉱物粒を多量に含有する。器外面は横位の篋撫で後斜位の研磨を施す。器内面口唇真下は横位の篋削りを施し、縦位の研磨を施す。	
386-5	器台(脚 部)	覆土内 破片	底11.0	粗粒砂含有・良好	橙	器外面は荒い篋撫で後斜位気味の研磨を施すが器面の風化により単位は不明瞭、器内面は横位の指撫でを施す。	
386-6	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	口14.0 頸11.2	微粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部下段の中位以下から篋削りを施し、さらに縦位の刷毛撫でを施す。内・外面口縁部は横撫でを施し、器内面頸部は横位の篋撫でを施す。	
386-7	台付甕 S字状口 縁	覆土内 1/3	口12.6 頸11.2	細粒砂含有・良好	褐灰	器外面は口縁下段部下半より篋削りを施した後斜位気味に刷毛撫でを施している。器内面は口唇部直下にも段を有している。整形は頸部下迄横位の指撫でを施している。	2点の 接合
386-8	台付甕 S字状口 縁	覆土内 1/3	口19.0 頸14.2	細粒砂含有・良好	褐灰	器外面口縁下段部下半より篋削りを施した後斜位に刷毛撫でを施している。口縁部内・外面は横位の撫でを施している。器内面頸部は横位の篋撫でを施しており、以下は指撫でを施している。	3点の 接合
386-9	台付甕	覆土内 1/3	基5.4	細粒砂・ 微粒礫含有・良好	灰褐	器外面底部周辺は上方向から下方向への刷毛撫でを基部から体部方向へ小刻みに施し、体部は斜位方向の刷毛撫でを上方向から下方向へ施している。器内面は体部下位に帯状に膨れる部分が認められる。整形は横位の篋撫でを施している。	7点の 接合
386-10	台付甕	覆土内 1/3	基4.9	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面は縦位乃至斜位の刷毛撫でを脚部に連続し施している。底部と基部の接合は粗粒砂を多量に混入する粘土を付加している。器内面の底部ではこの付加粘土を丁寧に指撫でにより平滑にしている。脚内面は斜位の篋撫で後付加粘土を追加し指により押し付けている。	2点の 接合
386-11 156	台付甕	覆土内 一部欠損	基5.0 底9.2	細粒砂含有・良好	鈍橙	器外面脚部上半のみに斜位に刷毛撫でを施している。器内面は底部と脚部の接合に粗粒砂を多量に混入する粘土を付加し、指撫で後刷毛状工具により螺旋状に撫で付けている。脚部は、端部を内側に折り返している。粗粒砂を多量に混入する付加粘土を接合部に指で押し付けている。これに先行し全体的に斜位に指撫でを施している。	7点の 接合
386-12	台付甕	覆土内 破片	底9.0	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面は斜位の刷毛撫でを施している。器内面は端部を折り返している。器厚に均一性が無い。粗粒砂を多量に混入する付加粘土が部分的に認められる。この付加粘土は全体を指撫で後に施されている。	
386-13	甗	覆土内	底3.4 孔1.0 ~1.6	粗粒砂含有・良好	鈍橙	器外面は縦位の篋・刷毛撫で後縦位の研磨を施し、底面は篋撫でを施す。器内面は篋撫で後斜位の研磨を施している。孔部は器内・外面で径が大きく中間が狭く篋撫でを施している。	

第3節 古墳時代（前期）

Z区第27号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
389-1	埴	覆土内 破片	口 8.5 頸 5.7	粗粒砂含 有・良好	鈍赤橙	器外面口縁部は横位の指撫で後縦位の刷毛撫でを施し、さらに体部這一気に縦位の研磨を施している。頸部の括れ部は沈線により表出している。器内面口縁部は斜位の研磨を施し、頸部下・体部は横位に近い斜位の研磨を施している。	
389-2	埴	覆土内 破片	口 9.0 頸 6.7	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口縁部は横位の指撫で後縦位の刷毛撫でを施し、さらに縦位方向の研磨を施している。頸部は括れから体部に向う部分は稜が鋭く、体部も縦位方向の研磨を施している。器内面口縁部は縦位の研磨を施し、頸部以下体部は荒い筥撫で後横位の研磨を施している。	2点の 接合
389-3	埴	覆土内 破片	口 9.0 頸 7.1	粗粒砂若 干・良好	橙	器外面口縁部は横位の指撫で後縦位方向に研磨を施している。器内面は斜位の研磨を施している。	
389-4	埴(底部)	覆土内	底面厚 1.0	細粒砂混 入・良好	鈍 橙	器外面底面周辺は放射状に研磨を施し、体部周辺は横位乃至横位に近い斜位の研磨を施している。器内面は底面が放射状に研磨を施し、体部は横位の研磨を施している。	
389-5 156	埴	覆土内	頸 8.4 体11.1 底 3.3	細粒砂含 有・良好	鈍 褐	器外面全体に成形時の筥削りを施したと考えられる稜が認められる。口縁部は横位の研磨を施し、頸部は刷毛撫で後体部・底部に斜位の研磨を施している。底面は筥撫で後散漫に研磨を施している。器内面口縁部は斜位の研磨を施している。頸部直下は横位の筥撫でを施し、体部から底部は指撫でにより平滑にされている。	7点の 接合
389-6	埴	覆土内	口12.0	粗粒砂多 量・良好	鈍 橙	器外・内面全体に横位の研磨を施している。胎土中の砂粒に黒色鉱物粒が多量に含有される。	
389-7	埴	覆土内 破片	口10.1	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面は口縁部周辺が横位の研磨を施し、体部・底部は斜位の研磨を施す。器内面は縦位の研磨を施す。	
389-8	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	口13.8 頸12.3	粗粒砂若 干・良好	鈍 橙	器外面口縁部は横撫で後下段部が頸部に向かい筥削りを施し、さらに縦位乃至斜位の刷毛撫でを施している。器内面口縁部から頸部にかけては横撫でを施す。	
389-9	台付甕 S字状口 縁	覆土内 1/2	口13.6 頸12.0	粗粒砂若 干・良好	鈍 橙	器外面口縁部は横撫で後下段部が頸部に向かい筥削りを施し、さらに縦位乃至斜位の刷毛撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部下は指頭圧痕を留めている。	2点の 接合
389-10	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	頸15.4	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口縁部は横撫でを施しているが頸部下の刷毛撫でに後行している。器内面は全体的に横撫でが施されているが、頸部下は指頭圧痕の痕跡がかすかに認められる。	口縁上 段部欠 損
389-11 156	台付甕 S字状口 縁	覆土内 1/2	口13.6 頸11.7 胴19.3 基 4.6 底 8.5 高23.9	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部は横撫で後下段部中位程より縦位方向の筥削り後刷毛撫でを施している。刷毛撫では器外面全体に認められ、頸部肩部間は上方向から縦位に施し、肩部には筥削りによる地肌が残存し、肩部から胴部中位にかけては斜位に施している。胴下半は間隔を置きほぼ縦位方向に施し、底部及び脚部は連続的に施している。器内面は口縁部は横撫でを施し、頸部下は指頭圧痕が認められる。肩部から胴部・底部は横位の筥撫でを施している。脚内面は指撫でを施している。底部と脚の接合部は粗い砂粒を多量に含有する粘土を両面から付加し、底部側は撫でにより平滑にしている。脚側では凹凸が認められる程度の指撫でを施している。脚端部は粘土を折り返し複合状にしている。	23点の 接合

389-12 156	台付甕 S字状口 縁	南隅部床 面直上	口11.2 頸10.0 胴15.7 基 4.6 脚 7.6 高19.7	細粒砂含 有・良好	橙	器外面口縁部横撫で後下段部中程から筥削りを施し、同部位より若干斜位に肩部迄刷毛撫でを施している。肩部周辺は斜位に前者に先行している。胴部は斜位気味の刷毛撫でを基部迄肩部に先行し施している。脚部は甕部の刷毛目とは別の目の粗い刷毛撫でを施している。この刷毛撫では一端器面全体に施した後新たに刷毛撫でを施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部以下底部迄は横位の筥撫でを施している。脚内面は指撫でを施している。甕部と脚部の接合部は粗粒砂を多量に混入する粘土を付加し、甕部では筥撫でにより平滑に脚部では指撫でにより押し付けをしている。	22点の 接合
389-13	台付甕	覆土内 破片	基 5.0	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面基部から脚部にかけて連続的に刷毛撫でを施しており、基部では縦位に、脚部では斜位に施している。器内面は粗粒砂を多量に混入する粘土を付加している。	
389-14	小形壺	覆土内 破片	底 4.2	粗粒砂含 有・良好	灰 褐	器外面は横位・斜位の研磨を施す。器内面方向性が一定しない研磨を施す。	

Z区第41号住居跡出土土器一覧表

挿 図 番 号 図 版 番 号	器 種	出土位置 遺存状態	度 目 (cm)	胎 土 焼 成	色 調	器 形 ・ 成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
391-1	埴	覆土内 破片	口14.0	粗粒砂若 干・良好	浅黄橙	器内面・器外面口縁部横撫で、器外面体部は刷毛撫で後縦位の研磨。	
391-2	台付甕	覆土内	口16.0 頸13.8	細粒砂若 干・良好	浅黄橙	器外面は縦位の刷毛撫で後口縁下段部の横撫でを施している。口縁上段・器内面口縁は横撫でを施している。	2点の 接合
391-3	台付甕S 字状口縁	覆土内 1/2	口14.0 頸12.3	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面頸部下刷毛撫で後再度口縁部に横撫でを施している。器内面頸部以下は横位の筥撫でを施している。	
391-4	台付甕 S字状口 縁	覆土内 1/2	口14.0 頸12.1	細粒砂混 入・良好	鈍黄橙	器外面口縁部下段中位下より頸部に向かい筥削りを施し、刷毛撫でを施しており、さらに再度口縁部全体に横撫でを施している。器内面は口縁部から頸部は横撫でを施し、頸部下肩部周辺は指撫でを施している。	
391-5	台付甕S 字状口縁	覆土内	口14.0 頸12.2	細粒砂含 有・良好	鈍 褐	器外面口縁下段部より刷毛撫で後さらに横撫でを施している。器内面は横撫でを施している。2と同一個体か?	
391-6	台付甕	覆土内 破片	—	粗粒砂多 量・良好	鈍 橙	器外面口縁部下段より刷毛撫で後さらに横撫でを施している。器内面は横撫で。	
391-7	台付甕	覆土内	基 5.6	細粒砂含 有・良好	浅 黄	器外面底部から脚部にかけて連続性の刷毛撫でを施している。器内面底部は筥撫で後、粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施した後さらに撫でを施している。脚部は指撫で後付加粘土を押し付け指撫でを施している。	
391-8	台付甕	覆土内 破片	底 8.0	細粒砂含 有・良好	浅 黄	器外面は指撫で後斜位の刷毛撫でを施している。器内面は底部端部を折り返した後指撫でを施している。	
391-9	壺	覆土内 破片	口12.0 頸 8.9	細粒砂多 量・良好	褐 灰	口唇部は平坦である。器外面口縁部は粘土帯の接合痕が認められる。また、口縁部内外面は指撫でを施し、器内面頸部下は筥撫でを施している。	
391-10	壺	覆土内 破片	口11.8 頸 9.5	細粒砂多 量・良好	褐 灰	口唇部は平坦である。器外面口縁部は粘土帯の接合痕が認められる。また、口縁部内外面は指撫でを施している。	9と同 一?
391-11	壺	覆土内 破片	底 3.8	細粒砂多 量・良好	褐 灰	器外面は斜位の研磨を施している。器内面は斜位の研磨を渦巻状に施している。胎土内に黒色鉱物を多量に混入する。	

第3節 古墳時代（前期）

Z区第46号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
394-1	埴	覆土内 破片	口15.0 頸 9.4	細粒砂含 有・良好	橙	器外・内面口唇直下は横位の撫でを施し口縁部・体部は斜位の研磨を施す。	
394-2	埴	覆土内 破片	口12.0	細粒砂多 量・良好	鈍黄橙	器外・内面は横撫でを施す。器内面中位程には刷毛状工具の刺突痕状の痕跡が2箇所認められる。	
394-3	台付甕	覆土内 破片	基 6.0	粗粒砂含 有・良好	鈍赤褐	基部の接合状態は甕部の底部に単に脚を付けただけのものである。器外面は刷毛撫でを基部を境に縦位に施している。器内面は篋撫でにより平滑にしている。	
394-4	台付甕	覆土内 破片	底 9.0	細粒砂含 有・良好	鈍 褐	器外面は撫でにより器面を平滑にしているが、器内面は凹凸が多い。器外面上半には斜位の刷毛撫でを施している。	
394-5 156	壺 有段口縁	覆土上層 ½	口24.9 頸15.8	細粒砂多 量・良好	橙	口縁部段部の接合はしっかりと接合していない。上段と下段の接合部は乾燥・焼成により隙間が生じている。また、器内面の頸部下は著しく磨滅している。これは壺がその機能を逸した段階で何かに転用し、その段階で故意にしたものと考えられる。器外面口縁部は縦位の研磨を施し、頸部下は斜位の研磨を施している。器内面は横位の研磨を施している。	5点の 接合
394-6	壺	覆土内 ½	底 4.8	粗粒砂多 量・良好	灰黄褐	器外面は粗雑な撫でを施し、器内面は横位を基調とする研磨が施される。	2点の 接合
394-7	壺	覆土内 ½	底 8.2	粗粒砂多 量・良好	鈍赤褐	器外・内面は縦位の研磨を施す。器内面には貫入が著しく認められる。	2点の 接合

Z区第47号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
397-1 156	埴	覆土内 口縁部全 周	口12.4 頸 6.6	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口唇部直下は横撫でを施し、後行し縦位方向の研磨を施している。器内面口唇直下は横位の横撫でを施し、後行し全体に斜位の研磨を施している。	6点の 接合
397-2	埴	覆土内 破片	口12.0 頸 7.4	粗粒砂混 入・良好	黄 橙	器外面口唇部直下は横撫でを施し、後行し縦位方向の研磨を施している。器内面は上半部は横位の研磨を施し、下半部は斜位・縦位の研磨を施している。	
397-3 156	埴	覆土内	口11.0 頸 8.6	微粒砂混 入・良好	褐 灰	器外面口唇部直下は横撫でを施し、口縁部は縦位の研磨を施している。頸部から肩にかけては斜位の篋撫で後斜位の研磨を施している。器内面は口唇直下が横撫でを施し、口縁部は斜位の研磨を施している。頸部から肩部にかけては雑な指撫でを施している。	6点の 接合
397-4 156	埴	覆土内	口12.0 頸 9.7	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部は横位・斜位の研磨、頸部から肩部にかけては斜位の研磨を施す。器内面も器外面に同じ。	7点の 接合
397-5	埴	覆土内 破片	底 2.2	粗粒砂含 有・良好	鈍赤橙	底部は篋による削り出し、胎土内粗粒砂中に黒色鉱物粒を含む。器外面は篋撫で、器内面は篋撫で後部分的に研磨を施す。	
397-6	埴	覆土内 破片	底 4.0	粗粒砂含 有・良好	浅黄橙	胎土中粗粒砂中に黒色鉱物を含有する。器外面は縦位方向の研磨を施す。器内面も縦位の研磨を施す。底部底面は同心円状に研磨を施す。	

397-7	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	□14.8 頸13.7	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面下段部以下が縦位の篋削りを施す。内外面共に横位の横撫でを施す。	
397-8	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	□10.5 頸 9.2	粗粒砂含 有・良好	褐 灰	器外面下段部以下が縦位の篋削り後横撫でを施している。	
397-9	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	□14.0 頸13.0	粗粒砂含 有・良好	橙	器外面下段部以下が縦位の篋削り、上段・器内面は横撫でを施している。	
397-10	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	□16.0 頸14.8	粗粒砂若 干・良好	褐 灰	器外面口縁部下段は縦位の篋削り後頸部下が刷毛撫でを施している。口縁上段・器内面は横撫でを施す。	
397-11	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	□14.0 頸12.8	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器内・外面に横撫でを施す。	
397-12	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	□16.0 頸14.2	粗粒砂若 干・良好	褐 灰	器外面口縁部下段は縦位の刷毛撫でを施し、口縁上段・器内面は横撫でを施す。	
397-13	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	□15.0 頸13.2	粗粒砂混 入・良好	浅 橙	器外面口縁部下段から頸部は斜位の刷毛撫でを施している。口縁上段・器内面口縁部は横撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施す。	
397-14	台付甕 S字状口 縁	覆土内	□13.6 頸11.1	細粒砂含 有・良好	暗褐灰	器外面口縁部下段から篋削り後頸部から肩部にかけて斜位の刷毛撫でを施している。肩部から胴部は上位の刷毛撫でに先行し斜位の刷毛撫でを施している。口縁部上段から器内面口縁部・頸部は横撫でを施している。頸部から肩部は篋撫でを施している。器内面頸部に粘土の接合痕が認められる。	7点の 接合
398-1	台付甕 S字状口 縁	覆土内	□11.0 頸10.2	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器内・外面口縁部は横撫でを施す。頸部下は縦位の刷毛を施している。頸部は横撫で後刷毛撫でを施し、さらに横撫でを行なっている。この時に粘土粒が付き、これを平滑しているが、器内には凹凸が残存している。器内面は頸部下で指頭圧痕が認められ、下位は横位の篋撫でを施している。	3点の 接合
398-2	台付甕 S字状口 縁	覆土内 ¼	□11.0 頸10.2	粗粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面口縁部下段は横撫で後左斜上位方向からの刷毛撫でを施している。肩部周辺には横位の刷毛撫でを施している。さらに口縁部下段は刷毛撫で後再び横撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、以下は横位の篋撫でを施している。	2点の 接合
398-3	台付甕	覆土内 ¼	□13.7 頸12.1	細粒砂含 有・良好	黄灰褐	器外面口縁部下段は横撫で後刷毛撫でを斜位に施している。さらに口縁部は刷毛撫で後横撫でを施している。肩部周辺には横位の刷毛撫でを施している。器内面は口縁部・頸部に横撫でを施している。頸部直下には指頭圧痕が認められ、これに後行し肩部周辺に横位の篋撫でを施している。	3点の 接合
398-4 157	台付甕	覆土内 ½	□16.0 頸14.6 胴19.1 基 4.8 甕部高 18.9	粗粒砂・ 白色粗粒 子含有 良好	鈍黄橙	器外面口縁部は横撫で後縦位の刷毛撫でを施し、さらに横撫でを施している。頸部下は刷毛撫でを施すが、順位は、底部→胴下半→胴上半(肩部周辺)→口縁であるが、いずれも上位から下位方向に向かい施している。器内面は口縁部で横位の刷毛撫で後さらに横撫でを施している。頸部から肩部にかけては斜位方向に刷毛撫で後さらに篋撫でにより刷毛目を消している。胴部から底部はやはり篋撫でにより平滑化されており、胴中位程に縦位方向の研磨が施されている。また、器外面胴下半部全体の刷毛目が焼成以前に磨滅しており、恐らくは製作段階で手持ちにより行なわれたために生じたものと考えられる。	25点の 接合
398-5	台付甕	覆土内 破片		粗粒砂混 入・良好	褐 灰	器外面は刷毛撫でを施している。刷毛撫では基部側より先行し上方から下方に向かい撫でを施している。	2点の 接合

第3節 古墳時代（前期）

398-6	台付甕	覆土内 破片	基 5.8	粗粒砂含有・良好	灰 褐	器外面篋削り後縦位の刷毛撫でを施す。刷毛撫では基部側から先行し胴部方向が後行しており、撫での方向は上方向から下方向に向い施している。器内面は、篋撫で後粗粒砂を多量に混入する付加粘土の残存が認められ、付加粘土は指撫でにより押し付けている。付加粘土中黒色鉱物を多量に混入する。	2点の 接合
398-7	台付甕	覆土内 破片	—	粗粒砂若干・良好	橙	基部では底部との接合痕が認められる。甕部の底部は粗粒砂を多量に混入する粘土を付加した粘土のみで、底面として認められるものは脚台部の天井部の粘土である。この部分に最終的に粘粒砂を多量に混入する粘土を付加している。器外面は斜位の刷毛撫でを施し、器内面は指撫でにより平滑化している。	
398-8 157	台付甕	覆土内	基 5.0	粗粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面は底部から脚部に連続的に刷毛撫でを施している。脚部下半は指撫でを施している。器内面は底面・基部には粗粒砂を多量に混入する付加粘土を付加し、内底面は篋撫でにより平坦にしているが基部側は雑な指撫でを施している。	
398-9 157	台付甕	覆土内 全周	基 5.8 底 8.6	粗粒砂多量・良好	鈍赤橙	脚部は底部に付け出すものである。器外面底部は斜位気味の篋削りを施し刷毛撫では部分的に認められる。脚部は左上位からの刷毛撫でを施す。器内面底部は篋撫でにより平滑にしている。底面は指撫でを施している。脚内面は横位の刷毛撫でを施している。又、粘土の巻き上げ状に粘土帯が認められる。	
398-10	台付甕	覆土内 破片	底10.4	細粒砂混入・良好	鈍 橙	器外面は丁寧な指撫でを施し斜上位からの刷毛撫でを施している。器内面は端部を折り返し横位の指撫でを施している。	
398-11	台付甕	覆土内	—	細粒砂含有・良好	灰 褐	台付甕の破片を円形状に打ち欠いている。器外面は刷毛撫で、器内面は横位の篋撫でを施している。	
398-12	壺	覆土内 破片	口12.0 頸10.1	粗粒砂若干・良好	鈍 橙	器外面に粘土帯が認められる。口縁部は横位の指撫でを施し、頸部下は縦位の刷毛撫でを施している。器内面は横位の篋撫でを施している。	
398-13	壺	覆土内 破片	口14.0 頸11.2	細粒砂多量・良好	浅黄橙	器外面に粘土帯が認められる。口縁部は整形痕らしきものは認められない。器内面は横位の篋撫でを施す。	2点の 接合
398-14	壺	覆土内 破片	口14.0 頸10.8	細粒砂多量・良好	鈍黄橙	器外面口縁部に粘土紐巻き上げの粘土帯が認められ、顕著な整形は口唇直下が横位の指撫でを施している。頸部は縦位の刷毛撫でを施している。器内面口縁部は横位の刷毛撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施している。	3点の 接合
398-15	壺	覆土内 破片	口15.0	粗粒砂含有・良好	浅 橙	複合口縁。器外面は刷毛撫で後に口縁を複合にしている。器内面は横位の刷毛撫で後さらに横撫でを施している。	
398-16	壺	覆土内 1/3	頸11.1	粗粒砂多量・良好	鈍 褐	器内外面ともに横撫でを施している。	
398-17	壺	覆土内	頸11.0	粗粒砂多量・良好	黄 橙	器外面は斜位の研磨を施し、器内面は平滑な撫でを施している。器外面は凍ハゼが著しい。	
398-18	壺	覆土内	底 9.0	粗粒砂多量・良好	鈍 橙	器外面は横位の研磨状の篋撫でを施している。器内面は横位の篋撫でを施している。また、器内面には粘土紐の接合痕が認められる。	9点の 接合
398-19 157	壺	覆土内 1/3	底 6.3	粗粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面は雑な撫でを施し、器内面は篋撫でを施している。	
399-1	甕	覆土内 破片	口16.6	粗粒砂多量・良好	鈍 褐	器外面体部は縦位の篋撫でを施し、口縁部は雑な指撫でを施している。器内面は丁寧な指撫でを施している。	

Z区(48・61号住居跡)

399-2	高坏? 器台?	覆土内 1/3	底 9.4	細粒砂含 有・良好	暗赤橙	器外面は縦位の刷毛撫で後縦位の研磨を施している。器内面は粘土紐巻き上げ痕が認められる。粘土帯を掻き消す様に横位の刷毛撫でを施しさらに刷毛目を消す様に横位の篋撫で施している。	
399-3	器台	覆土内 1/2	基 3.0 孔 0.6	粗粒砂含 有・良好	橙	器外面器受部口縁部周辺は横撫でを施し、下半は縦位の刷毛撫でを脚部迄施しており、さらに器面全体を縦位の研磨を施している。器内面器受部は同心円状に研磨を施し、脚部は篋撫で後斜位の刷毛撫でを施している。	
399-4	高坏	覆土内 破片	底13.0	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器内外面ともに横撫でを施し、器外面には丹塗りを施している。	

Z区第48号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
400-1	埴	覆土内 1/3	頸 5.3 底 1.7	粗粒砂含 有・良好	黄 橙	器外面口縁部は縦位の研磨を施し、体部・底部は横位の研磨を施す。器内面口縁部は斜位気味の研磨を施し、体部・底部は指撫でを施している。	3点の 接合
400-2	埴	覆土内 1/4	口12.8 頸 5.3	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器内外面ともに横撫でを施している。	3点の 接合
400-3	台付甕	覆土内 破片	基 6.2	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	脚外面は縦位の篋削りを施している。底面脚側には粗粒砂を多量に混入する付加粘土を付加している。	
400-4	台付甕	覆土内 破片	底 8.8	細粒砂多 量・良好	橙	器外面は斜位の刷毛撫でを施し、器内面は端部を折り返し指撫でを施している。	

Z区第61号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
403-1 157	埴	覆土内 1/2	口10.8 頸 8.8 底 3.1 高 8.7	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口縁部は頸部からの縦位の篋撫でを施す。頸部下は雑な斜位の篋撫でを施している。器内面は口縁部・頸部・体部は横位の雑な篋撫でを施し、底部は放射状に研磨を施している。器外面に粘土の割れ口が認められる。	
403-2	埴	覆土内 1/3	口 8.0 頸 6.6	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部は横位の研磨を施し、頸部には刷毛撫での痕跡が認められ体部は斜位の篋撫でを施している。器内面口縁部には丹塗りが認められる。頸部下は横撫でを施している。	3点の 接合
403-3	埴	覆土内 破片	口14.0	粗粒砂若 干・良好	赤 橙	器内・外面口唇部周辺は横撫でを施し、以下は縦位の研磨を施す。	6点の 接合
403-4	埴	覆土内 破片	口11.0	細粒砂含 有・良好	赤 橙	器外面は縦位の研磨を施す。器内面は方向性が一定しない研磨を施す。	2点の 接合
403-5	埴	覆土内 破片	頸 9.0	粗粒砂多 量・良好	黄 橙	器外面口縁部は斜位の研磨を施し、頸部下は横位の研磨を施している。器内面は斜位の研磨を施し、体部は横撫でを施す。	
403-6	埴	覆土内 破片	頸 6.3	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器内・外面とも横位・斜位の研磨を施す。	2点の 接合
403-7	埴	覆土内 破片	底 3.0	粗粒砂若 干・良好	黄 橙	器外面は横位の篋撫でを施す。器内面は縦位の研磨を施す。	

第3節 古墳時代（前期）

403-8 157	罎	覆土内 1/3	頸 6.2	粗粒砂若 干・良好	鈍赤橙	器外面は縦位の研磨を施す。器内面頸部から体部中位までは斜位の筥撫でを施す。器外面上半は凍ハゼが認められる。	9点の 接合
403-9	浅鉢	覆土内 破片	口18.0	粗粒砂若 干・良好	鈍赤橙	器外面体部筥撫で後横位の刷毛撫でを施し、口唇部周辺は横撫でを施す。器内面は横撫でを施す。	
403-10	台付甕S 字状口縁	覆土内 細片	口11.0	細粒砂若 干・良好	浅黄橙	器外面頸部下は縦位の刷毛撫でを施し、口縁内・外面は横撫でを施す。	
403-11	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	口16.0 頸14.6	細粒砂含 有・良好	褐 灰	器外面頸部下縦位の刷毛撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施す。頸部周辺は粗雑な指撫でを施している。	2点の 接合
403-12	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	口15.0 頸13.5	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口縁部下段下位から頸部に向かい縦位の筥削りを施しさらに同部位から刷毛撫でを施しており、さらに口縁全体に横撫でを施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部下は凹凸が有るが横位の指撫でを施している。	
403-13	台付甕	覆土内	基 5.6	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面底部周辺は縦位方向の刷毛撫でを脚部に向かい連続的に施しているが、脚部では斜位方向になっている。甕部と脚部の接合は、粗粒砂を多量に混入する付加粘土のみで底部を作っている。甕部器内面は丁寧な指撫でにより平滑しているが、脚部内面は雑な指撫で後付加粘土を付けるがやはり雑な指撫でを施している。	
403-14	台付甕	覆土内	基 5.0	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面底部から脚部は連続的な刷毛撫でを施している。器内面は甕部で筥撫で後粗粒砂を多量に混入する付加粘土を貼付し底部を作っている。脚部では雑な指撫で後付加粘土を貼付し指撫でを施している。	
403-15	台付甕	覆土内	基 5.0	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	13に同じ。	
403-16	台付甕	覆土内 1/3	底 9.1	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面は丁寧な撫で後斜位に刷毛撫でを施している。器内面端部は折り返しており、後行し撫でを施し、甕部との接合部には粗粒砂を多量に含有する付加粘土を貼付している。	3点の 接合
403-17 157	台付甕	覆土内 1/3	底10.0	細粒砂含 有・良好	橙	器外面は雑な刷毛撫でを施している。器内面端部折り返し後横位の筥撫でを施している。	7点の 接合
403-18	壺	覆土内 破片	頸10.1	細粒砂含 有・良好	橙	器外面は斜位・縦位方向の刷毛撫でを施している。器内面は筥撫でを施している。	
403-19	壺	覆土内	口16.0 頸11.2	細粒砂含 有・良好	橙	口縁部は複合口縁である。器外面複合部は横位の撫でを施し、口縁部・頸部周辺は縦位の刷毛撫でを施し、さらに筥撫でにより刷毛目を消している。器内面口縁部は横位の研磨を施し、頸部下は横位の筥撫でを施している。	10点の 接合 20と同一 個体
403-20	壺	覆土内	最21.3	細粒砂含 有・良好	橙	器外面は縦位の刷毛撫で後同一方向の筥撫でにより刷毛目を消している。器内面は横位の筥撫でを施している。	5点の 接合
403-21 157	壺	覆土内 1/3	口18.6 頸10.3	粗粒砂若 干・良好	橙	器外面口唇部直下は横位の刷毛撫でを施し、口縁部から頸部肩部にかけては縦位の刷毛撫でを施し、口縁部・頸部下は横撫でにより消しており、さらに頸部下では斜位の研磨を施している。器内面口縁部は横位の研磨を施し、頸部から肩部にかけては指撫でを施すが凹凸が著しく、肩部周辺は横位の筥撫でにより平滑にしている。	14点の 接合
404-1	壺	覆土内 破片	口13.9	粗粒砂若 干・良好	橙	複合口縁。器外面口縁部は横撫でを施す。口縁直下は雑な撫でを施し、器内面は横撫でを施す。	

404-2 157	高坏	覆土内 1/4	□16.7 基 4.0	粗粒砂若 干・良好	鈍 橙	器外面口唇部周辺は横撫で後口縁部全体・坏部底面まで縦位 方向の研磨を施している。底面は縦位の刷毛撫でを先行させて いる。器内面は器外面と同様であるが、刷毛撫での痕跡は 認められない。	2点の 接合
404-3	高坏	覆土内 破片	□18.0	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口唇部周辺は横撫で後口縁部全体・坏部底面に かけて縦位の研磨を施している。口縁部下半は縦位方向の刷毛撫 でを先行させている。器内面は縦位方向の研磨を全体に施して いる。	
404-4	高坏	覆土内 1/4	□15.0	粗粒砂含 有・良好	黄 橙	器外面口唇部周辺は横撫でを施しさらに口縁部全体に縦位の 研磨を施している。器内面は口唇部周辺は横位の研磨を施し 以下は斜位・縦位の研磨を施す。部分的に二次焼成の被熱に より発泡している。	2点の 接合
404-5	高坏	覆土内 1/4	底13.0	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面は全体的に縦位の研磨を施している。接地部周辺は横 位の研磨を施している。器内面には粘土紐の輪積状の痕跡が 認められる。下半部は比較的丁寧な横撫でを施しているが、 上半部は雑な横撫でを施している。	3点の 接合
404-6	高坏	覆土内		細粒砂含 有・良好	鈍赤橙	器外面は縦位の研磨を施している。基部周辺は坏部から脚部 にかけ連続的に刷毛撫でを施しており、基部接合部外被粘土 の剥落により認められる。この刷毛撫で後基部に向かい篋撫 でにより基部に粘土を盛り上げている。	

Z区第62号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
407-1	埴	覆土内 破片	□ 8.0	細粒砂含 有・良好	浅黄褐	器外面は撫でを施した後塗彩を施し、器内面は塗彩を磨り込 む様に施している。	
407-2	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	□14.0 頸12.6	粗粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面頸部下篋削り後刷毛撫でを口縁部下段より施し、さら に口縁部全体に横撫でを施している。器内面頸部下には指頭 圧痕を残し雑な指撫でを横位に施し、口縁部は横撫でを施し ている。	
407-3	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	□14.0 頸12.6	微粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部下段中位以下を篋削りを施した後、縦位の刷毛 撫でを施しさらに口縁全体に横位の撫でを施している。器内 面は頸部・口縁部に横撫でを施し、頸部は雑な撫でを施して いる。	
407-4	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	□14.0 頸12.6	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面頸部下を篋削りを施し、口縁全体は横撫でを施してい る。器内面は頸部下を横位の指撫でを施し、口縁は横撫でを 施している。	
407-5	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	□14.0 頸12.6	細粒砂含 有・良好	鈍 褐	器外面頸部下に篋削りを施し、刷毛撫では頸部の篋削り部分 から施している。口縁部は口縁全体を篋削り後横撫でを施し ている。器内面口縁部・頸部は丁寧な横撫でを施し、頸部下 も比較的丁寧な横撫でを施している。	
407-6 157	台付甕	覆土内 破片	基 5.4	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面は指撫で後甕部底部より連続的に斜位の刷毛撫でを施 している。器内面甕側は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を 施し丁寧な篋撫でを施している。脚部側は付加粘土を施し、 雑な撫でを施し、器内面全体はそれに先行し雑な指撫でを施 している。	
407-7	台付甕	覆土内 破片	底 8.0	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面は丁寧な指撫でを施している。器内面は脚端部を折り 返し指撫でを全体に雑に施している。	

第3節 古墳時代（前期）

407-8	壺	覆土内 破片	口11.0 頸 8.2	粗粒砂含 有・良好	鈍 褐	口唇部は平坦である。器外面は雑な撫でを施しており粘土紐の粘土帯が認められる。器内面頸部下は篋撫でを施し、口縁部は篋撫で後横位の研磨を施している。	
-------	---	-----------	----------------	--------------	-----	--	--

Z区第68号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
409-1	台付甕 S字状口 縁	覆土内	口15.0 頸13.8	細粒砂含 有・良好	灰 褐	器外面口縁部に横撫でを施し、下段中位下より縦位方向の刷毛撫でを施し、さらに口縁部下段を横位の指撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部下は雑な指撫でを施している。	
409-2	台付甕 S字状口 縁	覆土内	口15.0 頸13.0	粗粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部・頸部は横撫でを施し、頸部下より縦位方向の刷毛撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施している。	
409-3	台付甕 S字状口 縁	覆土内	口15.0 頸14.3	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部横撫で後下段より斜位方向の刷毛撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、肩部周辺は横位の篋撫でを施している。	
409-4	台付甕	覆土内	基 5.0	粗粒砂含 有・良好	灰 黄	器外面脚部は指撫でを施し、甕部底部より脚部にかけては連続的な刷毛撫でを施している。器内面脚部は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し篋撫でにより平滑にしている。脚内面は付加粘土を指撫でにより雑に撫で付けている。	

Z区第69号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
411-1	台付甕S 字状口縁	覆土内 脚部欠損	口15.0 頸13.1	細粒砂若 干・良好	鈍 橙	器内・外面は横撫でを施す。	
411-2 159	台付甕 S字状口 縁	覆土内に 床面より 遊離して いる。	口13.2 頸11.8 最20.8 基 5.8	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面頸部・肩部間は横位の篋削りを施し、甕部底部周辺は縦位の篋削りを施している。口縁部は横撫でを施し口縁部下段中位下より刷毛撫でを施し、肩部は斜位に施している。この肩部の刷毛撫でに先行し肩部下の胴部・底部の刷毛撫でを施している。脚部は基部から斜位に刷毛撫でを施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部周辺は雑な指撫でを施しており、胴部・底部は横位の篋撫でを施している。底部には粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し雑な指撫でにより表面を撫でている。脚部は雑な指撫で後付加粘土を施し、表面は雑な指撫でにより撫でている。	

A区第36号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
415-1	台付甕	覆土内	口10.1 頸 9.6	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面口縁部下段より縦位方向の篋削りを施し、同部より斜位に刷毛撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施している。以下は横位の篋撫でを施している。	

415-2	台付甕 S字状口縁	覆土内 1/5	口11.0 頸 9.2	細粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面口縁部横撫で後下段より縦位方向に刷毛撫でを施しており、さらに口縁部上段に横撫でを施している。肩部周辺には頸部からの刷毛撫でに後行し横位の刷毛撫でを施している。さらに頸部・肩部間には横位の指撫でにより縦位方向の刷毛撫でを摩り消している部分が認められる。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施しており頸部下は横位の篋撫でを施している。
415-3	台付甕 S字状口縁	覆土内 破片	口12.0 頸10.2	細粒砂含有・良好	灰 褐	器外面口縁部横撫で後下段中位より縦位方向に篋削りを施し、後行し同部より斜位に刷毛撫でを施しておりさらにこれに後行し口縁部全体に横撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、頸部下は雑な指撫でを施している。
415-4	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	口13.0 頸11.2	細粒砂含有・良好	灰 褐	3に同様。
415-5	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	口14.0 頸13.1	細粒砂含有・良好	浅黄橙	3に同様。
415-6	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	口14.0 頸12.6	粗粒砂含有・良好	灰 褐	3に同様。
415-7	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	口14.2 頸12.0	粗粒砂含有・良好	灰 褐	3に同様。
415-8	台付甕S 字状口縁	覆土内 細片	—	細粒砂含有・良好	灰 褐	器内・外面ともに横撫でを施す。
415-9	台付甕S 字状口縁	覆土内 細片	—	細粒砂含有・良好	浅黄橙	8に同様。
415-10	台付甕	覆土内 破片	基 4.5	細粒砂含有・良好	浅黄橙	器外面甕部から脚部にかけて連続的に刷毛撫でを施し、甕部では縦位に脚部では斜位に施している。器内面は底部全体が粗粒砂を多量に混入する付加粘土で成し、横位の篋撫でを施している。脚部は付加粘土貼付後指撫でを比較的丁寧に施している。
415-11	台付甕	覆土内 破片	底 7.1	細粒砂含有・良好	淡 黄	器外面は指撫でを施す。器内面は端部を折り返し指撫でを施している。
415-12	台付甕	覆土内 破片	底 8.0	細粒砂含有・良好	灰 白	11に同様。
415-13	台付甕	覆土内 破片	底 8.2	細粒砂含有・良好	黒 褐	11に同様。
415-14	台付甕	覆土内 破片	底 8.5	細粒砂含有・良好	浅黄橙	11に同様。
415-15	壺	覆土内 破片	口14.0 頸12.6	細粒砂多量・良好	浅黄橙	器外面には粘土紐の接合痕が認められ、雑な指撫でを施している。器内面は横位の指撫でを施している。
415-16	壺	掘り方覆 土内 1/4	口13.9 頸10.4	粗粒砂多量・良好	浅黄橙	複合口縁を呈する。複合部は横位の指撫でを施し、直下は斜位の刷毛撫でを施している。器内面は横位の刷毛撫で後横位の研磨を施している。
415-17	壺?	覆土内 破片	頸13.9	細粒砂含有・良好	浅黄橙	器外面頸部より厚く篋削りを施し、さらに縦位方向に刷毛撫でを施している。口縁部は刷毛撫で後横位の指撫でを施している。器内面は口縁部が横位の刷毛撫で後軽い同方向の指撫でを施している。頸部下はこれに先行し横位の篋撫でを施している。

第3節 古墳時代（前期）

A区第37号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
417-1	碗?	覆土内 破片	□12.8	細粒砂含 有・良好	橙	器外面は雑な横位の篋撫でを施している。器内面は段を有し丁寧な指撫でを施している。	
417-2	壺	覆土内	最16.0	粗粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面は縦位の篋撫でを施している。器内面は横位の篋撫でを施している。	

A区第38号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
419-1 158	台付甕	床直 %	□13.0 頸11.5 最18.7 基4.6 底8.3	粗粒砂含 有・良好	灰 褐	器外面口縁部横撫で後口縁部下段中位より篋削りを施し肩部は横位に他の部分は縦位に施している。刷毛撫では口縁部中段より斜位に肩部まで施し、肩部から基部にかけて方向を変える斜位の刷毛撫でを施している。脚部は指撫で後甕部より連続的に斜位に刷毛撫でを施している。器内面は口縁部は横撫でを施し、頸部・頸部周辺は雑な指撫でを施している。肩部・胴部・底部周辺は横位の篋撫でを施しており、これに先行し、肩部・胴部には縦位方向に指の強い引き上げの痕跡が認められる。底面は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し雑な指撫でが施されている。脚部は端部を折り返し、全体に指撫でを施した後に付加粘土を施している。付加粘土は全体的に雑な指撫でを施している。	

A区第50号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
422-1	器台	覆土内 破片	□11.0	細粒砂含 有・良好	橙	器外面口縁部横撫で後縦位の研磨を施している。器内面は横撫でを施している。	

A区第51号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
424-1	台付甕	覆土内 破片	□18.2 頸15.8	粗粒砂多 量・良好	黒	器外面口縁部下段より縦位方向の篋削りを施し、頸部直下より縦位方向の刷毛撫でを施している。口縁部は篋削りに後行し横撫でを施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部は雑な指撫でを施しており、指頭圧痕等の痕跡を顕著に留める。	

A区第138号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
426-1	埴	P ₂ 内	□10.0	細粒砂含 有・良好	鈍黄橙	口唇部は平坦である。器外面は縦位方向の刷毛撫で後同方向の研磨を施している。器内面は斜位の刷毛撫でを施している。	
426-2	器台	P ₂ 内	基3.2	粗粒砂含 有・良好	黄 橙	脚部には3分割する位置に孔を有する。器外面器受部は篋撫で後雑な研磨を縦位方向に施し、脚部も同方向の研磨を施す。器内面器受部は放射状の研磨を施し、脚部は撫でを施す。	

426-3	台付甕	覆土内 ½	底 9.0	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面は丁寧な指撫でを施す。器内面は端部折り返し後指撫でを施している。器外面には粘土紐の接合痕が認められる。	
-------	-----	----------	-------	----------	-----	--	--

A区第148号住居跡出土土器一覽表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
428-1 158	壺	覆土内 No.1 全周	口22.4 頸12.4	粗粒砂含有・良好	橙	有段口縁。口唇部は平坦である。口縁部上段には2本一単位の棒状浮文を6箇所貼付する。器外面は全体的に縦位方向に刷毛撫でを施し、さらに口縁部は縦位に研磨を施し、頸部・頸部下は横位に研磨を施している。器内面口唇直下に横位の刷毛撫での痕跡が認められ、全体に横位の研磨を施している。	

A区第152号住居跡出土土器一覽表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
430-1	埴	覆土内 破片	口10.0 頸 9.0	粗粒砂含有・良好	橙	器内・外面共に雑な横位の研磨を施す。	
430-2	埴	床面直上 %	最11.0 底 3.0	粗粒砂含有・良好	橙	器外面胴部は横位の研磨を施し、底部周辺は縦位の研磨を施す。器内面は横位の研磨を施す。	
430-3	壺	覆土内 全周	口16.2	粗粒砂含有・良好	灰 褐	器外面は横位の雑な指撫でを施しており、粘土紐の輪積痕を顕著に残す。器内面は中位下が刷毛撫でを斜位気味に施し、上位は横撫でを施している。	8点の 接合
430-4	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	口11.8 頸10.1	細粒砂含有・良好	褐 灰	器外面口縁部横撫で後頸部より縦位方向の筥削りを施し、さらに同方向の刷毛撫でを施している。器内面口縁部・頸部は横撫でを施し、頸部下は雑な指撫でを施している。	
430-5	台付甕 S字状口 縁	覆土内 破片	口13.9 頸11.9	粗粒砂若干・良好	褐 灰	器外面口縁部横撫で後下段中位より縦位方向の筥削りを施し、さらに頸部直下より縦位方向の刷毛撫でを施している。器内面は横撫でを施している。	
430-6	台付甕S 字状口縁	覆土内 破片	口13.9 頸11.9	細粒砂含有・良好	褐 灰	5に同様。器内面頸部下は雑な指撫でを施す。	
430-7	台付甕 S字状口 縁	覆土内 ½	口13.0 頸11.5	細粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面口縁部は刷毛撫で後の横撫でを施す。口縁部下段中位より筥削りを施し、頸部から縦位方向の刷毛撫でを残す。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部・頸部直下は指頭圧痕を顕著に残し、全体に雑な指撫でを施している。	
430-8	台付甕	覆土内 破片	—	細粒砂含有・良好	褐 灰	器外面は縦位方向の刷毛撫で後口縁部横撫で時に伴って頸部直下が横撫でされている。	
430-9 158	台付甕	床面直上 覆土内 ½	最21.6 基 6.0	細粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面全体に斜位の筥削り後肩部上位は斜位方向、胴部・底部周辺は縦位方向の刷毛撫でを施している。器内面は全体に横位の丁寧な筥撫でを施し、底部はこれに後行し甕部側と脚部側から粗粒砂を多量に含有する付加粘土を施しており、雑な指撫でが施されている。	

第3節 古墳時代（前期）

A区第173号住居跡出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
433-1	埴	覆土内 破片	頸 8.0	白色粗粒 子含有・ 良好	鈍 橙	器外面口縁部は縦位の撫でを施し、肩部は強い横位の篋撫でを施し、体部は斜位の刷毛撫で後撫でを施し、さらに部分的に縦位方向の研磨を施している。	
433-2	埴?	覆土内 破片	口17.0	粗粒砂含 有・良好	浅 橙	口唇部は尖っている。器外面は横位の研磨を施し、頸周辺は縦位の研磨を施し、内面は横位の研磨を施す。	
433-3	埴	覆土内 破片	頸 9.0	細粒砂含 有・良好	浅黄橙	器外面頸部は篋による鋭い稜を有する。頸部下は横位の撫でを施し、体部は斜位の研磨を施す。器内面頸部は斜位の研磨を施し、体部は指撫で後暗文様に放射状に研磨を施す。	2点の 接合
433-4 158	小形壺	覆土内 %	頸 9.0 最14.0 底 4.2	粗粒砂多 量・良好	浅黄橙	器外面全体を斜位の篋削りを施し、後行し斜位方向の研磨を施しているが、底部底面は篋削りのままである。器内面は螺旋状に篋撫でを施しており、底部と胴部の部分には接合痕が認められる。	8点の 接合
433-5 158	台付甕 S字状口 縁	P ₂ 周辺床 面直上層 中・底部 を欠損す る以外は 完器。	口12.0 頸10.6 最16.7	粗粒砂含 有・砂質 味が強い 良 好	鈍 橙	器外面口縁部は横撫で後口縁部下段中位下より縦位方向の篋削りを施し、さらに頸部下より斜位方向の篋削りを器面全体に施すが胴部下位から底部周辺は縦位方向に近くなっている。さらに頸部から縦位方向に刷毛撫でを施し、肩部では横位に肩部直下は斜位に施し、胴部から底部周辺にかけては縦位に刷毛撫でを施している。器内面は胴部下半が横位の篋撫でを施し、胴部上半から肩部には斜位に強い指撫でを施しており肩部から頸部には下位と逆位に強い指撫でを施している。頸部は雑な横撫でを施し、口縁部は横撫でを施している。	
433-6 158	台付甕 S字状口 縁	P ₂ 周辺床 面直上・ 覆土内%	口14.2 頸12.8 最18.4 基 3.6 底 9.2	粗粒砂含 有・砂質 味が強い 良 好	鈍 橙	器外面・器内面共に甕部に就いては5と同様。脚部は器外面が撫で後斜位の刷毛撫でを施す。器内面は端部を折り返し指撫でを全体に施しており甕部では篋撫で後に粗粒砂を多量に含有する付加粘土を施し雑な指撫でを施している。又、脚部器内面には粘土紐の接合痕が認められる。刷毛は5と同一のものと考えられ、5と同一人の製作と考えられる。胎土も5同様。	28点の 接合
433-7 158	台付甕	床面直上 層土中	基 4.7 底 9.5	粗粒砂含 有・砂質 味が強い 良 好	鈍 橙	器外面が撫で後斜位の刷毛撫でを施す。器内面は端部を折り返し指撫でを全体に施しており甕部では篋撫で後に粗粒砂を多量に含有する付加粘土を施し、雑な指撫でを施している。又、脚部器内面には粘土紐の接合痕が認められる。刷毛は5・6と同一のものと思われ、胎土も5・6と同様である点からこの5・6・7は同一の製作と考えられる。	

遺構外出土土器一覧表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土 焼成	色調	器形・成形・整形の特徴	備考
436-1	埴	Z区1溝 破片	口15.0 頸13.3	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	頸部は粘土紐の接合痕を残し段状に表出している。器外面は横位の研磨を施し、器内面は縦位に研磨を施している。	
436-2	埴	Z区表土	口12.0 頸10.0	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面は雑な篋撫でを横位に施し、器内面は横位の研磨を施す。	
486-3	埴	A区11住 破片	口14.0 頸 8.3	粗粒砂若 干・良好	鈍 橙	器内面口唇部直下に細い沈線を施している。器外面は縦位の篋撫で後上半部に横撫でを施し、さらに粗雑に縦位の研磨を施している。器内面は横撫で後斜位の研磨を施している。	

遺構外出土土器

436-4	埴	A区III層 破片	□10.8 頸 8.0	粗粒砂多 量・良好	鈍黄橙	器外面口縁部は縦位の筥撫で後横撫でを施し、頸部周辺は縦位の筥撫で痕を留めている。器内面は横撫でを施す。	
436-5	埴? 塊?	Z区39住 ⅓	□12.0	細粒砂含 有・良好	浅 橙	口縁部の歪みが著しい。器外面は雑な筥撫でを施し、器内面は横撫でを施している。	2点の 接合
436-6	塊? 高坏?	Z区表土 ⅓	□14.0	粗粒砂含 有・良好	鈍黄橙	器外面は雑な縦位の筥撫でを施す。器内面は横撫でを施す。	
436-7	埴	A区77住 ⅓	□ 9.8	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口唇部下は横位の研磨を施し、後行し縦位方向の研磨を施している。器内面は横位の研磨を施す。	
436-8	埴	Z区57址 ⅓	底 1.3	細粒砂含 有・良好	橙(赤 褐色)	器内・外面共に筥撫でを施す。又、器内外面共に赤色顔料の塗彩が認められる。底部は丸味を帯びる。	
436-9	埴	A区表土 ⅓	底 2.8	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	底部は上げ底。器外面は斜位の筥削り後研磨を施す。器内面は放射状に研磨を施す。	
436-10	台付甕 S字状口 縁	A区表土 破片	□15.0 頸14.8	粗粒砂含 有・良好	鈍 橙	口縁部横撫で後下段より縦位に筥削りを施し、さらに同方向に刷毛撫でを施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部下は雑な指撫でを施している。	
436-11	台付甕 S字状口 縁	Z区3住	□16.0 頸14.0	粗粒砂含 有・白色 粗粒子含 有・良好	鈍 橙	口縁部横撫で後下段より縦位方向の筥削りを施し、さらに同方向の刷毛撫でを施す。刷毛撫では頸部下一肩部一頸部・肩部間の順位で施し、肩部は斜位に施している。器内面は口縁部が横撫でを施し、頸部は雑な横撫でを施す。頸部下は横位の筥撫で後同方向の刷毛撫でを頸部直下周辺に施している。	
436-12	台付甕 S字状口 縁	B区45坑	□18.3 頸16.2	粗粒砂含 有・良好	浅 橙	口縁部横撫で後下段中位より縦位の筥削りを施し、さらに頸部より同方向の刷毛撫でを施し、再度口縁部に横撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸・頸頭部下は雑な指撫でを施している。	
436-13	台付甕 S字状口 縁	A区3住 ⅓	□15.0 頸13.7	粗粒砂含 有・砂質 味が強い 良 好	鈍 橙	口縁部の段が顕著でない。器外面口縁部下段下位より縦位方向の筥削りを施し、肩部周辺では横位に近い斜位方向の筥削りを施しており、頸部から粗雑な刷毛撫でを縦位方向に施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部は雑な横位の指撫でを施し、頸部下は斜位の指撫でを施している。 A区173号住居跡出土の第433図5・6・7の刷毛と同一の工具により刷毛撫でが施されていると考えられる。	
436-14	台付甕 S字状口 縁	A区表土 破片	□15.0 頸13.4	細粒砂含 有・良好	黒	器外面口縁部横撫で後下段中位より縦位方向の筥削りを施し、頸部より刷毛撫でを施している。口縁部筥削り後再度横撫でを施している。器内面は頸部を横位の筥撫で後口縁部に横撫でを施す。頸部下は雑な指撫でを施し肩部周辺の筥撫でを施している。	
436-15	台付甕 S字状口 縁	A区8住 破片	□15.0 頸13.8	細粒砂含 有・良好	灰 褐	器外面口縁部横撫で後下段上位より縦位方向に筥削りを施し、頸部より刷毛撫でを施している。器内面口縁部は横撫でを施し、頸部は荒い横撫でを施す。頸部は雑な指撫でを施す。	
436-16	台付甕 S字状口 縁	A区9住 破片	□14.8 頸14.0	細粒砂含 有・良好	鈍 橙	器外面口縁部横撫で後下段中位より縦位方向に筥削りを施し、頸部より刷毛撫でを施しており、口縁部筥削り後再度横撫でを施している。器内面は口縁部・頸部は横撫でを施し頸部下は雑な指撫でを施している。	
436-17	台付甕 S字状口 縁	Z区13住 破片	□14.0 頸12.2	細粒砂含 有・良好	褐 灰	器外面口縁部種撫で後下段上位より縦位方向の筥削りを施し、頸部より同方向の刷毛撫でを施しており、口縁部下段筥削り後再度横撫でを施している。器内面は口縁部・頸部は横撫でを施している。頸部下は荒い横位の指撫でを施している。口縁部は比較的薄い作りになっている。	

第3節 古墳時代（前期）

436-18	台付甕 S字状口縁	A区9住 破片	口10.0 頸 9.6	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面口縁部横撫で後下段中位下より縦位の筥削りを施し、頸部より同方向の刷毛撫でを施しており、口縁部に再度横撫でを施している。器内面は口縁部・頸部に横撫でを施し、頸部下は雑な指撫でを施している。
436-19	台付甕S 字状口縁	Z区17住 破片	口11.2 頸10.0	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	18に同様。
436-20	台付甕	Z区190 坑・破片	最16.2	細粒砂含有・良好	灰 褐	器外面肩部から斜位方向の刷毛撫で後、頸部下から縦位方向の刷毛撫でを施し、横位の刷毛撫でを施している。
436-21	台付甕	A区132 住・破片	基 5.0 底 8.4	粗粒砂含有・良好	鈍黄橙	器外面脚部は撫で後甕部から縦位方向に施された刷毛撫でが基部の部分で変換し脚部で連続的に斜位に施されている。器内面は端部を折り返し全体に雑な指撫でを施し、粗粒砂を多量に混入する付加粘土を甕・脚部側より施しており、甕側は筥撫で・脚側は指撫でにより施されている。
436-22	台付甕	Z区50坑 全周	基 5.5	粗粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面甕部から縦位方向の刷毛撫でが脚部で斜位に変換する。器内面甕部は筥撫で後粗粒砂を多量に含有する付加粘土を施し、さらに筥撫でにより平滑にしている。脚部は雑な指撫で後付加粘土を施し指撫でにより雑に仕上げている。甕部底部は非常に厚い。この土器と胎土・色調・成形・整形・外見が類似するものにZ区第47号住居跡出土のもの（第398図9）とZ区第61号住居跡出土のもの（第403図19）がある。
436-23	台付甕	A区128 住・½	基 5.6	細粒砂含有・良好	黄 橙	器外面甕部から縦位方向の刷毛撫でが脚部で斜位に変換する。器内面甕部は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し、荒い筥撫でが施されている。脚部は全体に指撫でを施して後付加粘土を施し雑な指撫でで仕上げられている。基部の成形は、脚部に甕の立上がり部分を接合し、甕底部は後から作られている。
436-24	台付甕	A区120 住・良好	基 5.0	細粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面甕部・脚部共に縦位の刷毛撫でを施している。器内面甕部は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し、表面は雑な筥撫でが施されている。脚部は指撫で後付加粘土を施し、荒い指撫でにより仕上げられている。成形は23と同様である。
436-25	台付甕	A区57址 ½	基 5.0	粗粒砂含有・良好	浅黄橙	24に同様。
436-26	台付甕	A区表土 破片	基 6.1	細粒砂含有・良好	浅黄橙	器外面甕部は縦位方向の刷毛撫でを施し連続的に脚部に斜位に施している。器内面甕部は筥撫で後粗粒砂を多量に混入する付加粘土を筥撫でにより施しており、脚部は全体を指撫で後付加粘土を施し、表面を雑な指撫でで仕上げている。成形は脚部に甕部の立ち上がりを接合し、底部は後から付けている。
436-27	台付甕	A区109 住・全周	基 5.4	粗粒砂含有・良好	橙	器外面は甕部・脚部共に指撫でのみを施す。器内面甕部底面は粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し筥撫でにより平滑にしている。脚部は全体に雑な指撫で後付加粘土を施し雑な指撫でにより仕上げている。
436-28	台付甕	A区123 住・½	基 5.0	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	26に同様。
436-29	台付甕	Z区57址 破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	浅黄橙	24に同様。
436-30	台付甕	A区18住 破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	鈍 橙	22に同様。

遺構外出土土器

436-31	台付甕	Z区57址 破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	浅黄	23に同様。	
436-32	台付甕	A区145 住・全周	基 5.4	細粒砂含有・良好	橙 褐	23に同様。	
436-33	台付甕	A区137 住・破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	浅黄橙	脚部器外面に縦位・斜位の刷毛撫でを施している。器内面腹部は平滑に指撫でを施している。脚部は比較的丁寧な指撫でを施している。付加粘土は認められない。	
436-34	台付甕	A区130 住・破片	基 3.6	細粒砂含有・良好	浅黄橙	23に同様。	
436-35	台付甕	A区9住 破片	基 5.2	細粒砂含有・良好	灰 褐	器外面脚部指撫で後斜位の刷毛撫でを施す。器内面は指撫でを雑に施した後粗粒砂を多量に混入する付加粘土を施し、指撫でにより仕上げている。	
436-36	台付甕	Z区河川 敷・破片	基 5.2	細粒砂含有・良好	鈍黄橙	23に同様。脚内面に付加粘土がへソ状に出る。	
436-37	台付甕	A区14住 破片	基 5.0	細粒砂含有・良好	浅黄橙	24に同様。	
437-1	壺	Z区39住 1/4	口17.0 頸15.0	粗粒砂含有・良好	鈍 褐	口縁部上位に粘土紐の接合痕が明瞭に認められる。器外面は荒い指撫でを施し、器内面は丁寧な横撫でを施している。	
437-2	壺	Z区17住 破片	口16.0	粗粒砂含有・良好	橙	複合口縁。口縁部斜位の刷毛撫で後複合部を作っている。複合部には指頭による押え後横撫でを施している。	
437-3	壺	A区11住 破片	口14.0 頸11.0	粗粒砂含有・良好	鈍黄橙	複合口縁。成形後複合部下位に縦位の刷毛撫でを施す。複合部は横撫でを施す。器内面は方向性の無い研磨を施す。	
437-4	壺	A区表土 破片	—	細粒砂含有・良好	黄 橙	器外面刷毛撫でを部分的に認める。器内面は横位・斜位の刷毛撫でを施す。器面の風化が顕著。	
437-5	壺	A区表土 破片	—	細粒砂含有・良好	黄 橙	器外面は横位の刷毛撫でを施し、器内面は横位・斜位の刷毛撫でを施す。	4と同一個体
437-6	壺	A区13住 破片	—	粗粒砂含有・良好	灰 褐	器外面は縦位の刷毛撫でを施す。器内面は同方向の指撫でを施す。	
437-7	壺	Z区一括 1/4	—	粗粒砂含有・良好	鈍 橙	器外面刷毛撫で後研磨を施し、器内面は刷毛撫で後篋撫でを施している。	
437-8	甗?	A区4坑 破片	—	粗粒砂若干・良好	鈍 橙	器外面縦位の刷毛撫で後口唇直下は横撫でを施している。器内面は横位の刷毛撫で後横位の研磨を施している。	
437-9	高坏	Z区17住 全周	基 3.2	細粒砂含有・良好	橙	器外面は縦位の研磨を施す。器内面腹部は研磨を施し、脚部は雑な篋撫でを施している。	
437-10	高坏	Z区13住 1/4	基 4.0	細粒砂含有・良好	鈍 橙	9に同様。	
437-11	器台	A区132 住・全周	基 3.2 孔 1.3	細粒砂含有・良好	鈍 橙	脚部に4分割する位置に孔を有する。器外面器受部は縦位の研磨を施し、脚部は斜位の研磨を施す。器内面器受部は研磨を施し、脚部は荒い指撫でを施している。	
437-12	器台	A区12住	基 3.2 孔 1.0	粗粒砂若干・良好	橙	脚部に孔の一部を有する。残存量から3単位の孔と考えられる。器外面は縦位の研磨を施し、器内面脚部は雑な篋撫でを施し、基部の孔は丁寧な篋撫でを施している。基部孔径は1.6cm程を計る。	

第4節 鎌倉時代以降

437-13	高坏? 器台?	Z区5溝 破片	底12.0	細粒砂含 有・良好	橙	器外面は篋削り後縦位・横位の研磨を施す。器内面は斜位・横位の刷毛撫で後指撫でを施している。	
437-14	器台?	Z区12住 破片	底20.0 孔 1.4	細粒砂含 有・良好	橙	器外面篋撫で後孔を施し、後行し縦位方向の研磨を施す。器内面接地部周辺は横位の研磨を施し、これは先行し上位を縦位の研磨を施している。器外面接地部周辺は刷毛状工具による刺突を施し擬似縄文を表出している。	

第4節 鎌倉時代以降

Z区ヘッピー坂出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
444-1	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・(34.0)	白色・黒色鉍 物粒子含有	中性焰 灰黄	紐作り後轆轤による整形。 瓦胎土のI類bに対比される。	
444-2	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子 含有	酸化焰 明赤褐	紐作り後轆轤による整形。割菱文を押捺。 瓦胎土のI類aに対比される。	
444-3 159	焼締陶器 鉢	覆土内 破片	—	白・灰色鉍物 粒子を含む	灰	内・外面に轆轤目有り。内面に7+ α 本の卸目あり。器面は酸化気味の赤褐色。	常滑 17・18C
444-4 159	焼締陶器 鉢	覆土内 破片	—	白・灰色鉍物 粒子を含む	灰	内・外面に轆轤目有り。内面に7+ α 本の卸目あり。器面は酸化気味の赤褐色。	常滑 17・18C
444-5	軟質陶器 播鉢	覆土内 破片	底・(12.0)	黒色鉍物粗粒 子を含む	灰黄	紐作り後轆轤により整形。轆轤左回転。 器内面磨滅。底面回転糸切り。	
444-6 159	施釉陶器 播鉢(褐釉)	覆土内 破片	底・(12.0)	夾雑物無し	淡褐	内外面と底面に鉄釉を施釉。底面に糸切り痕。体 部外面に篋削りあり。内面に10+ α 本の卸目あり。	美濃 18C
444-7 159	施釉陶器 播鉢	覆土内 破片	底・(12.0)	夾雑物無し	淡褐	全面に鉄釉を施釉。底面に糸切り痕あり、内面 に3本を一単位とする卸目あり。	美濃 18C
444-8 159	施釉陶器 播鉢	覆土内 破片	底・(11.0)	白色微量黒色 鉍物粒子含	灰	内面に発色しない鉄釉あり。体部外面は篋削り。 内面に7+ α 本の卸目あり。	常滑 17・18C
444-9	軟質陶器	覆土内 破片	口・27.8 底・27.0	白色粒子若干 黒色粒子含有	黄橙	轆轤により整形。轆轤左回転。 瓦胎土のI類bに対比。	
445-1	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色含黒色鉍 物粒子微量	灰	内外面に自然釉がおよぶ。外面に格子叩目あり。 内面に紐作り痕あり。器面は暗褐色。	常滑焼 13~16C
445-2	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子 微量	灰	外面に撫で整形。内面に指圧痕と紐作り痕あり。 肩部片。器面は灰色。	常滑焼 13~16C
445-3	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 を含む	黒灰	紐作りで、指頭圧痕を認める。外面に撫で整形 で器面は暗褐色。	常滑焼 13~16C
445-4	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 を含む	黒灰	外面は撫で整形、内面は指頭圧痕と紐作り痕あり。 器面は黒褐色。	常滑焼 13~16C
445-5	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	底・(12.6)	黒色鉍物粒子 を含む	淡灰	内外面に自然釉がおよぶ。底面に砂付着。内面 に篋整形。底部片。器面は暗褐色。	常滑焼 13~16C
445-6	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	底・(29.5)	白色鉍物粒子 を含む	淡灰	内外面に自然釉がおよぶ。底面に砂付着。体部 外面に撫で痕あり。器面は褐色。	常滑焼 13~16C

Z区(ヘッピー坂)

445-7 159	施釉陶器 盤(灰釉)	覆土内 破片	口・(30.0)	夾雑物無し	淡 褐	折口盤の口縁部片である。内外面に灰釉を施釉。	美濃 17・18C
445-8 159	施釉陶器 皿(淡灰色)	覆土内 破片	口・(12.0) 底・(7.0)	夾雑物無し	灰	志野釉。高台内面を除き全面に施釉。淡灰色に 発色。外面は体部下半高台を篋で削り出す。	美濃焼 16C後半
445-9 159	施釉陶器 碗(黒釉)	覆土内 破片	口・(10.0)	黒色鉍物粒子 微量	淡 灰	鉄釉の天目釉で褐色の縞が杵目状に入る。内外 面に轆轤目あり。全面施釉。	不詳 17C
445-10 159	施釉陶器 小碗(灰釉)	覆土内 破片	口・(10.0)	夾雑物無し	淡 灰	内外面に灰釉が施釉される。外面体部下半が露 胎となる。口縁は折り口となる。	瀬戸美濃 16・17C
445-11 159	施釉陶器 鉢(灰釉)	覆土内 破片	口・(12.0)	夾雑物無し	淡 褐	内外面に灰釉が施釉される。体部外面工具によ る轆轤目あり。口縁端部は平縁となる。	美濃 不詳
445-12 159	施釉陶器 香炉(褐釉)	覆土内 破片	口・(10.0)	黒色鉍物粒子 を含む	淡 灰	内外面に飴釉が施釉される。口縁内面に反りあ り。	瀬戸美濃 17・18C
445-13 159	施釉陶器 蓋(淡灰)	覆土内 破片	口・(12.0)	夾雑物無し	淡 灰	口縁端部を除き施釉される。陶製瓶の蓋か。	不詳 不詳
445-14 159	施釉陶器 皿(淡黄)	覆土内 破片	—	夾雑物無し	淡 褐	体部下半を除いて施釉。一部露胎となる。内外 面に菊花皿としての凹凸あり。釉調は黄瀬戸風。	美濃焼 17C前半
445-15 159	施釉陶器 碗(淡灰)	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子 を含む	淡 灰	体部外面を除き透明釉を施釉。一部露胎。釉境 は生掛。内外面に轆轤目あり。	瀬戸美濃 17・18C
445-16 159	施釉陶器 鉢(灰釉)	覆土内 破片	底・(11.0)	夾雑物無し	淡 灰	全・面に灰釉施釉。面と底面にトチン痕あり。	瀬戸美濃 17・18C
445-17 159	施釉陶器 香炉(褐釉)	覆土内 破片	—	夾雑物無し	淡 褐	香炉の体部下半である。外面上半のみ鉄釉を施 釉。その他は露胎となる。	美濃 17・18C
445-18 159	施釉陶器 卸皿(灰釉)	覆土内 破片	底・(7.0)	夾雑物無し	淡 褐	外面体部のみ灰釉を施釉。底面に糸切りあり。 内面に卸目の刻みあり。	美濃 15C前半
445-19 159	施釉陶器 碗(掛分)	覆土内 破片	底・(6.0)	黒色鉍物粒子 を含む	灰	高台端部を除き内面灰釉。外面は鉄釉を掛分す る。高台は削り出し高台。	美濃 18C
445-20 159	施釉陶器 碗(褐釉)	覆土内 破片	底・(5.0)	白色鉍物粒子 微量	淡 褐	内面のみ施釉。他は露胎となる。釉は濃胎釉。	瀬戸美濃 17・18C
445-21 159	施釉陶器 油壺(鉄釉)	覆土内 破片	底・(10.0)	白・黒色鉍物 粒子微量	淡 褐	鉄釉を内面と外面体部上半に施釉。他は露胎と なる。外面肩部以下・高台は削り出し。	美濃 17・18C
445-22 159	施釉陶器 筒物(鉄釉)	覆土内 破片	底・(19.5)	白・黒色鉍物 粒子微量	淡 褐	内外面に鉄釉が施釉される。底面は糸切り。体 部外面は篋削り。	美濃 不詳
445-23 159	施釉陶器 燈火皿 (鉄 釉)	覆土内 破片	口・(10.0) 底・(4.0)	黒色鉍物粒子 を含む	白	底面外部を除き透明釉を施釉。油溜り境と口縁 端部が鉄足状に酸化する。	不詳 18・19C
445-24 159	施釉陶器 燈火皿(鉄)	覆土内 破片	口・(12.0)	夾雑物無し	灰	外面下半を除いて施釉。釉調は酸化気味の鉄釉 を施す。返り端部欠損。	不詳 不詳
445-25 159	磁 器 小碗(染付)	覆土内 破片	口・ 6.4 底・ 3.6 高・ 5.0	夾雑物無し	白	染付磁器で呉須は明るい青色を呈す。精製呉須 か。高台端部は露胎となる。	伊万里系 19・20C
445-26 159	磁 器 小碗(染付)	覆土内 破片	底・ 3.0	夾雑物無し	白	染付磁器で呉須は暗く発色し、山呉須か。高台 端部に砂付着。	伊万里系 17・18C

第4節 鎌倉時代以降

445-27 159	施釉陶器 碗(淡褐)	覆土内	底・ 5.0	夾雑物無し	淡 灰	高台端部を除き、内外面に透明釉を施釉。釉はやや酸化気味で鉄足状になる。	京焼 17・18C
445-28	施釉陶器 大皿(唐津)	覆土内	—	白・黒色鉍物 粒子微量	灰	内面に白化粒を施し、淡緑色の緑釉と淡褐色の黄釉を塗り、外面に透明釉を施す。	唐津系 17・18C
445-29 159	磁 器 小碗(染付)	覆土内 破 片	口・ (9.0)	夾雑物無し	白	染付磁器で呉須は暗くなく明るくもない。山呉須か精製呉須か不明。	伊万里系 18C
445-30 159	磁 器 碗(染付)	覆土内 破 片	底・ 7.5	黒色鉍物粒子 微量	淡 灰	広東碗の高台片である。内面に釉の剥ぎ落しがあり、おそらくは蛇目か。	伊万里系 19C前半
445-31 159	磁 器 皿(染付)	覆土内 破 片	底・ 4.0	夾雑物無し	白	印判染付で極めて濃いベロ藍を用いる。高台は蛇目高台。	伊万里系 19C後半
445-32 159	磁 器 碗(青磁)	覆土内 破 片	底・ 6.0	黒色鉍物粒子 微量	淡 灰	高台部片である。高台端部も含め全面施釉。釉に細かい貫入が入る。	龍泉窯系 15C

A区第1号溝状遺構出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土 材 質	焼 成 色 調	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
448-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	底・ 6.1	黒色鉍物粒子 若干	酸化焰 浅黄橙	轆轤整形(左回転)。口唇部にススが附着する。生地はA類。	
448-2	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	口・ 7.6 底・ 5.5 高・ 2.1	暗褐色粗粒子 含有	灰 黄 ~黒灰	轆轤整形(左回転)。器内面に有機質の炭化した付着物が見られる。生地はA類。	酸化焰
448-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 28.8	白色粒子混入	酸化焰 鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土I類aに対比。	
448-4	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 25.6	白色粒子多量	酸化焰 鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。 赤褐色粒子を含む。(瓦胎土I類aに対比する)	
448-5	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 28.0	白色粒子を多 量	還元焰 黒 褐	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比。	
448-6	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 28.5	黒色粗粒子含 有	中性焰 黄 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比。	
448-7	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 29.3	白色微粒子 鉍物多量	酸化焰 黄 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比。	
450-1	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 39.0	白色鉍物粒子 若干	中性焰 灰 黄	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のII類に対比。口縁部に孔を施す。	
450-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 40.0	白色鉍物粒子 若干	中性焰 灰 黄		450-1と 同一個体
450-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 28.8	黒色鉍物粒子 を含有	酸化焰 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のII類に対比。	
450-4	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 31.6	赤橙褐色粒子 混入	酸化焰 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
450-5	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 23.2	4に同じ	酸化焰 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
450-6	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	—	4に同じ	中性焰 灰 黄	紐作り後轆轤整形。割菱文を2箇所を押捺する。 瓦胎土のI類aに対比。	

A区(1号溝状遺構)

450-7	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・ 9.8	4に同じ	中性焰赤黒	紐作り後轆轤整形。瓦胎土のI類aに対比。	
450-8	軟質陶器鉢	覆土内破片	—	黒色・白色鉍物粒子含有	中性焰灰黄	紐作り後轆轤整形。器内面磨滅。瓦胎土のI類bに対比。	擂鉢
450-9	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・ 9.6	赤橙褐色粗粒子含有	酸化焰鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。器内面磨滅。瓦胎土のI類aに対比。	擂鉢
450-10	軟質陶器擂鉢	覆土内1/4	底・ 11.4	白色微粒子含有	中性焰明褐灰	紐作り後轆轤整形。器内面に縦位で5本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のIV類に対比。	
450-11	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・ 12.6	白色粒子含有	還元焰黒褐	紐作り後轆轤整形。器内面磨滅。瓦胎土のI類aに対比。	擂鉢
450-12	軟質陶器擂鉢	覆土内破片	底・ 15.6	白色粒子含有	中性焰灰黄褐	紐作り後轆轤整形。器内面に斜位で7本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のI類aに対比。	擂鉢
450-13	軟質陶器火鉢	覆土内破片	口・ 23.2 最・ 24.8	黒色鉍物・赤褐色粒子含有	中性焰灰黄	紐作り後轆轤整形。器外面に横位の研磨を施す。瓦胎土のII類に類似する。	
450-14 160	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—	黒色(粗)・白色粒子含有	中性焰灰黄	紐作り後轆轤整形。器外面に2条の横位の凸帯・珠文を貼付し、割菱文を施す。研磨を施す。	瓦胎土のI類b
450-15 160	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—	黒色鉍物・黒色粒子含有	中性焰灰黄	紐作り後轆轤整形。器外面に横位の凸帯を施す。凸帯上位には押捺文を施す。	14に同じ
450-16	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—	黒色鉍物粒子含有	酸化焰橙	紐作り後轆轤整形。口唇部直下に凸帯を施し、珠文帯を施す。	
450-17 160	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—	黒色粗粒子含有	酸化焰浅黄	紐作り後轆轤整形。器外面に研磨を施し、口唇部直下に2条の凸帯文と内側に雷文を押捺する。	瓦胎土のII類
451-1 160	軟質陶器円盤	覆土内	長径・ 4.8	白色微粒子含有	酸化焰鈍黄褐	鉢の体部片を転用している。	
451-2 160	焼締陶器大甕	覆土内破片	—	白色鉍物粒子多い	淡灰	口縁部片でM字状を呈す。内外面に横撫でが発達する常滑焼IV期に類す。器面は淡褐色。	常滑焼15C
451-3	焼締陶器大甕	覆土内破片	—	白色鉍物粒子を含む	灰	外面に自然釉がおよぶ。内面には紐作り痕と指圧痕がある。器面は暗灰褐色。	常滑焼13~16C
451-4	焼締陶器大甕	覆土内破片	—	白色多い灰黒色鉍物粒含	淡褐	外面は工具による擦痕があり、内面に撫で痕がある。肩部片。器面は暗褐色。	常滑焼13~16C
451-5	焼締陶器大甕	覆土内破片	—	白・灰色鉍物粒子を含む	淡灰	外面に工具による擦痕あり。内面平滑。器面は暗褐色を呈す。	常滑焼13~16C
451-6	焼締陶器大甕	覆土内破片	—	白色鉍物粒子を含む	灰	内面に自然釉がおよぶ。外面に擦痕あり。器面は暗褐色。	常滑焼13~16C
451-7	焼締陶器大甕	覆土内破片	—	白色含む黒色鉍物粒子多	淡灰	外面に刷毛目状工具あり。内面に紐作り痕。器面は暗褐色。	常滑焼13~16C
451-8	磁器碗(青磁)	覆土内破片	—	夾雑物無し	白	鍋手蓮弁文碗の体部片であるが蓮弁は退化気味。内外面は厚く青磁釉が施され発色は粘土を呈す。	龍泉窯14C
451-9	軟質陶器焙烙	覆土内破片	—	黒色鉍物粒子微量	黄灰	内底面に「合」の字を刻印する。瓦胎土のII類に対比される。	

第4節 鎌倉時代以降

451-10	施釉陶器 皿(灰釉)	覆土内 破片	口・ 12.9 底・ 8.0 高・ 2.2	白色鉍物粒子 微量	淡 灰	外面体部下半を除いて灰釉を施釉。外面体部下半は篋削り。	瀬戸美濃 16・17C
451-11	施釉陶器 鉢(淡灰)	覆土内 破片	口・ 15.8	白色鉍物粒子 微量	淡 灰	鉢の口縁部片である。全面に透明釉を施釉。内外面に轆轤目あり。	美濃 18C
451-12	施釉陶器 碗(灰釉)	覆土内 破片	口・ 13.9	白色鉍物粒子 微量	淡 褐	碗の口縁部片である。内外面に淡い灰釉を施釉。内外面は平滑である。	美濃 17・18C
451-13	施釉陶器 甕(鉄釉)	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 微量	淡 灰	体部片である。内外面に鉄釉を施釉。外面に3+ α 条の沈線がめぐる。	不詳 不詳
451-14	施釉陶器 鉢(灰釉)	覆土内 破片	底・ 10.7	黒色鉍物粒子 微量	淡 褐	高台底外面を除き淡い灰釉を施す。内面にトチン痕あり。	美濃 18C
451-15	施釉陶器 皿(掛分)	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 微量	淡 褐	外面に緑・灰釉を掛分し、内面に灰釉を施す。	美濃 17・18C
451-16	施釉陶器 碗(淡褐)	覆土内 破片	底・ 6.0	白・黒色鉍物 粒子微量	淡 褐	外面体部下半を除いて施釉。露胎部は褐色に酸化。高台は貼り付。	美濃 17・18C
451-17	施釉陶器 小碗(褐釉)	覆土内 破片	底・ 3.4	夾雑物無し	淡 灰	小碗の高台部片である。内面のみ施釉。他は露胎となる。	瀬戸美濃 17・18C
451-18	磁 器 小皿(染付)	覆土内 破片	口・ 14.9	夾雑物無し	白	内外面に呉須を施文した染付である。呉須は淡青色を呈している。	伊万里系 18C
451-19	施釉陶器 碗(染付)	覆土内 破片	底・ 4.1	夾雑物無し	淡 灰	高台端部を除き施釉。外面に3条の染付呉須の圏線が入る。	唐津系 17・18C
451-20	磁 器 小碗(白磁)	覆土内 破片	底・ 3.0	夾雑物無し	淡 灰	高台端部を除き施釉された白磁であるが、欠損部分に染付が施されていたのであろう。	伊万里系 18C
451-21	石 造 品 宝篋印塔笠	覆土内 破片	重・ 640	石材は輝石安 山岩(粗粒)	—	隅飾り突起部で、比較的直線的に立ち上がる。	
451-22 453-1	板 碑 破片・上半	溝底直上 層	—	石材は緑色片 岩	— —	梵字等の種子は認められない。	

A区第1号井戸跡出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度 目(cm) 量 目(g)	胎 土 材 質	焼 成 色 調	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
455-1 160	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	口・ 36.0	白色・赤褐色 粗粒子含有	中性焰 灰～橙	紐作り後轆轤整形。	
455-2 160	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	口・ 35.0	1に同じ	中性焰 橙	紐作り後轆轤整形。耳部分は双孔を施す。 瓦胎土のI類aに対比。	口絵2- 12
455-3 160	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破片	口・ 48.0	1に同じ	中性焰 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
455-4 160	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 42.8	1に同じ	中性焰 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
455-5 160	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 48.8	1に同じ	中性焰 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比。器内面にハゼが多い。	
455-6	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 34.0	白色・黒色粗 粒子含有	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比。	

A区(1号井戸跡) B区(46・159号址、3号井戸跡)

455-7 160	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	口・ 38.0	白色粒子含有	中性焰 灰黄	紐作り後轆轤整形。器外面口唇部直下に2条の横線と内側に16弁の菊花文を押捺する。	
455-8 160	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底・ 11.2	赤褐色粗粒子含有	中性焰 灰黄	紐作り後轆轤整形。器内面は磨滅が著しい。瓦胎土のI類aに対比される。	溜鉢
455-9 160	瓦 円盤	覆土内	長径・ 8.1		還元焰 灰	女瓦片を転用している。外面は縦位の撫でを施す。内面は粘土板剥ぎ取り痕が認められる。	瓦胎土のII類
455-10	焼締陶器 円盤	覆土内	長径・ 5.4	白色微量・灰色鉾物粒子含	淡灰	大甕頸部を再加工した円盤状製品で、外面に自然釉がおよび、内面に指頭圧痕が残る。淡褐	常滑 13~16C
455-11	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色多・灰色鉾物粒子含	灰	頸部片である。内外面に撫であり。内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
455-12	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白・黒色鉾物粒子を含む	灰	外面に刷毛目状工具痕あり。内面に指頭圧痕あり。器面は褐色。	常滑 13~16C
455-13	施釉陶器 碗	覆土内 破片	口・ 15.8	夾雑物無し	灰	内外面に灰釉が施釉される。口縁部は端反となる。体部には轆轤目が残る。	瀬戸 15C後半

B区第46号址出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
458-1	焼締陶器 大甕	覆土内 破片		白色含・黒色鉾物粒子微量	淡灰	外面に擦痕、内面に紐作り痕あり。器面は茶褐色を呈す。	常滑 13~16C

B区159号址出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
460-1	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 25.6	白色微粒子含有	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。瓦胎土のII類に対比される。	
460-2	施釉陶器 茶入れ	覆土内 破片		夾雑物無し	淡灰	外面体部下方向が露胎となり、他は鉄釉が施釉される。鉄釉は安定した釉調。	瀬戸 15 後~16前

B区第3号井戸跡出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
462-1 161	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 1/4	口・ 7.0 底・ 5.4 高・ 1.7	半透明鉾物粒子含有	酸化焰 浅黄橙	轆轤整形(左回転)。生地はA類。	
462-2 161	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 完形	口・ 7.8 底・ 5.4 高・ 2.4	黒色鉾物粒子含有	1に同じ	1に同じ。生地はA類。	
462-3	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 破片	口・ 8.5 底・ 5.2 高・ 2.1	赤褐色粒子を微量	1に同じ	1に同じ。生地はA類。	
462-4	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 1/4	口・ 10.2 底・ 5.7 高・ 3.0	半透明鉾物粒子含有	1に同じ	1に同じ。生地はA類。	

第4節 鎌倉時代以降

462-5	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 破片	口・ 9.9 底・ 5.8 高・ 3.2	黒色鉍物粒子 若干	酸化焰 浅黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
462-6 161	土師質土器 (カワラケ)皿	埋土内 %	口・ 11.7 底・ 6.6 高・ 3.6	橙褐色粒子微 量	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
462-7	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口・ 34.8	白・赤褐色粒 子含有	中性焰 鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
462-8	軟質陶器 鉢	埋土内 破片	口・ 28.4	7に同じ	7に同 じ	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比。	
462-9	焼締陶器 甕	埋土内 破片	—	白色多・灰色 鉍物粒子微量	灰	N字口縁の口縁部である。外面に自然釉がおよぶ。器面は茶褐色。	常滑 13 後~14前
462-10	焼締陶器 甕	埋土内 破片	—	白色含・黒色 鉍物粒子微量	灰	外面に工具の擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
462-11	焼締陶器 甕	埋土内 破片	—	白・灰色鉍物 粒子を含む	淡 灰	外面に工具の擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
462-12 161	鉄 器 小 刀	埋土内	重ね 0.8	—	—	切先を欠損する。推定全長26.8cm、柄は呑口。刀身は鍛え合せ目で割れている。	

B区第5号井戸跡出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎 土 材 質	焼 成 色 調	器形・整形の特徴	備 考
463-1 161	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 完形	口・ 6.6 底・ 3.4 高・ 1.6	黒色鉍物粒子 含有	酸化焰 橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
463-2 161	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 完形	口・ 11.1 底・ 6.5 高・ 2.7	1に同じ	1に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
463-3 161	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 完形	口・ 11.7 底・ 6.6 高・ 3.5	1に同じ	1に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
463-4	土師質土器 (カワラケ)皿	覆土内 破片	口・ (16.2) 底・ (11.0) 高・ (4.3)	細粒角礫若干	酸化焰 黄 灰	1に同じ。 生地はA類。	
463-5 161	軟質陶器 鉢	覆土内 1/4	口・ 33.9	白色粒子多量	中性焰 浅 橙	紐作り後轆轤整形。片口を有する。 被熱の痕跡を認める。瓦胎土のI類bに対比。	片口鉢
464-1 161	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 38.0	黒色粒子多量	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比される。	
464-2 161	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 41.0	白色微粒子多 量	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比される。	
464-3 161	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	—	白色微粒子多 量	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。下半部が磨滅している。瓦胎土のI類bに対比される。	擂鉢
464-4 161	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	底・ 12.0	白色粒子多量	還元焰 鈍 灰	紐作り後轆轤整形。下半部が磨滅している。瓦胎土のI類bに対比される。9本一単位の掻目。	擂鉢
464-5	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	底・ 22.0	赤橙褐色粗粒 子含有	中性焰 鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。外底面に離れ砂の痕跡が認められる。瓦胎土のI類aに対比される。	

B区 (5号井戸跡、1号溝状遺構)

464-6 161	施釉陶器 耳壺(鉄釉)	覆土内 破片	—	白・黒色鉍物 粒子微量	褐	外面に鉄釉を施釉。内面に轆轤目あり。葉茶壺 片である。	舶載 15・16C
464-7	白 下白	覆土内 破片	口・ 31.2 重・ 23.0	石材は輝石安 山岩(粗粒)	—		
464-8	白 下白	覆土内 破片	口・ 45.4 重・ 68.0	石材は輝石安 山岩(粗粒)	—	縁辺部に漆状の塗布が認められる。 下半部の仕上げが粗雑。	

B区第1号溝状遺溝出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
467-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口・ 6.6 底・ 4.9 高・ 2.8	半透明鉍物粒 子微量	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転) 生地はA類。	
467-2 162	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	口・ 7.2 底・ 4.3 高・ 2.0	白色粒子若干	酸化焰 鈍橙	1に同じ。 生地はA類。	
467-3	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口・ 7.5 底・ 4.9 高・ 2.1	赤褐色粒子含 有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。	
467-4 162	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	口・ 7.6 底・ 5.5 高・ 1.8	半透明鉍物粒 子含有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。	
467-5 162	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	口・ 7.6 底・ 4.9 高・ 2.2	黒色鉍物粒子 若干	酸化焰 黒	1に同じ。	2点の接 合
467-6 162	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	口・ 7.9 底・ 4.5 高・ 1.9	白色微粒子微 量	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ	4点の接 合
467-7	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/4	口・ 7.9 底・ 4.5 高・ 2.4	黒色鉍物粒子 若干	酸化焰 黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
467-8 162	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	口・ 7.9 底・ 6.6 高・ 1.9	黒色鉍物粒子 微量	7に同 じ	1に同じ。 生地はA類。口唇部周辺が煤ける。	11点の接 合。
467-9 162	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	口・ 8.0 底・ 5.2 高・ 1.9	細粒砂を多く 含む	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	2点の接 合
467-10	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/4	口・ 9.0 底・ 7.4 高・ 1.5	黒色鉍物粒子 若干	7に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
467-11 162	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	口・ 11.0 底・ 5.8 高・ 3.1	黒色鉍物粒子 若干	7に同 じ	1に同じ。 生地はA類。口唇部から体部にかけて煤ける。	
467-12 162	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/4	口・ 12.1 底・ 6.4 高・ 3.4	黒色鉍物粒子 含有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	2点の接 合
467-13	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口・ 12.2 底・ 6.0 高・ 6.0	12に同じ	12に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
467-14	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	口・ 12.5 底・ 7.0 高・ 7.0	12に同じ	12に同 じ	1に同じ。 生地はA類。口唇部から体部にかけて煤ける。	
467-15	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	口・ 12.7 底・ 7.0 高・ 2.8	12に同じ	12に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	

第4節 鎌倉時代以降

467-16	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口・ 13.0 底・ 6.7 高・ 3.6	黒色鉾物粒子 含有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	2点の接 合
467-17	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 ¼	口・ 13.3 底・ 6.6 高・ 3.4	16に同じ	16に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	3点の接 合
467-18	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口・ 14.8 底・ 10.0 高・ 3.0	16に同じ	16に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
467-19	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	底・ 5.0	赤褐色粒子微 量	酸化焰 鈍 橙	1に同じ。 生地はA類。	
467-20	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	底・ 6.0	19に同じ	19に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
467-21	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	底・ 7.0	16に同じ	16に同 じ	1に同じ。 生地はA類。	
468-1	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口・ 29.9	白色粒子多量	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比される。	
468-2	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	口・ 30.0	白色粒子・赤 褐色粒子含有	中性焰 黒・橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比される。	
468-3	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子多量 赤褐色粒子若 干	中性焰 鈍 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比される。	
468-4	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子含有	酸化焰 鈍 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比される。	
468-5	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子多量	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比する。	
468-6	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子多量 黒色粒子若干	還元焰 鈍 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比する。	
468-7	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	6に同じ	6に同 じ	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比する。	
468-8	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色粒子若干	中性焰 黒・橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のII類に対比する。	
468-9	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	底・ 25.0	半透明鉾物・ 白色粒子若干	中性焰 黄 橙	紐作り後轆轤整形。底面に離れ砂痕を認める。 瓦胎土のII類に対比する。	
468-10	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	白色・赤褐色 粒子含有	中性焰 橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比する。	
468-11	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 26.8	黒色・白色鉾 物粒子含有	中性焰 鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比する。	
468-12	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 27.9	白色粒子含有	中性焰 灰黄褐	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比する。	
468-13	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 33.5	白色粒子含有	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比する。	
468-14	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 33.8	赤褐色粒子含 有	中性焰 灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比する。	

B区(1号溝状遺構)

468-15	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・ 36.8	白色・赤褐色粒子若干	酸化焰橙	紐作り後轆轤整形。口唇直下に孔を有する。瓦胎土のI類aに対比する。	
468-16	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・ 36.9	15に同じ	酸化焰鈍橙	紐作り後轆轤整形。瓦胎土のI類aに対比する。	
468-17	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・ 38.0	赤褐色粒子多量	中性焰黄灰	紐作り後轆轤整形。瓦胎土のI類aに対比する。	
468-18	軟質陶器搗鉢	覆土内破片	—	細礫含有・白・黒色粒子含有	還元焰鈍褐	紐作り後轆轤整形。内器面に「ハ」の字状に6本一単位の掻き目を施す。	瓦胎土のI類b
468-19	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・ 6.4	白色・赤褐色粒子若干	酸化焰鈍褐	紐作り後轆轤整形。内器面に4本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のIV類に対比する。	器内面が磨滅
468-20	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・ 10.0	白色・黒色粒子含有	酸化焰鈍橙	紐作り後轆轤整形。内器面に6本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のI類bに対比する。	器内面が磨滅。
468-21	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・ 10.0	白色・赤褐色粒子含有	酸化焰鈍褐	紐作り後轆轤整形。内器面に7本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のI類bに対比する。	器内面が磨滅
468-22	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・ 11.0	黒色鉍粒子若干	酸化焰鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。内器面に9本一単位の掻き目を施す。瓦胎土のIV類に対比する。	器内面が磨滅
468-23	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・ 11.0	白色粒子微量・砂粒多量	中性焰鈍黄橙	紐作り後轆轤整形。内器面に3本以上一単位とする掻き目を施す。瓦胎土のI類bに対比する。	器内面が磨滅
469-1	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・ 32.6	白色粒子・赤褐色粒子含有	酸性焰赤橙	紐作り後轆轤整形。瓦胎土のI類aに対比する。	
469-2	軟質陶器鉢	覆土内破片	口・ 45.8	赤褐色粒子含有	中性焰褐灰	紐作り後轆轤整形。口唇部直下に孔を有する。瓦胎土のI類aに対比する。	
469-3	軟質陶器鉢	覆土内破片	—	赤褐色粒子含有	中性焰褐灰	紐作り後轆轤整形。瓦胎土のI類aに対比する。	
469-4	軟質陶器鉢	覆土内破片	底・ 11.0	白色・赤褐色粒子含有	中性焰褐灰	紐作り後轆轤整形。内器面は著しく磨滅する。瓦胎土のI類aに対比する。	
469-5 162	軟質陶器火鉢	覆土内破片	口・ 31.2	白色粒子若干	還元焰黄灰	紐作り後轆轤整形。被熱の痕跡を認める。外器面に16弁一単位の菊花文を押捺する。	瓦胎土のII類
469-6 162	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—	黒色鉍白粒子含有	中性焰黄灰	紐作り後轆轤整形。被熱の痕跡を認める。外器面に横位の2条の凸帯を施し、内側に珠文を配する。研磨を施す。	方形の火鉢、燵
469-7	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—	赤褐色微粒子若干	中性焰灰	外器面は研磨を施し、内器面は雑な横撫でを施す。外器面は燵により黒い。下位に孔を有する。	方形の火鉢
469-8	軟質陶器火鉢?	覆土内破片	—	金雲母を多量に含む	酸化焰橙	器外面は平滑な撫でを施す。内面接合部に掻き破りがある。	近代遺物か?
469-9 162	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—	白色粒子若干	還元焰黄灰	紐作り後轆轤整形。内外面燵を施す。瓦胎土のV類に対比される。	
469-10 162	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—	黒色粒子混入	還元焰灰	多角形を呈する。器外面は丁寧な撫で、器内面は雑な髷撫で。瓦胎土のIII類に対比される。	亀甲文を押捺
469-11	軟質陶器火鉢	覆土内破片	—	赤橙褐色粗粒子混入	酸化焰褐	紐作り後轆轤整形。内外面燵を施す。凸帯下に割菱を押捺する。瓦胎土のI類aに対比される。	

第4節 鎌倉時代以降

469-12 162	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	黒色鉾物粒子 を若干含む	酸化焰 橙・灰	粘土板の接合。外面は丁寧な撫で、内面は平滑な撫で。瓦胎土のII類に対比される。	
469-13	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	黒色粒子混入	還元焰 灰	10に同じ。	10と同一 個体?
469-14 162	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	赤橙褐色粗粒 子多量混入	酸化焰 鈍黄褐	粘土板の接合。外面は平滑な撫で。内面は指撫で。瓦胎土のI類aに対比される。	
469-15 162	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	黒色粗粒子多 量混入	還元焰 灰・黒	14に同じ。 燻しを施す。	
469-16	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	黒色・赤褐色 粗粒子多量	中性焰 灰・褐	円柱状の脚部。器面は雑な縦位の篋撫で。「メ」の篋記号が見られる。	瓦胎土の I類a
469-17	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	黒色・赤褐色 粗粒子含有	中性焰 橙・灰	扁平状の脚部。器面は雑な縦位の篋撫で。器面の風化が著しい。	瓦胎土の I類a
469-18	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	黒色粗粒子を 含む	還元焰 黒灰	粘土板による接合。脚部は三角形のものに刻みを入れる。	瓦胎土の I類b
469-19 162	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	微粒の角礫を 含む	還元焰 灰	成形は、篋による削り出し後、篋撫でにより整形。燻しを施す。瓦胎土のII類に対比される。	
469-20	軟質陶器 香炉?	覆土内 破片	—	白色鉾物微粒 子多量	中性焰 橙・灰	脚部は平滑な篋撫でを施す。 脚端部(接地部)は磨滅している。	瓦胎土の I類a
470-1 162	軟質陶器	覆土内 破片	口・ 18.8	白色・黒色鉾 物粒子多量	酸性焰 鈍黄褐	孔を3箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	
470-2 162	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	孔を5箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	近代遺物 か?
470-3	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	孔を3箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	1と同一 個体
470-4	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	孔を2箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	1と同一 個体
470-5	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	孔を2箇所に施す。 紐作り後轆轤整形。	1と同一 個体か?
470-6	軟質陶器	覆土内 破片	—	1に同じ	1に同 じ	推定孔数7箇所。	1と同一 個体か?
470-7	軟質陶器 焙烙	覆土内 破片	口・ 38.0	黒色鉾物粒子 を含む	酸化焰	底面は離れ砂痕。内面に「耳」が1箇所残存。内面は轆轤回転の撫で整形。外面は煤が付着。	
470-8	焼締陶器 甕	覆土内 破片	—	白・灰色鉾物 粒子を含む	赤褐	口縁部片で、常滑焼第IV期に類す。器面は暗褐色を呈す。	常滑 13 後~14前
470-9	焼締陶器 甕	覆土内 破片	—	白色含・灰色 鉾物粒子微量	淡灰	頸部片で、内外面に撫でがある。器面は暗褐色を呈し、酸化気味。	常滑 13・14C
470-10	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色鉾物粒子 微量	淡灰	胎土はやや砂質土を呈している。外面に自然釉がおよび、内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13・14C
470-11	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色含・黒色 鉾物粒子微量	淡灰	外面に自然釉がおよぶ。内面に指頭圧痕あり。器面は暗褐色。	常滑 13~16C
470-12	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色含・灰色 鉾物粒子微量	淡灰	外面に擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色を呈す。	常滑 13~16C

B区(1号溝状遺構)

470-13	焼締陶器 大 甕	覆土内 破 片	—	白色微・黒色 鉍物粒子を含	灰	外面に擦痕、内面に紐作り痕あり。器面は暗褐色を呈す。	常滑 13~16C
470-14	焼締陶器 大 甕	覆土内 破 片	—	白色含・灰色 鉍物粒子微量	灰	外面に擦痕、内面に指頭圧痕と紐作り痕あり。器面は暗褐色。	常滑 13~16C
470-15	焼締陶器 甕	覆土内 破 片	—	白色含・黒色 鉍物粒子微量	淡 灰	外面に自然釉がおよび、内面に紐作り痕あり。器面は暗褐色。	常滑 13~16C
470-16	焼締陶器 大 甕	覆土内 破 片	—	白色含・黒色 鉍物粒子微量	淡 灰	外面に擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
470-17	焼締陶器 大 甕	覆土内 破 片	—	白色含・黒色 鉍物粒子微量	灰	外面に擦痕あり。内面に紐作り痕あり。器面は褐色。	常滑 13~16C
470-18 162	焼締陶器 播 鉢	覆土内 破 片	口・ 21.5 底・ 11.9 高・ 6.5	白色鉍物粒子 を含む	黒 灰	内面に刷毛目痕、外面に指頭圧痕あり。底面に砂付着。内面に使用摩耗あり。器面は暗褐色。	常滑 15C
470-19	施釉陶器 播鉢(褐釉)	覆土内 破 片	—	白色鉍物粒子 微量	淡 褐	内外面に鉄釉を施釉。内面に16本を一単位とする卸目あり。外面に轆轤目あり。	美濃 17・18C
470-20 162	施釉陶器 鉢(灰釉)	覆土内 破 片	口・ 35.7	夾雑物無し	淡 褐	折口鉢口縁部片である。内外面に灰釉を施釉。外面に工具による轆轤目あり。	美濃 15C
471-1 163	施釉陶器 耳壺(褐釉)	覆土内 破 片	—	白色鉍物粒子 微量	灰	外面体部上半に刷毛塗による鉄釉あり。その他露胎。内面に轆轤目あり。葉茶壺。	瀬戸 16C
471-2 163	施釉陶器 耳壺(褐釉)	覆土内 破 片	—	夾雑物無し	灰	471-1と同一個体か。外面に鉄釉。内面に轆轤目あり。葉茶壺。	瀬戸 16C
471-3 163	施釉陶器 壺(灰釉)	覆土内 破 片	—	白色鉍物粒子 微量	淡 灰	外面に篋削り目あり。内面に轆轤目あり。施釉部欠損。葉茶壺。	瀬戸 16C
471-4	施釉陶器 碗(黒釉)	覆土内 破 片	底・ 6.0	夾雑物無し	淡 灰	体部外面下方が露胎となり、他は施釉。釉は黒色の天目釉である。船載か。	中国 14C
471-5	施釉陶器 耳壺(褐釉)	覆土内 破 片	底・ 4.9	白色鉍物粒子 微量	淡 灰	内面に施釉される。内面に轆轤目あり。轆轤目右廻り。底部は篋による再調整。	瀬戸 16C
471-6 162	施釉陶器 皿(灰釉)	覆土内 破 片	底・ 6.4	夾雑物無し	淡 褐	内外面に灰釉を厚く全面施釉。底は削り出し高台である。	美濃 16C前半
471-7 162	施釉陶器 皿(淡灰)	覆土内 破 片	底・ 8.8	夾雑物無し	淡 褐	全面に乳濁した志野釉を掛、鉄絵が内面に描かれる。鉄絵は褐色に発色。意匠は革文か。	美濃 17C
471-8	施釉陶器 甕(褐釉)	覆土内 破 片	—	黒色鉍物粒子 微量	淡 褐	底面を除き内外面に鉄釉を施釉。釉掛は釉境より刷毛による。露胎は酸化。	不詳 不詳
471-9	施釉陶器 蓋(淡褐)	覆土内 破 片	口・ 7.0 底・ 3.6 高・ 1.3	夾雑物無し	淡 褐	天井外面に長石釉を施釉。その他は露胎となる。露胎は酸化。	不詳 17~19C
471-10	施釉陶器 鉢(淡黄)	覆土内 破 片	—	夾雑物無し	淡 褐	内外面に長石釉を施釉。口縁部は平縁状となり体部は内傾する。	美濃 17~19C
471-11	施釉陶器 鉢(灰釉)	覆土内 破 片	底・ 10.9	白色鉍物粒子 微量	淡 灰	内面体部と外面を除いて施釉。釉は灰釉を基調とする緑色。内面に輪トチン痕が見られる。	不詳 18・19C
471-12 163	施釉陶器 小甕(褐釉)	覆土内 破 片	口・ 15.8	夾雑物無し	淡 褐	口縁部周辺を除いて内外面に施釉。無釉部の存在は蓋物か。	不詳 18・19C
471-13	施釉陶器 小甕(掛分)	覆土内 破 片	口・ 26.9	夾雑物無し	淡 褐	口縁部を除いて施釉。外面に鉄釉。内面に鉛釉を掛分る。	不詳 18・19C

第4節 鎌倉時代以降

471-14	磁器 不詳(染付)	覆土内 破片	—	夾雑物無し	白	高台部片である。端部は欠損。全面に施釉。外面底に染付による施文あり。	伊万里系 18C
471-15	焼締陶器 耳壺	覆土内 破片	口・ 15.9	黒色鉍物粒子を含む	白	胎土は磁器質。内外面に自然釉がおよび暗褐色に酸化して発色。	舶載 15・16C
471-16 163	磁器 碗(青磁)	覆土内 破片	—	夾雑物無し	淡・灰	鎗手蓮弁文碗の口縁部片である。釉は青磁釉を内外面に掛ける。	龍泉窯系 13C
471-17 163	磁器 皿(青磁)	覆土内 破片	底・ 6.0	黒色鉍物粒子を含む	淡・灰	青磁稜花皿底部片である。高台内面を除き施釉内面に印文あり。露胎は鉄足状に酸化。	龍泉窯系 15・16C
471-18 163	磁器 皿(青磁)	覆土内 破片	底・ 9.0	夾雑物無し	淡・灰	内面中央に釉剥ぎあり。高台内面は露胎となる青磁釉は薄い。	龍泉窯系 14・15C
471-19 163	磁器 碗(青磁)	覆土内 破片	底・ 4.0	夾雑物無し	淡・灰	高台端部と高台内面を除き施釉。発色は暗く、出来は悪い。	龍泉窯系 14・15C
471-20 163	磁器 合子(白磁)	覆土内 破片	口・ 8.0	夾雑物無し	淡・褐	受け部、体部外面下半を除き施釉。露胎部は酸化気味で淡褐色を呈す。	中国 14C
471-21 163	土製品 円盤	覆土内 完存	径・ 9.0		還元焰 灰	瓦の破片を転用。周辺部は磨いている。第4種瓦当に伴う女瓦。	
471-22 163	土製品 円盤	覆土内 1/2	—		中性焰 灰・褐	瓦の破片を転用。周辺部は磨いている。瓦胎土のII類。	
471-23 163	土製品 円盤	覆土内 完存	径・ 5.4	白色鉍物粒子を含む	還元焰 黄・灰	古代の須恵器大甍片を転用。自然釉が付着。周辺は打ち欠いたまま。	
471-24	石製品 砥石	覆土内	—	石材は流紋岩(砥沢?)	—	小口面と一側面の使用がほとんどない。他の面はよく使用されている。	手持ち砥 (右利き)
471-25	石製品 砥石	覆土内	—	石材は流紋岩(砥沢?)	—	全面よく使用されている。	24に同じ
471-26	石製品 上白	覆土内 破片	重・ 34.0	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	下面中央部が大きくへこみ、よく使用されている。	
471-27	石製品 上白	覆土内 破片	口・ (21.0) 重・ 560	石材は輝石安山岩(粗粒)	—		
471-28	石製品 上白	覆土内 破片	口・ (22.8) 重・ 340	石材は輝石安山岩(粗粒)	—		
471-29	石製品 下白	覆土内 破片	口・ (27.0) 重・ 300	石材は輝石安山岩(粗粒)	—	下臼の外縁部分。	
471-30	石製品 下白?	覆土内 破片	口・ (32.2) 重・ 196	石材は輝石安山岩(粗粒)	—		
472-1	石製品 下白	覆土内 破片	底・ (27.6) 重・ 180	石材は輝石安山岩(粗粒)	—		
472-2	石製品 擂鉢	覆土内 破片	口・ (29.2) 重・ 740	石材は輝石安山岩(粗粒)	—		
472-3	石製品 擂鉢	覆土内 破片	口・ (34.2) 重・ 280	石材は輝石安山岩(粗粒)	—		
472-4	石製品 擂鉢	覆土内 破片	底・ (14.0) 重・ 400	石材は輝石安山岩(粗粒)	—		

B区(1号溝状遺構)

472-5	石製品 播鉢	覆土内 破片	底・(17.6) 重・ 230	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-6	石製品 播鉢	覆土内 破片	底・(18.6) 重・ 410	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-7 163	石造品 空風輪	溝底直上 層完形	高・(28.0) 重・ 8,050	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	外形は丸味が強い。	
472-8 163	石造品 板碑	覆土内 上半部	—	石材は緑色片 岩	— —		
472-9	石造品 板碑	覆土内 破片	—	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —		
472-10 163	石造品 板碑	覆土内 破片	—	石材は緑泥片 岩(粗粒)	— —		
473-1	石造品 板碑	覆土内 破片	—	石材は緑泥片 岩(粗粒)	— —		
473-2 163	石造品 ?	覆土内 破片	—	石材は緑泥片 岩(粗粒)	— —	板碑片の転用か?周辺部を磨いている。	
473-3	石製品 凹石	覆土内 完存	重・ 2,250	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	円礫の2面に窪みを有する。	
473-4 163	石製品 凹石	覆土内 %	重・ 2,750	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	円礫の3面に窪みを有する。	
473-5	石製品 凹石	覆土内 ¼	重・ 180	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	円礫の1面に窪みを有する。	
473-6	石製品 凹石	覆土内 完存	重・ 760	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	5に同じ。	
473-7	石製品 凹石	覆土内 %	重・ 600	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	5に同じ。	
474-1 163	石製品 凹石	覆土内 完存	重・ 410	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	自然面の1面に小さな窪みを有する。	縄文時代 ?
474-2 163	石製品 磨石	覆土内 完存	重・ 300	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	全体がよく磨かれている。1面に工具痕が8箇所に認められる。	
474-3	鉄器 釘	覆土内 ほぼ完存	—	—	— —	錆が全体に及んでいる。 鍛えは通有。	X線により 判読
474-4	鉄器 釘	覆土内 ¼	—	—	— —	錆が全体に及んでおり、鍛えは不良か?	X線により 判読
474-5	鉄器 釘	覆土内 ¼	—	—	— —	3に同じ。	X線により 判読
474-6	鉄器 釘	覆土内 完存	長・ 10.6 幅・ 0.6	—	— —	錆が全体に及んでいる。頭部は打ち出し。	X線により 判読
474-7	鉄器 釘?	覆土内 破片	—	—	— —	3に同じ。	X線により 判読
474-8	鉄不 器明	覆土内 破片	—	—	— —	3に同じ。	X線により 判読

第4節 鎌倉時代以降

474-9	鉄不器明	覆土内破片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-10	鉄不器明	覆土内破片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-11	鉄不器明	覆土内破片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-12	鉄不器明	覆土内破片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-13	鉄不器明	覆土内破片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-14	鉄不器明	覆土内破片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-15	鉄不器明	覆土内破片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-16	鉄鎌	覆土内破片	—	—	—	3に同じ。	X線により判読
474-17	鉄鉄器?	覆土内破片	—	—	—	全体に錆が著しく、着装部の上側が欠損する。鍛えは不良。	
474-18	鉄製品明	覆土内破片	—	—	—	筒状の形状を呈する。全体に錆が著しい。	
474-19	銅銭	覆土内完存	径・ 2.32	—	—	熙寧元宝	
474-20	銅銭	覆土内完存	径・ 2.40	—	—	穿に加工痕有り。 政和通宝	
474-21	銅銭	覆土内破片	—	—	—	□□元□	

B区第6号溝状遺構出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
540-1	焼締陶器 大甕	覆土内破片	—	白色鉱物粒子を含む	赤褐	胴部下半部で、円外面に撫でを施す。酸化焼成気味。	常滑 14・15C

C区第1号掘立柱建物跡出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
541-1	軟質陶器 鉢	覆土内	口・ 33.0	黒色・白色鉱物粒子若干	還元焰 灰黄	紐作り後轆轤整形。器面は燻しにより黒色を呈する。瓦胎土のV類に対比される。	
541-2 163	軟質陶器 鉢	覆土内	底・ 32.0	赤褐色粗粒子多量	酸化焰 鈍橙	紐作り後轆轤整形。器面は燻しにより黒色を呈する。瓦胎土のI類aに対比される。	
541-3 163	軟質陶器 内耳鍋	覆土内	口・ 21.0	白色鉱物粒子多量	酸化焰 鈍褐	紐作り後轆轤整形。器面に燻しの痕跡が認められる。瓦胎土のII類に対比される。	

C区集石群出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
542-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 ¼	口・ 7.3 底・ 5.8 高・ 2.0	黒色鈹物粒子 若干	酸化焙 鈍黄褐	轆轤整形(左回転) 生地はA類。	
542-2 190	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 ⅕	口・ 11.1 底・ 6.4 高・ 3.1	黒色鈹物粒子 若干	酸化焙 鈍黄橙	轆轤整形(左回転) 体部・口縁部に凍ハゼが認められる。生地はA類。	
542-3	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片(½)	底・ 6.7	赤褐色粒子若 干	酸化焙 鈍黄橙	轆轤整形(左回転) 底面に板目の圧痕。 生地はA類。	
542-4	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	赤橙褐色粒子 多量	酸化焙 鈍橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比される。	
542-5	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	黒色鈹物粒子 多量	中性焙 褐・灰	紐作り後轆轤整形。底面は離れ砂。 瓦胎土のI類aに対比される。	
542-6 190	軟質陶器 不明	覆土内 破片	最大径 14.1	黒色鈹物・赤 褐色粒子混入	中性焙 褐・暗灰	紐作り後轆轤整形。内面は雑な撫でを施す。16 弁の菊花文を押捺する。瓦製宝珠か?	瓦胎土の I類a
542-7 190	石造品 宝 篋印塔相輪	覆土内 完形	重・ 6,650 長・ 43.2	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	宝珠は直線的な作り。請花・伏鉢の花弁は直線 的である。上位請花部に金泥を塗布している。	
542-8 190	石造品 宝 篋印塔相輪	覆土内 完形	重・ 8,350 長・ 44.0	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	宝珠・伏鉢は直線的な作り。請花の花弁も直線的 であるが、伏鉢の花弁は複弁状の丸味を帯びる。 上位請花部に赤色塗彩。	
542-9 190	石造品 多層塔相輪	覆土内 完形	重・ 6,850 長・ 42.0	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	宝珠は丸味が強い。請花と九輪の間に水煙を4 箇所配する。花弁は丸味が強い。	
543-1 190	軟質陶器 火鉢	覆土内 脚部破片	底・ 42.0	赤褐色粗粒子 多量混入	酸化焙 浅黄橙	円形を呈する。器外面は燻しにより黒色を呈す る。脚部は削り出し、器面は丁寧な磨きを施す。	
543-2 190	石造品 多層塔相輪	覆土内 完形	重・ 9,000 長・ 46.0	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	宝珠は丸味が強い。水煙を有する。請花の花弁 は丸味を帯び、伏鉢の花弁は複弁を呈する。	
543-3 190	石造品 多層塔相輪	覆土内 突部欠損	重・ 7,550 長・ (46.2)	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	宝珠は丸味が強い。水煙を4箇所有する。伏 鉢の花弁は複弁を呈する。2と同一工人の作?	
544-1 191	石造品 宝篋印塔笠	覆土内隅 飾突起1 箇所欠損	口・ 32.0 底・ 20.8 高・ 15.900	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	高座間に連子を施し、連子部に赤色塗彩を施す。 隅飾突起には渦巻き状の文様を加飾する。	
544-2	石造品 宝篋印塔笠	覆土内 破片	重・ 980	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	隅飾突起は外傾し、隅飾突起下の高座間に連子 を施す。	
544-3	石造品 宝篋印塔笠	覆土内 破片	重・ 700	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	2に同じ。	
544-4	石造品 宝篋印塔笠	覆土内 破片	重・ 200	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	2に同じ。	
544-5	石造品 不明	覆土内 破片	重・ 640	石材は輝石安 山岩(粗粒)	— —	材質から石造品の一部と考えられる。 再加工?の工具痕が多数見られる。	
544-6 191	石造品五輪 塔空風輪	覆土内 完形	高・ 27.8 重・ 5,800	石材は角閃石 安山岩	— —	直線的な外形を呈する。	

第4節 鎌倉時代以降

544-7 191	石造品 五輪塔水輪	覆土内 完形	高・ 14.0 径・ 22.6 重・ 10,300	石材は輝石安 山岩（粗粒）	— —	比較的偏平で、中央部に梵字か記号状のものを 刻する。	
545-1 191	石造品 板碑	覆土内 破片	—	石材は緑泥片 岩	— —	弘安九年の紀年銘を刻する。 上位には、種子の蓮台の一部が遺存する。	
545-2 191	石製品 凹石	覆土内 完存	重・ 9,600	石材は輝石安 山岩（粗粒）	— —	円盤の一面に窪みを有する。	
545-3	石製品 凹石	覆土内 完存	重・ 2,670	石材は角閃石 安山岩 軽石	— —	円盤の一面に窪みを有する。	
545-4	鉄器 釘	覆土内 上半部	—	—	— —	先端部を欠損する。錆が全体に及んでいる。 X線により判読。	
545-5	銅錢	覆土内	径・ 2.33	—	— —	紹聖元宝	
545-6	銅錢	覆土内	径・ 2.38	—	— —	元祐通宝	
545-7	銅錢	覆土内	径・ 2.40	—	— —	熙寧元宝	
545-8	銅錢	覆土内	径・ 2.50	—	— —	宣徳通宝	

C区暗渠状遺構出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
546-1	軟質陶器 内耳鍋	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子 赤褐色粒子多	中性焰 鈍黄灰	紐作り後轆轤整形。耳部の貼り付用の孔を2箇 所に認める。二次焼成の可能性が考えられる。	瓦胎土の I類b
546-2	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 30.0	白色・黒色鉍 物粒子多量	還元焰 黒灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比される。	
546-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 31.2	白色・黒色鉍 物粒子多量	還元焰 黒灰	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類bに対比される。	描鉢
546-4	軟質陶器 鉢	覆土内 破片	口・ 41.8	白色・黒色鉍 物粒子多量	中性 鈍黄褐	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比される。	描鉢
546-5	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	口・ 22.1	細粒砂を含む	還元焰 灰白	紐作り後轆轤整形。外面は平滑な撫でを施す。 瓦胎土のIII類に近質。器面は燻されている。	
546-6	軟質陶器 ?	覆土内 破片	底・ 16.0	細粒砂を多く 含む	中性焰 暗灰橙	紐作り後轆轤整形。底部の立ち上り部に回転篋 削りを施す。器面に燻しを施す。	
546-7 192	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 微量	淡灰	肩部片。外面に格子叩目あり。内面に紐作り痕 と指頭圧痕あり。器面は暗褐色。	常滑 13~16C
546-8	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色含・黒色 鉍物粒子微量	淡灰	体部片。外面に自然釉がおよび、内面に紐作り 痕と指頭圧痕あり。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
546-9 192	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色含・灰色 鉍物粒子微量	黒灰	体部片。外面に格子叩目あり。内面に擦痕あり。 器面は淡褐色。	常滑 13~16C
546-10	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色微・灰色 鉍物粒子を含	淡灰	外面に擦痕あり。内面に紐作り痕と指圧痕あり。 器面は淡褐色。	常滑 13~16C

C区（暗渠状遺構、4号址、1号溝状遺構）

546-11	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色含・灰色 鉍物粒子微量	淡 灰	体部片。外面に擦痕あり。内面に指圧痕あり。 器面は暗褐色を呈す。	常滑 13~16C
546-12	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色含・黒色 鉍物粒子微量	淡 灰	外面に擦痕あり。内面に紐作り痕と指頭圧痕あり。 内面は凍ハゼ顕著。器面は暗褐色。	常滑 13~16C
546-13	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	夾雑物無し	淡 褐	外面に擦痕、内面に紐作り痕あり。器面は褐色。	常滑 13~16C
546-14	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色含・黒色 鉍物粒子微量	淡 灰	外面に自然釉がおよび、内面に紐作り痕と指頭 圧痕あり。肩部片。器面は淡褐色。	常滑 13~16C
546-15	施釉陶器 皿（灰釉）	覆土内	口・ 10.5	夾雑物無し	淡 褐	内外面とも灰釉。内外面ともに轆轤目あり。	美濃 17C
546-16	施釉陶器 鉢（黒釉）	覆土内	口・ 21.1	白・黒色鉍物 粒子微量	黒 灰	口縁端部を除いて施釉。釉は鉄釉。	唐津系 17・18C
546-17	施釉陶器 袋物（掛分）	覆土内 破片	—	夾雑物無し	淡 褐	外面のみ施釉。上半を淡灰色釉、下半を黒色鉄 釉を掛分ける。	不詳 不詳
546-18	施釉陶器 鉢（淡黄）	覆土内 破片	底・ 11.0	白色鉍物粒子 微量	淡 褐	体部下半片で外面露胎。内面は淡黄灰色釉を施 す。外面露胎部に煤付着。	不詳 不詳
546-19	施釉陶器 碗（褐釉）	覆土内 破片	底・ 5.6	白色鉍物粒子 微量	淡 褐	円型加工した二次的製品。内面に胎釉を施し、 その他は露胎となる。	瀬戸美濃 17・18C

C区第4号址出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度 目(cm) 量 目(g)	— —	— —	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
549-1	銅 錢	覆土内 完 存	径・ 2.37	—	—	皇宋通宝	

C区第1号溝状遺構出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度 目(cm) 量 目(g)	胎 土 材 質	焼 成 色 調	器 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
552-1 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完 形	口・ 7.6 底・ 4.7 高・ 2.3	白色鉍物粒子 若干	酸化焰 鈍黄褐	轆轤整形(左回転)。 口唇部の一部に煤が付着する。生地はA類。	
552-2	軟質陶器 内 耳 鍋	覆土内 破 片	口・ 29.0	白色・黒色鉍 物粒子多量	酸化焰 浅黄橙	紐作り後轆轤整形。 瓦胎土のI類aに対比する。	
552-3	軟質陶器 鉢	覆土内 破 片	口・ 29.0	黒色粗粒子・ 白色鉍物粒子	還元焰 暗 灰	紐作り後轆轤整形。体部に雑な撫でを施す。 瓦胎土のI類bに対比する。	
552-4 192	施釉陶器 耳壺(黒釉)	覆土内 破 片	—	白・灰色鉍物 粒子微量	淡 褐	外面に鉄釉が施される。内面に轆轤目あり。葉 茶壺。	舶載 15・16C
552-5 192	焼締陶器 耳 壺	覆土内 破 片	—	黒色鉍物粒子 微量	白	胎土は磁質で、内外面に黒褐色の自然釉あり。 外面に篋削り。内面に紐作り痕。471-15と同一。	舶載 15・16C
552-6 192	施釉陶器 耳壺(黒釉)	覆土内 破 片	底・ 11.2	白色鉍物粒子 微量	灰	外面上部に鉄釉を刷毛塗。底面は回転篋調整。 内面に轆轤目。葉茶壺。471-1・2と同一。	瀬戸 16C

第4節 鎌倉時代以降

C区第4号溝状遺構出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
553-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	底・ 7.0	黒色鉍物粒子 若干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
553-2	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内	底・ 8.2	細粒砂微量	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
553-3	軟質陶器 火鉢	覆土内 破片	—	白色微粒子含 有	還元焰 黄灰・黒	方形状を呈する。底面は1枚の粘土板より作る。 足部は貼付後、指撫による整形。燻し。	瓦胎土の II類対比
553-4 192	軟質陶器 香炉?	覆土内 破片	口・ 7.6	白色鉍物粒子 微量	中性焰 灰黄	轆轤整形(左回転)。口縁部に14弁の菊花文を押 捺する。器面は燻しにより黒色を呈する。	瓦胎土の II類対比
553-5	焼締陶器 大甕	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 微量	褐	外面に格子叩目。内面に紐作り痕あり。器面は 暗褐色を呈す。	常滑 13~16C
553-6 192	施釉陶器 碗(黒釉)	覆土内 破片	口・ 13.0	夾雑物無し	淡灰	外面体部下半が露胎で、鉄釉天目が施される。 火中のため外面は発泡し、内面は鮫肌状に変化。	中国 15C
553-7 192	土製品 円盤	覆土内 完存	重・ 22.0 径・ 4.0	白色鉍物粒子 多量	赤褐	大甕の胴部片を転用。	
553-8 192	土製品 円盤	覆土内 完存	重・ 29.0 径・ 4.4	白色鉍物粒子 混入	還元焰 灰黄	轆轤陶器の鉢の破片を転用。 瓦胎土のI類bに対比される。	
553-9 192	土製品 円盤	覆土内 完存	重・ 48.0 径・ 4.8	白色鉍物粒子 混入	還元焰 灰黄	轆轤陶器の内耳鍋の破片を転用。 瓦胎土のI類bに対比される。	

C区第2号井戸跡出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
554-1 192	軟質陶器 火鉢	覆土内 脚部片	—	細粒砂を若干 含む	還元焰 灰褐	方形を呈する。非常に緻密な胎土で、器面は平 滑で、角は稜立っており、焼締りも良好である。	

C区第3号井戸跡出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
555-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内	口・ 7.2 底・ 4.5 高・ 2.1	白色鉍物粒子 混入	酸化焰 浅黄橙	轆轤整形(左回転)。器内底面が盛り上がる。 生地はA類。	
555-2	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内	口・ 7.8 底・ 5.4 高・ 1.8	細粒砂含有	酸化焰 浅黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
555-3	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内	口・ 6.6 底・ 5.4 高・ 2.1	黒色鉍物粒子 若干	酸化焰 浅黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
555-4	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内	底・ 6.8	細粒砂含有	酸化焰 浅黄橙	1に同じ。底面にシルトのブロックが見られる。 生地はA類。	
555-5	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内	底・ 6.9	白色・黒色鉍 物粒子含有	酸化焰 浅黄橙	1に同じ。 生地はA類。	

C区(4号溝状遺構、2・3号井戸跡) B区(1・6号土塚墓) C区(1・3号土塚墓)

555-6	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内	底・	8.1	細粒砂含有	酸化焰 浅黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
555-7	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 1/5	口・ 底・ 高・	12.5 8.3 4.2	細粒砂含有	酸化焰 浅黄橙	1に同じ。底面は回転糸切り後筥調整。 生地はA類。	
555-8	土師質土器 (カワラケ) 皿	埋土内 1/5	口・ 底・ 高・	13.7 9.5 3.3	細粒砂含有	酸化焰 浅黄橙	1に同じ。底面は回転糸切り後筥調整。 生地はA類。	
555-9	土製品 円盤	埋土内 完存	径・	4.8	白色粒子若干	還元焰 灰	古代の女瓦片を転用している。	

B区第1号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
560-1 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・ 底・ 高・	12.0 6.9 3.0	黒色・白色鋳 物混入	酸化焰 浅黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
560-2 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 1/5欠損	口・ 底・ 高・	12.0 7.5 2.7	黒色・白色鋳 物混入	酸化焰 浅黄橙	1に同じ。 生地はA類。	1と同一 工人の作

B区第6号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
564-1 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 一部欠損	口・ 底・ 高・	11.7 7.5 2.6	細粒砂若干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	

C区第1号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考	
566-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 1/5	口・ 底・ 高・	7.2 4.8 1.8	黒色鋳物粒子 若干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
566-2 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 3/4	口・ 底・ 高・	8.1 4.5 1.8	白色鋳物粒子 多量	酸化焰 赤褐	1に同じ。 生地はB類。	
566-3	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 一部欠損	口・ 底・ 高・	8.7 5.7 2.1	不分明	酸化焰 黒	1に同じ。器面のハゼが著しく、器面は燻されている。生地はA類か?	
566-4	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 完形	口・ 底・ 高・	11.6 6.6 2.9	黒色鋳物粒子 混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。生地はA類。	
566-5	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 1/5	口・ 底・ 高・	12.0 6.9 3.0	褐色粗粒子多 量	酸化焰 赤褐	1に同じ。 生地はB類。	

C区第3号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	— —	— —	器形・整形の特徴	備考
568-1 192	鉄器 鉄	人骨内 茎先欠損	長・	15.8	— —	大根の鉄。亥目透しを施す。 茎先欠損は調査時のものとする。	第5章第 4節参照

第4節 鎌倉時代以降

C区第4号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
569-1 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 層 完形	口・ 7.8 底・ 5.3 高・ 1.8	黒色鉱物・赤褐色粗粒子含有	酸化焙 鈍黄褐色	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
569-2	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 口縁部 $\frac{1}{2}$	口・ 11.6 底・ 7.2 高・ 3.0	細粒砂含有	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
569-3 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 一部欠損	口・ 12.9 底・ 7.5 高・ 2.4	黒色鉱物・赤褐色粒子混入	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
569-4 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	壁側覆土 一部欠損	口・ 12.8 底・ 7.8 高・ 2.6	黒色鉱物・赤褐色粒子混入	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
569-5 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	人骨直上 完形	口・ 12.6 底・ 7.5 高・ 2.7	黒色鉱物・赤褐色粒子若干	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
569-6	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 $\frac{1}{2}$	口・ 16.5 底・ 9.0 高・ 3.3	赤褐色粗粒子混入	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。白色の粗粒シルトを含む。 生地はA類。	

C区第5号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
570-1 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・ 8.4 底・ 5.7 高・ 2.0	黒色鉱物粒子若干	酸化焙 鈍黄褐色	轆轤整形(左回転)。器面に黒斑が見られる。 生地はA類。	
570-2	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 破片	口・ 8.3 底・ 6.2 高・ 1.8	黒色鉱物粒子若干	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
570-3 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・ 11.7 底・ 7.5 高・ 2.7	黒色鉱物・赤褐色粒子若干	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。器面に黒斑が若干見られる。 生地はA類。	
570-4 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 $\frac{1}{2}$	口・ 16.2 底・ 9.3 高・ 3.8	黒色鉱物・赤褐色粒子若干	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。白色の粗粒シルトを混入する。 生地はA類。	

C区第6号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
571-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 $\frac{1}{2}$	口・ 6.0 底・ 4.5 高・ 1.8	細粒砂含有	酸化焙 鈍黄褐色	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
571-2 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 一部欠損	口・ 11.4 底・ 6.9 高・ 2.7	細粒砂・赤褐色粗粒子・黒色鉱物粒子含有	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
571-3 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	口・ 11.3 底・ 6.9 高・ 2.6	細粒砂含有	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
571-4 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 $\frac{1}{2}$	口・ 11.0 底・ 5.4 高・ 3.3	赤褐色粗粒子含有	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	
571-5 192	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	口・ 11.3 底・ 6.0 高・ 3.0	細粒砂・赤褐色粗粒子含有	酸化焙 鈍黄褐色	1に同じ。 生地はA類。	

C区(4・5・6・10・11・12・13号土坟墓)

571-6 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	口・ 14.7 底・ 8.7 高・ 3.0	砂粒・黒色鈹 物粒子多量	酸化焰 鈍橙	1に同じ。 生地はC類。	
--------------	----------------------	------------	-----------------------------	-----------------	-----------	-----------------	--

C区第10号土坟墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
574-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	口・ 8.1 底・ 6.0 高・ 1.8	赤褐色・白色 粒子若干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
574-2 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	口・ 8.1 底・ 4.5 高・ 2.0	赤褐色粗粒子 混入。	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
574-3	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 一部欠損	口・ 11.7 底・ 6.6 高・ 3.3	赤褐色細粒子 若干	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。底部の作りが厚い。 生地はA類。	

C区第11号土坟墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
575-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・ 7.8 底・ 5.4 高・ 1.5	赤褐色粒子多 量	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。器内面に小さい黒斑が付着 する。生地はA類。	
575-2 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・ 8.6 底・ 6.2 高・ 1.8	赤褐色粒子多 量	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
575-3 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・ 12.9 底・ 8.1 高・ 2.7	赤褐色粗粒子 混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。器内外面に黒斑が付着する。 生地はA類。	
575-4 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・ 14.3 底・ 7.5 高・ 2.4	赤褐色粗粒子 混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。器内外面に黒斑が付着する。 生地はA類。	
575-5 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・ 19.5 底・ 11.1 高・ 3.6	赤褐色粒子混 入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。口唇部で、欠損した部分を磨いてい る部分が認められる。生地はA類。	器面に黒 斑

C区第12号土坟墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
576-1 193	鉄 器	人骨首部	長・ 9.8	—	—	—	—
	鉄					茎先を欠損し、鎌関部には筧が遺存し、沓巻の 一部も認められる。	第5章第 4節参照

C区第13号土坟墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
577-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	人骨直上 完形	口・ 12.3 底・ 6.9 高・ 2.4	赤褐色粗粒子 混入	酸化焰 橙 褐	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
577-2 193	土師質土器 香 炉	覆土内	口・ 8.1 底・ 5.7 高・ 3.8	細粒砂・白色 鈹物含有	酸化焰 鈍橙褐	1に同じ。 生地はA類。	

第4節 鎌倉時代以降

C区第15号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
578-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・ 13.8 底・ 7.8 高・ 3.0	赤褐色粗粒子 混入	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
578-2	鉄器 不明	覆土内 破片	残存長 12.7	—	— —	長い棒状を呈する。錆が全体に及んでいる。	X線により判読

C区第16号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
581-1	石造品 五輪塔地輪	覆土内 完存	高・ 15.6 巾・ 23.3 重・ 15,100	石材は溶結凝 灰岩(里見石?)	—	上面中央部の水輪と接する部分が擦れている。	
581-2 193	石造品五輪 塔空風輪	人骨直上 完存	高・ 24.5 重・ 5,400	石材は輝石安 山岩(粗粒)	—	空輪上部は丸味を帯び、同側部及び風輪は直線的である。	
581-3 193	石造品宝 篋印塔相輪	覆土内 上半部	重・ 2,210	石材は輝石安 山岩(粗粒)	—	宝珠は丸味を帯びるが、請花部の花卉は直線的である。	

C区第31号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
587-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 層 %	口・ 11.0 底・ 6.6 高・ 2.3	赤褐色粒子混 入	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
587-2	鉄器 不明	覆土内 破片	残存長 6.8	—	— —	錆が全体に及んでいる。	X線により判読
587-3	鉄器 釘?	覆土内 破片	残存長 4.0	—	— —	錆が全体に及んでいる。	X線により判読

C区第37号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
588-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 破片	口・ 10.7 底・ 7.2 高・ 2.4	赤褐色粗粒子 ・粗粒砂多量	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	

C区第34号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
589-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 層 完形	口・ 8.6 底・ 6.0 高・ 2.0	黒色鉱物粒子 含有	酸化焰 鈍 褐	轆轤整形(左回転)。シルトブロックが多く見られる。生地はA類。	
589-2 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 一部欠損	口・ 11.4 底・ 7.2 高・ 2.9	赤褐色粒子含 有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
589-3 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	口・ 12.6 底・ 7.8 高・ 2.7	黒色鉱物粒子 含有	酸化焰 鈍 褐	1に同じ。シフトブロックが多く見られる。生地はA類。	

589-4 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 完形	口・13.2 底・7.8 高・2.6	赤褐色粒子含 有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
--------------	----------------------	-----------	--------------------------	-------------	------------	-----------------	--

C区第36号土坟墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
591-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 層 完形	口・8.3 底・5.4 高・2.3	赤橙褐色粗粒 子混入	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
591-2	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 復原完形	口・11.1 底・6.0 高・2.4	赤橙褐色粗粒 子混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
591-3	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 層 完形	口・10.8 底・6.9 高・2.6	赤褐色・黒色 鈳物粒子混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	

D区第2号土坟墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
594-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 1/2	口・11.4 底・6.6 高・3.3	黒色細粒子含 有	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。底部の作りが厚い。 生地はA類。	
594-2	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・12.5 底・6.3 高・3.3	砂粒混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。底部の作りが厚い。 生地はA類。	

D区第6号土坟墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
597-1	土師質土器	壁周辺 一部欠損	口・13.2 底・5.8 高・4.6	白色粒子・粗 粒砂含有	酸化焰 黄橙	轆轤整形(右回転)。内面には、製作時に重ね置 いた土器の底部の一部が付着している。	
597-2	土師質土器	壁周辺 一部欠損	口・9.2 底・4.7 高・2.6	白色粒子・粗 粒砂含有	酸化焰 黄橙	轆轤整形(右回転)。 器厚が厚い。	

D区第8号土坟墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
599-1	土師質土器	底面直上 立ち上り部	口・10.4 底・4.5 高・3.0	黒色・白色鈳 物粒子多量	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(右回転)。 生地はA類。	

F区第3号土坟墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
600-1	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	口・11.1 底・5.6 高・3.3	赤褐色粒子若 干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	

第4節 鎌倉時代以降

F区第5号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
601-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 一部欠損	口・ 11.1 底・ 6.3 高・ 3.0	褐色粒子若干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。底部の作りが厚い。 生地はA類。	
601-2	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 完形	口・ 12.0 底・ 6.6 高・ 3.5	褐色・赤褐色 粗粒子混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。底部の作りが厚い。 生地はA類。	
601-3 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 完形	口・ 12.0 底・ 6.6 高・ 3.5	赤褐色粒子混入	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。底部の作りが厚い。 生地はA類。	

F区第6号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
602-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 1/2	口・ 12.0 底・ 7.5 高・ 3.0	細粒砂若干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(右回転)。 生地はA類。	

F区第10号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
603-2 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	覆土内 1/2	口・ 11.7 底・ 7.2 高・ 3.6	黒色鈹物粒子 混入	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	

G区第3号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
604-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 完形	口・ 12.0 底・ 7.5 高・ 2.6	黒色鈹物粒子 含有	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
604-2 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 完形	口・ 14.6 底・ 8.4 高・ 3.0	白色・黒色鈹 物粒子若干	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はA類。	
604-3 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 3/4	口・ 14.1 底・ 8.1 高・ 2.7	白色・黒色鈹 物粒子若干	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。浅黄色の粗粒シルトを含む。 生地はA類。	
604-4	焼締陶器 大 甕	覆土内 破片		白色鈹物粒子 含有	赤 褐	頸部片で自然釉が付着している。内外面共に撫 でによる整形。	常滑 14~15C

J区第1号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
609-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 一部欠損	口・ 7.2 底・ 5.1 高・ 1.8	白色微粒子若 干	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。 生地はA類。	
609-2 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上層 3/4	口・ 11.4 底・ 7.2 高・ 2.6	白色粒子含有	酸化焰 鈍黄橙	1に同じ。 生地はC類。	

G区第4号土塚墓出土遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土質 材質	焼成 色調	器形・整形の特徴	備考
608-1 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	□・ 11.2 底・ 7.8 高・ 3.2	黒色鈳物粒子 多量	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。底面は糸切り失敗時の部分より剥脱している。生地はA類。	
608-2 193	土師質土器 (カワラケ) 皿	底面直上 完形	□・ 12.9 底・ 7.0 高・ 3.5	黒色鈳物粒子 多量	酸化焰 鈍黄橙	轆轤整形(左回転)。鈍黄橙色の粗粒のシルトを混入する。	

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第1分冊。

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第12集一

図 表 編

昭和62年2月20日 印刷
昭和62年2月28日 発行

編集／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行／ 勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県教育委員会
前橋市大手町1丁目1番1号
電話 (0272) 23-1111

印刷／朝日印刷工業株式会社